

令和8年度 第1回府中市福祉のまちづくり推進審議会 次第

日時：令和8年5月15日（金）午後1時30分

場所：府中市役所おもや4階 第1特別会議室

1 議題

- (1) 次期計画策定に係る調査報告書について・・・・・・・・・・【資料1】
- (2) 次期計画の体系と基本的考え方について・・・・・・・・・・ 【資料2-1～2-4】
- (3) その他・・・・・・・・・・ 【資料3】

【事前送付資料】

- (1) 資料1 府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のための調査報告書
- (2) 資料2-1 地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画を上位計画とした全体像（案）
- (3) 資料2-2 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の基本的考え方と
体系（案）
- (4) 資料2-3 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画（令和9～14年度）
の体系（案）
- (5) 資料2-4 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画目次構成（案）
- (6) 資料3 府中市地域福祉計画等策定スケジュールについて
- (7) 参考資料 府中市重層的支援体制整備事業実施計画

【当日配布資料】

- (1) 次第
- (2) 席次表

2026.04.20

資料 1

府中市
地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画
策定のための調査報告書
(案)

令和8年3月

府中市

目 次

第1章 調査概要	1
1 アンケート調査	3
（1）調査目的	3
（2）対象	3
（3）調査方法	3
（4）調査時期	3
（5）回収数・回収率	3
（6）調査項目	4
2 11圏域別グループディスカッション	6
（1）調査目的	6
（2）実施概要	6
（3）日程・会場・対象圏域・参加者数	6
（4）当日の内容（各回2時間）	7
3 報告書の見方	8
（1）集計結果の表記方法	8
（2）グラフの見方	9
第2章 調査から見えた課題と次期計画の方向性	11
1 市民協働で進める地域づくり	13
2 包括的な相談支援体制づくり	13
3 生き生きと健康に暮らせる環境づくり	13
4 誰もが安心して暮らせる仕組みづくり	14
5 人権尊重の福祉のまちづくりの推進	14
6 総合的な福祉のまちづくりの推進	14
第3章 調査結果	17
1 アンケート調査（一般市民調査）	19
（1）基本属性	19
（2）地域と近所づきあい	28
（3）地域活動・ボランティア活動	40
（4）日ごろの生活と悩み	54
（5）相談と情報	61
（6）福祉のまちづくり	83
（7）災害時の支え合い	85
（8）福祉に対する考え方	93
（9）府中市の福祉施策	100

(10) 他分野との共通設問	107
2 11圏域別グループディスカッション	112
(1) 結果の概要	112
(2) 結果（主な意見）	113
(3) 参加者アンケート結果	121
資料編 アンケート調査票及び集計結果	125

第1章 調査概要

1 アンケート調査

(1) 調査目的

地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の策定に当たって、市民の近所づきあいや地域での生活・活動状況、日ごろの悩みと相談状況を把握するとともに、府中市の地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見、要望等を把握することを目的とする。

(2) 対象

令和7年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人

(3) 調査方法

郵送配布、郵送・WEB回収（督促礼状1回送付）

(4) 調査時期

令和7年10月17日（金）～11月4日（火）

(5) 回収数・回収率

発送・ 対象者数	回収数（回収率）		有効回答数 （有効回収率）
		うち WEB 回答数	
3,000	1,509 (50.3%)	697 (46.2%)	1,501 (50.0%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設問	高齢・障害者福祉分野との共通設問
A 基本属性	F 1	性別	
	F 2	年齢	
	F 3	職業	
	F 3-1	従業地	
	F 4	世帯人数	
	F 4-1	同居している人	
	F 5	世帯の特徴	
	F 6	居住圏域	
	F 7	居住歴	
	F 8	住居形態	
	F 9	自治会・町会等の有無	
	F 9-1	自治会・町会等への加入状況	
	F 9-2	自治会・町会等に参加していない理由	
B 地域と近所づきあい	問 1	居住地域の満足度	
	問 2	近所づきあいの現状	○
	問 2-1	近所づきあいのない理由	
C 地域活動・ボランティア活動	問 3	地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）	
	問 3-1	地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動頻度）	
	問 3-2	地域活動・ボランティア活動をしていない理由	
	問 4	地域活動・ボランティア活動の取組意向（活動内容）	
	問 5	ボランティア活動等に参加しやすい条件	
	問 6	身近な活動拠点の利用状況	
	問 6-1	活動拠点である民間の施設の具体的な名称	
	問 7	困っている人への手助けの経験	
D 日ごろの生活と悩み	問 8	地域における支え合いをより充実するために必要なこと	
	問 9	主観的幸福度	○
	問 10	どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか	○
	問 10-1	悩みの内容	
	問 11	孤独を感じる程度	
	問 12	主観的健康観	○
	問 13	将来の備えへの不安	
E 相談と情報	問 14	亡くなった後のことでの不安	
	問 15	暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手	○
	問 16	地域における課題を抱えた世帯の把握状況	
	問 17	福祉に係る用語の認知度	
	問 18	相談窓口の認知度	
	問 19	地域包括支援センターの役割や機能の認知度	
	問 20	権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度	
	問 21	市の福祉に関する情報の入手先の現状	
	問 22	市の福祉に関する情報の入手先の希望	
F 福祉のまちづくり	問 23	利用している SNS	
	問 24	福祉のまちづくり（建築物、インフラ、情報案内）の状況	
	問 25	福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと	

調査項目	問番号	設問	高齢・障害者福祉分野との共通設問
G 災害時の支え合い	問 26	災害時の不安や心配ごと	
	問 27	普段から災害時に備えていること	
	問 28	災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの	
	問 29	災害時に手助けが必要な方にできること	
H 福祉に対する考え方	問 30	福祉に関する考え方	
	問 31	認知症について知っていること	○（高齢分野）
	問 32	認知症になった場合の暮らしへの意向	○（高齢分野）
I 府中市の福祉施策	問 33	今後の府中市への居住継続意向	○
	問 34	優先的に取り組むべき福祉施策	
	問 35	福祉やまちづくりへの意見・要望（自由記述）	

2 11 圏域別グループディスカッション

(1) 調査目的

地域で活動している団体の方々から地域における課題と課題解決のためにできることを把握し、地域力の強化の方向性を検討する。また、府中市全体の課題と圏域別の課題を整理し、圏域別の取組を検討することを目的とする。

(2) 実施概要

① 調査方法

グループディスカッション

文化センター11 圏域をもとに、2～3 圏域ずつ4回に分けて開催。

グループを圏域ごとに分ける。6人程度で1グループをつくり、グループディスカッション形式で実施する。KJ法によりまとめ、最後にグループごとの意見・アイデアを共有する。

② 参加者 地域で活動している方

わがまち支えあい協議会、地域福祉コーディネーター、民生委員・児童委員、自治会・町会、シニアクラブ、コミュニティ協議会、当事者団体、地域包括支援センター等

③ テーマ

「今ある地域の“ちから”（人・場所・活動を福祉にどう活かせる？）

話し合い① 地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）

話し合い② 地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること

④ 当日配布資料

次第、圏域別データ、参加者アンケート 等

(3) 日程・会場・対象圏域・参加者数

回	開催日時	会場	対象圏域	参加者数
第1回	10月26日（日） 10：00～12：00	西府文化センター	西府文化センター圏域 武蔵台文化センター圏域 四谷文化センター圏域	37人
第2回	10月26日（日） 15：00～17：00	中央文化センター	中央文化センター圏域 新町文化センター圏域 紅葉丘文化センター圏域	34人
第3回	11月1日（土） 10：00～12：00	片町文化センター	片町文化センター圏域 住吉文化センター圏域	28人
第4回	11月1日（土） 15：00～17：00	白糸台文化センター	白糸台文化センター圏域 押立文化センター圏域 是政文化センター圏域	40人
計				139人

(4) 当日の内容（各回2時間）

1. 開会、趣旨説明、あいさつ（5分）
2. データ説明、予定とルール説明（10分）
3. グループごとの時間（75分）
 - (1) グループごとの自己紹介（15分）
 - (2) グループごとの話し合い：テーマに沿った話し合い（60分）
 - ①地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）（30分）
 - ②地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること（30分）
4. 休憩（10分）
5. 結果共有（15分）
6. 閉会、アンケート記入（5分）

<当日の様子>



3 報告書の見方

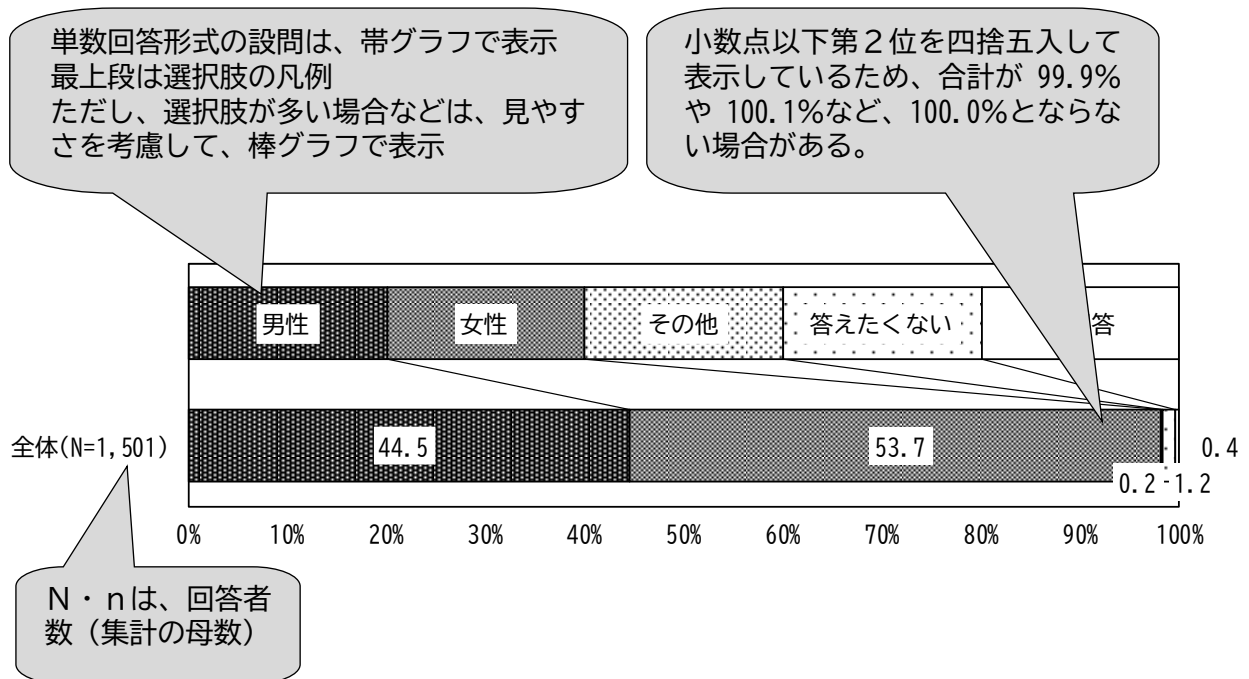
(1) 集計結果の表記方法

- ・ 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- ・ %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならない。複数回答のグラフ、表については、原則、高い順に並び替えている。順番に意味がある場合には選択肢順となっている。
- ・ 性別、年代別の集計結果などでは、無回答を除いているため、合計が全体とは一致しない。全体は、性別、年代やそれらの無回答者を足し合わせたものである。
- ・ 本文、グラフ、表の選択肢の表現は一部省略されている場合がある。
- ・ 市内を次の11の福祉エリアに分類している。

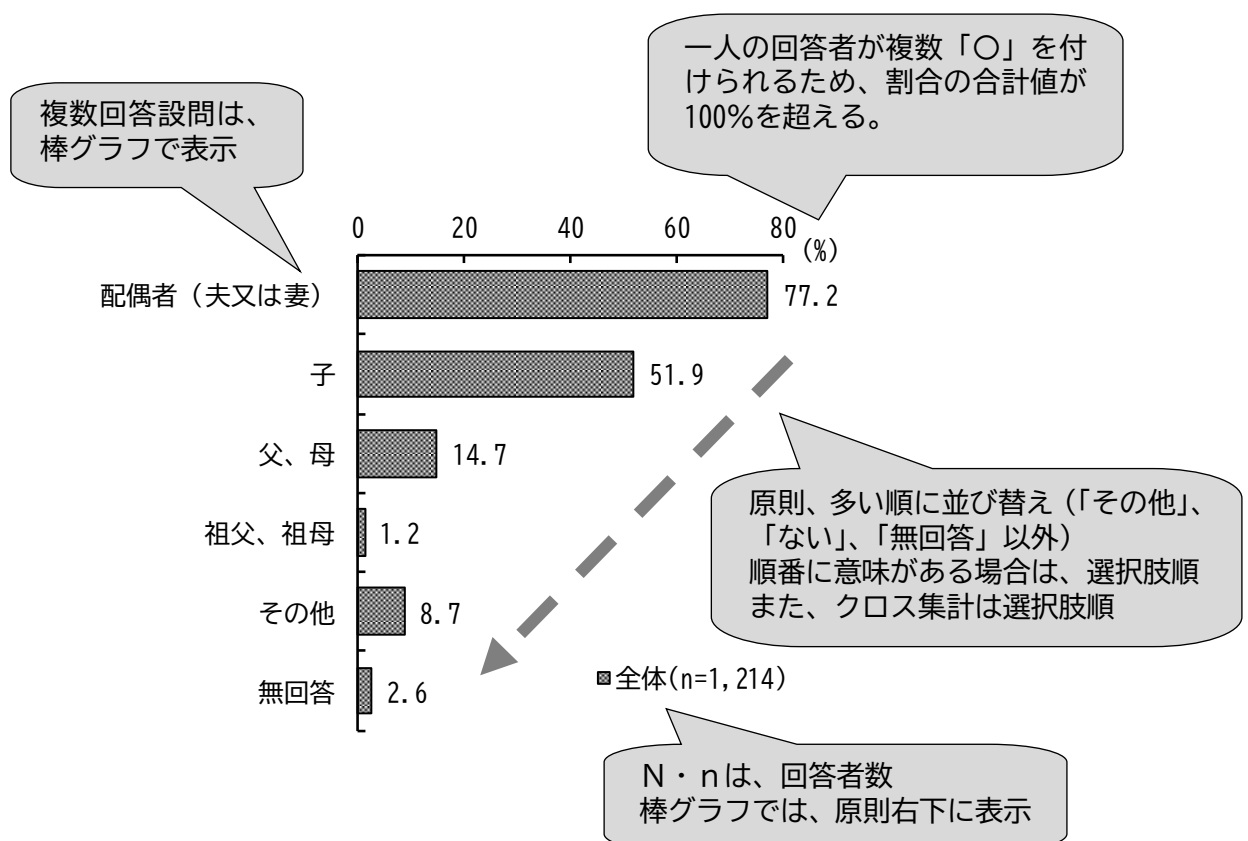
福祉エリア	該当地域
中央	天神町(1・2丁目)、幸町、府中町、緑町、宮町、八幡町、日吉町、宮西町(1丁目)、寿町、晴見町(1・2丁目)
白糸台	白糸台(車返団地除く)、小柳町(1・3丁目)、若松町(1・2丁目)、清水が丘(3丁目)
西府	東芝町、本宿町、日新町、西府町
武蔵台	武蔵台、北山町、西原町
新町	浅間町、天神町(3・4丁目)、新町、晴見町(3・4丁目)、栄町
住吉	南町、分梅町(2～5丁目)、住吉町
是政	小柳町(2・4～6丁目)、清水が丘(1・2丁目)、是政
紅葉丘	多磨町、朝日町、紅葉丘、若松町(3～5丁目)
押立	押立町、車返団地
四谷	四谷
片町	矢崎町、本町、片町、宮西町(2～5丁目)、分梅町(1丁目)、日鋼町、美好町

(2) グラフの見方

① 単数回答（「1つに○」形式の設問）



② 複数回答（「いくつでも○」、「3つまで○」形式の設問）



第2章 調査から見えた課題と 次期計画の方向性

本章では、第3章アンケート調査、第4章グループディスカッションの調査結果の主な結果をまとめるとともに、調査結果からみえた課題について整理を行った。

1 市民協働で進める地域づくり

- ・ アンケートによれば、親しく近所づきあいをする人の割合は前回より下がり、近所づきあいしない主な理由として「普段つきあう機会がないから」という回答が最も多くなった。現在何らかの活動に取り組んでいる割合は 17.0%で、前回の 22.0%を下回ったが、半数以上が何らかの活動へ取組意向があると回答し、きっかけやつながりづくりは引き続きの課題となっている。
- ・ グループディスカッションでは、自治会・町会の加入者減や担い手不足、若い世代の参加の課題も示されたが、【地域のちからを活かしてできること】では市民や専門職、当事者の参加で多様なアイデアが提案され、さらに企業の参加や施設の誘致も提案され、福祉圏域の再編後、わがまち支えあい協議会等が中心となり、多様な主体を巻き込む方向で活発になったことがわかる。
- ・ これからの地域福祉は、市民が「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つ」ことができるよう、きっかけづくりやつながりづくり、さらに身近な地域で多様な主体との協働の仕組みづくりを通して、担い手を増やしていくことが必要である。

2 包括的な相談支援体制づくり

- ・ アンケートによれば、どこに相談したらよいか分からない悩みがある人は、一般市民 14.6%、高齢者（居宅サービス利用者）で 22.8%、障害のある人 30.1%、障害児保護者で 42.4%であり、介護やケアが必要な人ほど高い割合となった。また、悩みの内容は、一般市民が「お金（財産管理・相続含む）」のこと、高齢者が「自分や家族の健康・病気」など内容も様々だった。
- ・ グループディスカッションでは、単身世帯が増える一方で複合的問題を抱える世帯も増えていることや、認知症や障害への理解不足、情報共有の問題への意見が出され、相互理解を通して地域で共に暮らせる仕組みを作ることとそのための理解と行動が必要であることが示された。
- ・ これらの結果も受け、これからの府中市の地域福祉は、個人や家族が抱える様々な悩みを受け止め、解決する仕組みを様々な分野とともに作ることや、多機関協働のネットワークを作り、住民主体で解決する取組や情報共有する仕組みを育てていくことが必要である。

3 生き生きと健康に暮らせる環境づくり

- ・ アンケートによれば、主観的幸福度の平均は一般市民が 6.9 点、元気高齢者が 7.2 点、高齢者（居宅サービス利用者）が 6.9 点、障害のある人が 6.2 点、障害児保護者が 6.6 点と、属性での違いはあるが介護やケアが必要な方でも幸福度は大きく下がっていない。今後も多様な年代、様々な状況にある人が、自分らしく暮らせる幸せを感じられる地域を作ることが必要である。
- ・ グループディスカッションでは、地域の健康づくりのために、困りごとを抱える人や世帯への食の支援、シニアクラブの活性化、歩きやすく外出しやすい環境、移動支援、通院支援などのモビリティ支援、高齢者の介護予防などの課題と取組のアイデアが出された。
- ・ 地域の幸福や健康は、地域コミュニティの資源や人とのつながりから生まれるといわれることから、今後も地域福祉の推進を通して、人とのつながりをとおした健康な環境づくり、年代やライフステージごとの健康づくり、生活支援・モビリティ支援、さらに誰もが生きがいと役割を持てる社会参加を進めていくことが課題である。

4 誰もが安心して暮らせる仕組みづくり

- ・ アンケートによれば、地域の防災対策に満足しているのは31.6%であり、災害時の不安や心配ごとを抱えている人は多い。災害に備えて地域で取り組むとよいと思うことは、「物資の備蓄」、「地域住民同士の声かけや安否確認」、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」だが、74.6%が災害時に手助けが必要な方に支援ができると回答している。障害者の調査では、地震や災害など緊急時にひとりで避難できる人は半数にとどまることから、多くの人を巻き込みながらの防災対策、避難行動要支援者の支援を検討することが必要である。
- ・ また、将来の備えへの不安、亡くなった後のことへの不安を抱えている人も多く、特に身寄りのない方への新たな支援策の検討、権利擁護支援の充実が必要である。なお、「権利擁護センターふちゅう」は認知度が低く、役割・機能も85.8%の人が知らないため、周知が重要である。
- ・ さらに高齢者や障害者のアンケートでは安心してサービスを受けられる体制へのニーズが多数出されており、それらの結果も受けて地域福祉の分野では、今後は高齢、障害分野と連携しながらサービス提供体制の充実や人材の確保・育成・定着支援に向けた取組が必要である。

5 人権尊重の福祉のまちづくりの推進

- ・ アンケートによれば、福祉の諸問題は社会の課題であると考える人は多いものの、福祉用語についてはいずれも「言葉を知っているが内容は知らない」が3～4割おり、全般的に福祉への理解が必要である。自由記述では、「人権」についての記述は少なかったが、ハラスメントの防止、性的マイノリティ、多様性への理解、配慮などへの意見が挙げられた。
- ・ アンケートの共通設問とした「認知症」について、内容を知っている人は一般市民調査で多かったものの、認知症になった場合の暮らし方では高齢2調査より「介護施設（入所施設）などで必要な支援を受ける」割合が高く、当事者や介護者、地域の視点からの対話が必要である。
- ・ グループディスカッションでは、参加者から、外国人の方の支援や障害者支援の課題も出され、受け身から能動へ、市民の意識と行動を変えるための具体的方法が出された。
- ・ あらゆる主体が地域を理解し、福祉を理解することとあわせ、市民が心のバリアフリーの意識、当事者意識をもって能動的に支え合い・助け合いに参加すること、それをもって共生社会や地域共生社会の実現をめざしていくことが必要である。

6 総合的な福祉のまちづくりの推進

- ・ アンケートによれば、『公園、道路等を含むまち全体』が＜整備されている＞と感じる割合は32.4%であり、福祉のまちづくりのために優先的に取り組む必要があることは「高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備」、「交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備」、「公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進」が多く、ハード面でのバリアフリー・ユニバーサルデザインが望まれる結果となった。
- ・ グループディスカッションでは地域資源不足（医療、福祉）、買い物が不便、店が少ない、移動困難や空き家の問題も出されたが、企業等とも連携した空き家の活用・リノベーション、文化センターを気軽に立ち寄れる場所にする、外出ししやすい環境整備もアイデアとして出された。
- ・ 道路整備、安全、安心に暮らすための体制整備、公共施設や公共交通機関のバリアフリー・ユニバーサルデザインの実現に向けて、引き続き取り組んでいくことが必要である。

	主なアンケート調査結果から	共通設問・分野別・関連計画のアンケートから	グループディスカッションから	
			地域の課題	具体的な取組＜例＞
（１）気軽に活動できるつながりづくり・地域づくり	・ 【居住地域の満足度】 前回調査と比較すると、『（３）自治会・町会等の活動』、『（２）地域の交流』、『（１）近隣などとのつきあい』で、『満足』の割合がそれぞれ 9.5、5.3、5.0 ポイントと、5 ポイント以上低くなっている。（問 1） ・ 【近所づきあいの現状】 「個人的なことを相談し合える人がいる」（今回 7.1%、前回 9.3%）と「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」（今回 25.4%、前回 33.5%）の割合が低下する結果となった。また、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が 11.2%であり、その割合は男女ともに 18～39 歳で 20%台と高い。（問 2）。 ・ 【地域活動・ボランティア活動】 参加している割合は 17.0%（前回調査 22.0%を下回る）。なお、男女ともに 18～39 歳は「取り組んでいるものはない」が 90%を超えている。今後の活動意向は 55.6%がある。参加しない理由は「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」（43.3%）、「きっかけがないから」（31.9%）。今後の条件は「気軽に参加できる」（36.2%）こと。（問 3、3－2、4、5）	・ 府中市への居住継続意向は強く、＜できれば市外に移りたい＞＜市外に移りたい＞という市民はどの調査でも 1～3%程度。 ・ 【地福】 一般市民調査では「ずっと住み続けたい」が 60%弱、【障害】 障害のある人の調査では 60%強だったが、高齢者を対象とした 2 調査では、その割合が 80%を超え、生涯にわたり住みやすい地域への希求は強く、そのためのきっかけづくりが求められる。	・ 地域のつながりの希薄化 ・ 自治会・町会等への加入者の減少、存続の不安 ・ シニアクラブへの加入者の減少、存続の不安 ・ 居場所、交流の機会の不足 ・ 地域の担い手不足、参加者が少ない（若い人等）、無関心 ・ 地域の人がわからない、個人情報の壁あり ・ 地域活動団体、関係機関の連携不足 ・ 地域・活動の情報の収集と発信が困難	・ となり三軒両隣で日頃より話す機会を増やして助け合う ・ 地域のコミュニケーションを取るためのイベント ・ 集まれて、居場所となるところの創出 ・ 情報の共有化（民生委員・自治会・老人クラブ・地域包括支援センター（個人情報関係のデータ）） ・ 地域情報の SNS 発信 ・ 若い人を活用する、高校生・大学生を巻き込む ・ 民間施設、企業との連携、活用 ・ 地域活動、ボランティア活動の有償化（ポイント） ・ わがまち支えあい協議会と地域の関係機関や活動団体が連携する ・ 文化センター中心に各活動団体が連携する、課題解決づくりができる仕組みを作る
（２）包括的な相談支援体制づくり	・ 【どこに相談したらよいか分からない悩み】 「ある」との回答は 14.6%で、その内容は、自分の健康や家族の健康の割合が高くなっている。（問 10、10-1） ・ 【孤独を感じる程度、将来・亡くなった後の不安】 「たまにある」（25.5%）、「時々ある」（8.0%）、「しばしばある・常にある」（4.9%）を合わせた 38.4%が感じている。将来の備えへの不安は「預貯金や生活費の管理のこと」（42.4%）、「判断能力が低下したときの生活のこと」（40.9%）、「急な入院や施設への入所のこと」（36.6%）。亡くなった後のことでの不安は「遺された家族」（45.2%）、「遺品整理」（24.5%）。（問 11、問 13、問 14） ・ 【相談窓口の認知度】 「市役所の相談窓口」（40.0%）、「保健センター」（32.0%）、「地域包括支援センター」（24.9%）が高い。「福祉総合相談」（10.9%）、「地域福祉コーディネーター」（3.5%）（前回 1.9%）が低い。（問 18） ・ 【市の福祉に関する情報の入手先】 今後は「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」（53.8%）、「市のホームページ等のインターネットサイト」（36.8%）、「相談窓口」（27.2%）へのニーズが高い（問 22）	・ どこに相談したらよいか分からない悩みの割合は、【高齢】 居宅サービス利用者調査が 22.8%、【障害】 障害のある人の調査が 30.1%、子どもの育ちや発達に関する調査が 42.4%と介護・ケアが必要な方ほど高い割合である。 ・ 困りごとの相談相手がいない割合は、【地福】 一般市民調査が 4.3%、【高齢】 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査が 3.2%、【障害】 障害のある人の調査が 11.7%、【障害】 子どもの育ちや発達に関する調査が 13.7%となっており、【障害】 子どもの育ちや発達に関する調査で最も高くなっている。	・ 高齢ひとり暮らし世帯の増加、身寄りのない方の増加 ・ 孤立している人・世帯 ・ 複雑で複合的課題を抱える世帯 ・ 子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性 ・ 認知症に対する理解不足、対応への不安 ・ 障害者支援の課題 ・ 情報の格差の課題	・ 見守り活動（児童・学童・年配者）で声かけをする ・ シェアの仕組みづくり、（もの・こと）してあげ隊・してもらい隊 ・ 高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者の情報共有（見守りなど）、サロンへのお誘い ・ 認知症講座の開催 買い物支援 ・ フードパントリー、子ども食堂など食への援助 ・ コーディネーターに情報を集約する ・ 「助けてほしい」気持ちを表出できるような呼びかけを行う ・ 困りごとを抱える人、世帯の支援について、関係者で検討できる仕組みづくり
（３）生き生きと健康に暮らせる環境づくり	・ 【優先的に取り組むべき福祉施策】 「相談支援体制や情報提供体制の充実」（45.0%）、「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」（41.2%）のほか、「健康づくり・介護予防の推進」（33.6%）が続いている。（問 34） ・ 【主観的幸福度】 平均が 6.9 点であり、4 点以下の割合は、11.1%である。（問 9） ・ 【主観的健康感】 《よい》（「とてもよい」と「まあよい」）の割合は 79.9%である。（問 12）	・ 主観的幸福度は、【高齢】 介護予防・日常生活ニーズ調査が 7.2 点、居宅サービス利用者調査が 6.9 点。 ・ 主観的健康観が《よい》は、【高齢】 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査が 70.9%、【障害】 子どもの育ちや発達に関する調査が 81.7%である。	・ 孤立している人・世帯の存在（再掲）	・ 地域での運動会 ・ 高齢期を迎えるリスク対策の啓発 ・ 健康づくり活動、介護予防講座 ・ シニアクラブでの輪投げ、健康マージャン等の活動
（４）誰もが安心して暮らせる仕組みづくり	・ 【災害時の不安や心配ごと】 「家族の所在、安否確認について」（53.9%）が最も多く、次いで「食糧や日用品などの生活物資の入手」（43.8%）、「正確な情報の入手」（41.6%）と続いている。（問 26） ・ 【災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの】 「物資の備蓄」（62.4%）が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」（46.6%）、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」（33.1%）と続いている。（問 28） ・ 【災害時に手助けが必要な方にできること】 「避難所での支援活動」（56.5%）が最も多く、次いで「要援護者（高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の避難誘導」（26.3%）、「要援護者（高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の安否確認」（24.3%）と続いている。74.6%の人が何らかの支援ができると回答。（問 29）	・ 災害に備えて「特にしていない」という人が 3～4 割以上である。（【高齢】 介護予防・日常生活ニーズ調査、居宅サービス利用者調査） ・ 地震や災害など緊急時に、ひとりで避難できる人は半数にとどまる。（【障害】 団体、事業者調査） ・ 介護職は若い世代の人材の確保・育成が課題。（【高齢】 事業者調査） ・ 人材の確保・育成・定着についての課題は、「採用募集をかけても応募がない」が 6 割。（【障害】 事業者調査）	・ 防災対策、災害時要援護者の課題（防災意識が低い、避難所に行けない、要援護者の避難の支援） ・ 防犯対策が必要（詐欺が多い等） ・ ゴミ等のマナーが悪い ・ 交通マナーが悪い ・ 福祉サービス事業所の人材不足 ・ 地域のつながりの希薄化（再掲） ・ 地域の人がわからない、個人情報の壁あり（再掲）	・ 防災訓練 ・ 防災について話し合える場づくり ・ マイ・タイムラインの作成 ・ 防災、避難所の情報の周知 ・ 避難行動要支援者への対応策の検討 ・ マナー対策 ・ 防犯対策 ・ 介護現場、福祉現場を改善する ・ 介護サポート制度の導入
（５）人権尊重の福祉のまちづくりの推進	・ 【福祉に関する考え方】 《そう思う》の割合は、8 項目の中で『障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』（82.4%）、『児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』（74.3%）、『地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である』（74.0%）、『ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』（71.7%）で高い。『ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』（46.1%）で低い。（問 30） ・ 【自由記述】 人権についての自由記述は少なかったが、ハラスメントの防止や性的マイノリティへの理解、配慮への意見が挙げられた。（問 35）	・ 子どもが意見を表明する権利について、「内容を知っている」割合は、就学前児童保護者で 24.9%、小学生保護者で 23.1%、ひとり親家庭で 23.7%、小学 5 年生で 11.8%、中学生で 14.4%となっている。（令和 5 年子ども分野調査） ・ セクシュアルマイノリティの人権を守るために必要な方策は、「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で行う」が最も多い。（令和 5 年男女調査）	・ 外国人の方への支援 ・ 障害者支援の課題（障害が重いほど地域のつながりが少ない、小さい頃から障害者と接する機会がない、障害者への情報提供が課題）	・ 市民の意識を変える～受け身から能動へ ・ 聞こえない人のために「見える」形式で情報を出す ・ 高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者の情報共有（見守りなど）、サロンへのお誘い（再掲） ・ 認知症講座の開催（再掲） ・ 「助けてほしい」気持ちを表出できるような呼びかけを行う（再掲） ・ 困りごとを抱える人、世帯の支援について、関係者で検討できる仕組みづくり（再掲）
（６）総合的な福祉のまちづくりの推進	・ 【福祉のまちづくり（建築物、インフラ、情報案内）の状況】 『公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン』は「整備されている」（3.5%）と「やや整備されている」（28.9%）を合計すると 32.4%であり、前回調査（33.7%）と同程度。（問 24） ・ 【福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと】 「高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備」（55.0%）が最も多く、「交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備」（47.1%）、「公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進」（32.2%）が続いている。上位 3 位は前回調査と同様である。（問 25）	・ どの調査でも市外に移りたいと考えている割合は 1～3%程度にとどまっている。 ・ 【高齢】 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と【高齢】 居宅サービス利用者調査では「ずっと住み続けたい」の割合が 80%を超えており高くなっている。	・ 空き家の増加 ・ 地域資源不足（医療、福祉） ・ 買い物が不便、店が少ない ・ 交通の便が悪い、移動困難 ・ 道路の危険、整備が不十分（バリアフリーの課題）	・ 空き家を活用し若い人を増やす ・ 空き家のリノベーションによる居場所、飲食店をつくる ・ 文化センターを気軽に立ち寄れる場所にする（ふらっと集える） ・ 公共交通の充実、移動支援 ・ 道路整備、バリアフリーの推進 ・ 外出しやすい環境（休憩所・ベンチ・日よけ）整備

第3章 調査結果

1 アンケート調査（一般市民調査）

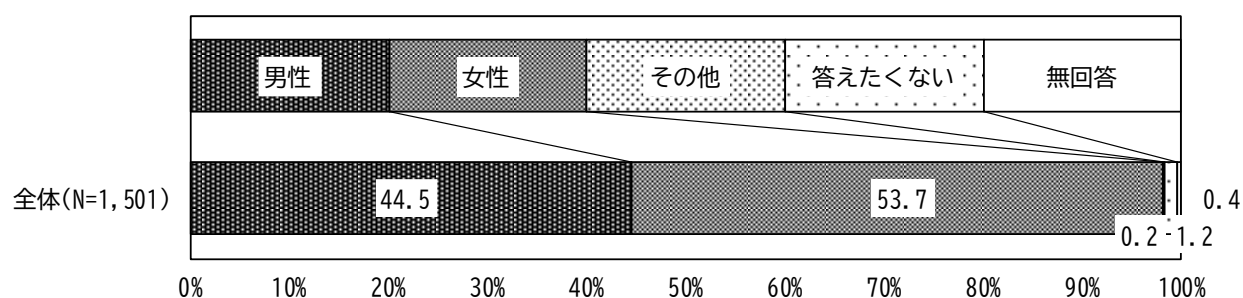
（1）基本属性

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。（1つに○）

*戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

「男性」が44.5%、「女性」が53.7%となっている。

図表 性別（全体）

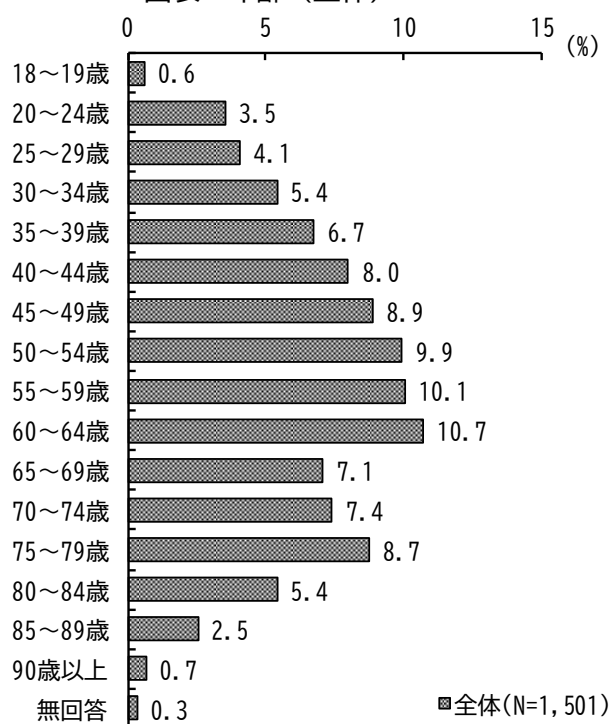


F 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

*令和7年10月1日現在の年齢でお答えください。

「60～64 歳」（10.7%）が最も多く、次いで、「55～59 歳」（10.1%）、「50～54 歳」（9.9%）と続いている。合計すると、18～39 歳が20.3%、40～59 歳が36.9%、60 歳以上が42.5%となっている。

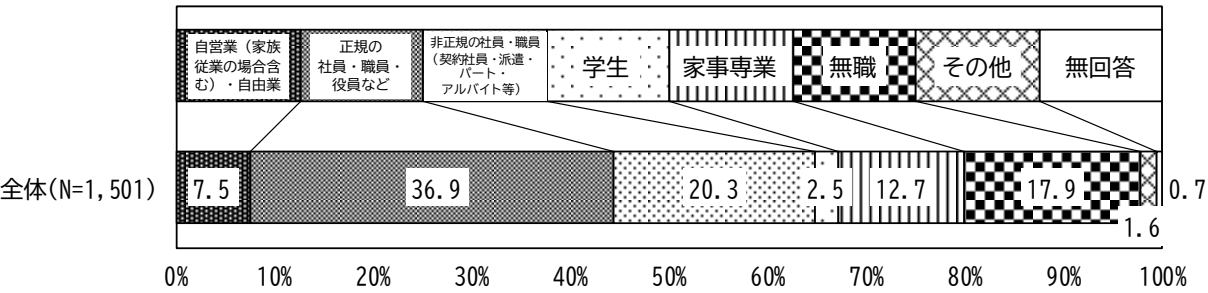
図表 年齢（全体）



F 3 あなたのご職業は次のうちどれですか。（1つに○）

「正規の社員・職員・役員など」（36.9%）が最も多く、次いで「非正規の社員・職員（契約社員・派遣・パート・アルバイト等）」（20.3%）、「無職」（17.9%）と続いている。働いている人は合計すると 64.7%となっている。

図表 職業（全体）

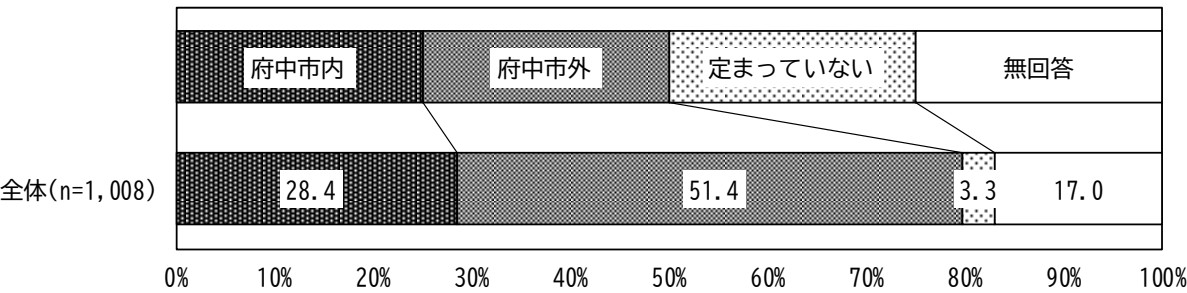


F 3-1 F 3で「1. 自営業（家族従業の場合含む）・自由業」～「4. 学生」と答えた方におたずねします。

あなたの主な通勤、通学先はどちらですか。（1つに○）

「府中市内」が 28.4%、「府中市外」が 51.4%となっている。

図表 従業地（働いている人・学生）

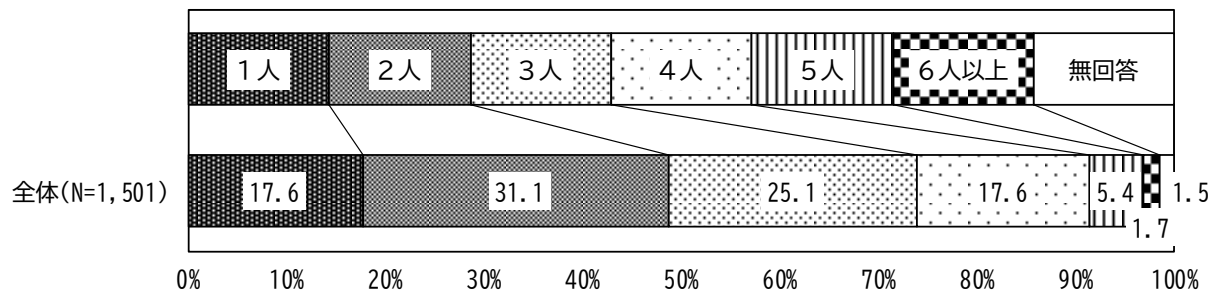


F 4 世帯についておたずねします。世帯の人数はあなたを含めて何人ですか。（1つに○）

* 2世帯住宅は同居としてお答えください。 * 配偶者の親族を含めてお答えください。

「2人」(31.1%)が最も多く、次いで「3人」(25.1%)、「1人」(17.6%)・「4人」(17.6%)と続いている。

図表 世帯人数（全体）

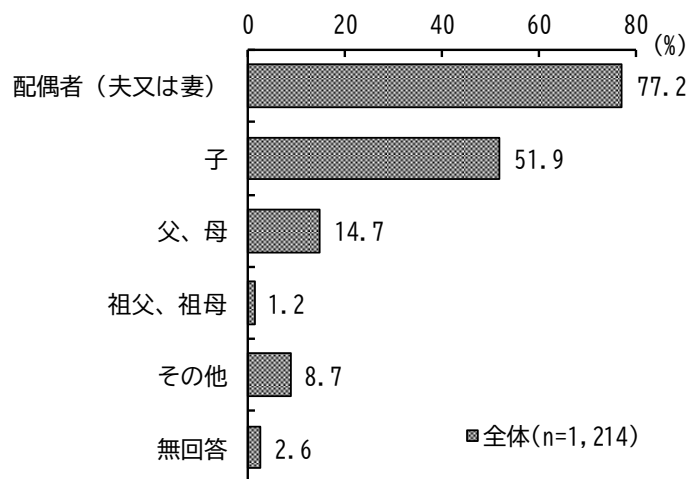


F 4-1 F 4で「2. 2人」～「6. 6人以上」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方はどなたですか。（いくつでも○）

「配偶者（夫又は妻）」(77.2%) が最も多く、次いで「子」(51.9%)、「父・母」(14.7%)と続いている。

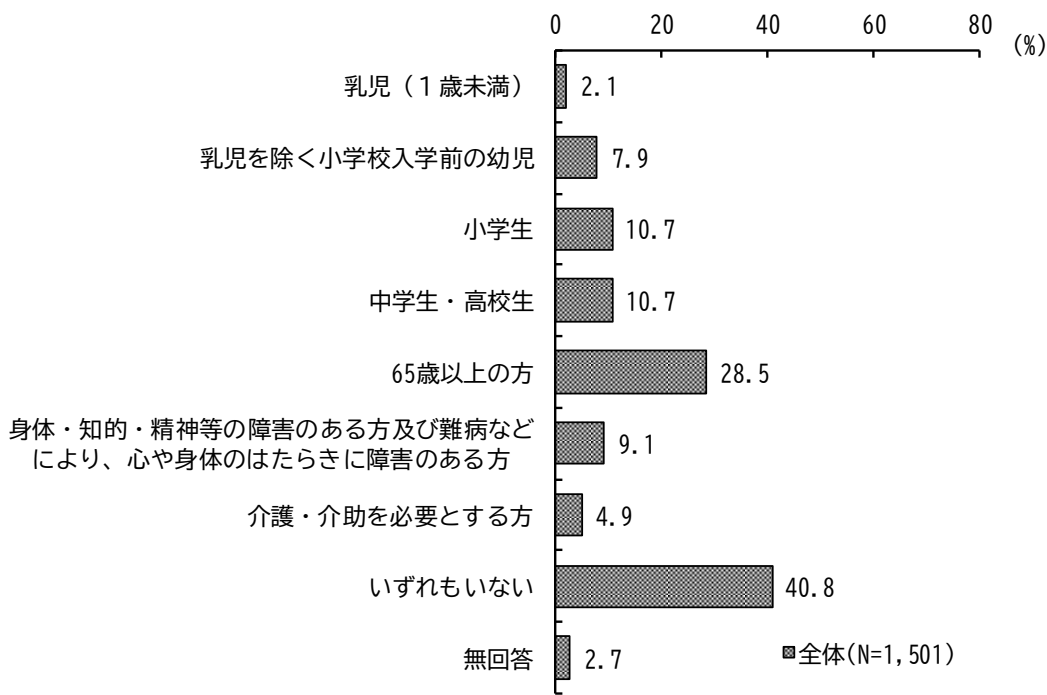
図表 同居している人（世帯人数が2人以上の人：複数回答）



F 5 現在、あなた自身、もしくは同居している方の中に、次のような方はいますか。
(いくつでも○)

「65歳以上の方」(28.5%)が最も多く、次いで「小学生」(10.7%)と「中学生・高校生」(10.7%)が同率で続いている。なお、「いずれもない」が40.8%となっている。

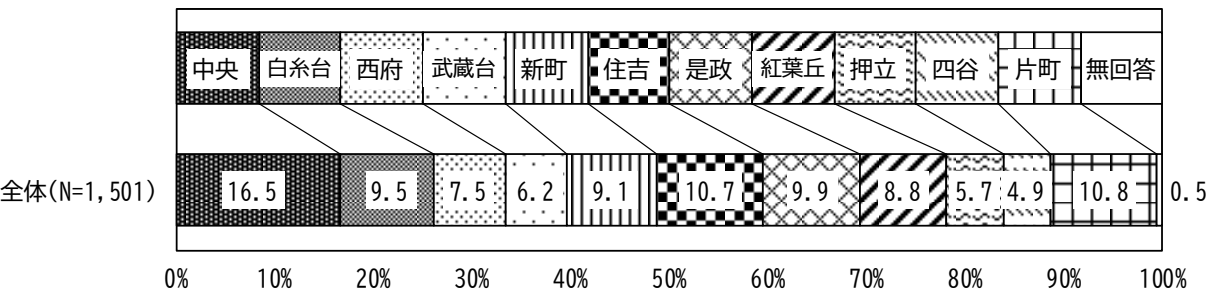
図表 世帯の特徴（全体：複数回答）



F 6 あなたはどちらにお住まいですか。該当する福祉エリアに○をつけてください。

「中央」(16.5%)が最も多く、次いで「片町」(10.8%)、「住吉」(10.7%)と続いている。

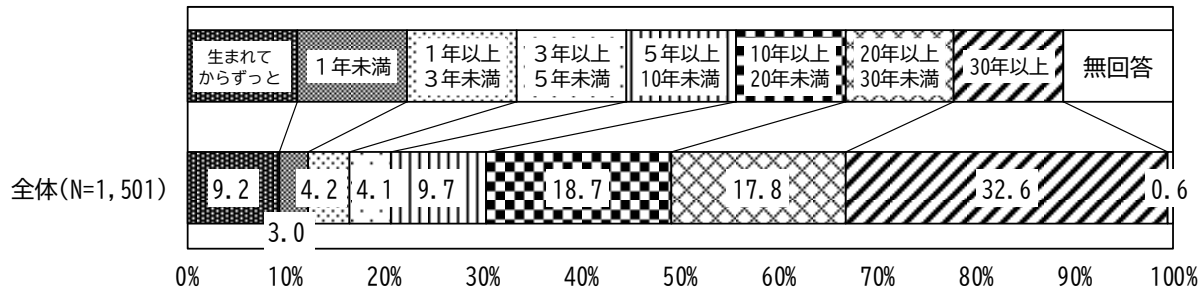
図表 居住圏域（全体）



F 7 あなたは府中市にお住まいになってから何年になりますか。（1つに○）

「30年以上」（32.6%）が最も多く、次いで「10年以上 20年未満」（18.7%）、「20年以上 30年未満」（17.8%）と続いている。

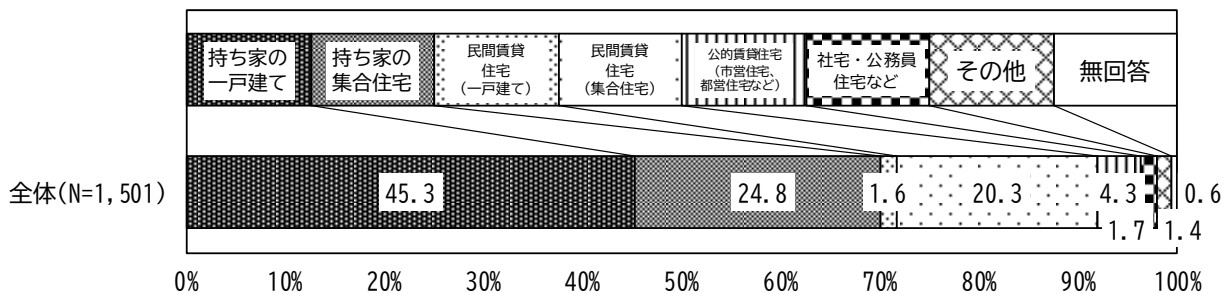
図表 居住歴（全体）



F 8 あなたのお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。（1つに○）

「持ち家の一戸建て」（45.3%）が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」（24.8%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（20.3%）と続いている。

図表 住居形態（全体）



F 9 あなたのお住まいの地域には、自治会・町会等がありますか。（1つに○）

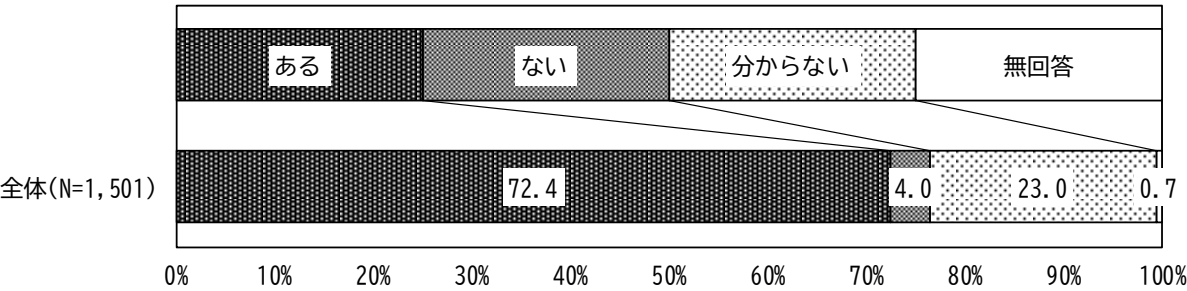
「ある」が72.4%、「ない」が4.0%、「分からない」が23.0%となっている。

年代別にみると、20歳から79歳の間で、年代が高くなるほど「ある」の割合が高くなり、「分からない」の割合が低くなっている。

居住圏域別にみると、「ある」は、武蔵台が89.2%と最も高く、次いで是政が83.1%、押立が78.8%と続いている。なお、白糸台で「分からない」(31.7%)が30%を超えて高くなっている。

前回調査と比較すると「ある」(今回：72.4%、前回77.0%)の割合が4.6ポイント低くなっている。

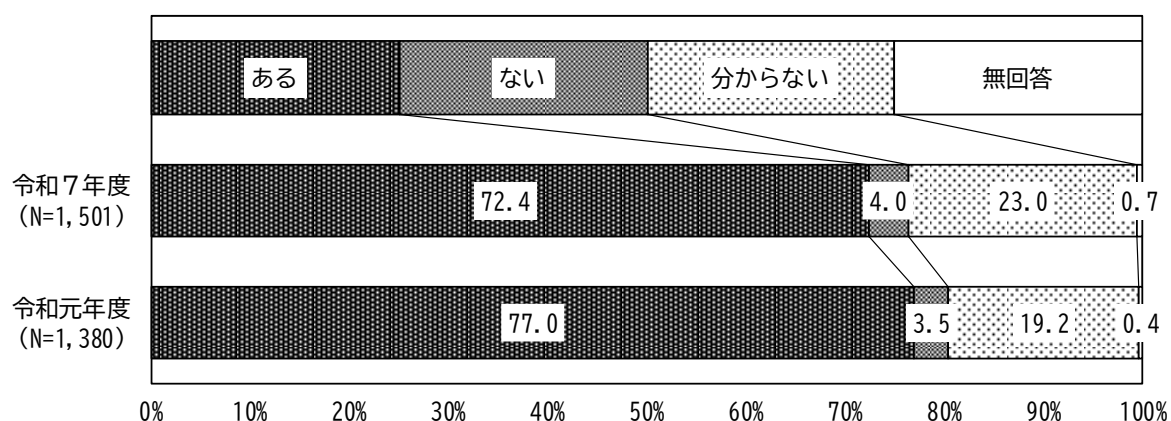
図表 自治会・町会等の有無（全体）



図表 自治会・町会等の有無（全体、年代別、居住圏域別）

		(%)			
		ある	ない	分からない	無回答
年代別	全 体 (N=1,501)	72.4	4.0	23.0	0.7
	18 ～ 19 歳 (n= 9)	66.7	0.0	33.3	0.0
	20 ～ 29 歳 (n= 114)	46.5	4.4	48.2	0.9
	30 ～ 39 歳 (n= 182)	56.6	4.4	39.0	0.0
	40 ～ 49 歳 (n= 253)	68.8	3.6	27.3	0.4
	50 ～ 59 歳 (n= 300)	73.7	2.7	23.3	0.3
	60 ～ 69 歳 (n= 267)	78.7	5.2	16.1	0.0
	70 ～ 79 歳 (n= 242)	86.4	5.4	7.9	0.4
	80 歳 以 上 (n= 129)	84.5	2.3	10.9	2.3
居住圏域別	中 央 (n= 248)	66.5	6.9	26.6	0.0
	白 糸 台 (n= 142)	62.7	5.6	31.7	0.0
	西 府 (n= 112)	70.5	2.7	26.8	0.0
	武 蔵 台 (n= 93)	89.2	0.0	10.8	0.0
	新 町 (n= 137)	67.9	4.4	26.3	1.5
	住 吉 (n= 161)	75.2	2.5	21.7	0.6
	是 政 (n= 148)	83.1	0.7	16.2	0.0
	紅 葉 丘 (n= 132)	75.0	3.0	22.0	0.0
	押 立 (n= 85)	78.8	4.7	15.3	1.2
	四 谷 (n= 73)	74.0	4.1	21.9	0.0
	片 町 (n= 162)	68.5	6.2	25.3	0.0

図表 自治会・町会等の有無（全体）【前回比較】



F9-1 F9で「1. ある」と答えた方におたずねします。あなたは、自治会・町会等に参加していますか。（1つに○）

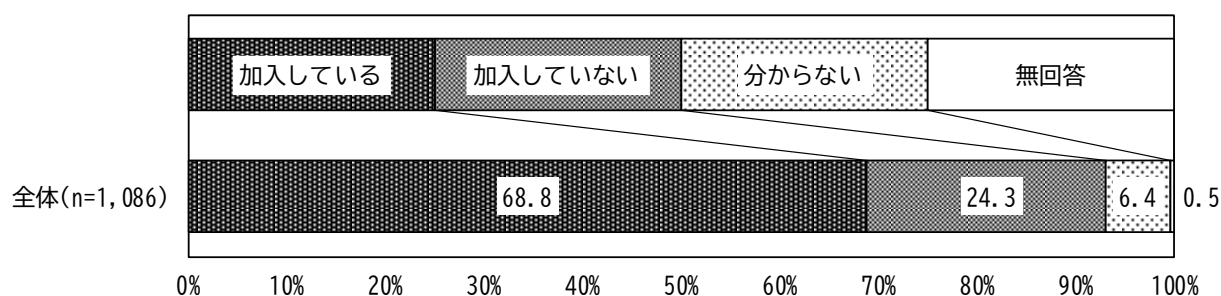
「加入している」が 68.8%、「加入していない」が 24.3%、「分からない」が 6.4%となっている。

年代別にみると、年代が高くなるほど「加入している」の割合は高くなっている。なお、「加入していない」の割合は、20～29歳で 45.3%、30～39歳で 54.4%と高くなっている。

居住圏域別にみると、「加入している」は、武蔵台が 79.5%と最も高く、片町が 61.3%と最も低くなっている。

前回調査と比較すると「加入している」（今回：68.8%、前回 74.4%）の割合が 5.6 ポイント低くなっている。

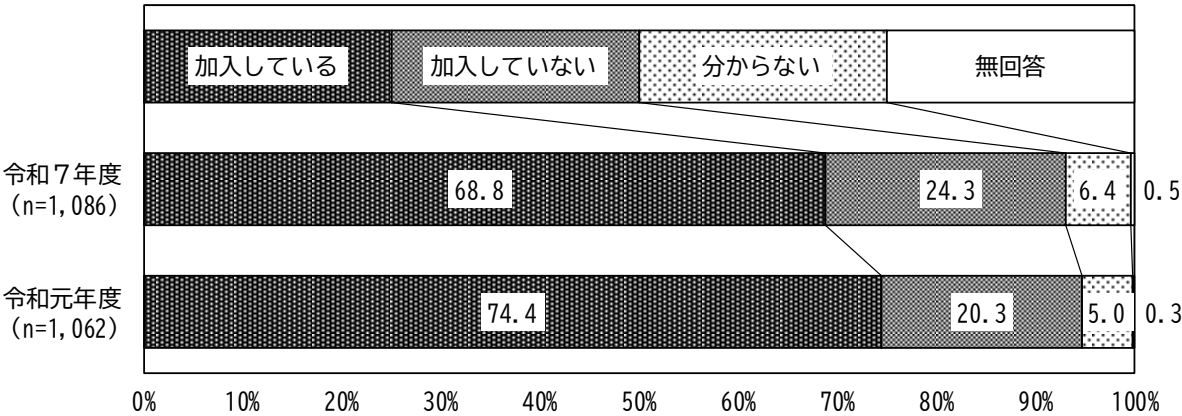
図表 自治会・町会等への加入状況（住んでいる地域に自治会・町会等がある人）



図表 自治会・町会等への加入状況
(住んでいる地域に自治会・町会等がある人、年代別、居住圏域別)

		(%)			
		る加 入 し て い	な加 い 入 し て い	分 か ら な い	無 回 答
全	体 (n=1,086)	68.8	24.3	6.4	0.5
年 代 別	18 ～ 19 歳 (n= 6)	16.7	50.0	33.3	0.0
	20 ～ 29 歳 (n= 53)	32.1	45.3	22.6	0.0
	30 ～ 39 歳 (n= 103)	38.8	54.4	6.8	0.0
	40 ～ 49 歳 (n= 174)	63.2	28.2	7.5	1.1
	50 ～ 59 歳 (n= 221)	74.2	19.0	6.3	0.5
	60 ～ 69 歳 (n= 210)	74.8	18.6	6.7	0.0
	70 ～ 79 歳 (n= 209)	79.9	16.7	2.4	1.0
	80 歳 以 上 (n= 109)	83.5	14.7	1.8	0.0
居 住 圏 域 別	中 央 (n= 165)	61.8	26.7	10.9	0.6
	白 糸 台 (n= 89)	61.8	29.2	9.0	0.0
	西 府 (n= 79)	68.4	26.6	5.1	0.0
	武 蔵 台 (n= 83)	79.5	19.3	1.2	0.0
	新 町 (n= 93)	72.0	22.6	5.4	0.0
	住 吉 (n= 121)	72.7	19.0	7.4	0.8
	是 政 (n= 123)	63.4	31.7	4.9	0.0
	紅 葉 丘 (n= 99)	75.8	19.2	5.1	0.0
	押 立 (n= 67)	77.6	17.9	4.5	0.0
	四 谷 (n= 54)	75.9	16.7	5.6	1.9
	片 町 (n= 111)	61.3	29.7	7.2	1.8

図表 自治会・町会等への加入状況
(住んでいる地域に自治会・町会等がある人)【前回比較】

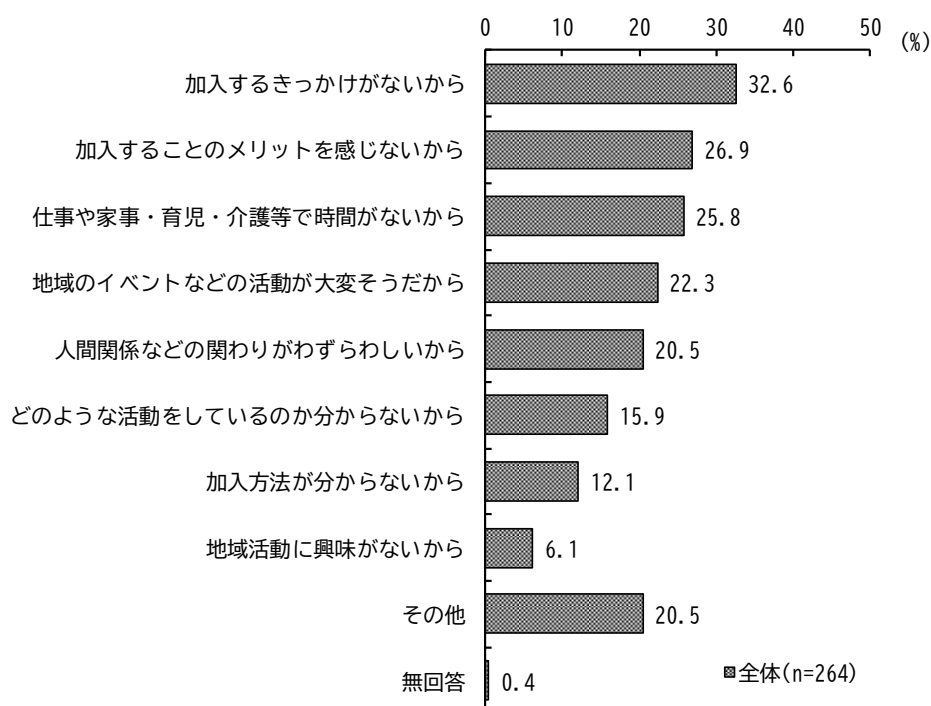


F9-2 F9-1で「2. 加入していない」と答えた方におたずねします。自治会・町会等に参加していない主な理由は何ですか。（3つまで○）

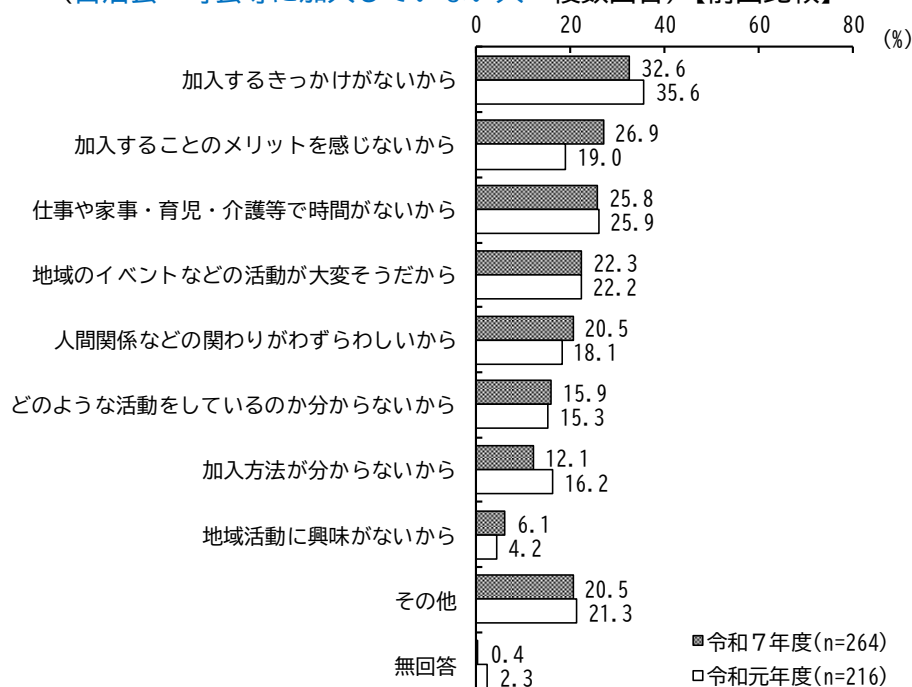
「加入するきっかけがないから」（32.6%）が最も多く、次いで「加入することのメリットを感じないから」（26.9%）、「仕事や家事・育児・介護等で時間がないから」（25.8%）と続いている。

前回調査と比較すると、「加入するきっかけがないから」（今回：32.6%、前回：35.6%）が最も多いことは変わらないが、「加入することのメリットを感じないから」（今回：26.9%、前回：19.0%）は前回調査では4位だったが、今回調査では2位となっている。

図表 自治会・町会等に参加していない理由（自治会・町会等に参加していない人：複数回答）



図表 自治会・町会等に参加していない理由
（自治会・町会等に参加していない人：複数回答）【前回比較】



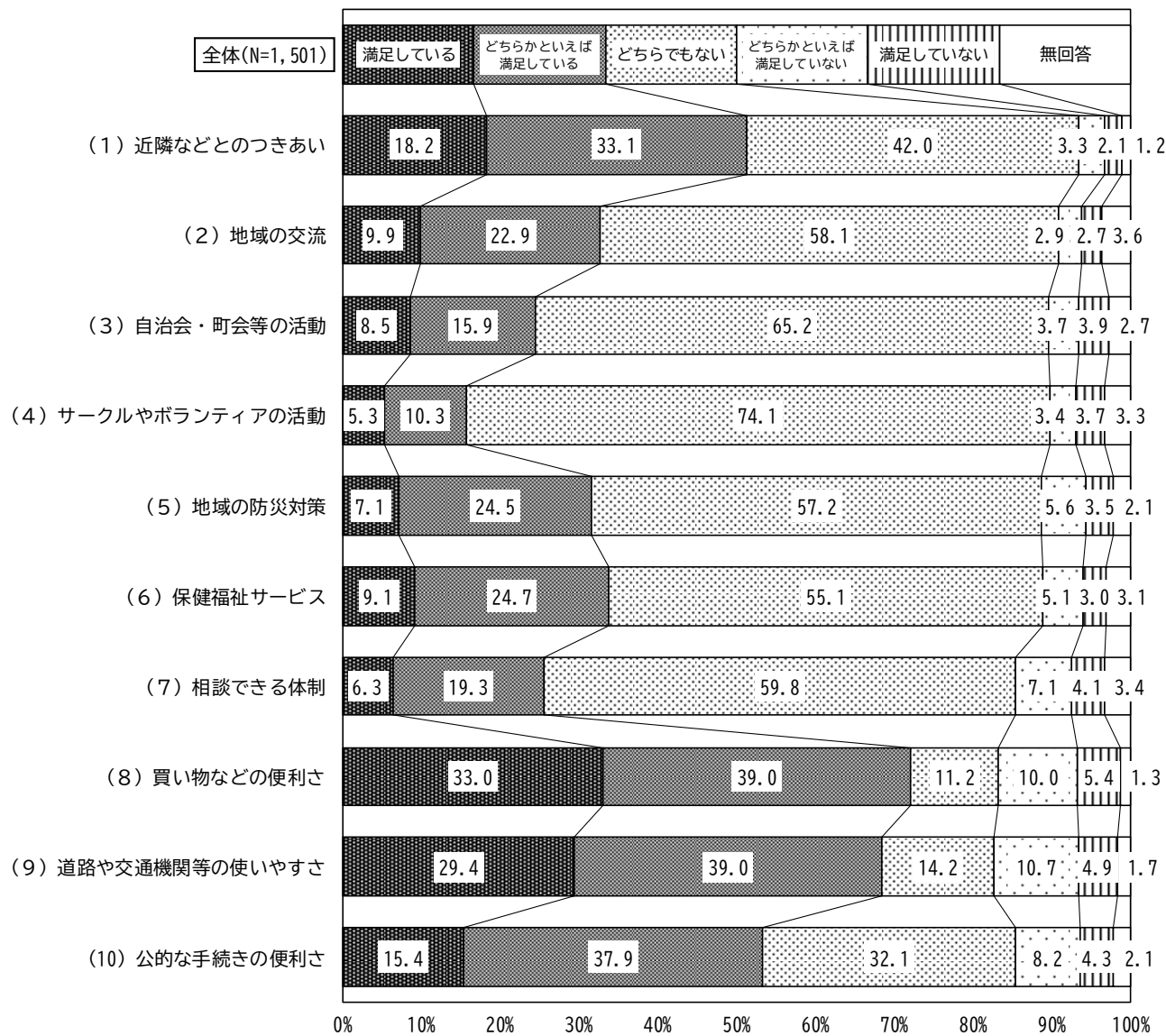
(2) 地域と近所づきあい

問1 あなたが現在、お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。(1)～(10)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

《満足》の割合が『(8) 買い物などの便利さ』(72.0%)、『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』(68.4%)で高くなっている。一方、《不満》の割合も『(8) 買い物などの便利さ』(15.4%)、『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』(15.6%)で高くなっている。

※《満足》・・・「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計
※《不満》・・・「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」の合計

図表 居住地域の満足度（全体）



『(1) 近隣などとのつきあい』について、居住圏域別にみると、《満足》は、紅葉丘が 65.2%と最も高く、中央が 44.3%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(1) 近隣などとのつきあい』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	18.2	33.1	42.0	3.3	2.1	1.2	51.3	5.4
居住圏域別	中 央 (n= 248)	13.7	30.6	50.4	3.2	1.2	0.8	44.3	4.4
	白 糸 台 (n= 142)	14.8	35.2	39.4	5.6	2.8	2.1	50.0	8.4
	西 府 (n= 112)	19.6	31.3	46.4	0.0	2.7	0.0	50.9	2.7
	武 蔵 台 (n= 93)	18.3	34.4	37.6	6.5	2.2	1.1	52.7	8.7
	新 町 (n= 137)	17.5	31.4	45.3	0.7	2.9	2.2	48.9	3.6
	住 吉 (n= 161)	17.4	36.0	40.4	2.5	1.9	1.9	53.4	4.4
	是 政 (n= 148)	21.6	33.1	41.9	1.4	2.0	0.0	54.7	3.4
	紅 葉 丘 (n= 132)	25.0	40.2	29.5	4.5	0.8	0.0	65.2	5.3
	押 立 (n= 85)	17.6	36.5	36.5	7.1	1.2	1.2	54.1	8.3
	四 谷 (n= 73)	21.9	26.0	41.1	4.1	5.5	1.4	47.9	9.6
	片 町 (n= 162)	17.9	30.2	44.4	3.7	2.5	1.2	48.1	6.2

『(2) 地域の交流』について、居住圏域別にみると、《満足》は、押立が 38.9%と最も高く、新町が 24.8%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(2) 地域の交流』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	9.9	22.9	58.1	2.9	2.7	3.6	32.8	5.6
居住圏域別	中 央 (n= 248)	8.1	23.0	61.7	2.8	2.4	2.0	31.1	5.2
	白 糸 台 (n= 142)	6.3	23.9	57.7	7.0	1.4	3.5	30.2	8.4
	西 府 (n= 112)	6.3	26.8	63.4	0.0	2.7	0.9	33.1	2.7
	武 蔵 台 (n= 93)	8.6	29.0	51.6	6.5	2.2	2.2	37.6	8.7
	新 町 (n= 137)	8.0	16.8	65.0	1.5	2.2	6.6	24.8	3.7
	住 吉 (n= 161)	11.2	22.4	54.7	1.9	4.3	5.6	33.6	6.2
	是 政 (n= 148)	14.2	21.6	56.1	3.4	2.0	2.7	35.8	5.4
	紅 葉 丘 (n= 132)	13.6	24.2	50.8	2.3	3.0	6.1	37.8	5.3
	押 立 (n= 85)	11.8	27.1	51.8	4.7	2.4	2.4	38.9	7.1
	四 谷 (n= 73)	13.7	21.9	57.5	1.4	4.1	1.4	35.6	5.5
	片 町 (n= 162)	8.6	20.4	62.3	1.9	3.1	3.7	29.0	5.0

第3章 調査結果

『(3) 自治会・町会等の活動』について、居住圏域別にみると、《満足》は、紅葉丘が 34.9%と最も高く、白糸台が 16.9%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(3) 自治会・町会等の活動』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	8.5	15.9	65.2	3.7	3.9	2.7	24.4	7.6
居住圏域別	中 央 (n= 248)	6.9	19.8	67.7	1.6	3.2	0.8	26.7	4.8
	白 糸 台 (n= 142)	6.3	10.6	66.9	8.5	4.2	3.5	16.9	12.7
	西 府 (n= 112)	3.6	13.4	77.7	3.6	1.8	0.0	17.0	5.4
	武 蔵 台 (n= 93)	4.3	23.7	60.2	4.3	6.5	1.1	28.0	10.8
	新 町 (n= 137)	7.3	10.9	72.3	1.5	3.6	4.4	18.2	5.1
	住 吉 (n= 161)	11.2	18.0	54.7	5.6	5.0	5.6	29.2	10.6
	是 政 (n= 148)	14.9	11.5	63.5	4.7	3.4	2.0	26.4	8.1
	紅 葉 丘 (n= 132)	11.4	23.5	53.8	4.5	3.8	3.0	34.9	8.3
	押 立 (n= 85)	7.1	21.2	58.8	2.4	4.7	5.9	28.3	7.1
	四 谷 (n= 73)	11.0	15.1	63.0	2.7	8.2	0.0	26.1	10.9
	片 町 (n= 162)	8.0	10.5	74.7	2.5	2.5	1.9	18.5	5.0

『(4) サークルやボランティアの活動』について、居住圏域別にみると、《満足》は、四谷が 21.9%と最も高く、新町が 10.2%と最も低くなっている。なお、武蔵台は《不満》(11.9%)が《満足》(11.8%)を上回っている。

図表 居住地域の満足度『(4) サークルやボランティアの活動』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	5.3	10.3	74.1	3.4	3.7	3.3	15.6	7.1
居住圏域別	中 央 (n= 248)	5.2	12.9	74.2	2.4	2.4	2.8	18.1	4.8
	白 糸 台 (n= 142)	4.2	9.9	74.6	4.2	4.2	2.8	14.1	8.4
	西 府 (n= 112)	4.5	8.0	83.0	0.9	1.8	1.8	12.5	2.7
	武 蔵 台 (n= 93)	3.2	8.6	75.3	6.5	5.4	1.1	11.8	11.9
	新 町 (n= 137)	4.4	5.8	78.1	2.2	5.1	4.4	10.2	7.3
	住 吉 (n= 161)	5.0	8.1	72.0	6.2	3.7	5.0	13.1	9.9
	是 政 (n= 148)	8.1	13.5	68.9	3.4	4.1	2.0	21.6	7.5
	紅 葉 丘 (n= 132)	6.1	13.6	68.2	2.3	4.5	5.3	19.7	6.8
	押 立 (n= 85)	4.7	15.3	67.1	7.1	2.4	3.5	20.0	9.5
	四 谷 (n= 73)	5.5	16.4	69.9	2.7	4.1	1.4	21.9	6.8
	片 町 (n= 162)	6.2	4.3	80.9	1.9	3.7	3.1	10.5	5.6

『(5) 地域の防災対策』について、居住圏域別にみると、《満足》は、武蔵台が 37.7%と最も高く、四谷が 27.4%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(5) 地域の防災対策』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	7.1	24.5	57.2	5.6	3.5	2.1	31.6	9.1
居住圏域別	中 央 (n= 248)	8.9	23.0	59.3	4.0	3.2	1.6	31.9	7.2
	白 糸 台 (n= 142)	7.0	26.1	52.8	7.7	4.2	2.1	33.1	11.9
	西 府 (n= 112)	6.3	25.0	60.7	4.5	1.8	1.8	31.3	6.3
	武 蔵 台 (n= 93)	9.7	28.0	50.5	5.4	5.4	1.1	37.7	10.8
	新 町 (n= 137)	5.8	22.6	60.6	5.1	2.9	2.9	28.4	8.0
	住 吉 (n= 161)	5.6	23.0	57.1	5.0	5.0	4.3	28.6	10.0
	是 政 (n= 148)	8.8	27.0	52.7	6.1	4.7	0.7	35.8	10.8
	紅 葉 丘 (n= 132)	4.5	27.3	56.1	5.3	4.5	2.3	31.8	9.8
	押 立 (n= 85)	10.6	25.9	49.4	11.8	0.0	2.4	36.5	11.8
	四 谷 (n= 73)	5.5	21.9	64.4	5.5	2.7	0.0	27.4	8.2
	片 町 (n= 162)	4.9	22.8	63.0	4.9	2.5	1.9	27.7	7.4

『(6) 保健福祉サービス』について、居住圏域別にみると、《満足》は、中央が 38.3%と最も高く、西府と紅葉丘が 30.3%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(6) 保健福祉サービス』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	9.1	24.7	55.1	5.1	3.0	3.1	33.8	8.1
居住圏域別	中 央 (n= 248)	10.9	27.4	53.2	3.2	2.8	2.4	38.3	6.0
	白 糸 台 (n= 142)	14.1	21.1	56.3	4.2	2.1	2.1	35.2	6.3
	西 府 (n= 112)	8.0	22.3	59.8	3.6	3.6	2.7	30.3	7.2
	武 蔵 台 (n= 93)	10.8	20.4	51.6	6.5	7.5	3.2	31.2	14.0
	新 町 (n= 137)	10.2	20.4	55.5	5.1	4.4	4.4	30.6	9.5
	住 吉 (n= 161)	5.6	27.3	52.8	5.0	3.1	6.2	32.9	8.1
	是 政 (n= 148)	8.1	29.1	53.4	6.8	2.0	0.7	37.2	8.8
	紅 葉 丘 (n= 132)	6.8	23.5	56.8	7.6	1.5	3.8	30.3	9.1
	押 立 (n= 85)	7.1	23.5	54.1	10.6	1.2	3.5	30.6	11.8
	四 谷 (n= 73)	5.5	28.8	58.9	4.1	2.7	0.0	34.3	6.8
	片 町 (n= 162)	9.3	25.3	57.4	2.5	3.1	2.5	34.6	5.6

第3章 調査結果

『(7) 相談できる体制』について、居住圏域別にみると、《満足》は、是政が 30.4%と最も高く、武蔵台が 20.5%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(7) 相談できる体制』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	6.3	19.3	59.8	7.1	4.1	3.4	25.6	11.2
居住圏域別	中 央 (n= 248)	5.2	20.2	62.1	5.2	4.0	3.2	25.4	9.2
	白 糸 台 (n= 142)	9.2	20.4	60.6	6.3	1.4	2.1	29.6	7.7
	西 府 (n= 112)	6.3	17.0	61.6	7.1	3.6	4.5	23.3	10.7
	武 蔵 台 (n= 93)	6.5	14.0	57.0	12.9	6.5	3.2	20.5	19.4
	新 町 (n= 137)	5.8	15.3	65.0	5.8	4.4	3.6	21.1	10.2
	住 吉 (n= 161)	6.8	20.5	54.7	6.8	5.6	5.6	27.3	12.4
	是 政 (n= 148)	8.1	22.3	54.1	9.5	4.1	2.0	30.4	13.6
	紅 葉 丘 (n= 132)	8.3	18.9	61.4	3.8	5.3	2.3	27.2	9.1
	押 立 (n= 85)	4.7	21.2	52.9	11.8	5.9	3.5	25.9	17.7
	四 谷 (n= 73)	4.1	21.9	64.4	6.8	2.7	0.0	26.0	9.5
	片 町 (n= 162)	3.7	19.1	63.0	6.8	3.1	4.3	22.8	9.9

『(8) 買い物などの便利さ』について、居住圏域別にみると、《満足》は、中央が 87.9%と最も高く、紅葉丘が 56.1%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(8) 買い物などの便利さ』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	33.0	39.0	11.2	10.0	5.4	1.3	72.0	15.4
居住圏域別	中 央 (n= 248)	48.8	39.1	7.3	2.4	1.2	1.2	87.9	3.6
	白 糸 台 (n= 142)	27.5	40.1	12.7	12.0	7.0	0.7	67.6	19.0
	西 府 (n= 112)	39.3	38.4	9.8	8.9	1.8	1.8	77.7	10.7
	武 蔵 台 (n= 93)	28.0	36.6	17.2	12.9	5.4	0.0	64.6	18.3
	新 町 (n= 137)	30.7	37.2	16.8	8.8	5.1	1.5	67.9	13.9
	住 吉 (n= 161)	38.5	40.4	8.1	8.1	1.9	3.1	78.9	10.0
	是 政 (n= 148)	20.9	39.2	16.9	18.9	3.4	0.7	60.1	22.3
	紅 葉 丘 (n= 132)	15.9	40.2	8.3	18.2	16.7	0.8	56.1	34.9
	押 立 (n= 85)	21.2	42.4	7.1	11.8	16.5	1.2	63.6	28.3
	四 谷 (n= 73)	17.8	49.3	13.7	11.0	8.2	0.0	67.1	19.2
	片 町 (n= 162)	46.3	34.6	9.3	6.2	2.5	1.2	80.9	8.7

『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』について、居住圏域別にみると、《満足》は、中央が 83.1%と最も高く、四谷が 39.8%と最も低くなっている。なお、四谷は《不満》も 38.4%であり、《満足》と同程度となっている。

図表 居住地域の満足度『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』(全体、居住圏域別)

		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	29.4	39.0	14.2	10.7	4.9	1.7	68.4	15.6
居住圏域別	中 央 (n= 248)	44.0	39.1	9.7	4.8	1.2	1.2	83.1	6.0
	白 糸 台 (n= 142)	34.5	40.1	13.4	7.7	3.5	0.7	74.6	11.2
	西 府 (n= 112)	25.0	42.0	16.1	10.7	6.3	0.0	67.0	17.0
	武 蔵 台 (n= 93)	18.3	31.2	22.6	19.4	6.5	2.2	49.5	25.9
	新 町 (n= 137)	27.7	37.2	15.3	10.9	5.8	2.9	64.9	16.7
	住 吉 (n= 161)	29.8	39.1	12.4	11.8	3.7	3.1	68.9	15.5
	是 政 (n= 148)	20.3	49.3	13.5	10.8	4.7	1.4	69.6	15.5
	紅 葉 丘 (n= 132)	15.2	40.2	19.7	15.2	8.3	1.5	55.4	23.5
	押 立 (n= 85)	22.4	43.5	11.8	11.8	7.1	3.5	65.9	18.9
	四 谷 (n= 73)	11.0	28.8	21.9	23.3	15.1	0.0	39.8	38.4
	片 町 (n= 162)	45.1	34.6	9.9	6.8	2.5	1.2	79.7	9.3

『(10) 公的な手続きの便利さ』について、居住圏域別にみると、《満足》は、中央が 69.7%と最も高く、武蔵台が 40.8%と最も低くなっている。

図表 居住地域の満足度『(10) 公的な手続きの便利さ』(全体、居住圏域別)

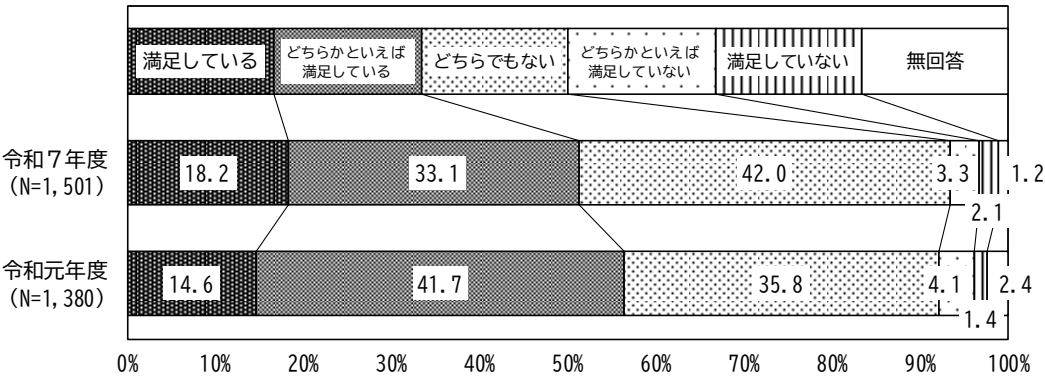
		満足している	満足どちらかといえ ば	どちらでもない	満足どちらかといえ ば	満足していない	無回答	(%)	
								《満足》	《不満》
全	体 (N=1,501)	15.4	37.9	32.1	8.2	4.3	2.1	53.3	12.5
居住圏域別	中 央 (n= 248)	26.6	43.1	23.8	3.6	1.2	1.6	69.7	4.8
	白 糸 台 (n= 142)	16.9	35.2	35.9	5.6	4.2	2.1	52.1	9.8
	西 府 (n= 112)	11.6	39.3	33.9	8.0	7.1	0.0	50.9	15.1
	武 蔵 台 (n= 93)	7.5	33.3	35.5	16.1	6.5	1.1	40.8	22.6
	新 町 (n= 137)	10.9	40.1	29.2	14.6	2.2	2.9	51.0	16.8
	住 吉 (n= 161)	11.2	32.9	37.9	9.3	4.3	4.3	44.1	13.6
	是 政 (n= 148)	12.8	36.5	31.8	9.5	6.8	2.7	49.3	16.3
	紅 葉 丘 (n= 132)	10.6	34.8	39.4	8.3	6.1	0.8	45.4	14.4
	押 立 (n= 85)	9.4	37.6	35.3	8.2	5.9	3.5	47.0	14.1
	四 谷 (n= 73)	4.1	37.0	41.1	11.0	6.8	0.0	41.1	17.8
	片 町 (n= 162)	25.3	43.2	24.1	3.7	1.9	1.9	68.5	5.6

第3章 調査結果

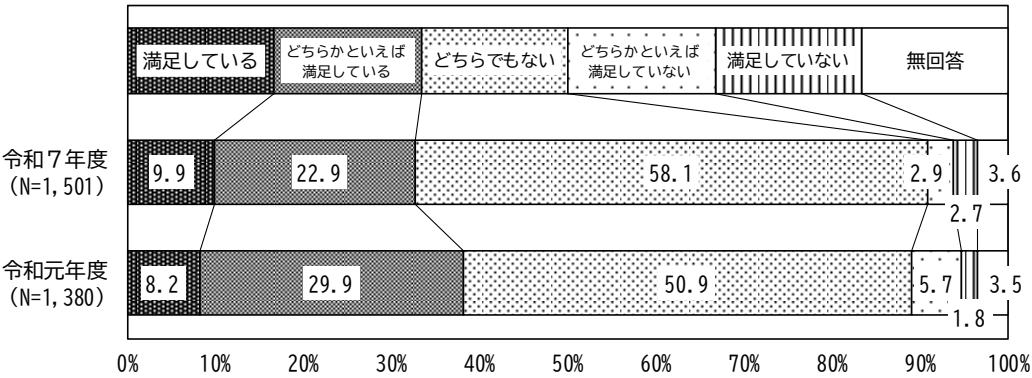
前回調査と比較すると、『(3) 自治会・町会等の活動』、『(2) 地域の交流』、『(1) 近隣などとのつきあい』で、『満足』の割合がそれぞれ 9.5、5.3、5.0 ポイントと、5 ポイント以上低くなっている。一方、『(10) 公的な手続きの便利さ』では、『満足』が 4.4 ポイント高くなっている。

図表 居住地域の満足度（全体）【前回比較】

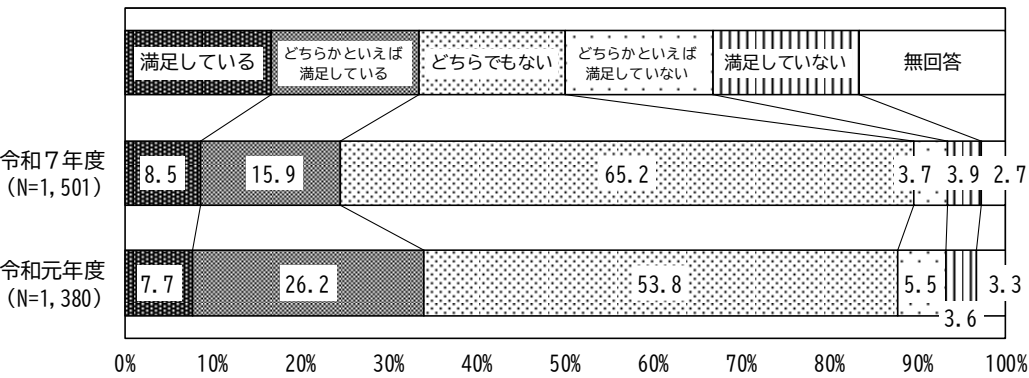
(1) 近隣などとのつきあい



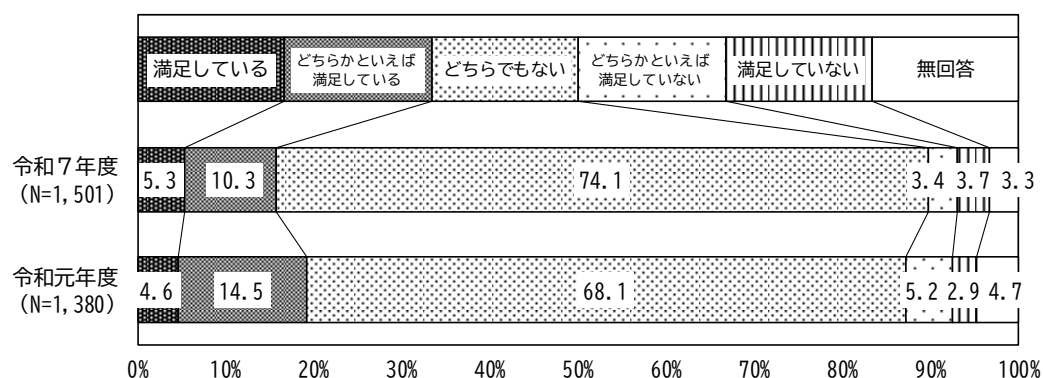
(2) 地域の交流



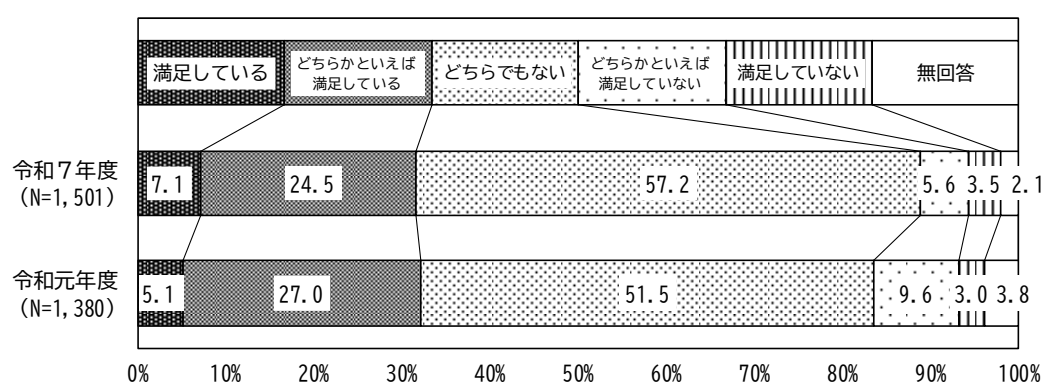
(3) 自治会・町会等の活動



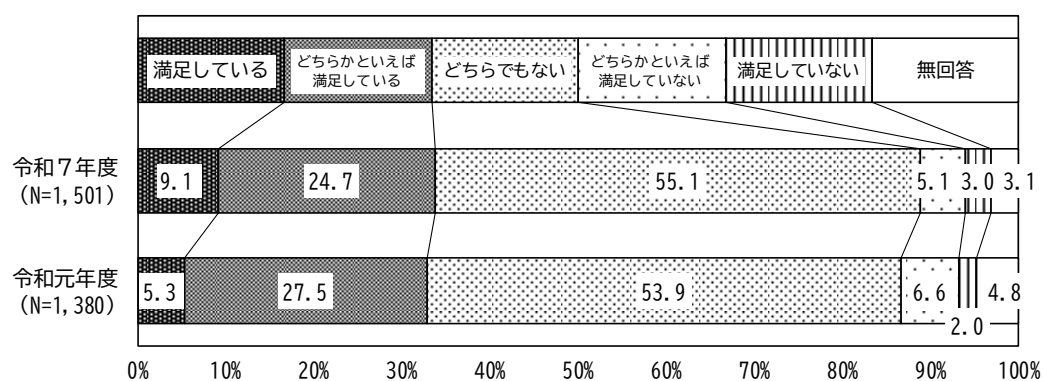
(4) サークルやボランティアの活動



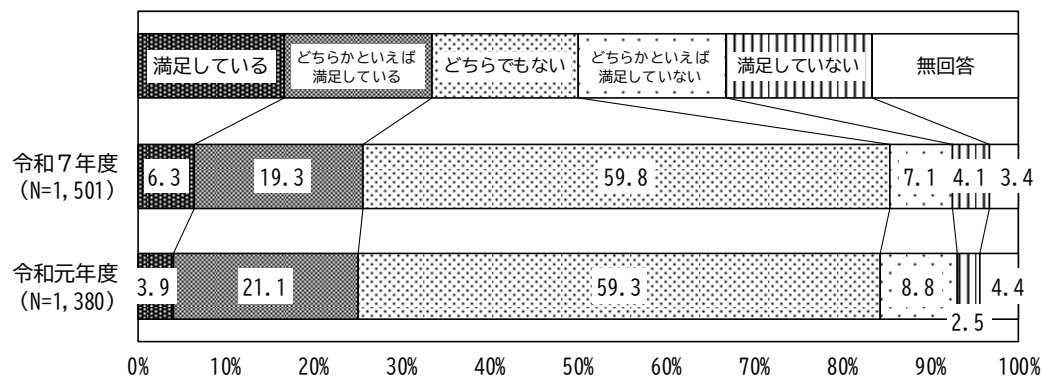
(5) 地域の防災対策



(6) 保健福祉サービス

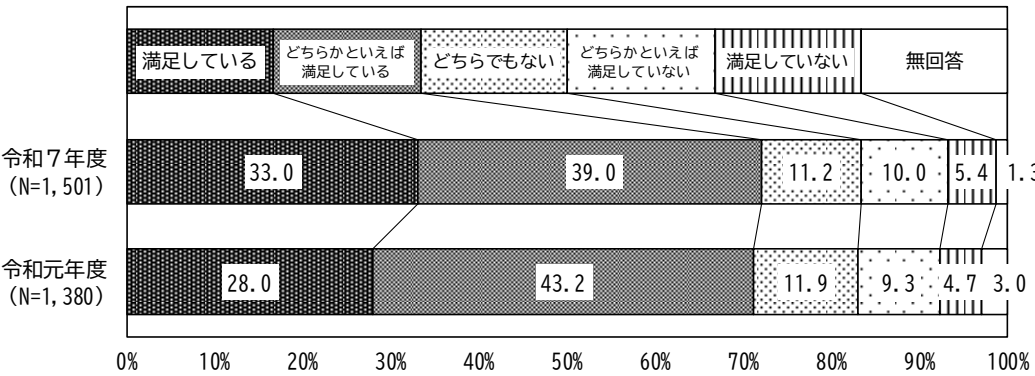


(7) 相談できる体制

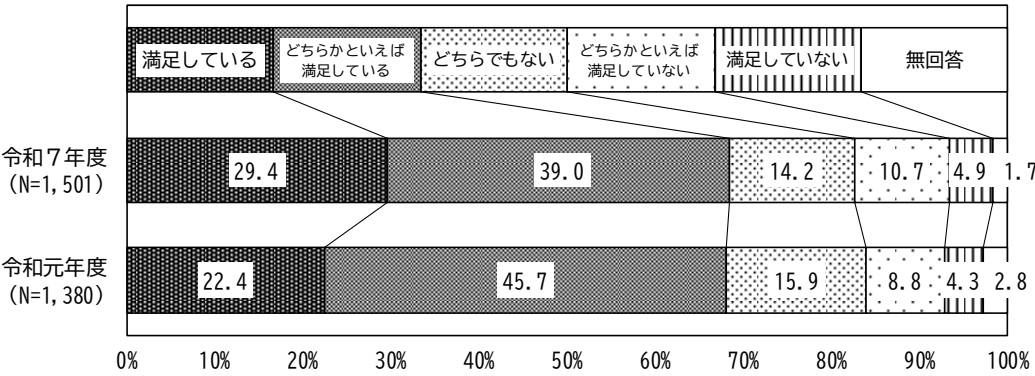


第3章 調査結果

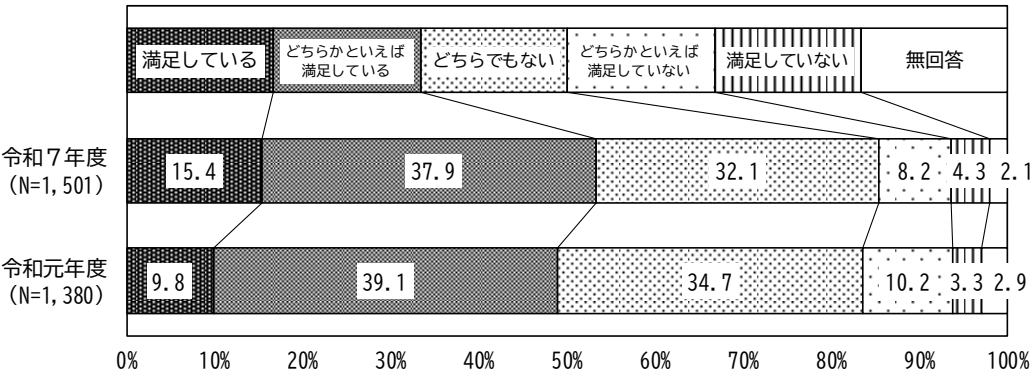
(8) 買い物などの便利さ



(9) 道路や交通機関等の使いやすさ



(10) 公的な手続きの便利さ



問2 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。（1つに○）

「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が 42.7%で最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が 25.4%、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が 11.2%と続いている。

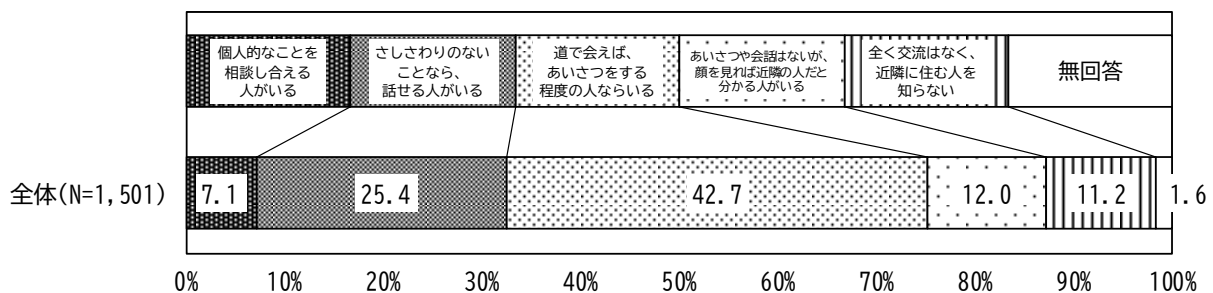
性・年代別にみると、男女ともに 18～39 歳で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が 20%台と高くなっている。また、女性の 40～64 歳、65～74 歳、75 歳以上で「個人的なことを相談し合える人がいる」が 10%を超えている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしの人で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が 32.2%と高くなっている。

居住圏域別にみると、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」の割合は、白糸台で 18.3%、片町で 16.7%であり、全体より 5 ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、親しく近所づきあいをしている「個人的なことを相談し合える人がいる」（今回：7.1%、前回：9.3%）と「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」（今回：25.4%、前回：33.5%）は、いずれも割合が低くなっている。

図表 近所づきあいの現状（全体）

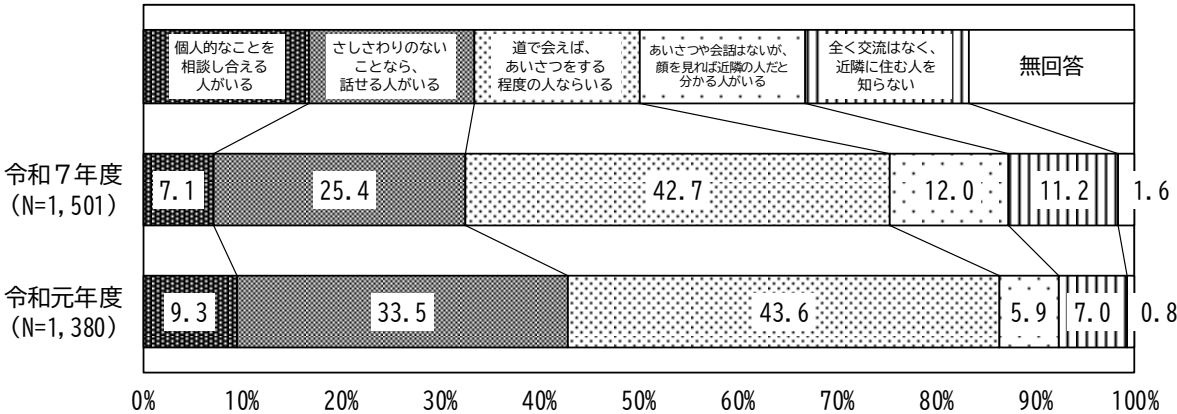


第3章 調査結果

図表 近所づきあいの現状（全体、性・年代別、家族構成別、居住圏域別）

			個人的なことを相談し合える人がいる	さしざわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	顔をみれば近隣の人だと分かる人がいる	あいさつや会話はしないが、顔をみれば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	(%) 無回答
全 体 (N=1,501)			7.1	25.4	42.7	12.0	11.2	1.6	
性・年代別	男 性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	3.7	10.4	37.8	23.7	24.4	0.0	
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	2.4	24.3	48.9	13.8	9.3	1.2	
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	4.4	30.1	43.4	17.7	3.5	0.9	
		75 歳 以上 (n= 87)	2.3	28.7	48.3	10.3	6.9	3.4	
	女 性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	4.3	14.2	42.6	14.2	24.1	0.6	
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	11.4	26.6	42.3	7.9	10.8	1.1	
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	13.6	32.0	40.8	7.8	4.9	1.0	
		75 歳 以上 (n= 172)	12.8	38.4	34.3	5.2	4.1	5.2	
家族構成別	ひとり暮らし (n= 264)		7.2	17.4	28.4	14.0	32.2	0.8	
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		5.1	29.3	42.4	13.3	6.9	2.9	
	その他の (n= 839)		8.1	26.0	47.2	11.0	6.7	1.1	
居住圏域別	中 央 (n= 248)		4.0	26.6	37.9	17.7	13.3	0.4	
	白 系 台 (n= 142)		6.3	23.9	38.0	12.7	18.3	0.7	
	西 府 (n= 112)		5.4	23.2	49.1	8.0	14.3	0.0	
	武 蔵 台 (n= 93)		9.7	31.2	44.1	5.4	6.5	3.2	
	新 町 (n= 137)		7.3	24.8	46.0	12.4	6.6	2.9	
	住 吉 (n= 161)		6.2	21.7	49.1	9.3	12.4	1.2	
	是 政 (n= 148)		11.5	25.7	41.9	11.5	8.1	1.4	
	紅 葉 丘 (n= 132)		8.3	32.6	41.7	11.4	4.5	1.5	
	押 立 (n= 85)		8.2	32.9	40.0	10.6	7.1	1.2	
	四 谷 (n= 73)		6.8	24.7	45.2	12.3	8.2	2.7	
片 町 (n= 162)		7.4	17.3	42.6	13.6	16.7	2.5		

図表 近所づきあいの現状（全体）【前回比較】



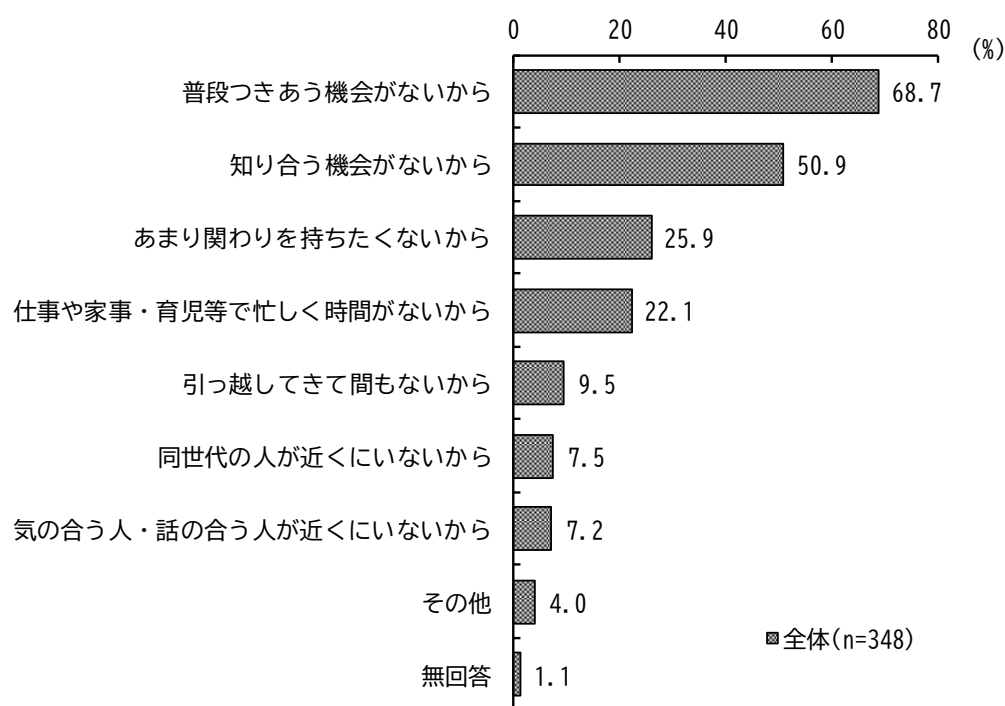
問2-1 問2で「4」、「5」と答えた方におたずねします。

近所づきあいを（ほぼ）しない主な理由は何ですか。（3つまで○）

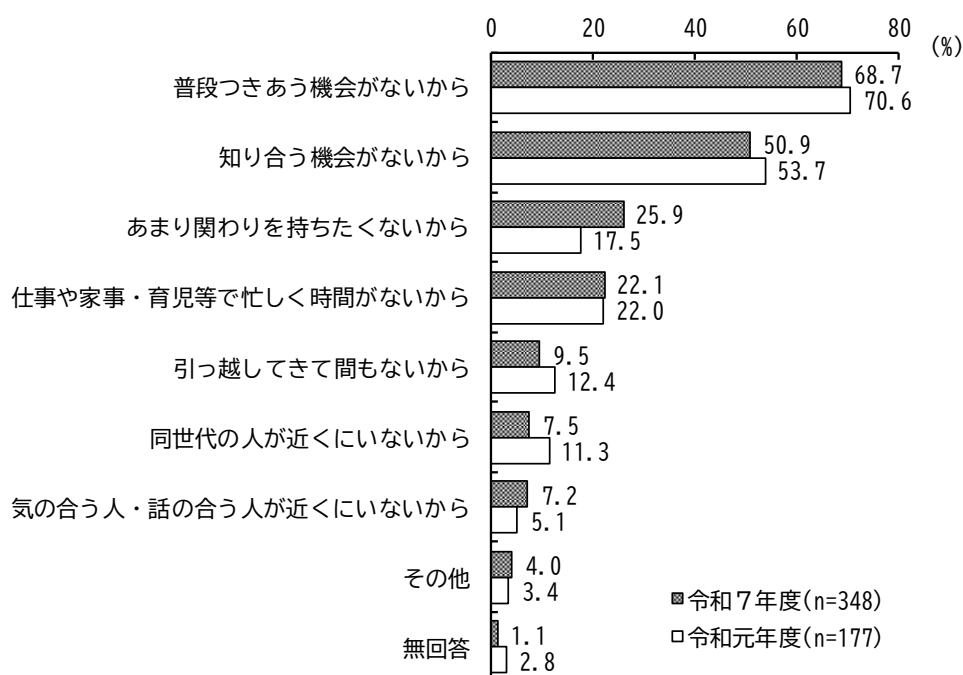
「普段つきあう機会がないから」（68.7%）が最も多く、次いで「知り合う機会がないから」（50.9%）、「あまり関わりを持ちたくないから」（25.9%）と続いている。

前回の調査結果と比較すると、上位2位は変わらないが、「あまり関わりを持ちたくないから」（今回：25.9%、前回：17.5%）は前回調査では4位だったが、今回調査では「仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから」（今回：22.1%、前回：22.0%）を上回り3位となっている。

図表 近所づきあいのない理由（近所づきあいを（ほぼ）していない人：複数回答）



図表 近所づきあいのない理由（近所づきあいを（ほぼ）していない人：複数回答）【前回比較】



(3) 地域活動・ボランティア活動

問3 あなたは、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでいますか。

(いくつでも○)

17.0%の人が地域での活動やボランティアに取り組んでいる。

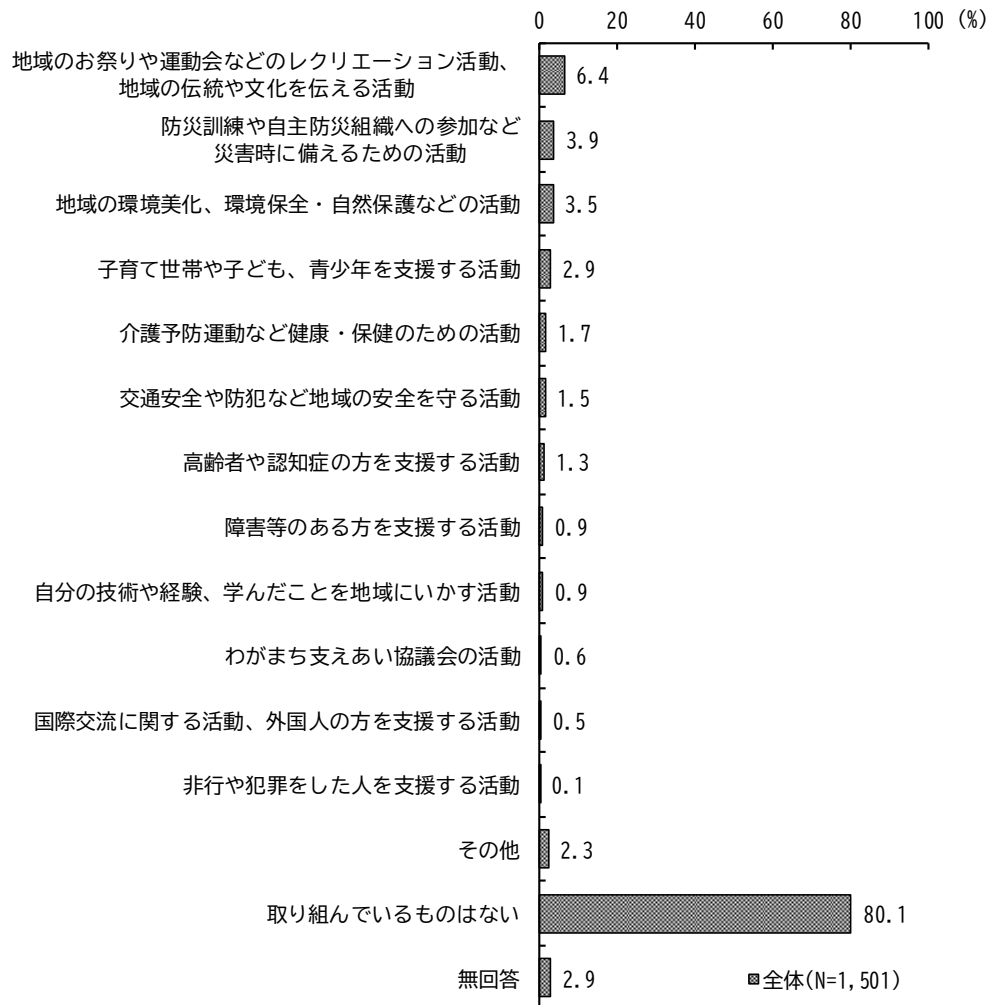
取り組んでいる内容としては、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(6.4%)が最も多く、次いで「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(3.9%)、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(3.5%)と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「取り組んでいるものはない」の割合が低くなり、何らかの地域での活動やボランティアに取り組んでいる割合が高くなっている。なお、男女ともに18～39歳は「取り組んでいるものはない」(男性：90.4%、女性：93.8%)が90%を超えている。また、男性の65～74歳では「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(10.6%)、男性の75歳以上では「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(14.9%)、女性の75歳以上では「介護予防運動など健康・保健のための活動」(7.0%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

居住圏域別では、「取り組んでいるものはない」の割合は、新町が89.1%と最も高く、武蔵台が72.0%と最も低くなっている。また、武蔵台では「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(10.8%)と「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(6.5%)、押立では「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(11.8%)、四谷では「介護予防運動など健康・保健のための活動」(6.8%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、すべての活動で取り組んでいる割合は前回調査より低くなっており、「取り組んでいるものはない」は71.4%から80.1%と8.7ポイント上昇している。

図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）（全体：複数回答）

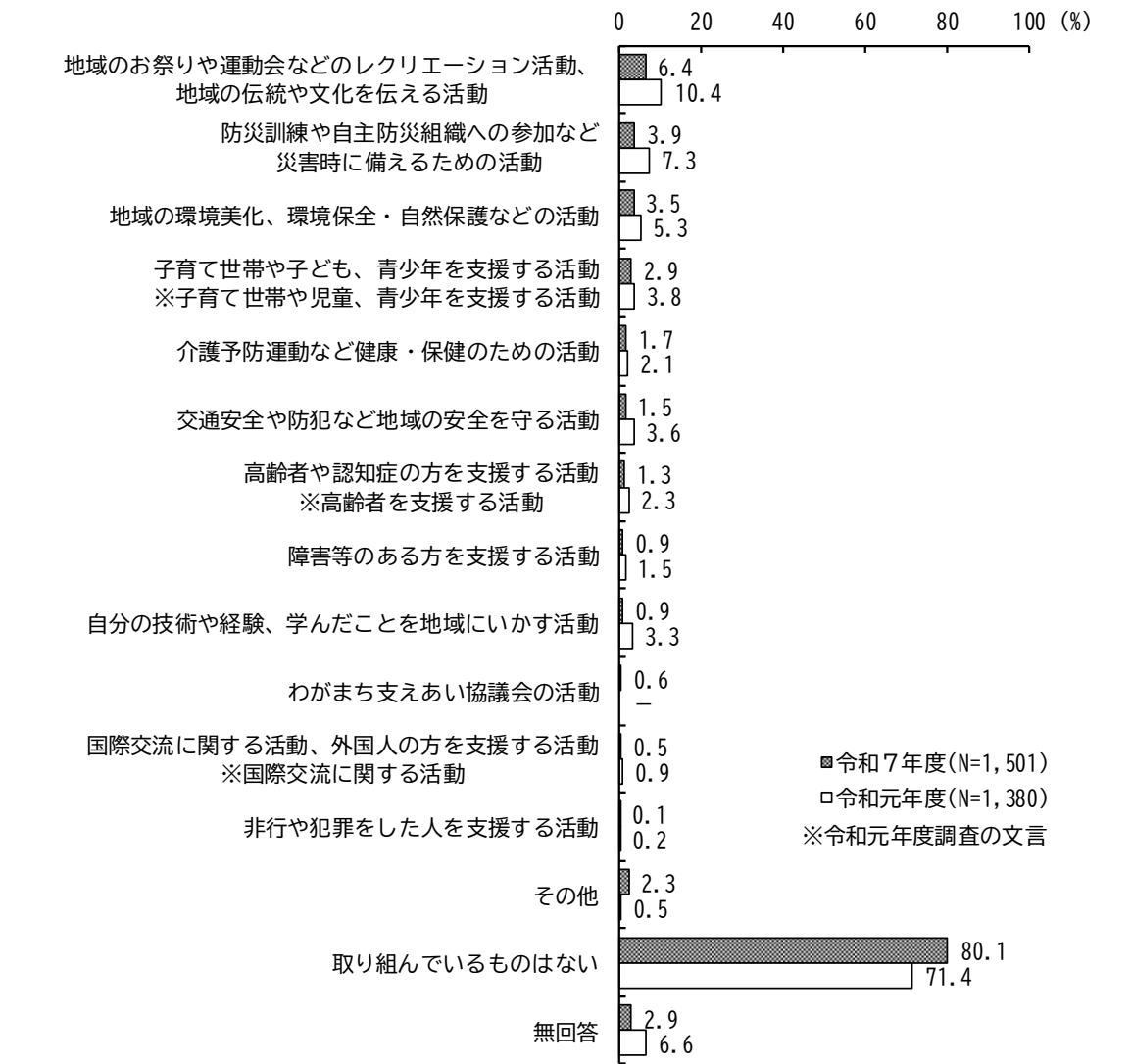


図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）（全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答）

																	(%)		
			地域の伝統や文化を伝える活動	地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の活動	防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	自然保護などの活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	介護予防運動など健康・保健のための活動	交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	高齢者や認知症の方を支援する活動	障害等のある方を支援する活動	自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	わがまち支えあい協議会の活動	国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	非行や犯罪をした人を支援する活動	その他	取り組んでいるものはない	無回答
全 体 (N=1,501)			6.4	3.9	3.5	2.9	1.7	1.5	1.3	0.9	0.9	0.6	0.5	0.1	2.3	80.1	2.9		
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	3.0	1.5	3.0	1.5	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	90.4	1.5	
		40～64歳 (n= 333)	7.5	4.5	3.9	3.9	0.3	1.5	0.3	0.9	0.9	0.0	0.6	0.0	0.6	80.2	3.0		
		65～74歳 (n= 113)	4.4	10.6	5.3	1.8	1.8	4.4	2.7	0.0	0.9	0.9	0.9	0.0	5.3	72.6	2.7		
		75歳以上 (n= 87)	14.9	9.2	5.7	2.3	4.6	4.6	4.6	3.4	1.1	3.4	0.0	0.0	4.6	67.8	2.3		
	女 性	18～39歳 (n= 162)	2.5	0.6	0.6	1.9	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.8	1.2		
		40～64歳 (n= 369)	6.2	2.7	3.3	4.6	0.8	1.1	1.6	1.1	0.5	0.5	0.8	0.0	1.9	82.1	1.1		
		65～74歳 (n= 103)	8.7	3.9	2.9	2.9	2.9	0.0	1.9	1.0	1.9	2.9	0.0	1.0	3.9	75.7	2.9		
	75歳以上 (n= 172)	7.6	3.5	4.7	1.2	7.0	1.2	2.3	1.2	2.3	0.0	0.6	0.6	6.4	68.6	8.7			
居住圏域別	中 央 (n= 248)	4.4	3.2	2.8	4.8	0.8	1.2	0.8	0.0	0.4	0.4	1.2	0.4	1.6	81.0	2.8			
	白 糸 台 (n= 142)	3.5	2.1	1.4	2.8	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	86.6	3.5			
	西 府 (n= 112)	8.0	6.3	3.6	0.9	1.8	0.0	2.7	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	1.8	81.3	2.7			
	武 蔵 台 (n= 93)	5.4	10.8	2.2	6.5	2.2	6.5	1.1	1.1	1.1	2.2	0.0	0.0	3.2	72.0	3.2			
	新 町 (n= 137)	2.2	1.5	1.5	1.5	0.7	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	1.5	89.1	2.9			
	住 吉 (n= 161)	8.7	4.3	6.8	3.1	1.9	1.9	0.6	0.6	1.2	0.0	0.0	0.0	1.9	75.8	4.3			
	是 政 (n= 148)	9.5	5.4	7.4	4.1	3.4	2.0	2.0	3.4	0.0	1.4	1.4	0.0	3.4	74.3	1.4			
	紅 葉 丘 (n= 132)	8.3	1.5	0.8	3.0	0.8	2.3	1.5	2.3	2.3	0.8	0.0	0.8	4.5	76.5	4.5			
	押 立 (n= 85)	11.8	4.7	4.7	1.2	1.2	1.2	2.4	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	1.2	77.6	1.2			
	四 谷 (n= 73)	2.7	2.7	2.7	1.4	6.8	1.4	5.5	2.7	2.7	0.0	1.4	0.0	4.1	79.5	2.7			
片 町 (n= 162)	6.8	3.1	4.3	1.2	1.9	0.6	1.2	0.6	1.2	0.6	0.0	0.0	1.2	84.0	1.2				

第3章 調査結果

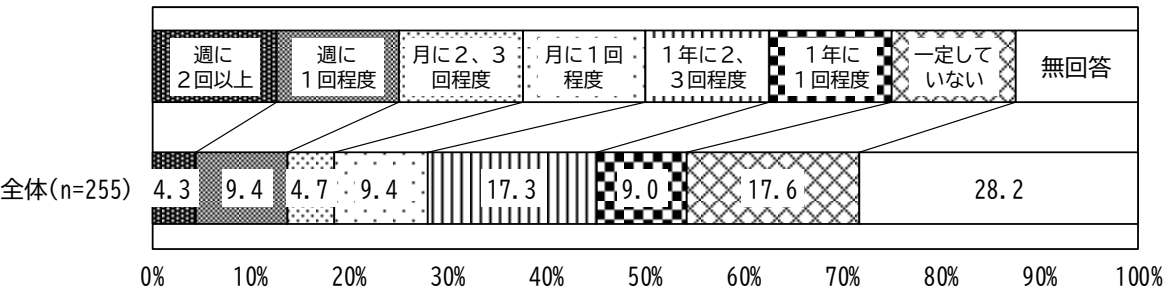
図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）（全体：複数回答）【前回比較】



問3-1 問3で1～13と答えた方におたずねします。あなたは、地域活動・ボランティア活動にどの程度取り組んでいますか。（1つに○）

「一定していない」（17.6％）が最も多く、次いで「1年に2、3回程度」（17.3％）、「週に1回程度」（9.4％）・「月に1回程度」（9.4％）と続いている。

図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動頻度）
（地域活動・ボランティア活動に取り組んでいる人）



問3-2 問3で「14. 取り組んでいるものはない」に○をつけた方におたずねします。活動していない主な理由は何ですか。（3つまで○）

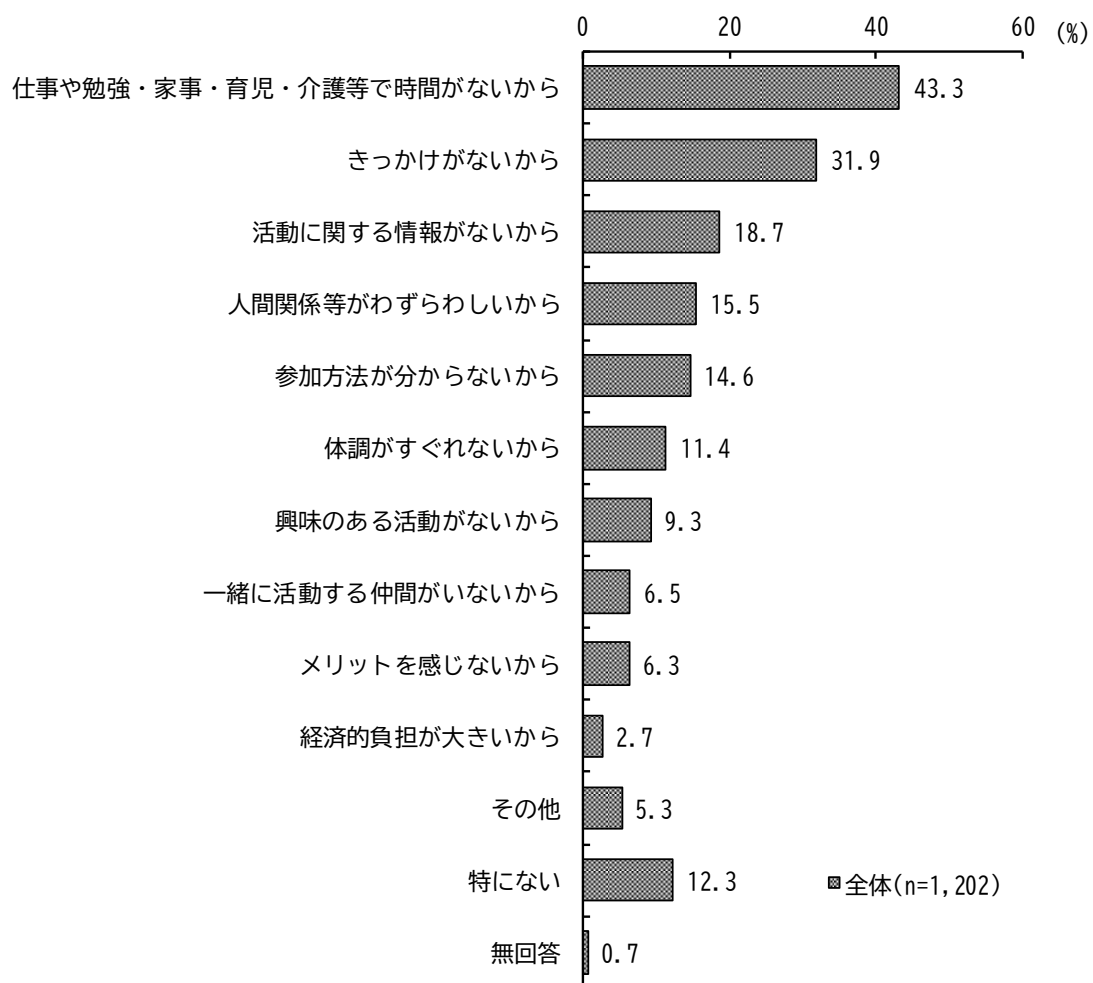
「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」（43.3%）が最も多く、次いで「きっかけがないから」（31.9%）、「活動に関する情報がないから」（18.7%）と続いている。

性・年代別にみると、男性の65～74歳では「きっかけがないから」（46.3%）、男性の75歳以上では「特にない」（28.8%）、女性の75歳以上では「体調がすぐれないから」（40.7%）が最も多くなっている。他の性・年代では全体と同様に「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、白糸台では「きっかけがないから」（35.8%）、押立では「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」と「きっかけがないから」が同率（36.4%）で最も多くなっている。他の圏域では全体と同様に「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、上位3位までは変わらないが、「人間関係等がわずらわしいから」（今回：15.5%、前回：9.4%）は前回調査では6位だったが、今回調査では4位となっている。

図表 地域活動・ボランティア活動をしていない理由
（地域活動・ボランティア活動をしていない人：複数回答）



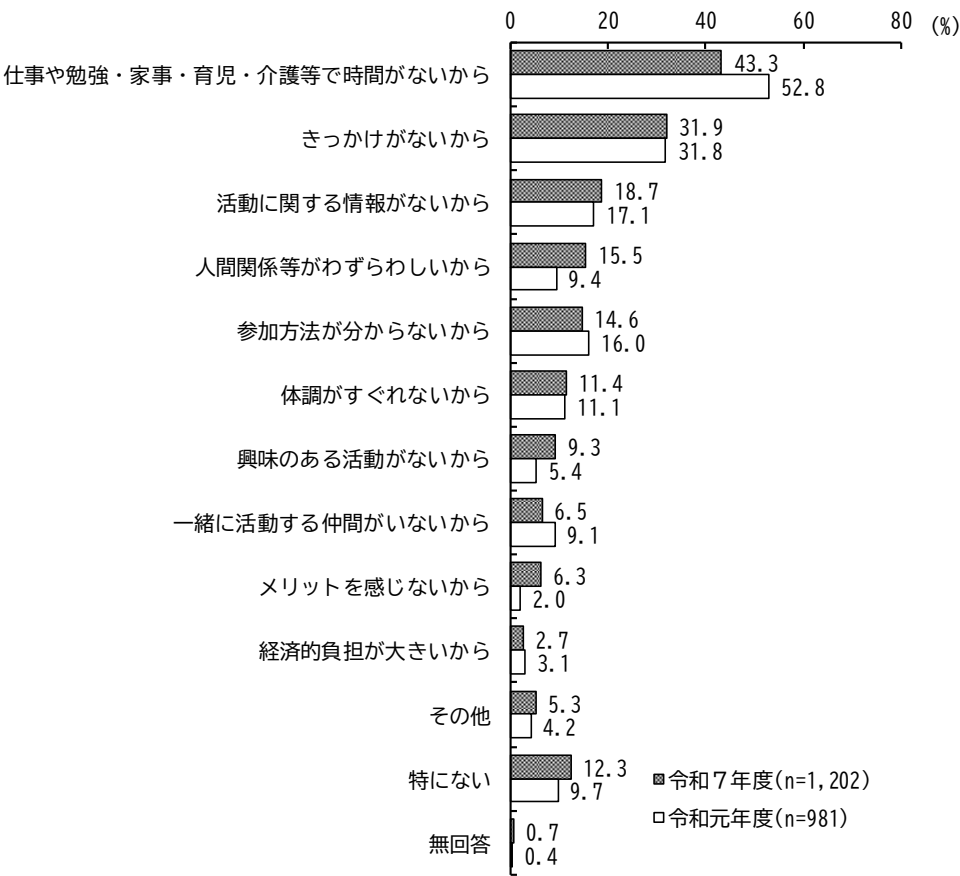
図表 地域活動・ボランティア活動をしていない理由

(地域活動・ボランティア活動をしていない人、性・年代別、居住圏域別：複数回答)

			仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから	きっかけがないから	活動に関する情報がないから	人間関係等がわずらわしいから	参加方法が分からないから	体調がすぐれないから	興味のある活動がないから	一緒に活動する仲間がないから	メリットを感じないから	経済的負担が大きいから	その他	特にな	無回答
全 体 (n=1,202)			43.3	31.9	18.7	15.5	14.6	11.4	9.3	6.5	6.3	2.7	5.3	12.3	0.7
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 122)	46.7	31.1	18.0	9.8	18.9	0.0	12.3	4.9	13.1	0.8	3.3	13.1	0.8
		40～64歳 (n= 267)	51.3	28.5	18.7	17.2	12.0	6.4	10.9	6.0	8.2	5.2	4.5	12.0	0.4
		65～74歳 (n= 82)	25.6	46.3	29.3	20.7	8.5	9.8	11.0	12.2	3.7	2.4	1.2	13.4	0.0
		75歳以上 (n= 59)	11.9	15.3	18.6	13.6	8.5	20.3	15.3	5.1	3.4	3.4	6.8	28.8	1.7
	女 性	18～39歳 (n= 152)	50.7	37.5	18.4	14.5	16.4	2.6	9.2	4.6	9.2	2.6	2.6	9.9	0.0
		40～64歳 (n= 303)	57.1	36.3	20.8	12.9	16.8	10.2	6.3	5.0	4.0	2.0	3.3	9.9	1.3
		65～74歳 (n= 78)	32.1	30.8	19.2	19.2	21.8	17.9	3.8	11.5	2.6	1.3	10.3	9.0	0.0
		75歳以上 (n= 118)	11.9	21.2	7.6	16.9	10.2	40.7	9.3	9.3	0.8	0.8	17.8	15.3	0.8
居住圏域別	中 央 (n= 201)		47.3	31.3	17.4	16.4	11.4	8.0	6.5	3.5	3.5	2.5	7.0	15.9	0.5
	白 糸 台 (n= 123)		31.7	35.8	26.0	13.8	18.7	12.2	13.0	8.9	8.1	4.9	6.5	11.4	0.0
	西 府 (n= 91)		53.8	31.9	16.5	19.8	9.9	8.8	6.6	5.5	13.2	5.5	2.2	7.7	0.0
	武 蔵 台 (n= 67)		46.3	31.3	16.4	9.0	16.4	16.4	10.4	3.0	3.0	1.5	7.5	9.0	1.5
	新 町 (n= 122)		48.4	28.7	21.3	13.1	15.6	10.7	5.7	7.4	6.6	2.5	4.1	9.8	1.6
	住 吉 (n= 122)		47.5	27.0	19.7	12.3	15.6	13.1	9.0	7.4	7.4	0.8	4.1	14.8	0.8
	是 政 (n= 110)		45.5	30.0	11.8	19.1	18.2	10.9	11.8	5.5	6.4	1.8	5.5	10.0	0.9
	紅 葉 丘 (n= 101)		35.6	25.7	13.9	12.9	14.9	12.9	11.9	7.9	3.0	2.0	4.0	17.8	1.0
	押 立 (n= 66)		36.4	36.4	12.1	19.7	16.7	12.1	13.6	3.0	6.1	4.5	10.6	9.1	0.0
	四 谷 (n= 58)		37.9	36.2	24.1	13.8	8.6	15.5	5.2	10.3	6.9	1.7	5.2	12.1	1.7
	片 町 (n= 136)		39.7	39.0	24.3	18.4	14.7	11.8	10.3	9.6	6.6	2.2	3.7	12.5	0.0

図表 地域活動・ボランティア活動をしていない理由

(地域活動・ボランティア活動をしていない人：複数回答)【前回比較】



問4 あなたは、今後、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでみたいと思いますか。(いくつでも○)

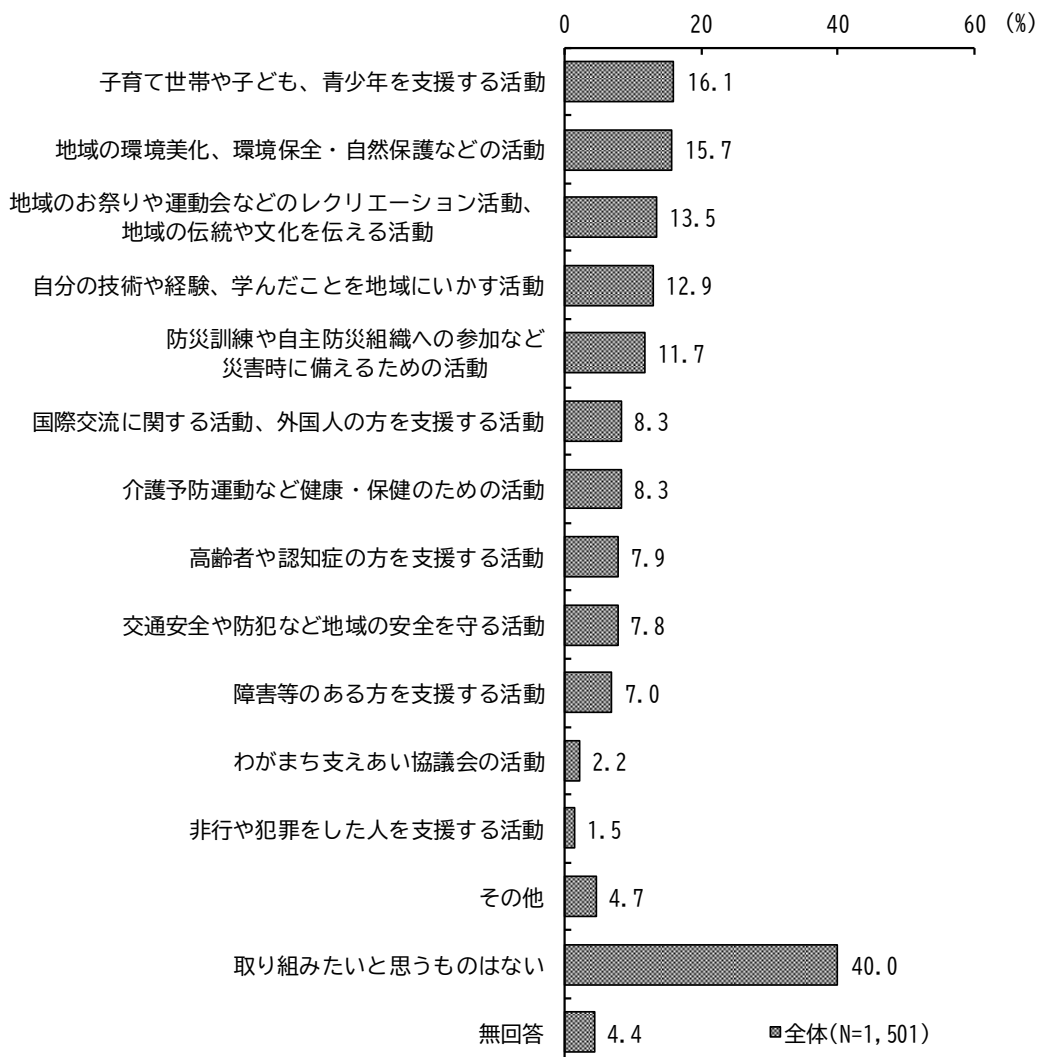
55.6%の人が今後、何らかの地域活動・ボランティア活動取り組んでみたいと思っている。

活動では「子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動」(16.1%)が最も多く、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(15.7%)、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(13.5%)と続いている。

性・年代別にみると、最も多い活動は異なっている。男性の18～39歳、75歳以上、女性の65～74歳では「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」、男性の40～64歳では「自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動」、男性の65～74歳、女性の75歳以上では「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」、女性の18～39歳、40～64歳では「子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、「取り組みたいと思うものはない」の割合は、新町が51.8%と最も高く、武蔵台が24.7%と最も低くなっている。また、武蔵台では「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(20.4%)と「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(15.1%)、「障害等のある方を支援する活動」(15.1%)、是政では「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(20.9%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

図表 地域活動・ボランティア活動の取組意向(活動内容)(全体：複数回答)



第3章 調査結果

図表 地域活動・ボランティア活動の取組意向（活動内容）
（全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答）

			子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	自然保護などの活動	地域の環境美化、環境保全・の伝統や文化を伝える活動	地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の活動を伝える活動	自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	介護予防運動など健康・保健のための活動	高齢者や認知症の方を支援する活動	交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	障害等のある方を支援する活動	運動がまち支えあい協議会の活動	非行や犯罪をした人を支援する活動	その他	取り組みたいと思うものはな	無回答
全 体 (N=1,501)			16.1	15.7	13.5	12.9	11.7	8.3	8.3	7.9	7.8	7.0	2.2	1.5	4.7	40.0	4.4	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	16.3	8.9	17.8	12.6	8.1	9.6	0.7	1.5	7.4	3.0	2.2	0.7	1.5	51.9	0.0	
		40～64歳 (n= 333)	15.9	16.5	14.1	19.8	13.8	7.8	4.5	8.1	11.1	8.7	1.8	2.7	3.3	42.0	2.1	
		65～74歳 (n= 113)	6.2	22.1	11.5	17.7	12.4	8.8	11.5	7.1	10.6	2.7	0.9	0.9	1.8	38.9	2.7	
		75歳以上 (n= 87)	5.7	12.6	14.9	9.2	11.5	5.7	9.2	5.7	10.3	2.3	2.3	1.1	10.3	36.8	9.2	
	女性	18～39歳 (n= 162)	29.0	19.1	19.8	9.3	12.3	9.3	4.3	4.3	8.0	6.2	1.2	1.9	0.6	43.2	0.6	
		40～64歳 (n= 369)	25.7	17.6	13.3	13.3	13.3	12.2	13.0	13.6	7.9	11.7	3.0	1.6	4.1	34.4	1.1	
		65～74歳 (n= 103)	7.8	13.6	14.6	10.7	13.6	2.9	12.6	7.8	2.9	5.8	5.8	0.0	7.8	31.1	4.9	
75歳以上 (n= 172)		1.7	11.6	4.7	2.9	5.8	3.5	9.9	5.8	1.2	3.5	1.2	0.6	11.0	43.0	19.8		
居住圏域別	中 央 (n= 248)	16.9	18.5	12.9	13.3	12.9	10.5	9.3	8.1	5.6	4.8	2.0	2.0	4.0	41.1	2.0		
	白 糸 台 (n= 142)	14.8	18.3	16.9	13.4	8.5	4.9	8.5	8.5	7.0	9.2	4.2	0.7	0.7	39.4	5.6		
	西 府 (n= 112)	19.6	9.8	16.1	11.6	12.5	10.7	3.6	7.1	8.9	6.3	1.8	0.0	7.1	42.9	2.7		
	武 蔵 台 (n= 93)	19.4	20.4	18.3	17.2	20.4	11.8	11.8	10.8	15.1	15.1	3.2	1.1	5.4	24.7	4.3		
	新 町 (n= 137)	12.4	14.6	7.3	7.3	8.0	8.8	6.6	5.1	2.2	3.6	0.7	0.7	5.1	51.8	4.4		
	住 吉 (n= 161)	20.5	9.3	8.7	16.1	9.9	11.8	8.7	7.5	8.1	9.9	2.5	1.9	4.3	33.5	8.1		
	是 政 (n= 148)	16.9	20.9	15.5	10.1	14.2	5.4	12.8	9.5	11.5	5.4	3.4	0.7	4.1	39.2	2.7		
	紅 葉 丘 (n= 132)	13.6	14.4	14.4	14.4	12.1	8.3	3.8	7.6	9.1	8.3	1.5	0.8	5.3	37.9	3.8		
	押 立 (n= 85)	14.1	20.0	16.5	15.3	12.9	7.1	5.9	10.6	4.7	8.2	0.0	3.5	8.2	30.6	8.2		
	四 谷 (n= 73)	9.6	11.0	9.6	15.1	12.3	5.5	9.6	9.6	6.8	5.5	2.7	0.0	6.8	45.2	5.5		
片 町 (n= 162)	14.8	14.2	14.8	11.7	9.3	5.6	9.9	5.6	8.6	4.9	1.9	2.5	4.3	46.9	3.1			

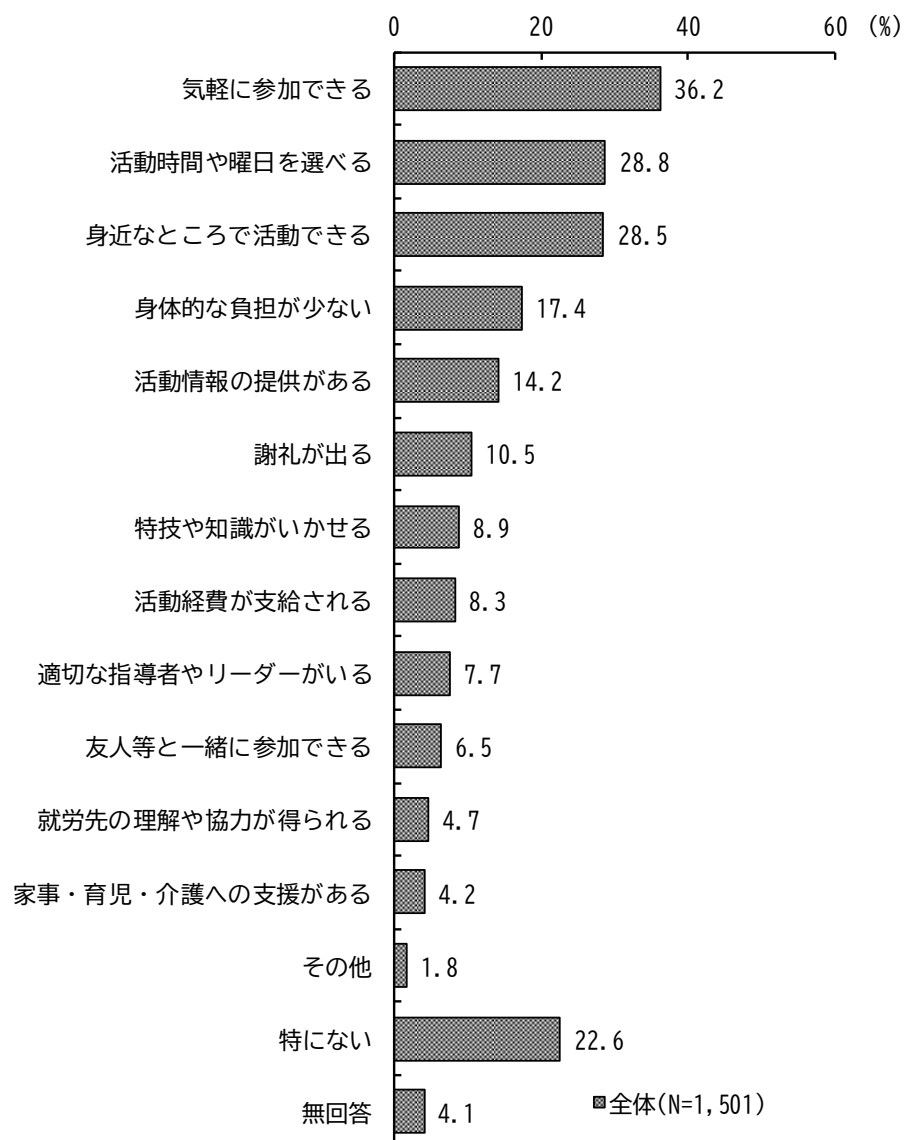
問5 あなたは、ボランティア活動について、どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。（3つまで○）

「気軽に参加できる」（36.2%）が最も多く、次いで「活動時間や曜日を選べる」（28.8%）、「身近なところで活動できる」（28.5%）と続いている。

性・年代別にみると、女性の75歳以上では「身近なところで活動できる」が最も多く、それ以外の性・年代では全体と同様に「気軽に参加できる」が最も多くなっている。また、男女ともに18～39歳では「謝礼が出る」（男性：20.0%、女性：24.7%）、「家事・育児・介護への支援がある」（男性：11.9%、女性：13.0%）が全体より5ポイント以上高くなっている。

問3の地域活動・ボランティア活動の取組状況の回答別にみると、「取り組んでいない」と回答した人は、「気軽に参加できる」（35.4%）が最も多く、次いで「身近なところで活動できる」（26.8%）、「活動時間や曜日を選べる」（26.2%）と続いている。また、「特にない」は、「取り組んでいる」と回答した人は、4.3%と低いが、「取り組んでいない」と回答した人は、26.4%と高くなっている。

図表 ボランティア活動等に参加しやすい条件（全体：複数回答）



第3章 調査結果

図表 ボランティア活動等に参加しやすい条件
(全体、性・年代別、地域活動・ボランティア活動への取組状況別：複数回答)

			(%)														
			気軽に 参加できる	活動時間や曜日を選べる	身近なところで活動できる	身体的な負担が少ない	活動情報の提供がある	謝礼が出る	特技や知識がいかせる	活動経費が支給される	適切な指導者やリーダーがいる	友人等と一緒に参加できる	就労先の理解や協力が得られる	家事・育児・介護への支援がある	その他	特にない	無回答
全 体 (N=1,501)			36.2	28.8	28.5	17.4	14.2	10.5	8.9	8.3	7.7	6.5	4.7	4.2	1.8	22.6	4.1
性・年代別	男 性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	38.5	20.0	25.2	7.4	14.8	20.0	6.7	14.1	3.7	12.6	8.1	11.9	1.5	24.4	0.7
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	39.3	29.1	29.7	10.5	15.9	10.2	12.0	10.2	6.3	3.0	8.1	2.7	1.2	22.2	2.4
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	34.5	33.6	24.8	20.4	18.6	4.4	12.4	9.7	13.3	5.3	0.9	0.0	2.7	23.9	1.8
		75 歳 以上 (n= 87)	29.9	18.4	27.6	21.8	11.5	1.1	5.7	4.6	5.7	2.3	0.0	1.1	1.1	34.5	11.5
	女 性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	43.2	29.0	23.5	16.0	13.0	24.7	5.6	9.9	5.6	8.6	3.7	13.0	1.2	18.5	0.6
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	40.9	39.8	36.0	20.3	16.0	11.7	9.2	8.1	11.1	6.8	5.7	3.3	1.1	16.5	1.4
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	34.0	27.2	31.1	29.1	10.7	1.9	13.6	1.9	8.7	10.7	2.9	1.9	3.9	16.5	2.9
		75 歳 以上 (n= 172)	17.4	15.1	21.5	19.8	8.1	1.2	2.9	0.0	4.1	5.8	0.0	0.6	4.1	37.2	18.0
地域活動・ボランティア活動への取組状況別	取り組んでいる (n= 255)	43.1	42.7	39.2	22.7	20.4	6.3	12.5	6.3	14.1	9.0	4.3	2.7	1.2	4.3	3.9	
	取り組んでいない (n=1,202)	35.4	26.2	26.8	16.6	13.1	11.7	8.3	9.1	6.4	6.0	5.0	4.6	1.9	26.4	3.0	

問6 あなたが活動の拠点として利用している施設はどれですか。(いくつでも○)

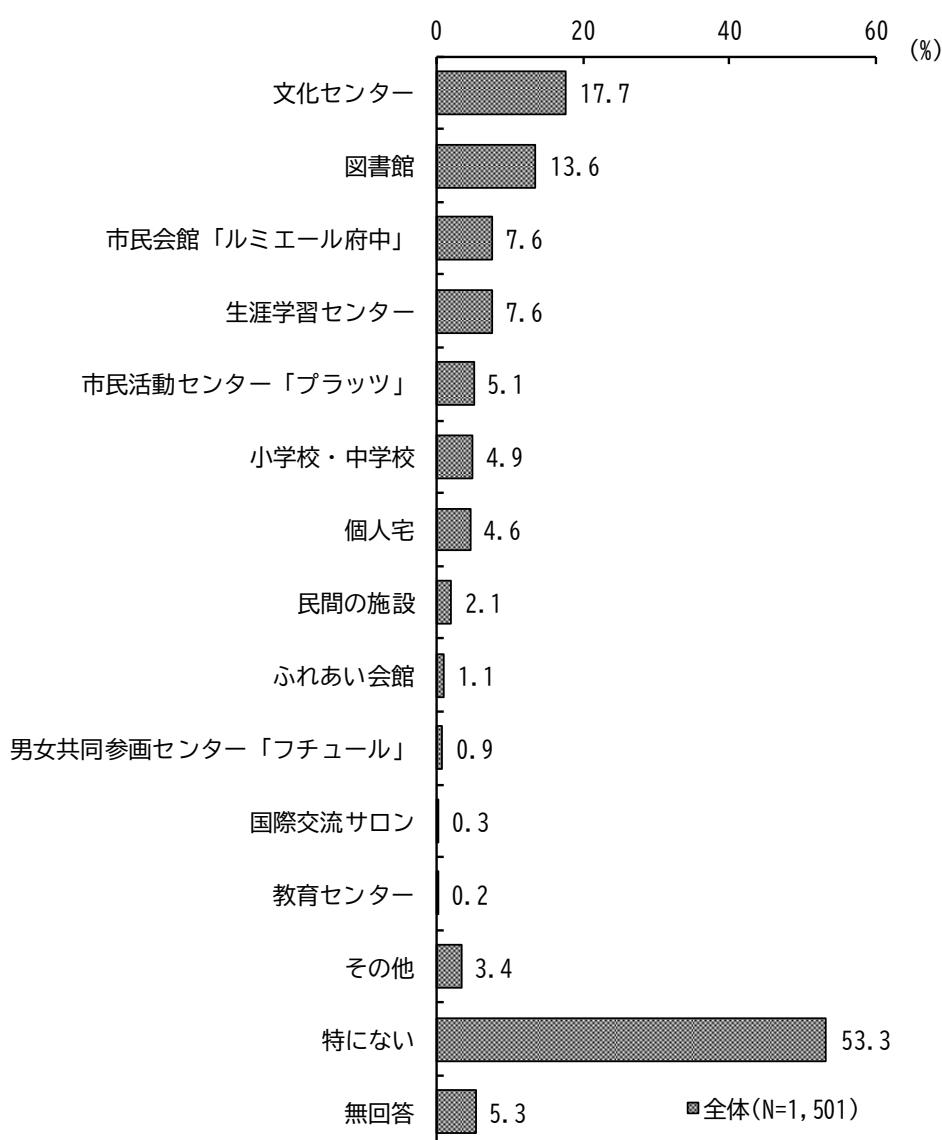
問6-1 問6で「11. 民間の施設」と答えた方におたずねします。具体的な施設の名称をお書きください。

41.4%の人が活動の拠点として利用している施設がある。

活動の拠点として利用している施設としては、「文化センター」(17.7%)が最も多く、次いで「図書館」(13.6%)、「市民会館「ルミエール府中」」(7.6%)・「生涯学習センター」(7.6%)と続いている。

なお、問6-1で、「民間の施設」(2.1%)と答えた方に具体的な施設の名称を聞いたところ、スポーツジム・体育館、自治会・町会・マンション等の集会所(公会堂含む)、商業施設、カフェ・喫茶店、福祉サービス事業所、レジャー施設などがあげられた。

図表 身近な活動拠点の利用状況(全体：複数回答)



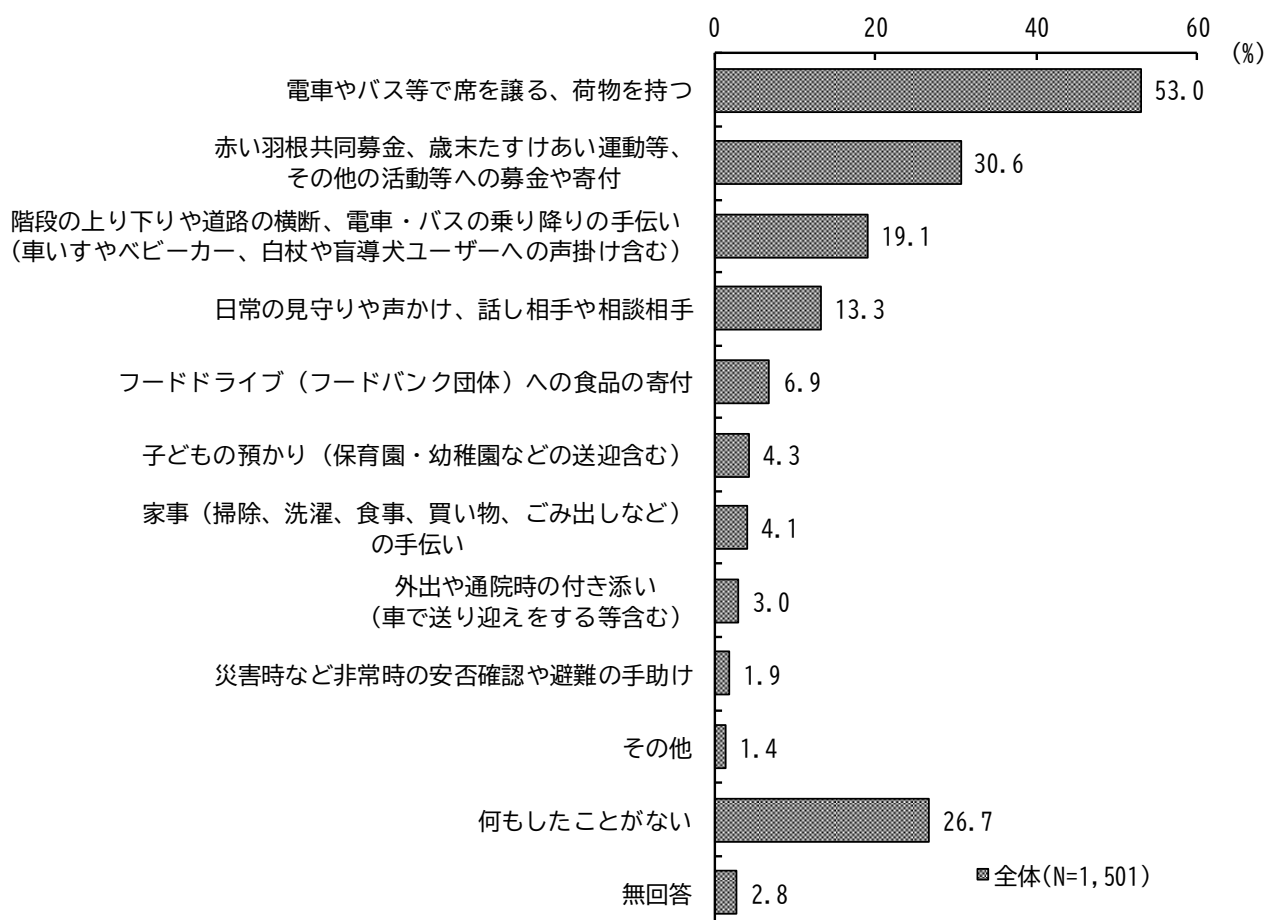
問7 あなたは、家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人に、次のような手助けをしたことがありますか。（いくつでも○）

70.5%の人が家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人への手助けの経験がある。

経験の内容は、「電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ」（53.0%）が最も多く、「赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動等、その他の活動等への募金や寄付」（30.6%）、「階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りの手伝い（車いすやベビーカー、白杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む）」（19.1%）と続いている。

性・年代別にみると、「何もしたことがない」の割合は、どの年代も女性の方が低く、女性の方が手助けの経験がある。特に女性の40～64歳は「電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ」（61.5%）、「階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りの手伝い（車いすやベビーカー、白杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む）」（24.9%）、「日常の見守りや声かけ、話し相手や相談相手」（20.1%）、「子どもの預かり（保育園・幼稚園などの送迎含む）」（9.8%）と4つの項目で全体より5ポイント以上高くなっている。

図表 困っている人への手助けの経験（全体：複数回答）



図表 困っている人への手助けの経験（全体、性・年代別：複数回答）

														(%)	
			電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ	赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動等、その他の活動等への募金や寄付	杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む	階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りの手伝い（車いすやベビーカー、白の杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む）	日常の見守りや声かけ、話し相手や相談相手	フードドライブ（フードバンク団体）への食品の寄付	子どもの預かり（保育園・幼稚園などの送迎含む）	家事（掃除、洗濯、食事、買い物、ごみ出しなど）の手伝い	外出や通院時の付き添い（車で送り迎えをする等含む）	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	その他	何もしたことがない	無回答
全 体 (N=1,501)			53.0	30.6	19.1	13.3	6.9	4.3	4.1	3.0	1.9	1.4	26.7	2.8	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	43.7	13.3	14.8	11.9	2.2	1.5	3.7	3.7	0.7	0.7	40.7	0.7	
		40～64歳 (n= 333)	55.0	28.8	20.7	10.5	3.9	3.9	2.7	2.4	3.3	1.5	30.6	1.8	
		65～74歳 (n= 113)	54.0	27.4	15.9	6.2	5.3	1.8	5.3	5.3	5.3	0.9	27.4	0.9	
		75歳以上 (n= 87)	32.2	31.0	16.1	10.3	2.3	1.1	4.6	3.4	2.3	4.6	39.1	6.9	
	女性	18～39歳 (n= 162)	62.3	25.9	15.4	8.0	5.6	1.9	2.5	0.0	0.0	0.0	21.6	1.2	
		40～64歳 (n= 369)	61.5	35.2	24.9	20.1	10.6	9.8	4.1	3.8	1.1	0.3	19.8	0.5	
		65～74歳 (n= 103)	57.3	41.7	23.3	13.6	13.6	3.9	3.9	1.9	0.0	3.9	26.2	1.9	
		75歳以上 (n= 172)	37.2	37.2	10.5	16.9	8.7	1.7	8.1	4.1	2.3	1.7	22.7	11.0	

問8 あなたが思う、地域における支え合いをより充実するため必要なことはどれですか。

(3つまで○)

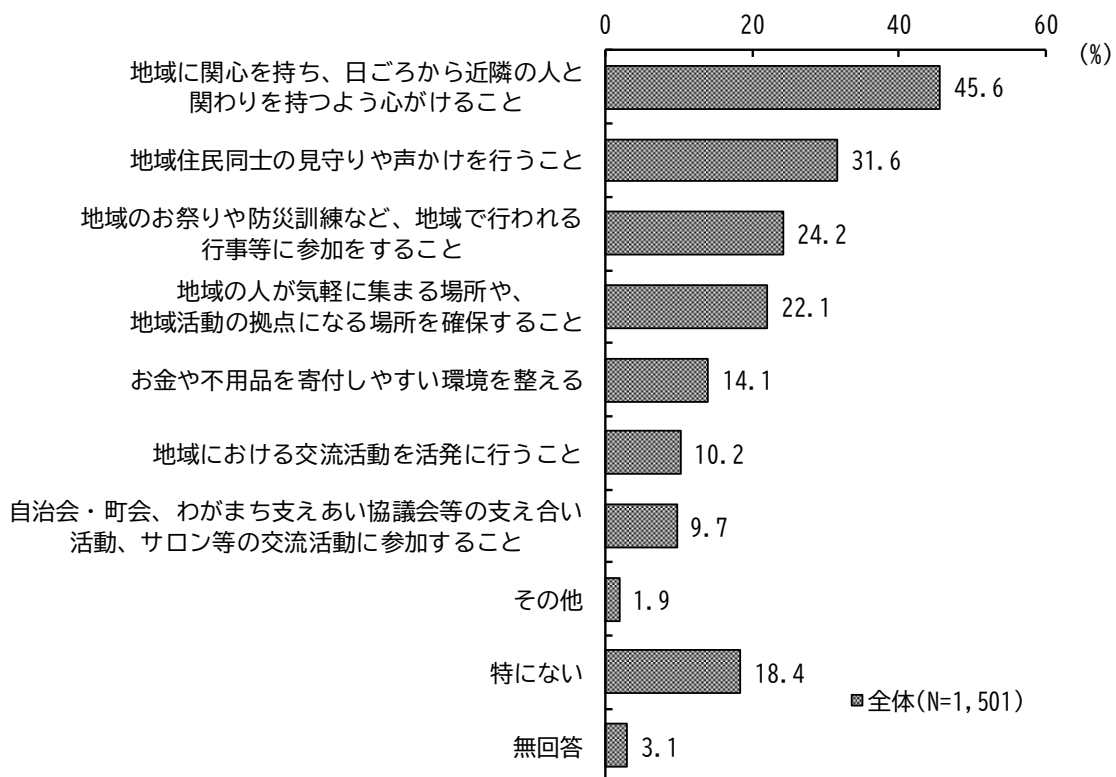
「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」(45.6%)が最も多く、次いで「地域住民同士の見守りや声かけを行うこと」(31.6%)、「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」(24.2%)と続いている。

性・年代別にみると、どの性・年代も「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多くなっている。また、男性の75歳以上では「自治会・町会、わがまち支えあい協議会等の支え合い活動、サロン等の交流活動に参加すること」(21.8%)が全体より10ポイント以上高くなっている。

居住圏域別にみると、どの圏域も「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多くなっている。また、押立で「地域住民同士の見守りや声かけを行うこと」(37.6%)、是政で「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」(31.8%)、中央で「地域の人が気軽に集まる場所や、地域活動の拠点になる場所を確保すること」(27.8%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、上位4位までは変わらないが、それぞれの割合は、前回調査より低くなっている。

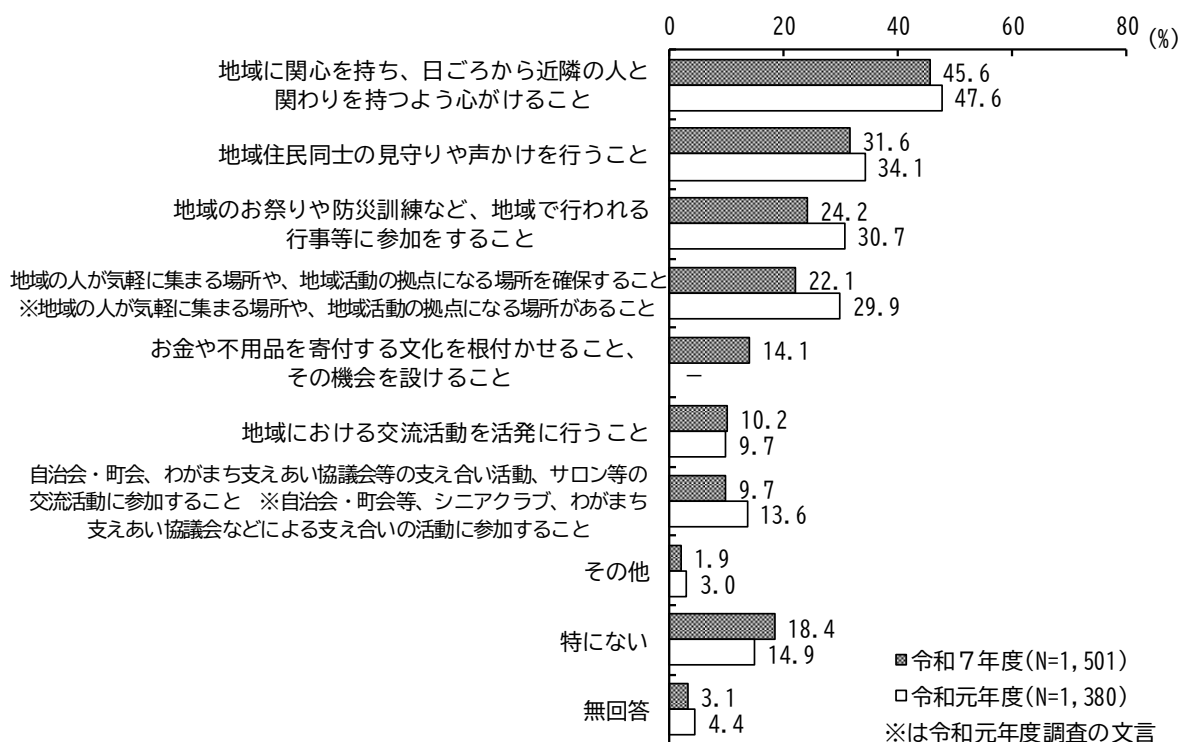
図表 地域における支え合いをより充実するために必要なこと（全体：複数回答）



図表 地域における支え合いをより充実するために必要なこと
(全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答)

			隣地 域の人 と関心 を持ち、 日ごろ から近 け近	地域 住民同 士の見 守りや 声かけ を	地域 で行わ れるお 祭りや 防災訓 練など 、地域 で	地域 の人が 気軽に 集まる 場所を 確保す ること	地域 の活動 の拠点 になる 場所を 確保す ること	地域 におけ る交流 活動を 活発に 行	自治会・ 町会、 わがま ち支え あい協 議会等 の支え 合い活 動、サ ロン等 の交流 活動に 参加す ること	その他	特 に な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			45.6	31.6	24.2	22.1	14.1	10.2	9.7	1.9	18.4	3.1
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	40.0	23.0	31.9	18.5	17.8	17.0	5.2	1.5	20.0	2.2
		40～64歳 (n= 333)	45.9	30.0	24.6	22.5	12.9	12.3	10.2	3.6	17.7	1.8
		65～74歳 (n= 113)	38.9	27.4	28.3	20.4	14.2	4.4	16.8	0.0	22.1	0.9
		75歳以上 (n= 87)	47.1	25.3	23.0	17.2	2.3	8.0	21.8	2.3	23.0	8.0
	女 性	18～39歳 (n= 162)	43.2	32.7	32.7	23.5	19.1	9.9	3.7	1.2	19.8	1.2
		40～64歳 (n= 369)	50.7	40.1	20.3	24.7	16.5	11.1	5.7	1.9	14.4	1.6
		65～74歳 (n= 103)	54.4	35.9	17.5	25.2	12.6	6.8	11.7	1.0	15.5	0.0
居住圏域別	75歳以上 (n= 172)		40.7	26.2	20.3	18.6	9.3	6.4	14.5	1.2	23.3	10.5
	中 央 (n= 248)		45.2	28.2	25.4	27.8	17.3	12.1	9.7	2.8	12.5	4.0
	白 糸 台 (n= 142)		45.8	31.7	25.4	19.7	10.6	9.2	12.0	2.1	19.7	2.1
	西 府 (n= 112)		41.1	25.9	25.9	21.4	13.4	8.9	10.7	3.6	21.4	0.9
	武 蔵 台 (n= 93)		49.5	29.0	24.7	15.1	14.0	14.0	6.5	0.0	21.5	3.2
	新 町 (n= 137)		38.7	32.8	18.2	24.8	16.8	10.2	4.4	0.0	24.1	3.6
	住 吉 (n= 161)		44.1	30.4	21.7	19.9	14.3	10.6	12.4	3.7	17.4	3.7
	是 政 (n= 148)		45.9	33.8	31.8	23.6	12.2	9.5	10.1	2.0	16.9	2.0
	紅 葉 丘 (n= 132)		58.3	36.4	19.7	17.4	9.8	7.6	9.1	1.5	19.7	2.3
	押 立 (n= 85)		52.9	37.6	24.7	25.9	11.8	12.9	10.6	0.0	10.6	5.9
	四 谷 (n= 73)		41.1	35.6	21.9	23.3	12.3	11.0	11.0	2.7	16.4	2.7
	片 町 (n= 162)		43.2	31.5	25.3	18.5	17.9	8.0	9.9	0.6	24.7	1.9

図表 地域における支え合いをより充実するために必要なこと（全体：複数回答）【前回比較】



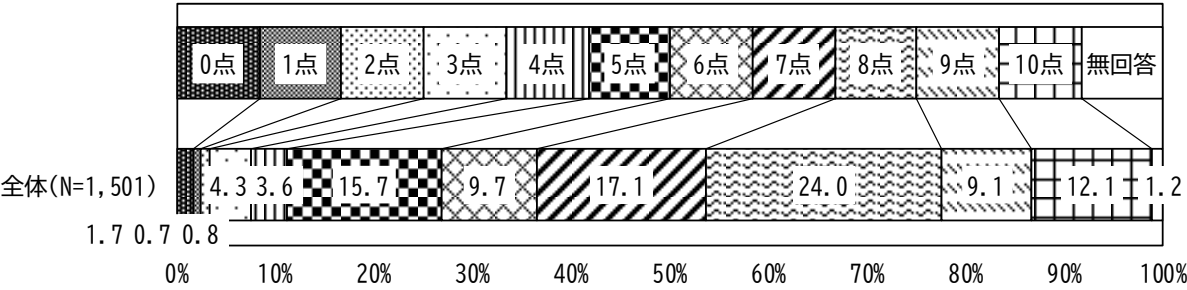
(4) 日ごろの生活と悩み

問9 あなたは、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とした場合、あなたはどれくらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。
(1つに○)

「8点」(24.0%)が最も高く、次いで「7点」(17.1%)、「5点」(15.7%)と続いている。平均点は6.9点となっている。なお、4点以下の割合は11.1%となっている。

性・年代別にみると、どの年代も女性の方が男性より平均点が高くなっている。平均点は、女性の18～39歳が7.4点で最も高く、男性の75歳以上が6.5点と最も低い。

図表 主観的幸福度（全体）



図表 主観的幸福度（全体、性・年代別）

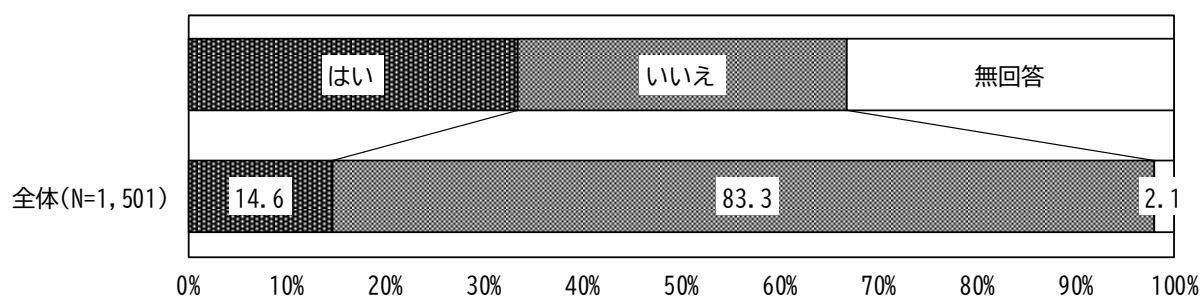
														(%)	
			0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	無 回 答	平 均 点
全 体 (N=1,501)			1.7	0.7	0.8	4.3	3.6	15.7	9.7	17.1	24.0	9.1	12.1	1.2	6.9
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	3.7	1.5	0.7	5.2	3.7	16.3	11.1	15.6	20.0	3.0	17.8	1.5	6.6
		40～64歳 (n= 333)	0.3	0.6	0.9	6.0	3.0	19.2	12.9	15.9	21.0	7.2	11.4	1.5	6.7
		65～74歳 (n= 113)	0.0	0.0	0.9	6.2	3.5	15.0	6.2	19.5	34.5	5.3	8.8	0.0	7.0
		75歳以上 (n= 87)	4.6	0.0	0.0	8.0	3.4	16.1	9.2	17.2	23.0	10.3	6.9	1.1	6.5
	女性	18～39歳 (n= 162)	0.6	1.2	0.6	2.5	3.7	11.1	5.6	17.3	24.7	13.0	18.5	1.2	7.4
		40～64歳 (n= 369)	1.6	0.5	0.5	4.1	5.4	14.6	7.0	17.3	26.0	12.2	10.3	0.3	7.0
		65～74歳 (n= 103)	2.9	0.0	1.0	1.0	1.9	12.6	7.8	19.4	31.1	10.7	10.7	1.0	7.2
		75歳以上 (n= 172)	2.3	1.2	0.6	1.7	0.6	16.9	15.1	16.3	18.0	9.9	14.5	2.9	7.0

問 10 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいか分からない生活上の困りごとを抱えていますか。（1つに○）

「はい」が14.6%、「いいえ」が83.3%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに40～64歳で「はい」（男性：16.2%、女性：17.3%）の割合が高くなっている。

図表 どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか（全体）



図表 どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか（全体、性・年代別）

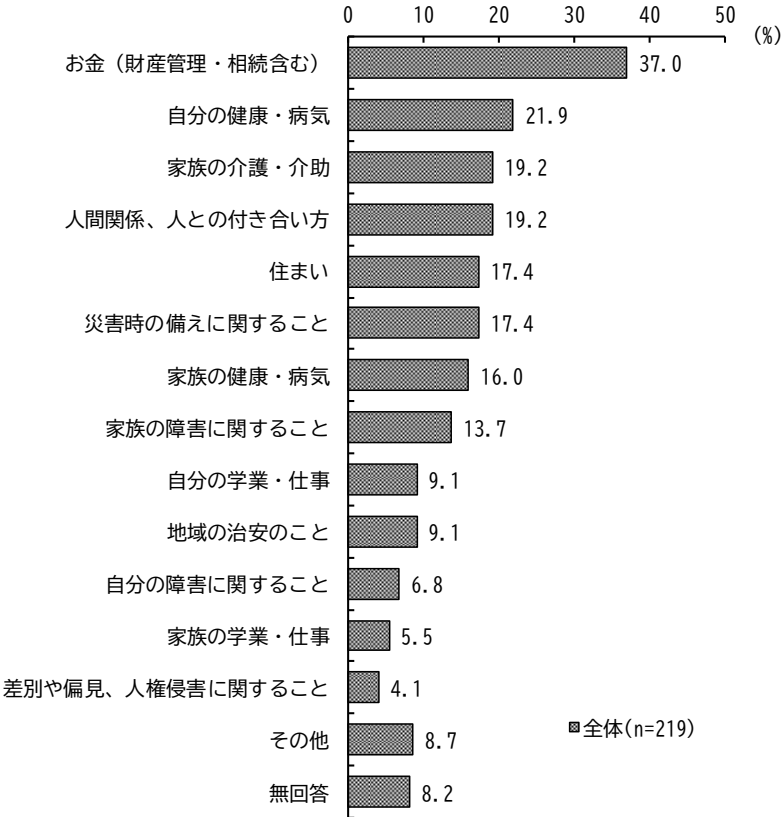
			(%)		
			はい	いいえ	無回答
全 体 (N=1,501)			14.6	83.3	2.1
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	11.9	86.7	1.5
		40～64歳 (n= 333)	16.2	82.0	1.8
		65～74歳 (n= 113)	15.0	84.1	0.9
		75歳以上 (n= 87)	11.5	82.8	5.7
	女 性	18～39歳 (n= 162)	8.0	90.7	1.2
		40～64歳 (n= 369)	17.3	82.1	0.5
		65～74歳 (n= 103)	9.7	90.3	0.0
		75歳以上 (n= 172)	15.1	78.5	6.4

問10-1 問10で「1. はい」と答えた方におたずねします。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。（いくつでも○）

「お金（財産管理・相続含む）」（37.0%）が最も多く、「自分の健康・病気」（21.9%）、「家族の介護・介助」（19.2%）・「人間関係、人との付き合い方」（19.2%）と続いている。

性・年代別にみると、悩みがあると回答が多かった男性の40～64歳では、「お金（財産管理・相続含む）」（55.6%）が最も多く、「災害時の備えに関すること」（20.4%）・「家族の障害に関すること」（20.4%）と続いている。女性の40～64歳では、「お金（財産管理・相続含む）」（29.7%）が最も多く、「住まい」（23.4%）、「家族の介護・介助」（21.9%）・「災害時の備えに関すること」（21.9%）と続いている。

図表 悩みの内容（どこに相談したらよいか分からない悩みがある人：複数回答）



図表 悩みの内容（どこに相談したらよいか分からない悩みがある人、性・年代別：複数回答）

		お金（財産管理・相続含む）	自分の健康・病気	家族の介護・介助	人間関係、人との付き合い方	住まい	災害時の備えに関すること	家族の健康・病気	家族の障害に関すること	自分の学業・仕事	地域の治安のこと	自分の障害に関すること	家族の学業・仕事	差別や偏見、人権侵害に関すること	その他	無回答
全 体 (n= 219)		37.0	21.9	19.2	19.2	17.4	17.4	16.0	13.7	9.1	9.1	6.8	5.5	4.1	8.7	8.2
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 16)	37.5	12.5	0.0	43.8	12.5	0.0	6.3	6.3	25.0	0.0	6.3	6.3	0.0	12.5
		40～64歳 (n= 54)	55.6	16.7	16.7	16.7	14.8	20.4	14.8	20.4	13.0	7.4	11.1	3.7	5.6	14.8
		65～74歳 (n= 17)	35.3	29.4	5.9	23.5	17.6	29.4	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	11.8	0.0	5.9
		75歳以上 (n= 10)	30.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	女性	18～39歳 (n= 13)	46.2	7.7	30.8	46.2	23.1	30.8	7.7	15.4	7.7	23.1	7.7	0.0	7.7	15.4
		40～64歳 (n= 64)	29.7	12.5	21.9	7.8	23.4	21.9	10.9	12.5	9.4	17.2	4.7	6.3	3.1	9.4
		65～74歳 (n= 10)	30.0	20.0	20.0	20.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0
		75歳以上 (n= 26)	19.2	42.3	23.1	19.2	3.8	7.7	34.6	11.5	0.0	3.8	7.7	3.8	0.0	7.7

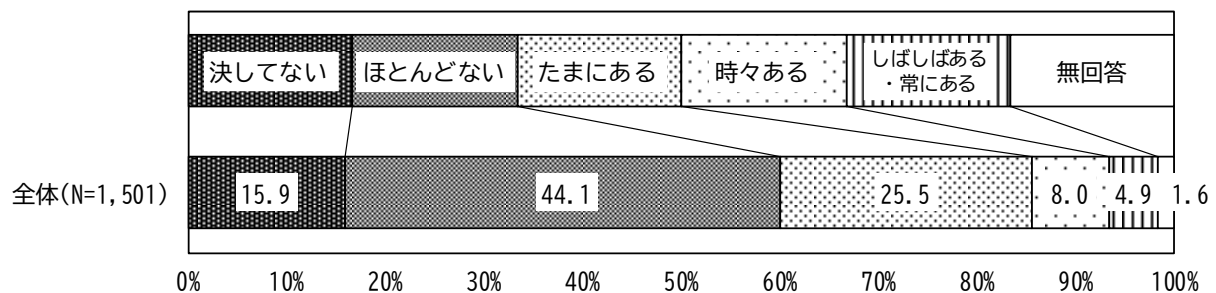
問11 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（1つに○）

「たまにある」（25.5%）、「時々ある」（8.0%）、「しばしばある・常にある」（4.9%）を合計した《孤独である》は38.4%となっている。

性・年代別にみると、《孤独である》の割合は、女性の65～74歳、75歳以上で40%を超えて高くなっている。

なお、内閣府の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和6年実施）」では、「たまにある」（19.6%）、「時々ある」（15.1%）、「しばしばある・常にある」（4.3%）を合計した《孤独である》は39.3%となっている。

図表 孤独を感じる程度（全体）

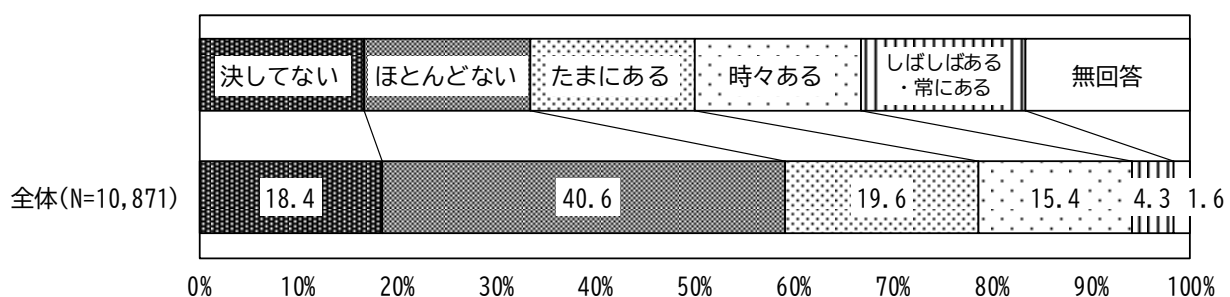


図表 孤独を感じる程度（全体、性・年代別）

			決してない	ほとんどない	たまにある	時々ある	しばしばある・常にある	無回答	(%)
全 体 (N=1,501)			15.9	44.1	25.5	8.0	4.9	1.6	《孤独である》 38.4
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	23.7	38.5	22.2	8.1	5.9	1.5	36.2
		40～64歳 (n= 333)	16.5	43.8	22.8	7.8	6.9	2.1	37.5
		65～74歳 (n= 113)	9.7	52.2	27.4	8.8	1.8	0.0	38.0
		75歳以上 (n= 87)	12.6	54.0	23.0	6.9	1.1	2.3	31.0
	女性	18～39歳 (n= 162)	22.2	41.4	21.0	8.6	4.3	2.5	33.9
		40～64歳 (n= 369)	14.4	45.3	26.6	8.4	4.6	0.8	39.6
		65～74歳 (n= 103)	16.5	40.8	30.1	7.8	4.9	0.0	42.8
		75歳以上 (n= 172)	12.2	41.9	32.6	5.8	4.7	2.9	43.1

図表 孤独を感じる程度

【孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和6年実施）／内閣府】

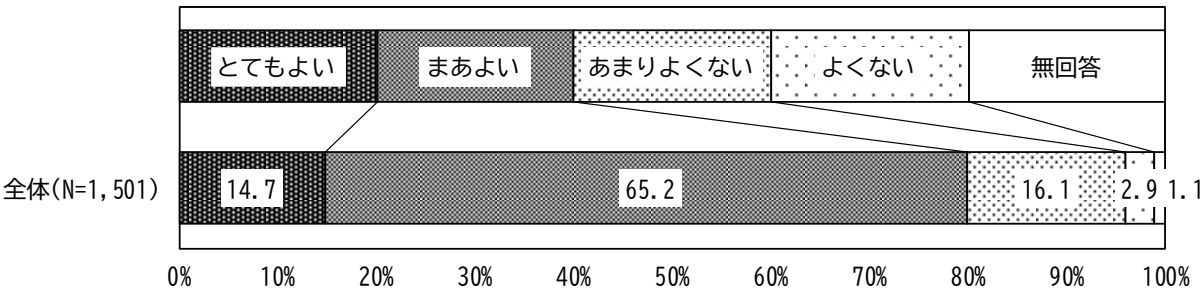


問 12 現在のあなたの健康状態はいかがですか。（1つに○）

「とてもよい」（14.7%）と「まあよい」（65.2%）を合計した《よい》が79.9%、「あまりよくない」（16.1%）と「よくない」（2.9%）を合計した《よくない》が19.0%となっている。

性・年代別にみると、《よくない》の割合は、男性の75歳以上、女性の65～74歳、75歳以上で20%を超えている。

図表 主観的健康観（全体）



図表 主観的健康観（全体、性・年代別）

			とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	(%)	
								《よい》	《よくない》
全 体 (N=1,501)			14.7	65.2	16.1	2.9	1.1	79.9	19.0
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	32.6	49.6	16.3	0.7	0.7	82.2	17.0
		40～64歳 (n= 333)	15.0	67.6	13.8	2.7	0.9	82.6	16.5
		65～74歳 (n= 113)	7.1	78.8	12.4	1.8	0.0	85.9	14.2
		75歳以上 (n= 87)	5.7	64.4	20.7	5.7	3.4	70.1	26.4
	女 性	18～39歳 (n= 162)	30.9	54.9	12.3	0.0	1.9	85.8	12.3
		40～64歳 (n= 369)	10.0	72.1	14.9	2.4	0.5	82.1	17.3
		65～74歳 (n= 103)	11.7	63.1	21.4	3.9	0.0	74.8	25.3
		75歳以上 (n= 172)	7.0	62.2	22.7	6.4	1.7	69.2	29.1

問13 あなたは将来の備えとしてどのようなことに不安を感じますか。(2つまで○)

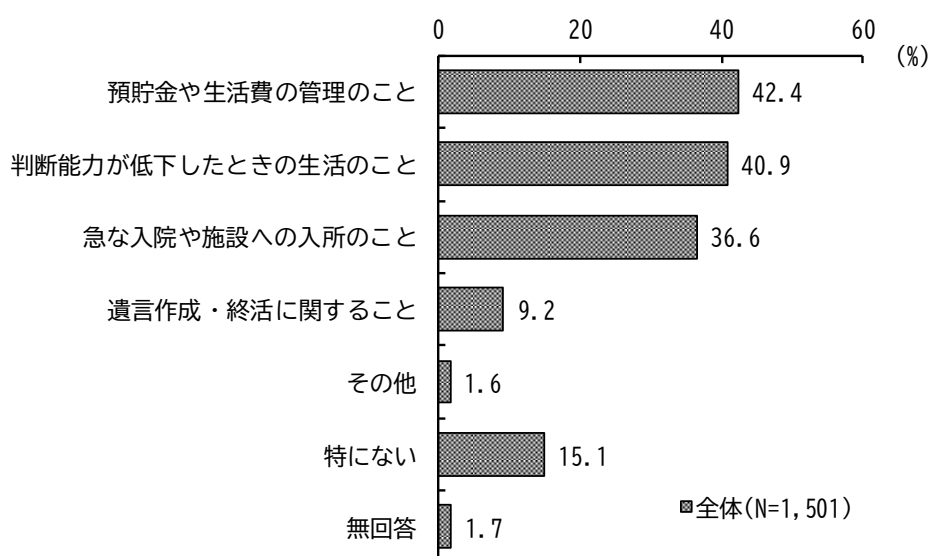
83.2%の人が将来の備えに不安を感じている。

不安の内容は、「預貯金や生活費の管理のこと」(42.4%)が最も多く、「判断能力が低下したときの生活のこと」(40.9%)、「急な入院や施設への入所のこと」(36.6%)と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに18～39歳、40～64歳は「預貯金や生活費の管理のこと」、65～74歳、75歳以上は「判断能力が低下したときの生活のこと」が最も多くなっている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしは「急な入院や施設への入所のこと」(45.5%)、配偶者と2人暮らしは「判断能力が低下したときの生活のこと」(48.0%)、その他は「預貯金や生活費の管理のこと」(51.5%)が最も多くなっている。

図表 将来の備えへの不安(全体：複数回答)



図表 将来の備えへの不安(全体、性・年代別、家族構成別：複数回答)

									(%)
			理預 の貯 こ金 とや 生活 費の 管	と判 きの 断の 能生 活力 がの 低こ 下と した	入急 所な の入 こ院 や施 設へ の	す遺 言こ 作成 ・終 活に 関	そ 他	特 に な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			42.4	40.9	36.6	9.2	1.6	15.1	1.7
性・年代別	男 性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	63.7	20.0	21.5	6.7	2.2	20.0	0.7
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	51.4	42.3	34.2	9.6	1.5	13.8	0.6
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	23.0	53.1	46.0	14.2	0.0	15.0	0.9
		75 歳 以上 (n= 87)	16.1	44.8	35.6	11.5	1.1	21.8	3.4
	女 性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	71.6	24.1	33.3	3.7	0.6	9.9	1.9
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	49.1	46.1	38.2	8.4	1.6	11.1	0.8
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	20.4	52.4	47.6	15.5	2.9	13.6	0.0
		75 歳 以上 (n= 172)	6.4	43.0	41.9	7.0	1.7	25.0	6.4
構 成 別	ひ と り 暮 ら し (n= 264)		33.0	44.7	45.5	9.8	0.4	14.8	1.9
	配 偶 者 と 2 人 暮 ら し (n= 375)		29.6	48.0	36.8	13.3	1.9	14.1	2.4
	そ の 他 (n= 839)		51.5	36.2	34.0	7.0	1.9	15.6	1.2

問 14 あなたは自身が亡くなった後のことで不安なことはありますか。（2つまで○）

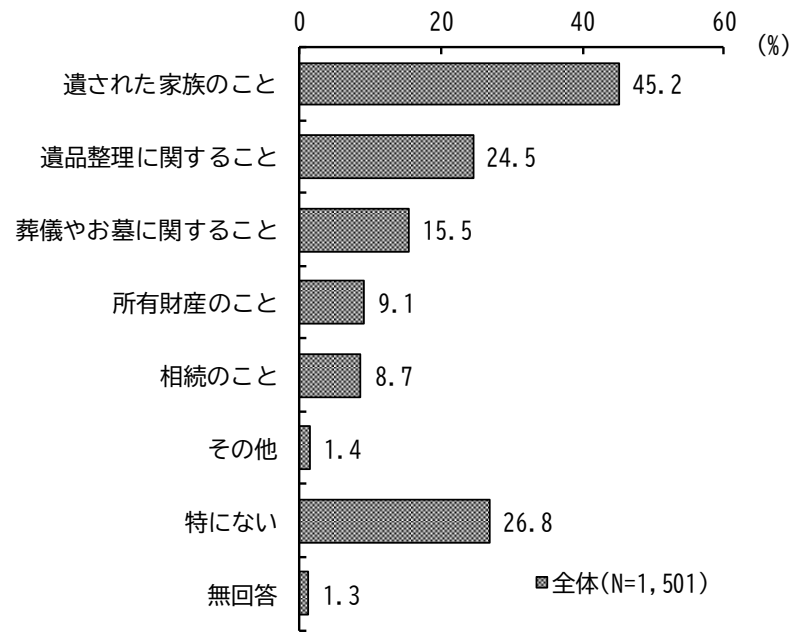
71.9%の人が亡くなった後のことで不安を感じている。

不安の内容は、「遺された家族のこと」(45.2%)が最も多く、「遺品整理に関すること」(24.5%)、「葬儀やお墓に関すること」(15.5%)と続いている。

性・年代別にみると、男性のすべての年代、女性の18～39歳、40～64歳は「遺された家族のこと」が最も多く、女性の65～74歳、75歳以上は「遺された家族のこと」と「遺品整理に関すること」が同率で最も多くなっている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしは「遺品整理に関すること」(38.6%)、配偶者と2人暮らし、その他は「遺された家族のこと」が最も多くなっている。

図表 亡くなった後のことでの不安（全体：複数回答）



図表 亡くなった後のことでの不安（全体、性・年代別、家族構成別：複数回答）

			遺された家族のこと	遺品整理に関すること	葬儀やお墓に関すること	所有財産のこと	相続のこと	その他	特にない	無回答
全 体 (N=1,501)			45.2	24.5	15.5	9.1	8.7	1.4	26.8	1.3
性・年代別	男性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	43.7	11.9	15.6	8.1	5.9	0.7	40.0	0.0
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	53.2	22.5	15.9	14.7	10.2	0.9	19.8	0.9
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	34.5	25.7	20.4	8.8	17.7	1.8	28.3	0.0
		75 歳 以上 (n= 87)	42.5	12.6	14.9	5.7	9.2	2.3	41.4	2.3
	女性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	51.9	21.6	13.0	6.2	3.7	1.2	26.5	1.9
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	52.0	30.1	18.4	10.0	7.3	1.9	17.3	0.5
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	34.0	34.0	14.6	3.9	14.6	1.9	26.2	1.0
		75 歳 以上 (n= 172)	25.0	25.0	9.9	4.7	4.7	1.2	43.6	4.1
家族構成別	ひとり暮らし (n= 264)		15.2	38.6	21.2	12.5	5.3	0.8	35.2	1.1
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		44.8	25.6	12.8	7.2	10.1	2.1	27.2	1.9
	その他 (n= 839)		55.3	19.5	15.1	8.6	8.8	1.3	24.0	0.8

(5) 相談と情報

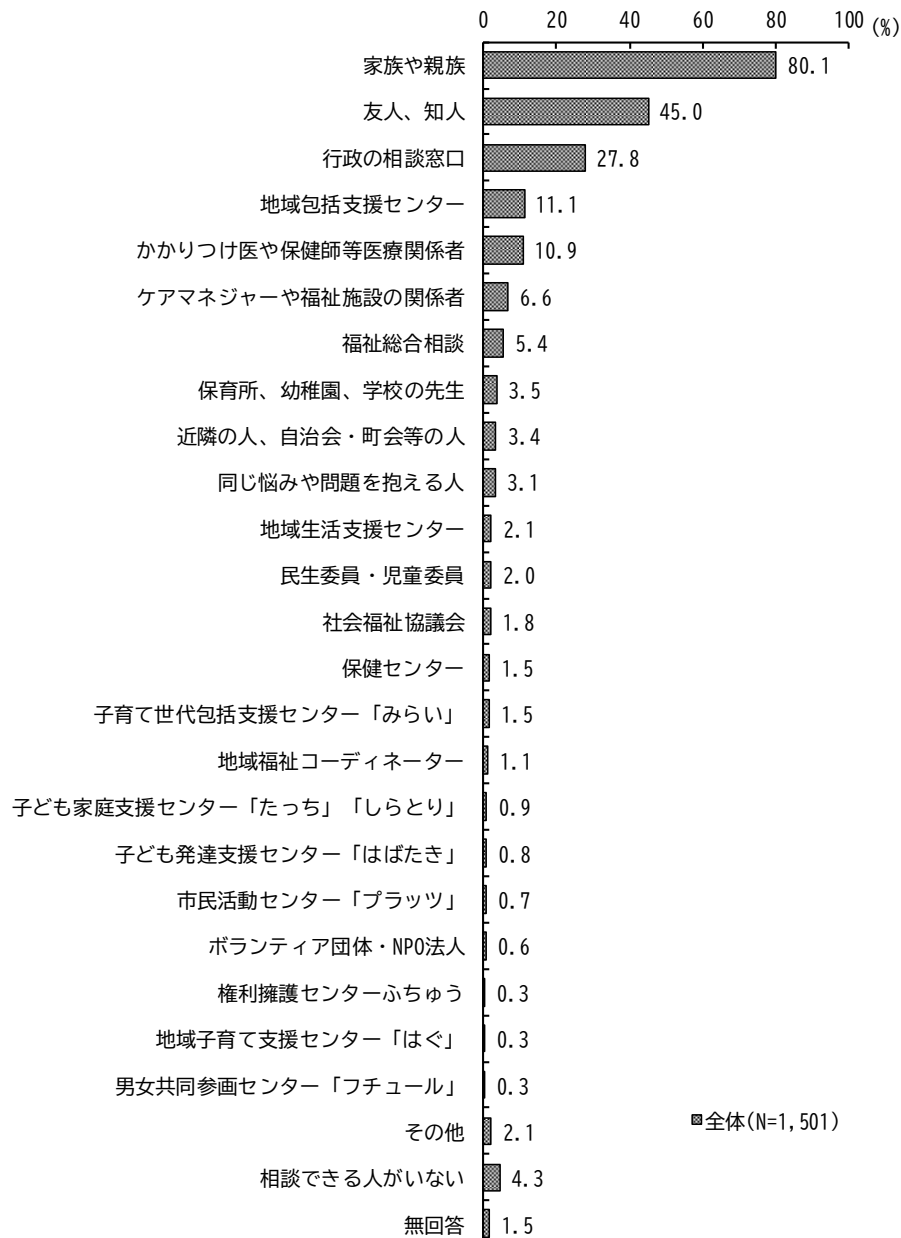
問 15 あなたは、暮らしの問題や福祉などについて困りごとがあったとき、どこに（誰に）相談しますか。（いくつでも○）

「家族や親族」(80.1%)が最も多く、次いで「友人、知人」(45.0%)、「行政の相談窓口」(27.8%)と続いている。

性・年代別にみると、男性も女性もすべての年代で「家族や親族」が最も多くなっており、男性の75歳以上を除いて、次いで「友人、知人」と続いている。なお、男性の75歳以上は、次いで「行政の相談窓口」(26.4%)となっている。また、女性の75歳以上は「地域包括支援センター」(26.7%)が全体より10ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、どの家族構成も「家族や親族」が最も多くなっているが、その割合はひとり暮らしは60%台であり、配偶者と2人暮らし、その他は80%台となっている。

図表 暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手（全体：複数回答）



第3章 調査結果

図表 暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手（全体、性・年代別、家族構成別：複数回答）

				家族や親族	友人、知人	行政の相談窓口	地域包括支援センター	医療関係者 かかりつけ医や保健師等	ケアマネジャーや福祉施設の関係者	福祉総合相談	先生 保育所、幼稚園、学校の	近隣の人、自治会・町会等の人	同じ悩みや問題を抱える人	地域生活支援センター	民生委員・児童委員	(%) 社会福祉協議会
全 体 (N=1,501)				80.1	45.0	27.8	11.1	10.9	6.6	5.4	3.5	3.4	3.1	2.1	2.0	1.8
性・年代別	男性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	85.9	55.6	18.5	0.0	6.7	0.7	4.4	5.2	2.2	1.5	1.5	0.0	0.0	
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	75.1	35.7	31.8	6.9	7.2	3.6	6.6	2.1	3.3	2.1	1.5	1.5	2.1	
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	75.2	36.3	35.4	16.8	12.4	5.3	6.2	0.0	6.2	0.9	2.7	3.5	1.8	
		75 歳 以上 (n= 87)	78.2	25.3	26.4	14.9	8.0	10.3	5.7	0.0	5.7	1.1	2.3	6.9	2.3	
	女性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	88.9	58.6	22.2	1.9	11.7	1.9	2.5	9.9	1.9	2.5	1.9	0.6	0.0	
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	81.8	57.7	29.8	11.4	14.6	7.9	3.8	6.0	3.0	5.1	0.8	0.8	1.9	
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	78.6	49.5	30.1	18.4	14.6	11.7	4.9	0.0	1.9	5.8	5.8	4.9	2.9	
家族構成別	75 歳 以上 (n= 172)		80.8	27.3	25.0	26.7	10.5	13.4	10.5	0.0	5.2	2.9	4.7	3.5	2.9	
	ひとり暮らし (n= 264)		65.2	37.1	24.6	11.7	9.1	5.7	8.3	0.8	2.3	2.7	4.5	3.4	3.4	
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		84.5	41.3	31.2	15.7	13.1	6.9	6.1	0.0	4.5	2.1	2.1	2.1	2.9	
その他の (n= 839)		83.6	49.8	27.2	8.6	10.3	6.4	4.1	6.1	3.2	3.8	1.2	1.3	0.7		

性・年代別	男性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	0.7	0.7	0.0	2.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.3	2.1	4.3	1.5
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	2.1	0.3	0.6	0.3	0.3	0.9	1.8	0.3	0.0	0.0	0.0	3.9	6.0	1.2
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	3.5	0.0	2.7	0.0	0.0	1.8	1.8	0.9	0.0	0.0	0.0	1.8	5.3	1.8
		75 歳 以上 (n= 87)	1.1	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	4.6
	女性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	1.9	8.0	0.6	3.7	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	2.5	1.9
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	1.1	1.9	0.8	0.8	1.6	0.3	0.0	0.3	0.5	0.8	1.4	4.3	0.8	
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	1.9	0.0	2.9	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.9	2.9	0.0	
家族構成別	75 歳 以上 (n= 172)		0.6	0.0	1.2	0.0	0.0	1.7	0.6	0.6	0.0	0.6	1.2	1.7	2.9	
	ひとり暮らし (n= 264)		1.9	0.4	1.1	0.0	0.0	1.1	1.5	0.4	0.0	0.0	3.0	7.6	1.5	
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		1.6	0.0	2.1	0.0	0.3	1.1	0.8	0.3	0.0	0.5	3.2	2.9	0.8	
その他の (n= 839)		1.4	2.5	0.5	1.5	1.3	0.4	0.2	0.4	0.6	0.2	1.3	3.7	1.5		

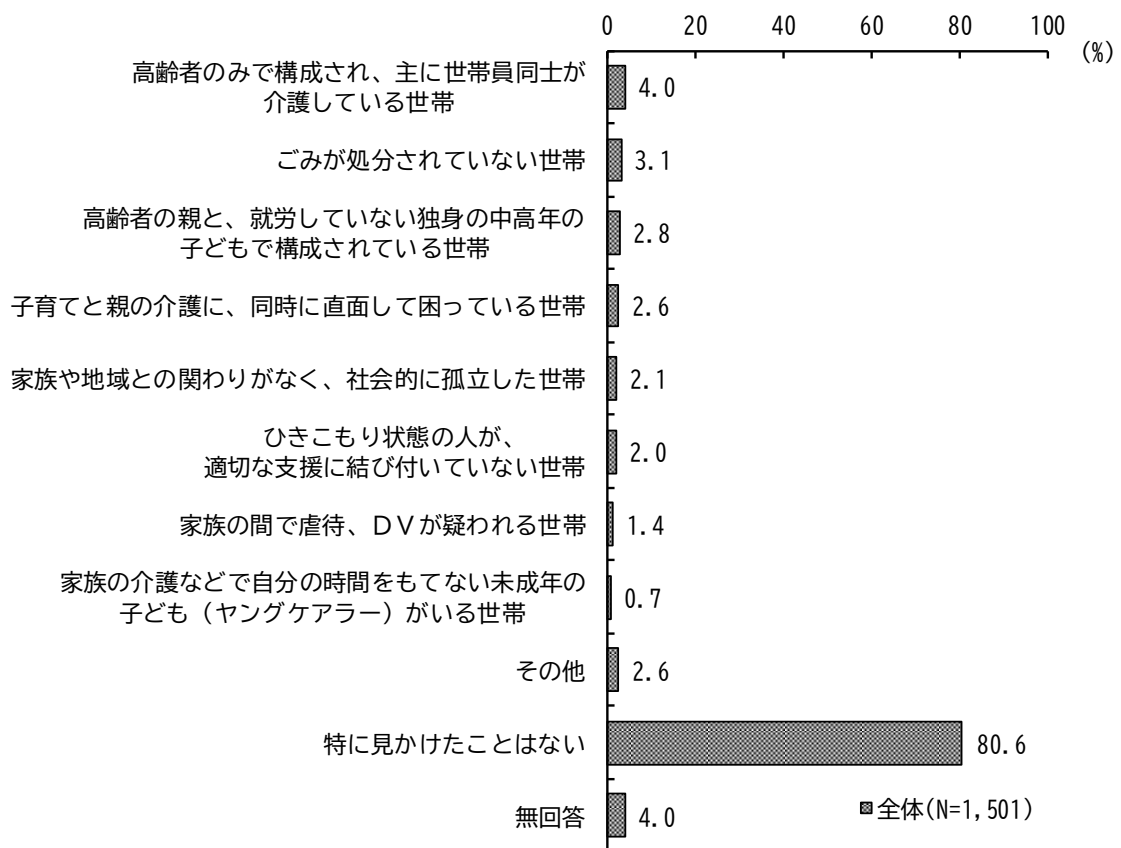
問 16 あなたは、地域の中で次のようなことで困っている世帯を見かけたり、相談を受けたことがありますか。（いくつでも○）

15.4%の人が地域の中で困っている世帯を見かけたり、相談を受けたことがある。

見かけたり、相談を受けた世帯は、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯」（4.0%）が最も多く、次いで「ごみが処分されていない世帯」（3.1%）、「高齢者の親と、就労していない独身の中高年の子どもで構成されている世帯」（2.8%）と続いている。

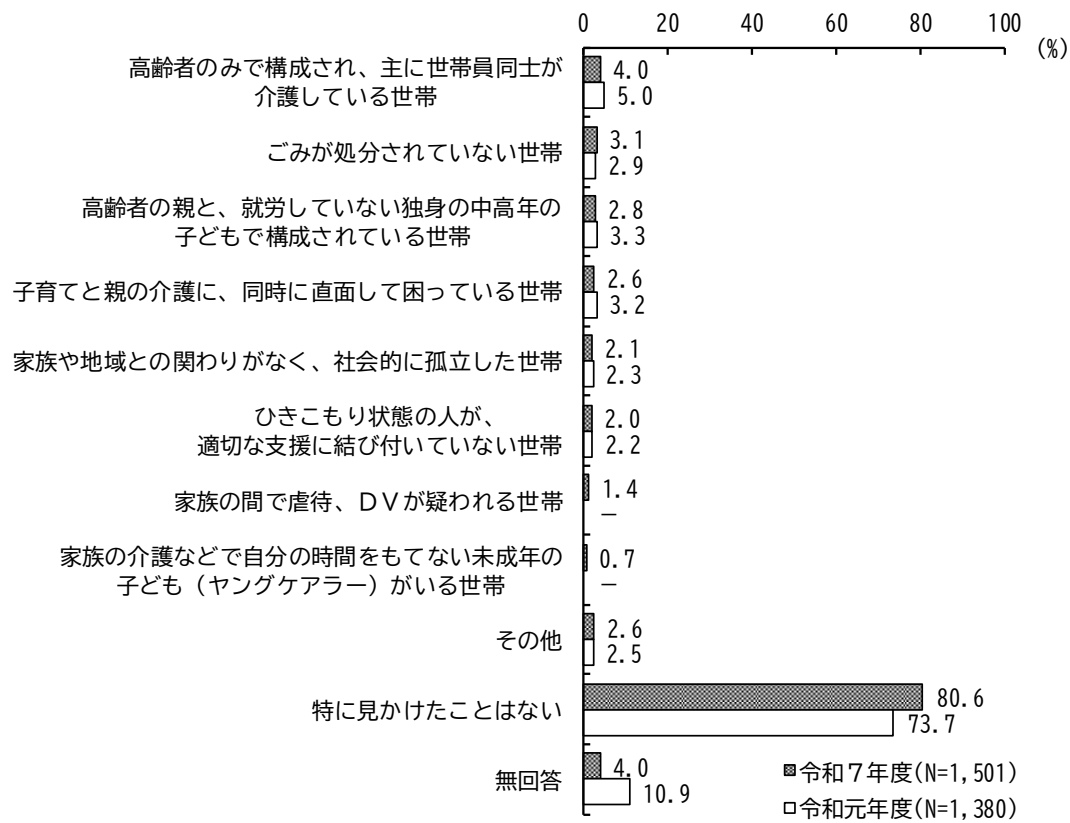
前回調査と比較すると、「特に見かけたことはない」（今回：80.6%、前回 73.7%）が 6.9 ポイント高くなっている。

図表 地域における課題を抱えた世帯の把握状況（全体：複数回答）



第3章 調査結果

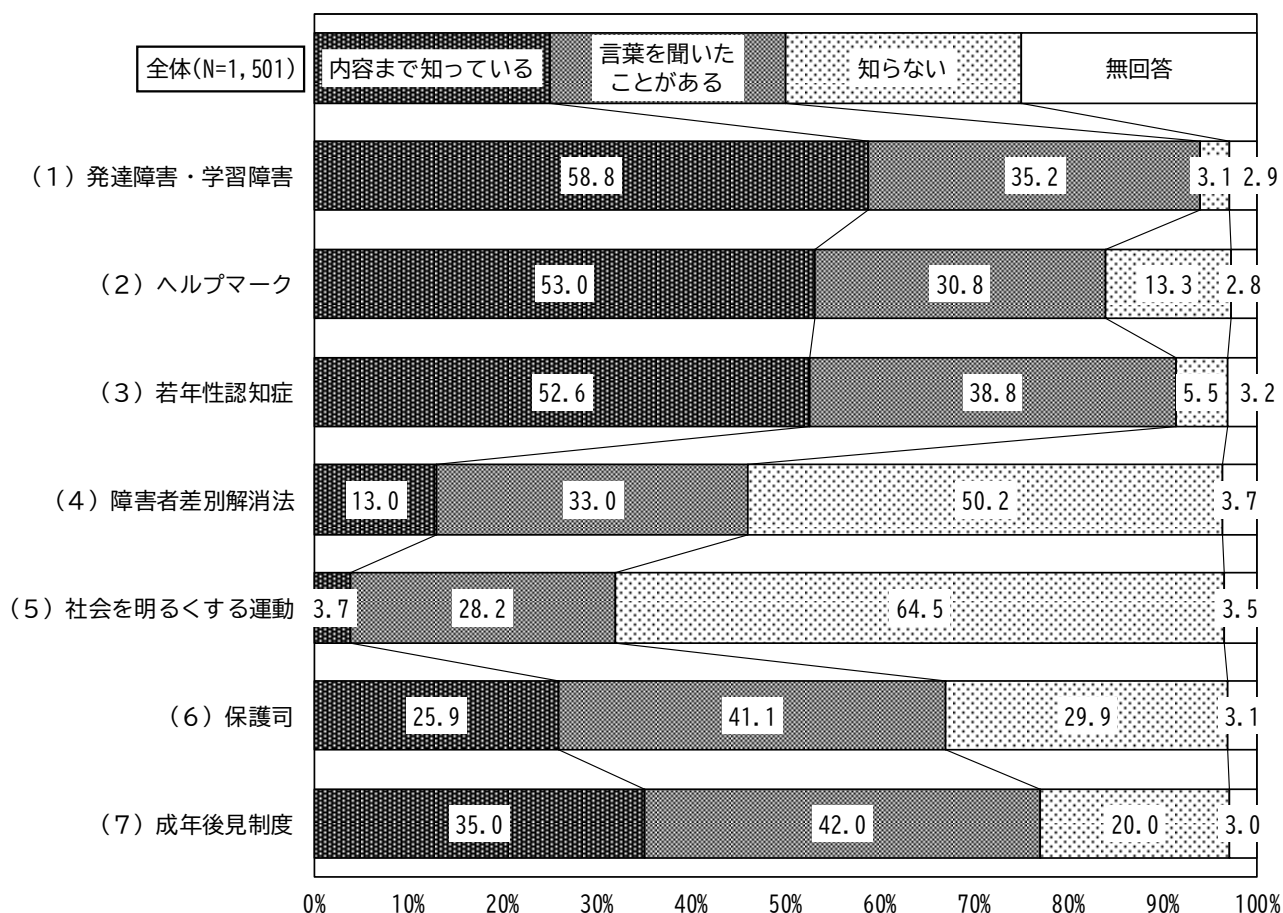
図表 地域における課題を抱えた世帯の把握状況（全体：複数回答）【前回比較】



問 17 あなたは、次のことをご存じですか。（１）～（７）のそれぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。

「内容まで知っている」が『（１）発達障害・学習障害』は58.8%、『（２）ヘルプマーク』は53.0%、『（３）若年性認知症』は52.6%と50%を上回っている。一方、『（４）障害者差別解消法』は13.0%、『（５）社会を明るくする運動』は3.7%と低くなっている。

図表 福祉に係る用語の認知度（全体）



第3章 調査結果

『(1) 発達障害・学習障害』について、性・年代別にみると、「内容まで知っている」の割合は、どの年代も男性より女性の方が高くなっている。また、男女ともに75歳以上は「内容まで知っている」(男性：26.4%、女性：33.7%)の割合が低くなっている。

図表 福祉に係る用語の認知度『(1) 発達障害・学習障害』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内容 るまで 知っ	こ言 と葉 があ聞 るいた	知 ら ない	無 回 答
全 体 (N=1,501)			58.8	35.2	3.1	2.9
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	61.5	36.3	1.5	0.7
		40～64歳 (n= 333)	55.6	39.9	2.4	2.1
		65～74歳 (n= 113)	44.2	47.8	4.4	3.5
		75歳以上 (n= 87)	26.4	54.0	11.5	8.0
	女性	18～39歳 (n= 162)	71.0	25.3	1.2	2.5
		40～64歳 (n= 369)	78.9	19.0	1.1	1.1
		65～74歳 (n= 103)	61.2	35.0	2.9	1.0
		75歳以上 (n= 172)	33.7	51.7	6.4	8.1

『(2) ヘルプマーク』について、性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「内容まで知っている」の割合は低くなっている。また、「内容まで知っている」の割合はどの年代も男性より女性の方が高くなっている。

図表 福祉に係る用語の認知度『(2) ヘルプマーク』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内 容 ま で 知 っ	こ言 と葉 があ聞 るいた	知 ら ない	無 回 答
全 体 (N=1,501)			53.0	30.8	13.3	2.8
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	53.3	40.0	5.9	0.7
		40～64歳 (n= 333)	47.4	34.5	15.6	2.4
		65～74歳 (n= 113)	36.3	35.4	25.7	2.7
		75歳以上 (n= 87)	24.1	35.6	32.2	8.0
	女性	18～39歳 (n= 162)	76.5	18.5	3.1	1.9
		40～64歳 (n= 369)	65.6	26.3	7.3	0.8
		65～74歳 (n= 103)	58.3	30.1	9.7	1.9
		75歳以上 (n= 172)	36.6	33.7	22.1	7.6

『(3) 若年性認知症』について、性・年代別にみると、「内容まで知っている」の割合は、どの年代も男性より女性の方が高くなっている。また、男女ともに 75 歳以上は「内容まで知っている」(男性：33.3%、女性：37.2%)の割合が低くなっている。

図表 福祉に係る用語の認知度『(3) 若年性認知症』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内容 いるま で知 つ	こ言 と葉 がを あ聞 るい た	知 ら な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			52.6	38.8	5.5	3.2
性・ 年代 別	男 性	18～39歳 (n= 135)	49.6	42.2	6.7	1.5
		40～64歳 (n= 333)	42.9	48.3	6.6	2.1
		65～74歳 (n= 113)	43.4	45.1	7.1	4.4
		75歳以上 (n= 87)	33.3	47.1	12.6	6.9
	女 性	18～39歳 (n= 162)	59.3	32.7	5.6	2.5
		40～64歳 (n= 369)	70.2	26.8	1.4	1.6
		65～74歳 (n= 103)	67.0	29.1	1.0	2.9
		75歳以上 (n= 172)	37.2	47.1	8.1	7.6

『(4) 障害者差別解消法』について、性・年代別にみると、男性の 65～74 歳、75 歳以上、女性の 75 歳以上は「内容まで知っている」が 10%以下となっている。

図表 福祉に係る用語の認知度『(4) 障害者差別解消法』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内容 いるま で知 つ	こ言 と葉 がを あ聞 るい た	知 ら な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			13.0	33.0	50.2	3.7
性・ 年代 別	男 性	18～39歳 (n= 135)	17.8	37.0	43.7	1.5
		40～64歳 (n= 333)	12.3	33.9	51.7	2.1
		65～74歳 (n= 113)	8.0	33.6	54.0	4.4
		75歳以上 (n= 87)	6.9	25.3	58.6	9.2
	女 性	18～39歳 (n= 162)	16.0	34.0	46.9	3.1
		40～64歳 (n= 369)	17.3	30.1	50.7	1.9
		65～74歳 (n= 103)	11.7	39.8	46.6	1.9
		75歳以上 (n= 172)	5.8	34.3	49.4	10.5

第3章 調査結果

『(5) 社会を明るくする運動』について、性・年代別にみると、どの性・年代も「内容まで知っている」が10%以下となっている。

図表 福祉に係る用語の認知度『(5) 社会を明るくする運動』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内容 いるま で知 つ	こ言 と葉 がを あ聞 るい た	知 ら な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			3.7	28.2	64.5	3.5
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	7.4	25.2	65.9	1.5
		40～64歳 (n= 333)	2.4	27.3	68.5	1.8
		65～74歳 (n= 113)	5.3	23.0	68.1	3.5
		75歳以上 (n= 87)	3.4	42.5	46.0	8.0
	女 性	18～39歳 (n= 162)	1.9	25.3	70.4	2.5
		40～64歳 (n= 369)	3.8	26.8	68.0	1.4
		65～74歳 (n= 103)	3.9	33.0	60.2	2.9
		75歳以上 (n= 172)	4.7	33.1	50.6	11.6

『(6) 保護司』について、性・年代別にみると、「内容まで知っている」の割合はどの年代も男性より女性の方が高くなっている。また、男女ともに18～39歳は「内容まで知っている」(男性：12.6%、女性：16.7%)が10%台と低くなっている。

図表 福祉に係る用語の認知度『(6) 保護司』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内容 いるま で知 つ	こ言 と葉 がを あ聞 るい た	知 ら な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			25.9	41.1	29.9	3.1
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	12.6	33.3	52.6	1.5
		40～64歳 (n= 333)	23.1	42.6	32.1	2.1
		65～74歳 (n= 113)	23.9	50.4	22.1	3.5
		75歳以上 (n= 87)	24.1	50.6	17.2	8.0
	女 性	18～39歳 (n= 162)	16.7	27.2	53.7	2.5
		40～64歳 (n= 369)	33.6	40.9	24.1	1.4
		65～74歳 (n= 103)	46.6	40.8	10.7	1.9
		75歳以上 (n= 172)	26.7	47.7	18.0	7.6

『(7) 成年後見制度』について、性・年代別にみると、「内容まで知っている」の割合はどの年代も男性より女性の方が高くなっている。特に男性の18～39歳で「内容まで知っている」(19.3%)が20%以下と低くなっている。

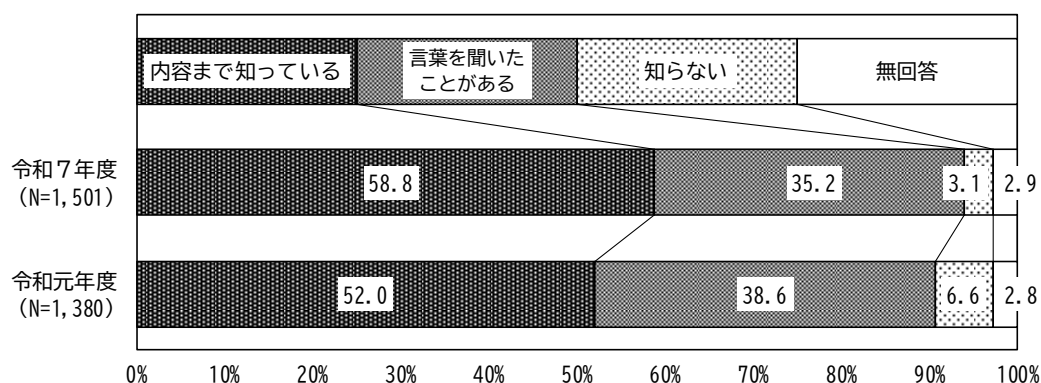
図表 福祉に係る用語の認知度『(7) 成年後見制度』(全体、性・年代別)

			(%)			
			て内容 いるま で知っ	こ言 と葉 があ る聞 いた	知 ら な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			35.0	42.0	20.0	3.0
性・ 年代 別	男 性	18～39歳 (n= 135)	19.3	34.8	45.2	0.7
		40～64歳 (n= 333)	33.3	47.4	16.8	2.4
		65～74歳 (n= 113)	33.6	49.6	13.3	3.5
		75歳以上 (n= 87)	27.6	43.7	20.7	8.0
	女 性	18～39歳 (n= 162)	30.2	32.7	34.6	2.5
		40～64歳 (n= 369)	45.0	43.1	10.8	1.1
		65～74歳 (n= 103)	50.5	37.9	9.7	1.9
		75歳以上 (n= 172)	32.0	39.5	20.9	7.6

前回調査と比較すると、「内容まで知っている」割合は、継続的に尋ねている『発達障害・学習障害』(今回 58.8%、前回 52.0%)、『ヘルプマーク』(今回 53.0%、前回 31.3%)、『若年性認知症』(今回 52.6%、前回 47.0%)、『障害者差別解消法』(今回 13.0%、前回 10.6%)、『成年後見制度』(今回 35.0%、前回 33.3%)、すべての項目で前回より高くなっている。

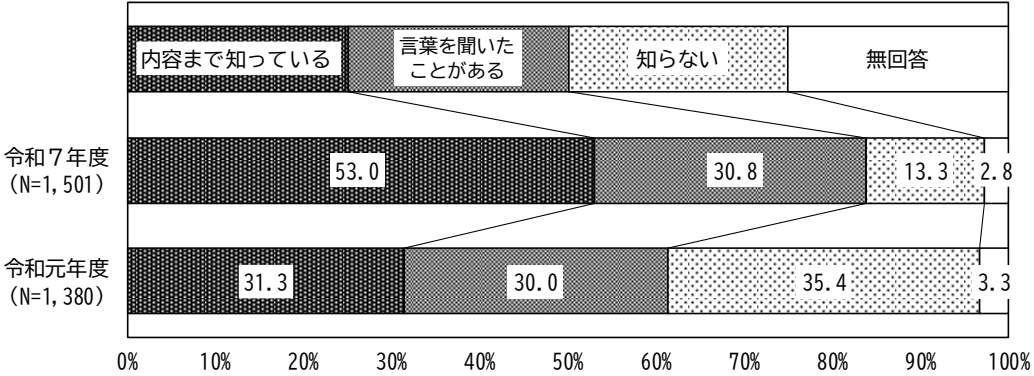
図表 福祉に係る用語の認知度(全体)【前回比較】

(1) 発達障害・学習障害

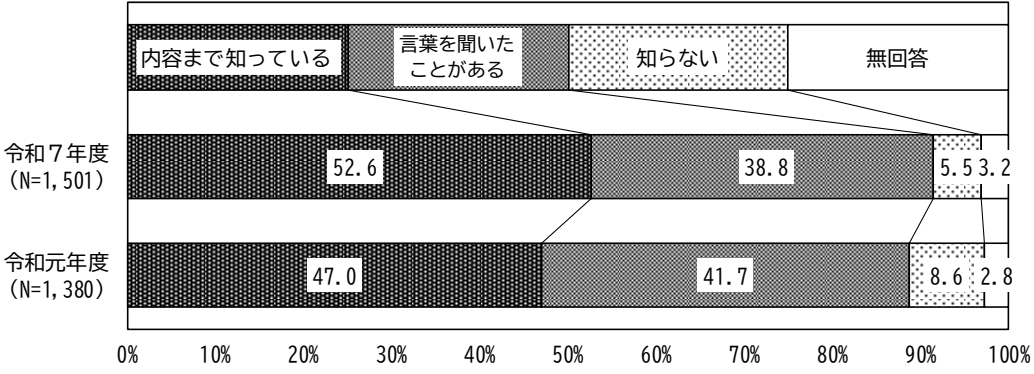


第3章 調査結果

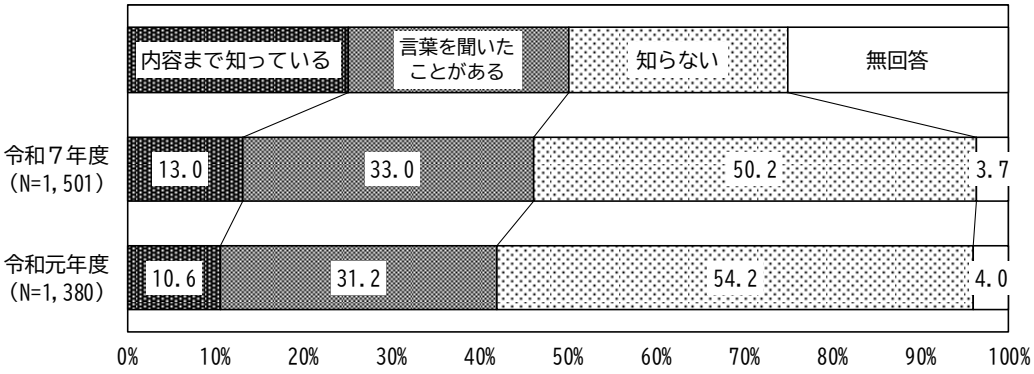
(2) ヘルプマーク



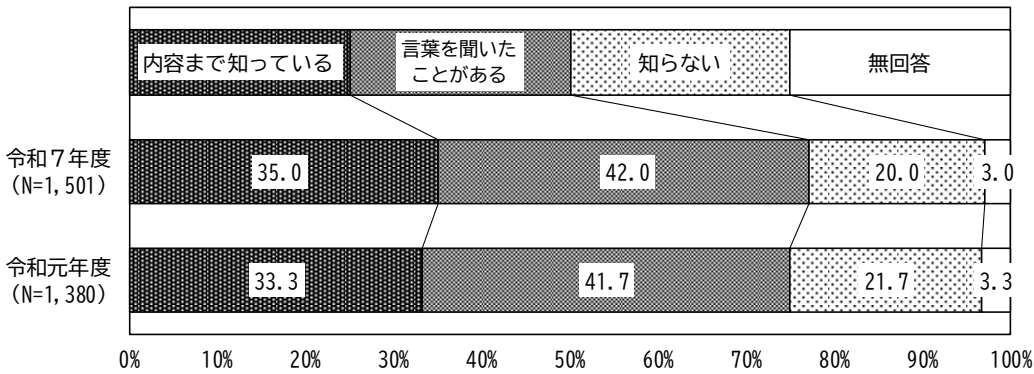
(3) 若年性認知症



(4) 障害者差別解消法



(7) 成年後見制度



問 18 府中市に設置されている、福祉に関する相談窓口で知っているものはどれですか。

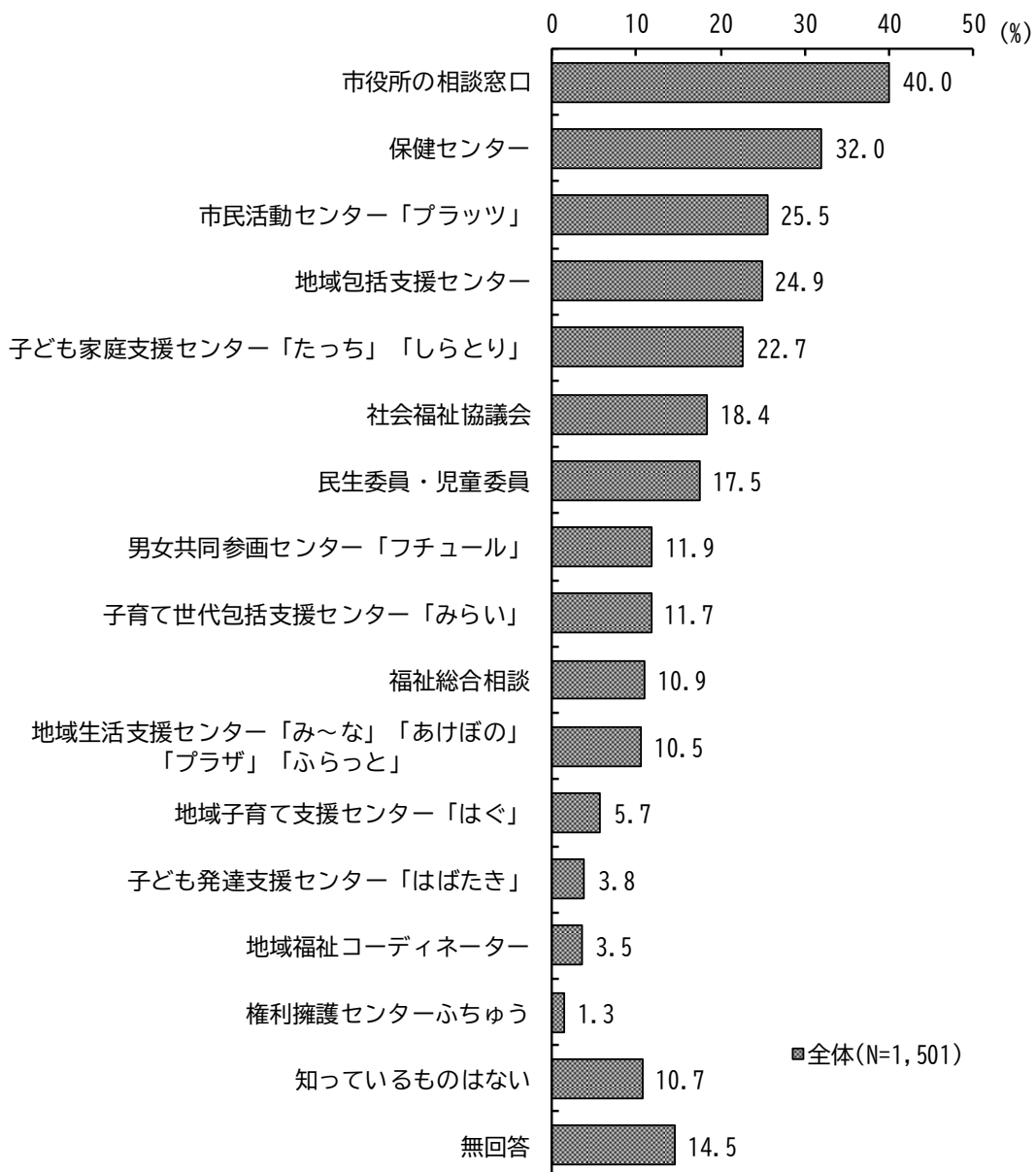
(いくつでも○)

「市役所の相談窓口」(40.0%) が最も多く、次いで「保健センター」(32.0%)、「市民活動センター「プラッツ」」(25.5%)と続いている。「知っているものはない」は10.7%となっている。

性・年代別にみると、知っている相談窓口は、性・年代で差がある。男性の75歳以上、女性の65～74歳、75歳以上は「市役所の相談窓口」、「地域包括支援センター」が全体より20ポイント以上高くなっている。また、女性の18～39歳は「子育て世代包括支援センター「みらい」」(32.1%)、女性の75歳以上は「民生委員・児童委員」(41.3%)が全体より20ポイント以上高くなっている。

問15の相談先(者)の有無別にみると、相談窓口について「知っているものはない」とする割合は、相談先がある人は9.6%に対し、相談先がない人は35.4%と高くなっている。

図表 相談窓口の認知度(全体：複数回答)



第3章 調査結果

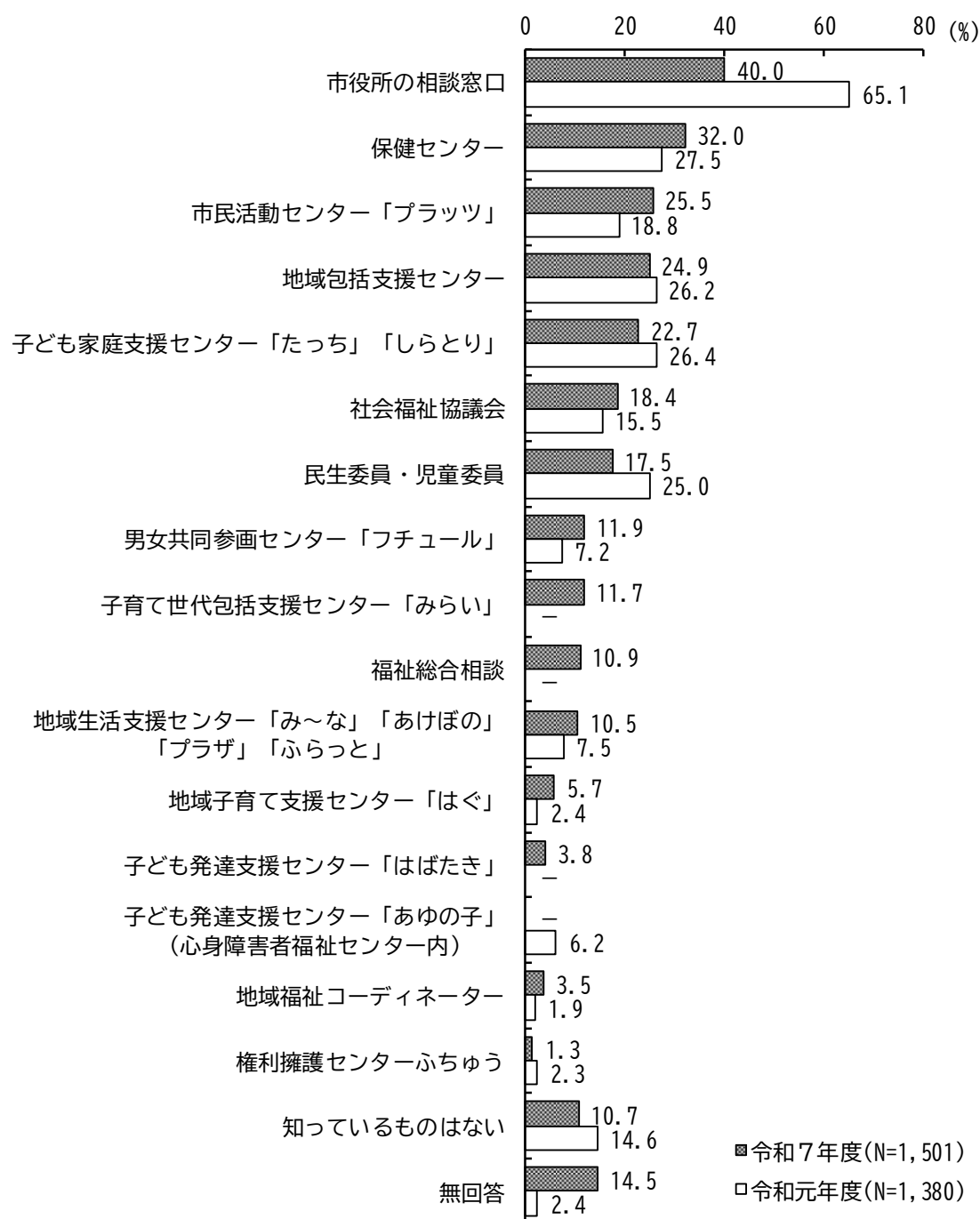
図表 相談窓口の認知度（全体、性・年代別、相談先（者）の有無別：複数回答）

			市役所の相談窓口	保健センター	市民活動センター「プラットフォーム」	地域包括支援センター	子ども家庭支援センター「たつち」「しらとり」	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	男女共同参画センター「フチャール」	子育て世代包括支援センター「みらい」	(%)
全 体 (N=1,501)			40.0	32.0	25.5	24.9	22.7	18.4	17.5	11.9	11.7	
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	21.5	17.0	17.8	4.4	14.8	4.4	3.0	6.7	17.8	
		40～64歳 (n= 333)	27.6	26.4	21.3	12.3	18.9	12.9	8.7	6.9	8.1	
		65～74歳 (n= 113)	33.6	27.4	18.6	20.4	4.4	23.9	12.4	8.0	0.9	
		75歳以上 (n= 87)	67.8	41.4	21.8	47.1	5.7	32.2	34.5	8.0	4.6	
	女 性	18～39歳 (n= 162)	19.8	21.6	26.5	4.9	30.9	4.9	3.1	15.4	32.1	
		40～64歳 (n= 369)	43.9	43.1	34.7	26.3	39.8	18.7	19.0	16.3	14.1	
		65～74歳 (n= 103)	60.2	37.9	30.1	46.6	26.2	29.1	35.9	18.4	5.8	
		75歳以上 (n= 172)	67.4	36.6	23.3	61.0	11.0	32.0	41.3	14.0	4.1	
相談先(者)の有無別	相談先がある (n=1,413)	41.2	33.4	26.9	26.0	23.5	19.1	18.1	12.5	12.3		
	相談先がない (n= 65)	23.1	9.2	3.1	4.6	10.8	4.6	3.1	1.5	3.1		

			福祉総合相談	地域生活支援センター「ふらみザ」「あけぼの」「ふらつと」	地域子育て支援センター「はぐ」	子ども発達支援センター「はばたき」	地域福祉コーディネーター	権利擁護センターふちゅう	知っているものはない	無回答
全 体 (N=1,501)			10.9	10.5	5.7	3.8	3.5	1.3	10.7	14.5
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	3.0	9.6	7.4	4.4	0.7	0.7	26.7	20.7
		40～64歳 (n= 333)	6.9	9.9	2.4	2.4	1.2	0.3	12.3	23.1
		65～74歳 (n= 113)	13.3	9.7	1.8	0.0	2.7	0.0	13.3	18.6
		75歳以上 (n= 87)	24.1	9.2	2.3	1.1	4.6	4.6	6.9	5.7
	女 性	18～39歳 (n= 162)	1.2	6.2	17.3	1.9	2.5	0.6	15.4	19.1
		40～64歳 (n= 369)	10.3	11.4	6.8	6.8	5.4	1.6	5.1	9.8
		65～74歳 (n= 103)	13.6	13.6	3.9	9.7	8.7	3.9	4.9	4.9
		75歳以上 (n= 172)	26.2	14.0	3.5	1.7	2.9	1.7	5.2	7.6
相談先(者)の有無別	相談先がある (n=1,413)	11.3	11.0	6.0	4.0	3.6	1.4	9.6	13.3	
	相談先がない (n= 65)	4.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	35.4	23.1	

前回の調査結果と比較すると、上位2位は同様だが、今回調査では「市民活動センター「プラッツ」」(今回：25.5%、前回18.8%)が3位となっている。なお、前回調査の3位である「子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」」(今回：22.7%、前回：26.4%)は今回調査では5位となっている。

図表 相談窓口の認知度(全体：複数回答)【前回比較】



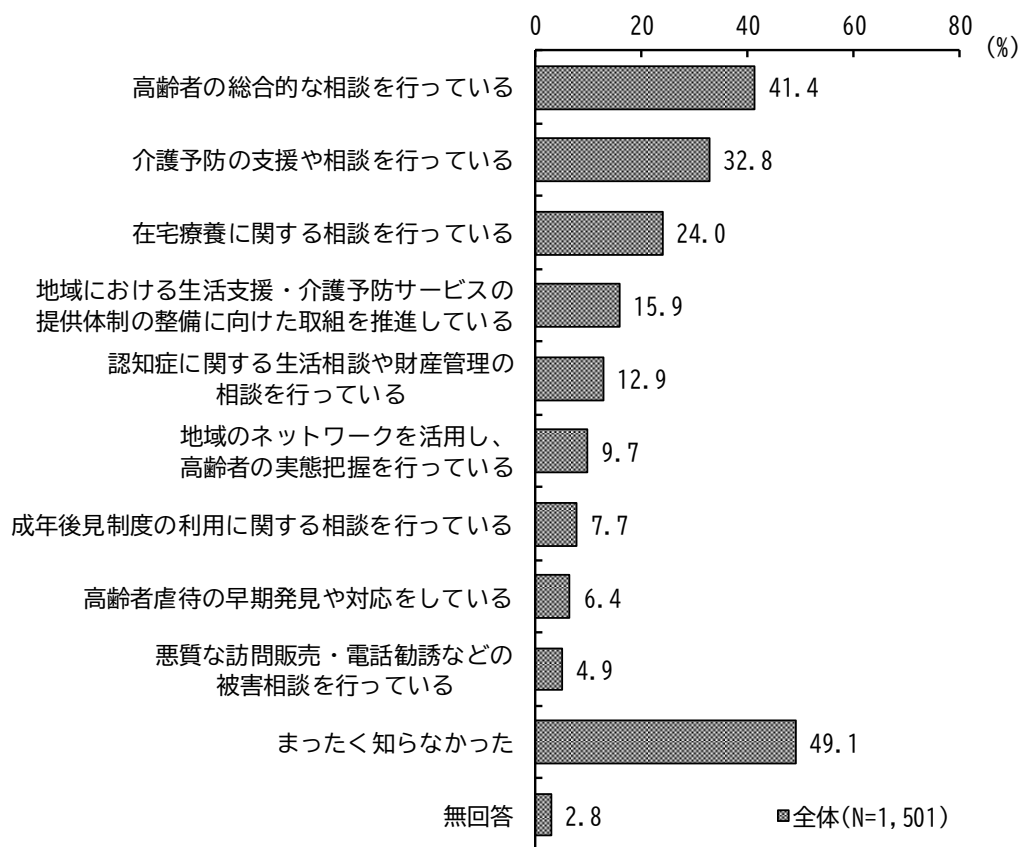
問 19 府中市には地域包括支援センターが 11 か所ありますが、あなたは、次の地域包括支援センターの役割や機能をご存じですか。（いくつでも○）

「高齢者の総合的な相談を行っている」（41.4%）が最も多く、次いで「介護予防の支援や相談を行っている」（32.8%）、「在宅療養に関する相談を行っている」（24.0%）と続いている。なお、「まったく知らなかった」は 49.1%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど、「まったく知らなかった」の割合は低くなっている。

前回調査と比較すると、「まったく知らなかった」（今回：49.1%、前回 54.6%）の割合が 5.5 ポイント低くなっている。

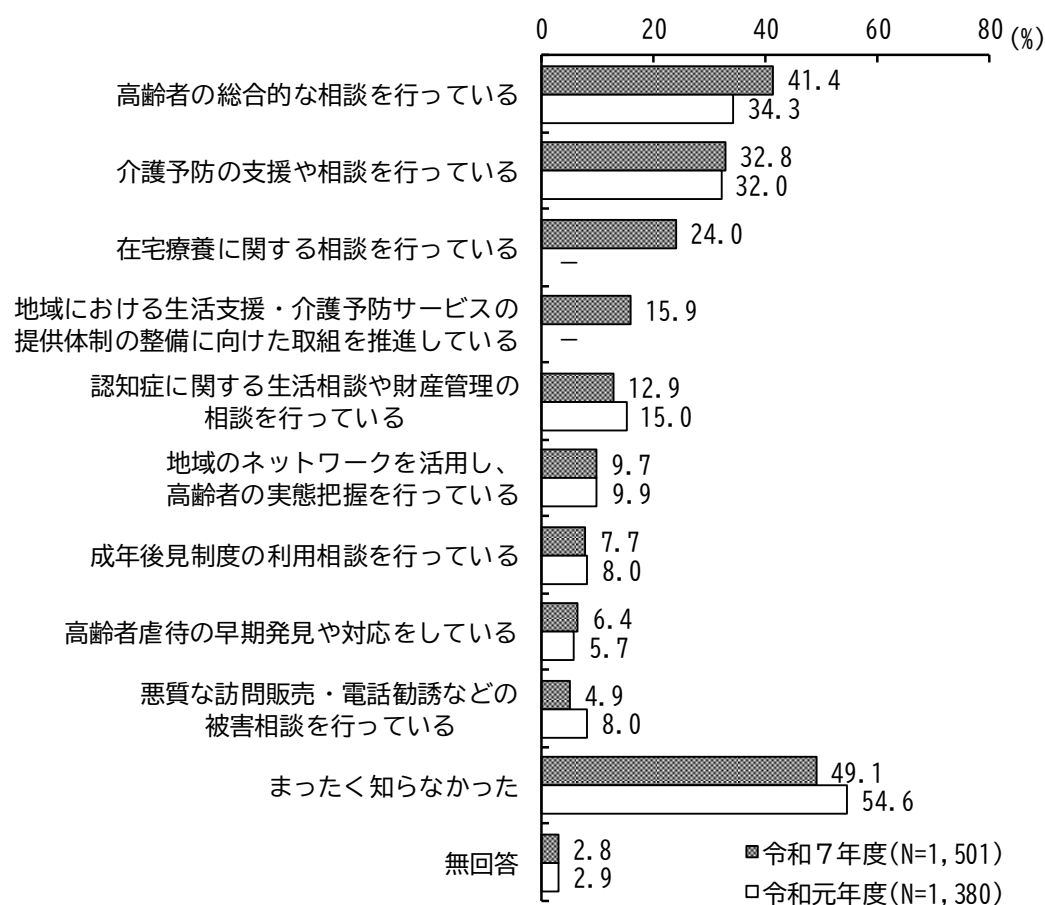
図表 地域包括支援センターの役割や機能の認知度（全体：複数回答）



図表 地域包括支援センターの役割や機能の認知度（全体、性・年代別：複数回答）

			高齢者の総合的な相談を行って	介護予防の支援や相談を行って	在宅療養に関する相談を行って	地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進している	認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている	地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている	成年後見制度の利用に関する相談を行っている	高齢者虐待の早期発見や対応をしている	悪質な訪問販売・電話勧誘などの被害相談を行っている	まったく知らなかった	無回答	(%)
全 体 (N=1,501)			41.4	32.8	24.0	15.9	12.9	9.7	7.7	6.4	4.9	49.1	2.8	
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	17.8	8.1	6.7	4.4	2.2	5.2	1.5	0.7	4.4	77.0	0.7	
		40～64歳 (n= 333)	35.1	25.8	16.8	10.8	12.3	6.6	6.0	6.0	4.5	56.8	1.8	
		65～74歳 (n= 113)	38.9	32.7	19.5	14.2	17.7	10.6	9.7	6.2	5.3	47.8	3.5	
		75歳以上 (n= 87)	44.8	39.1	21.8	19.5	11.5	9.2	3.4	1.1	2.3	36.8	8.0	
	女性	18～39歳 (n= 162)	17.3	13.6	9.9	9.3	5.6	4.9	4.9	5.6	2.5	78.4	1.9	
		40～64歳 (n= 369)	52.6	39.8	30.9	19.0	16.8	12.5	10.3	10.0	4.6	43.1	0.8	
		65～74歳 (n= 103)	66.0	51.5	44.7	26.2	17.5	15.5	9.7	8.7	5.8	25.2	1.9	
		75歳以上 (n= 172)	56.4	54.1	41.9	27.3	15.7	14.0	11.6	6.4	9.9	19.2	8.7	

図表 地域包括支援センターの役割や機能の認知度（全体：複数回答）【前回比較】



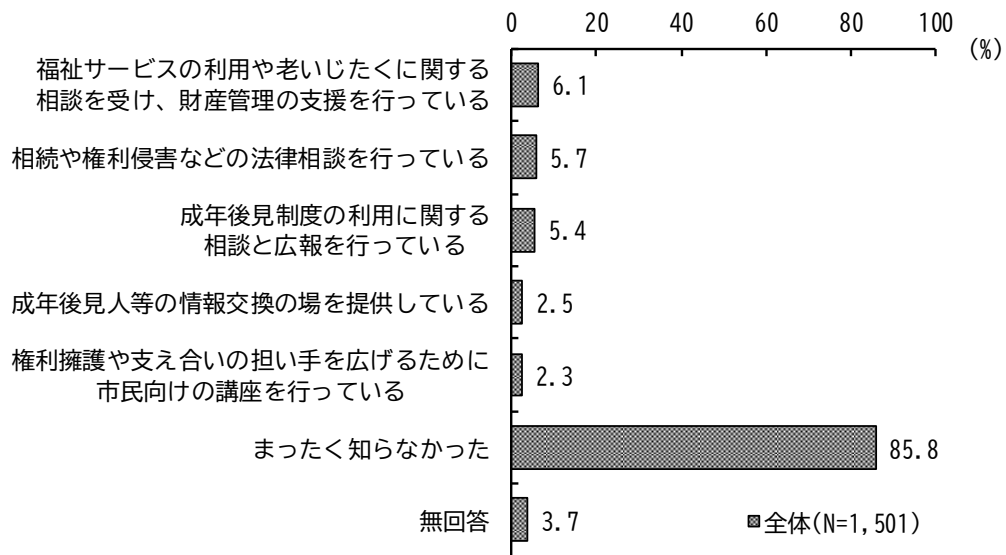
問 20 あなたは、次の権利擁護センターふちゅうの役割や機能をご存じですか。（いくつでも○）

「福祉サービスの利用や老いじたくに関する相談を受け、財産管理の支援を行っている」（6.1％）が最も多く、次いで「相続や権利侵害などの法律相談を行っている」（5.7％）、「成年後見制度の利用に関する相談と広報を行っている」（5.4％）と続いている。なお、「まったく知らなかった」は85.8％となっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど、「まったく知らなかった」の割合は低くなっている。

前回調査と比較すると、「まったく知らなかった」（今回：85.8％、前回 82.0％）の割合が3.8ポイント高くなっている。

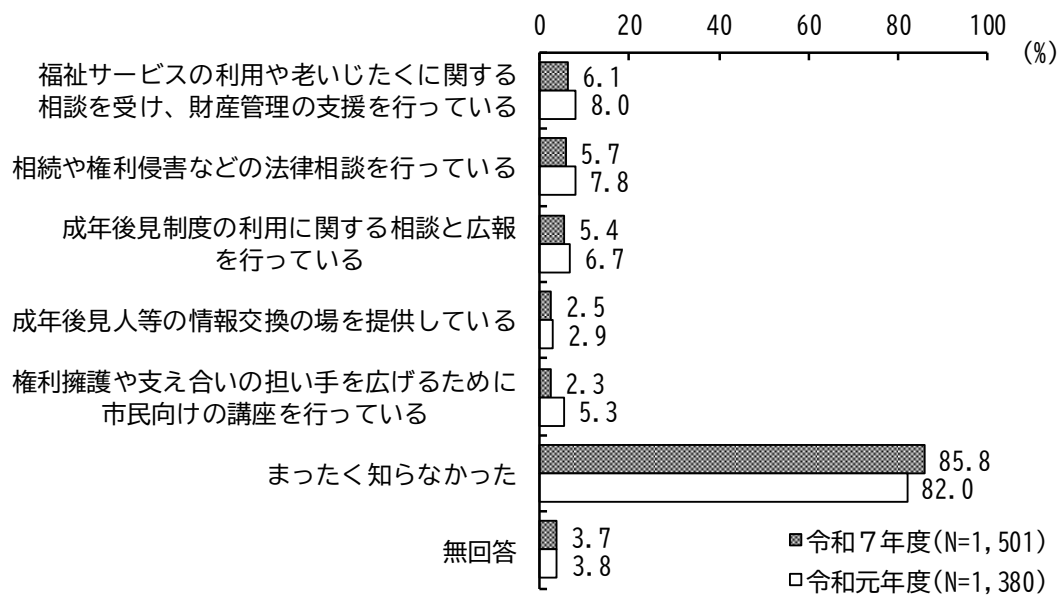
図表 権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度（全体：複数回答）



図表 権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度（全体、性・年代別：複数回答）

			産た福 管く社 理にサ の関ス 支する 援を相 を行談 つて受 ていけ る、財	談を 行つ てい る	相続 や権 利侵 害な どの 法律 相	相 談と 広報 を行 つて いる	成 年 後 見 制 度 の 利 用 に 関 す る	成 年 後 見 人 等 の 情 報 交 換 の 場 を 提 供 し て い る	座を を 行 つ て い る	権 利 擁 護 や 支 え 合 い の 担 い 手 を 広 げ る た め に 市 民 向 け の 講 座 を 行 つ て い る	ま っ た く 知 ら な か っ た	無 回 答
全 体 (N=1,501)			6.1	5.7	5.4	2.5	2.3	85.8	3.7			
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	3.0	1.5	0.7	2.2	3.0	93.3	0.7			
		40～64歳 (n= 333)	3.6	2.4	2.1	2.4	0.9	91.3	2.4			
		65～74歳 (n= 113)	8.8	6.2	6.2	0.9	3.5	84.1	3.5			
		75歳以上 (n= 87)	6.9	9.2	10.3	1.1	1.1	77.0	8.0			
	女 性	18～39歳 (n= 162)	1.2	1.9	0.0	0.0	0.0	95.7	2.5			
		40～64歳 (n= 369)	7.9	6.2	6.5	3.8	3.3	87.3	1.4			
		65～74歳 (n= 103)	10.7	8.7	8.7	3.9	3.9	82.5	1.9			
		75歳以上 (n= 172)	10.5	12.8	12.8	3.5	3.5	65.1	12.8			

図表 権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度（全体：複数回答）【前回比較】



問 21 あなたは、保育や子育て支援、高齢者や障害等のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等、府中市の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。
(いくつでも○)

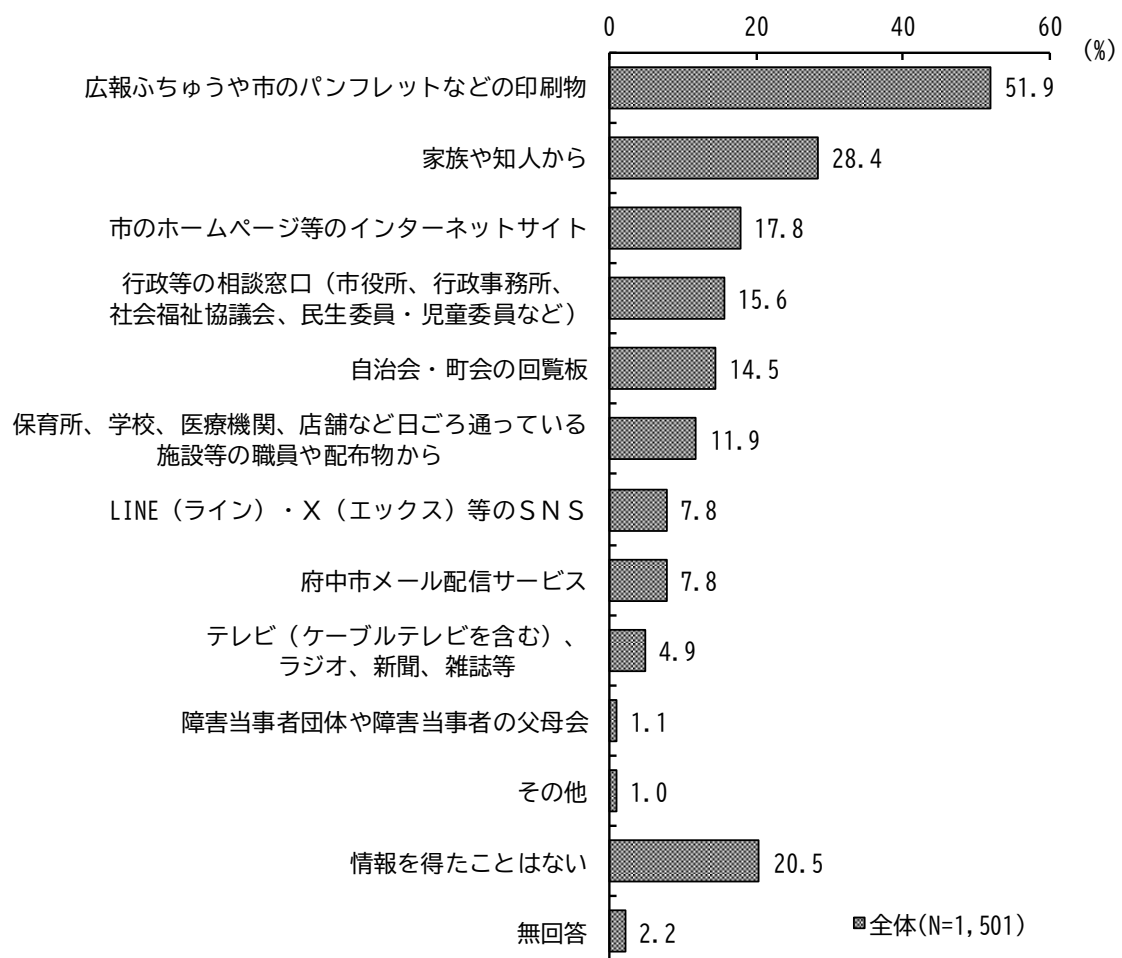
77.3%の人がいずれかの方法で府中市の福祉に関する情報を入手している。

「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」(51.9%)が最も多く、次いで「家族や知人から」(28.4%)、「市のホームページ等のインターネットサイト」(17.8%)と続いている。なお、「情報を得たことはない」は20.5%となっている。

性・年代別にみると、入手先について、男性の18～39歳では「家族や知人から」が最も多く、他の性・年代では全体と同様に「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多くなっている。また、女性の18～39歳では「LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS」(25.9%)と「保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から」(22.8%)、女性の65～74歳、75歳以上では「自治会・町会の回覧板」(65～74歳:25.2%、75歳以上:29.1%)が全体より10ポイント以上高くなっている。なお、男性の18～39歳では「情報を得たことはない」が39.3%と高くなっている。

前回調査と比較すると、上位2位までは変わらないが、前回調査で3位だった「自治会・町会の回覧板」(今回:14.5%、前回24.1%)は今回調査で5位となっている。

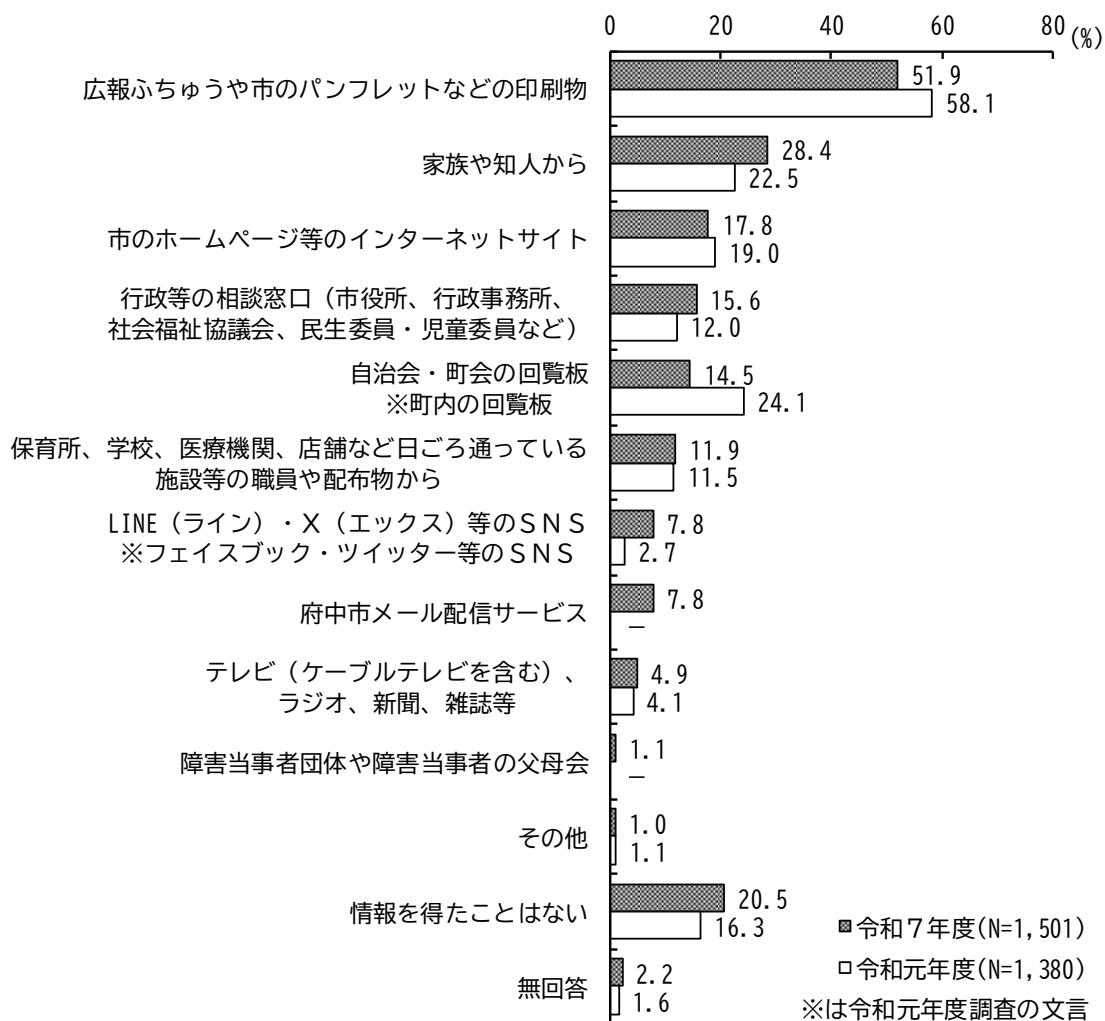
図表 市の福祉に関する情報の入手先の現状(全体:複数回答)



図表 市の福祉に関する情報の入手先の現状（全体、性・年代別：複数回答）

															(%)	
			広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	家族や知人から	市のホームページ等のインターネットサイト	行政等の相談窓口（市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など）	自治会・町会の回覧板	職員や配布物から	保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の	LINE（ライン）・X（エックス）等のSNS	府中市メール配信サービス	テレビ（ケーブルテレビを含む）、ラジオ、新聞、雑誌等	障害当事者団体や障害当事者の父母会	その他	情報を得たことはない	無回答
全 体（N=1,501）			51.9	28.4	17.8	15.6	14.5	11.9	7.8	7.8	4.9	1.1	1.0	20.5	2.2	
性・年代別	男 性	18～39歳（n= 135）	23.0	27.4	17.0	5.9	5.9	11.1	11.9	1.5	3.7	0.7	0.7	39.3	2.2	
		40～64歳（n= 333）	45.6	27.0	20.1	15.6	11.1	9.3	4.5	5.7	4.2	0.3	0.6	24.9	1.5	
		65～74歳（n= 113）	54.0	21.2	18.6	15.0	21.2	2.7	0.9	4.4	5.3	0.9	0.0	22.1	1.8	
		75歳以上（n= 87）	52.9	31.0	11.5	18.4	21.8	3.4	2.3	5.7	9.2	0.0	1.1	23.0	4.6	
	女 性	18～39歳（n= 162）	39.5	31.5	21.0	10.5	4.3	22.8	25.9	6.2	1.2	0.0	1.9	28.4	1.9	
		40～64歳（n= 369）	59.3	31.2	23.8	17.9	11.4	18.2	8.1	15.2	2.7	0.8	1.6	13.0	1.1	
		65～74歳（n= 103）	71.8	33.0	18.4	22.3	25.2	6.8	7.8	13.6	11.7	2.9	1.0	6.8	1.0	
		75歳以上（n= 172）	68.0	25.6	2.3	17.4	29.1	8.1	1.2	2.9	9.9	2.9	0.6	10.5	5.2	

図表 市の福祉に関する情報の入手先の現状（全体：複数回答）【前回比較】



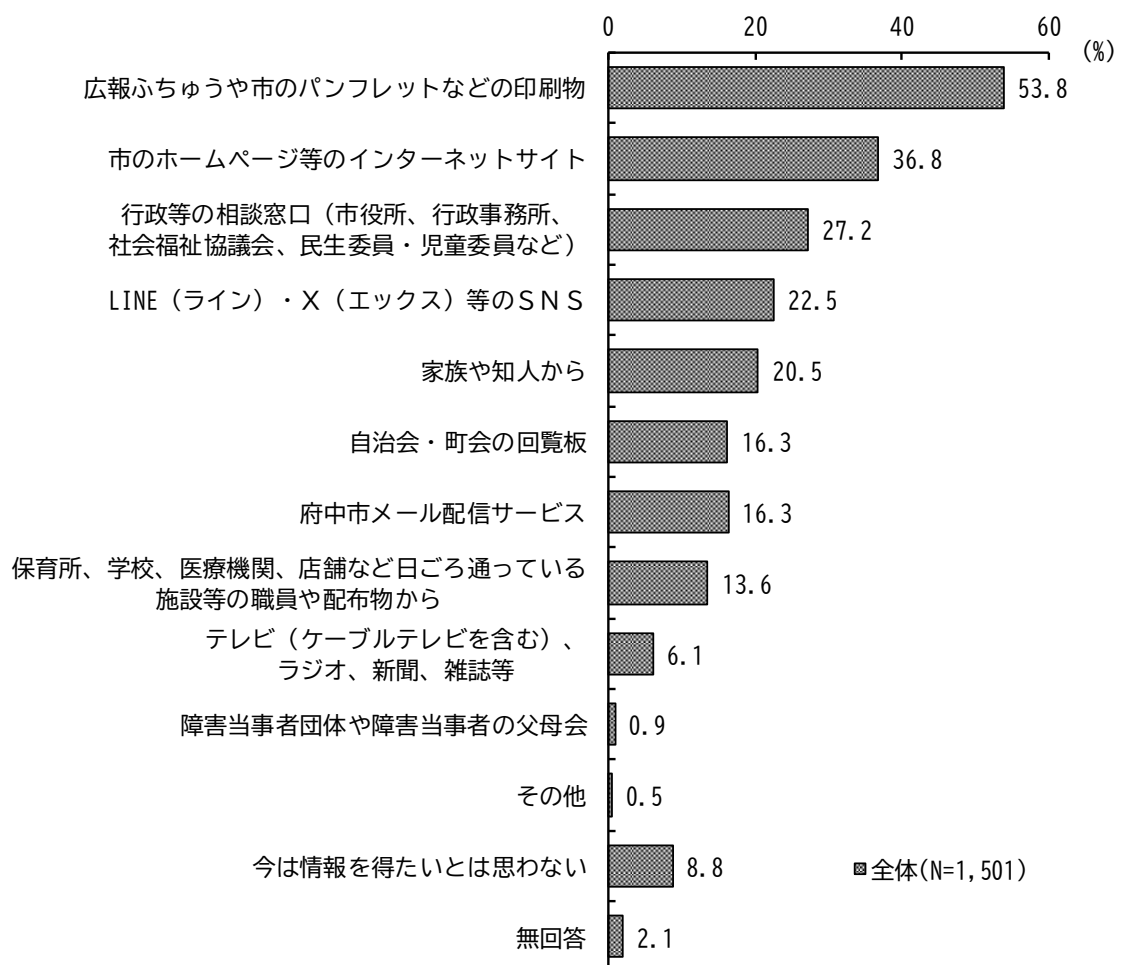
問 22 府中市の福祉に関する情報を、今後、どこから入手したいと思いますか。(いくつでも○)

「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」(53.8%)が最も多く、次いで「市のホームページ等のインターネットサイト」(36.8%)、「行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)」(27.2%)と続いている。なお、「今は情報を得たいとは思わない」は8.8%となっている。

性・年代別にみると、男性の18～39歳では「市のホームページ等のインターネットサイト」(32.6%)、女性の18～39歳では「LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS」(46.9%)、他の年代では「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多くなっている。

問22の福祉情報の入手経験の有無別にみると、「入手経験なし」の人は、入手先について、「市のホームページ等のインターネットサイト」(29.3%)が最も多く、次いで「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」(27.7%)、「LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS」(20.5%)と続いている。

図表 市の福祉に関する情報の入手先の希望(全体：複数回答)



図表 市の福祉に関する情報の入手先の希望
(全体、性・年代別、福祉情報の入手経験の有無別：複数回答)

															(%)			
			物 広 報 ふ ち ゅ う や 市 の パ ン フ レ ッ ト な ど の 印 刷	市 の ホ ー ム ペ ー ジ 等 の イ ン タ ー ネ ッ ト サ イ ト	会 福 祉 協 議 会 、 民 生 委 員 ・ 児 童 委 員 な ど	行 政 等 の 相 談 窓 口 （ 市 役 所 、 行 政 事 務 所 、 社	N S L I N E （ ラ イ ン ） ・ X （ エ ッ ク ス ） 等 の S	家 族 や 知 人 か ら	自 治 会 ・ 町 会 の 回 覧 板	府 中 市 メ ー ル 配 信 サ ー ビ ス	通 っ て い る 施 設 等 の 職 員 や 配 布 物 か ら	保 育 所 、 学 校 、 医 療 機 関 、 店 舗 な ど 日 ご ろ	新 聞 、 雑 誌 等	テ レ ビ （ ケ ー ブ ル テ レ ビ を 含 む ） 、 ラ ジ オ 、	障 害 当 事 者 団 体 や 障 害 当 事 者 の 父 母 会	そ の 他	今 は 情 報 を 得 た い と は 思 わ な い	無 回 答
全 体 (N=1,501)			53.8	36.8	27.2	22.5	20.5	16.3	16.3	13.6	6.1	0.9	0.5	8.8	2.1			
性・年代別	男 性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	30.4	32.6	14.1	30.4	23.0	8.1	9.6	12.6	7.4	0.0	0.7	20.0	1.5			
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	49.5	42.9	29.1	21.6	20.4	13.5	15.6	9.9	4.8	0.6	0.0	9.9	1.5			
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	61.9	41.6	33.6	8.8	20.4	25.7	16.8	6.2	10.6	1.8	0.0	8.0	1.8			
		75 歳 以 上 (n= 87)	67.8	32.2	37.9	10.3	20.7	29.9	14.9	12.6	12.6	0.0	0.0	3.4	1.1			
	女 性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	38.9	37.0	11.1	46.9	16.0	6.2	13.6	23.5	3.1	0.0	0.6	11.1	1.9			
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	58.3	42.3	28.5	26.0	18.4	13.0	23.6	16.0	4.9	1.4	1.4	5.7	2.4			
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	69.9	38.8	35.0	15.5	24.3	23.3	20.4	13.6	8.7	2.9	1.0	5.8	1.9			
		75 歳 以 上 (n= 172)	61.6	14.0	32.0	7.6	26.7	27.3	7.6	11.0	5.8	0.6	0.0	7.0	3.5			
福祉情報の 入手経験の 有無別	入 手 経 験 あ り (n=1,161)	61.6	39.4	30.2	23.3	23.3	18.8	18.0	16.1	6.9	1.1	0.4	4.0	0.9				
	入 手 経 験 な し (n= 307)	27.7	29.3	16.9	20.5	11.1	8.1	10.4	5.5	3.9	0.3	1.0	27.7	1.0				

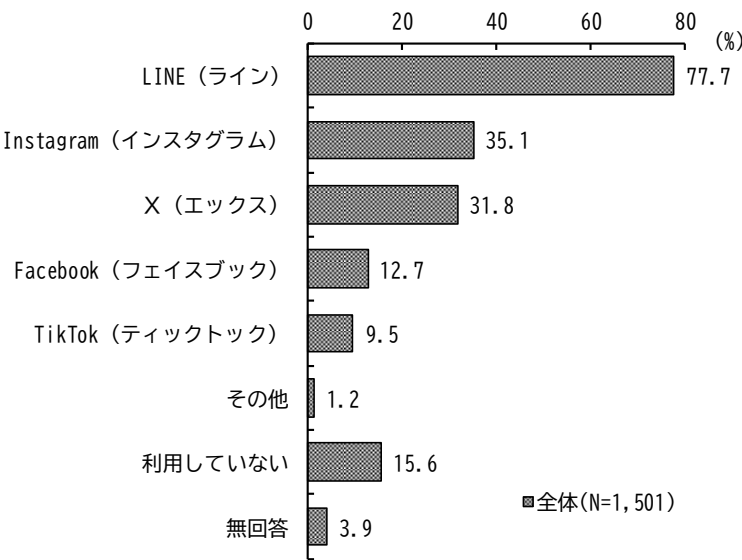
問 23 あなたがふだん利用しているSNSがあれば教えてください。（いくつでも○）

「LINE（ライン）」（77.7%）が最も多く、「Instagram（インスタグラム）」（35.1%）、「X（エックス）」（31.8%）と続いている。

性・年代別にみると、男性の18～39歳では「LINE（ライン）」（91.9%）と「X（エックス）」（57.8%）、女性の18～39歳では「LINE（ライン）」（95.1%）、「Instagram（インスタグラム）」（79.0%）、「X（エックス）」（69.1%）、「TikTok（ティクトック）」（25.3%）、女性の40～64歳では「LINE（ライン）」（90.8%）と「Instagram（インスタグラム）」（52.8%）が全体より10ポイント以上高くなっている。なお、男女ともに75歳以上は「利用していない」（男性：42.5%、女性47.1%）が40%台で高くなっている。

問22の福祉情報の入手経験の有無別にみると、入手経験の有無で傾向は大きく変わらないが、「X（エックス）」の割合は「入手経験なし」（39.7%）の人が「入手経験ありの人」（30.4%）を9.3ポイント上回っている。

図表 利用しているSNS（全体：複数回答）



図表 利用しているSNS（全体、性・年代別、福祉情報の入手経験の有無別：複数回答）

			LINE (ライン)	Instagram (インスタグラム)	X (エックス)	Facebook (フェイスブック)	TikTok (ティクトック)	その他	利用していない	無回答
全 体 (N=1,501)			77.7	35.1	31.8	12.7	9.5	1.2	15.6	3.9
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	91.9	43.7	57.8	10.4	15.6	0.7	3.7	1.5
		40～64歳 (n= 333)	81.7	28.5	37.2	18.6	7.8	1.5	12.0	1.8
		65～74歳 (n= 113)	68.1	12.4	8.0	12.4	2.7	0.9	23.0	4.4
		75歳以上 (n= 87)	44.8	2.3	5.7	8.0	1.1	1.1	42.5	11.5
	女性	18～39歳 (n= 162)	95.1	79.0	69.1	10.5	25.3	1.2	3.1	2.5
		40～64歳 (n= 369)	90.8	52.8	32.2	16.8	11.1	0.5	4.9	0.8
		65～74歳 (n= 103)	83.5	17.5	15.5	7.8	7.8	1.0	16.5	0.0
		75歳以上 (n= 172)	34.9	2.3	1.7	1.2	0.0	1.7	47.1	16.3
福祉情報の入手経験の有無別	入手経験あり (n=1,161)		79.2	35.7	30.4	13.7	9.1	1.2	15.2	2.9
	入手経験なし (n= 307)		77.2	35.5	39.7	10.1	12.1	1.3	18.6	1.3

(6) 福祉のまちづくり

問 24 現在、府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路等について、障害等のある方や妊婦、乳幼児を連れた方、高齢者等が利用しやすいように整備されていると思いますか。

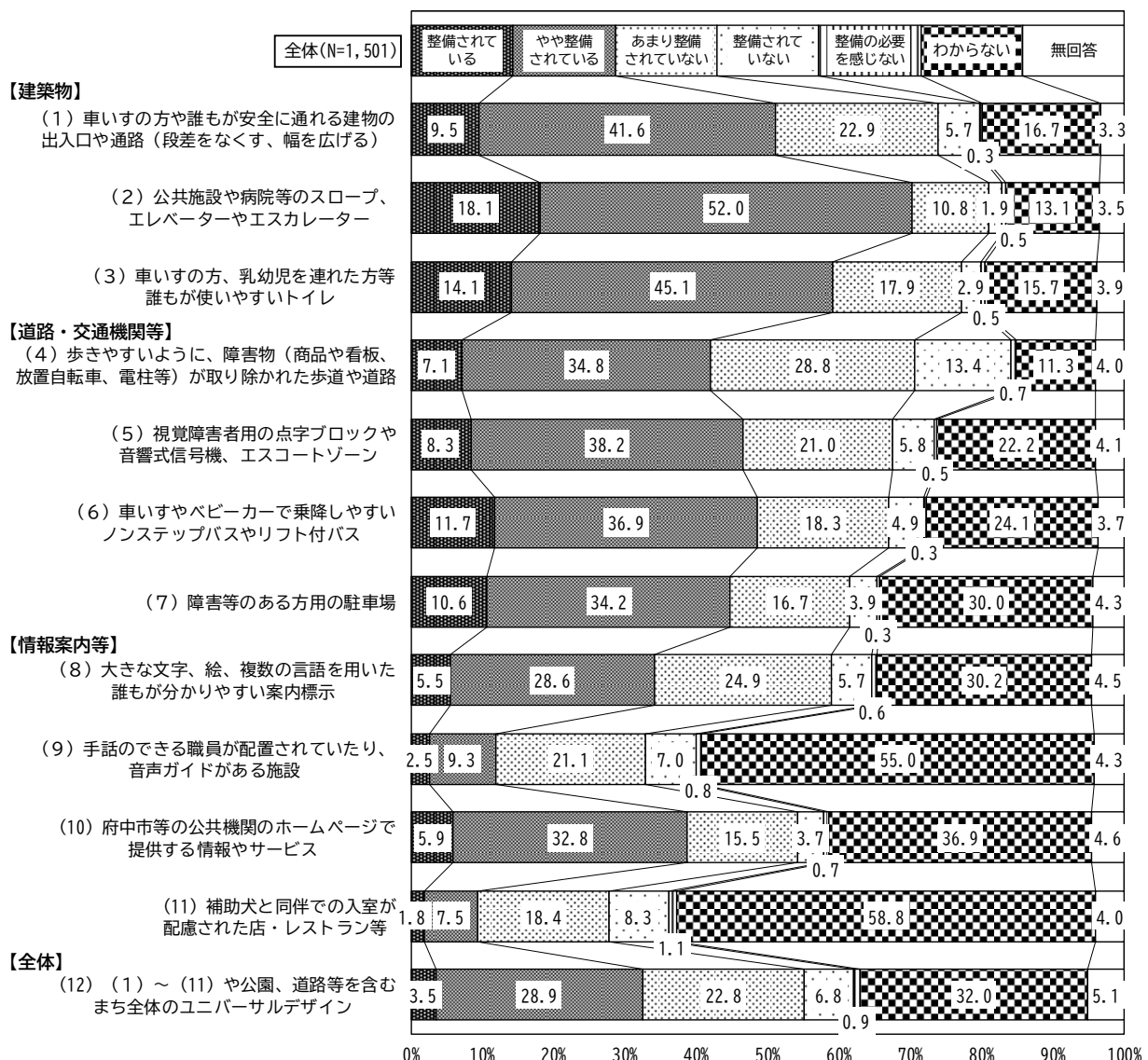
(1)～(11)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

《整備されている》の割合が【建築物】の『(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』は 70.1%、『(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ』は 59.2%、『(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）』は 51.1%と高くなっている。一方、【情報案内等】の『(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設』は 11.8%、『(11) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等』は 9.3%と低くなっている。

※《整備されている》・・・「整備されている」と「やや整備されている」の合計

※《整備されていない》・・・「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計

図表 福祉のまちづくり（建築物、インフラ、情報案内）の状況（全体）

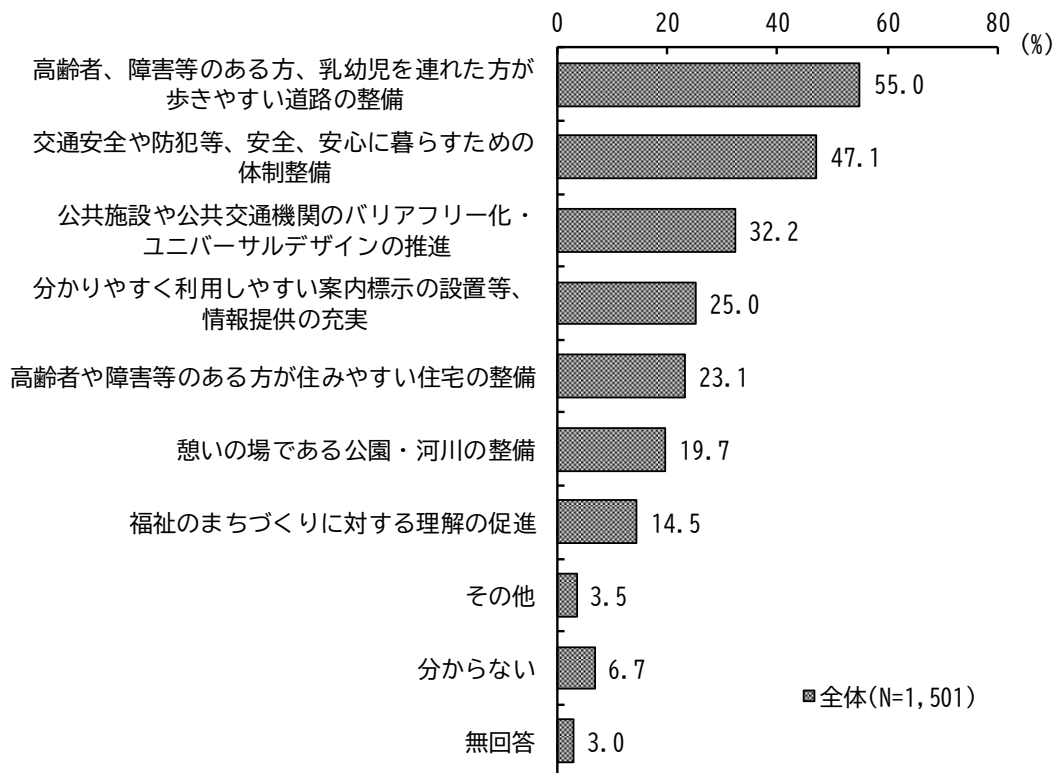


問 25 福祉のまちづくりを実現するために、優先的に取り組む必要があると思うことは何ですか。
(3つまで○)

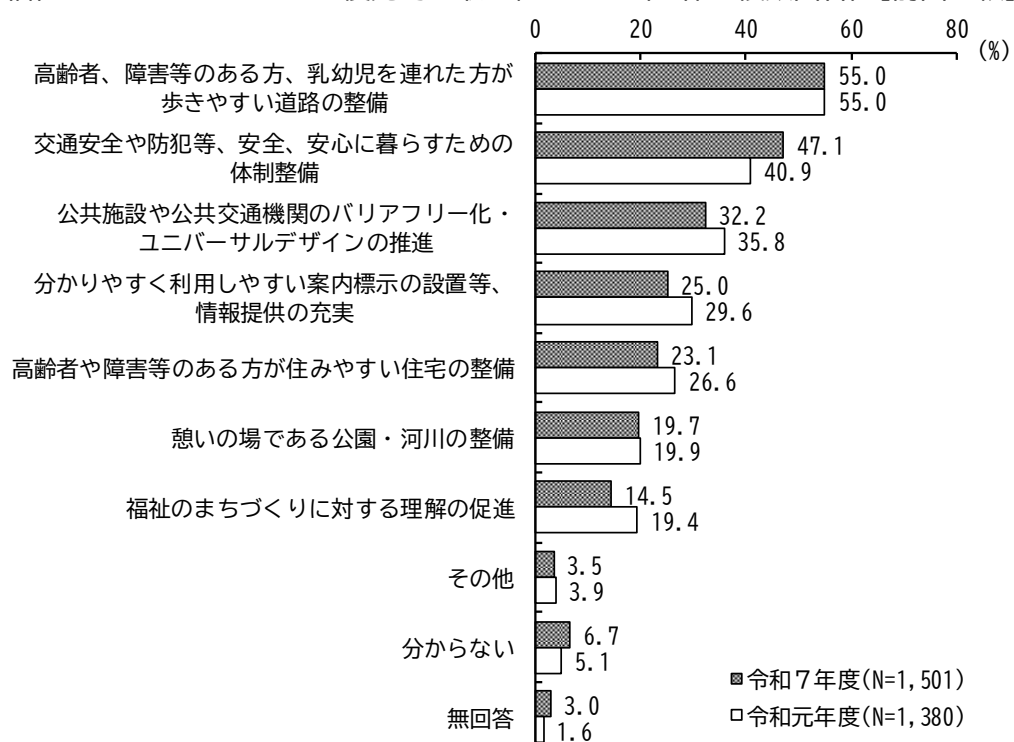
「高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備」(55.0%)が最も多く、次いで「交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備」(47.1%)、「公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進」(32.2%)と続いている。

前回調査と比較すると、今回調査も同様の順位であった。

図表 福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと（全体：複数回答）



図表 福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと（全体：複数回答）【前回比較】



(7) 災害時の支え合い

問 26 近年は、地震災害に加え、台風、豪雨、土砂災害などの風水害が相次いでいます。災害時、あなたが、特に不安や心配なことは何ですか。（3つまで○）

95.1%の人が災害時の不安や心配なことがある。

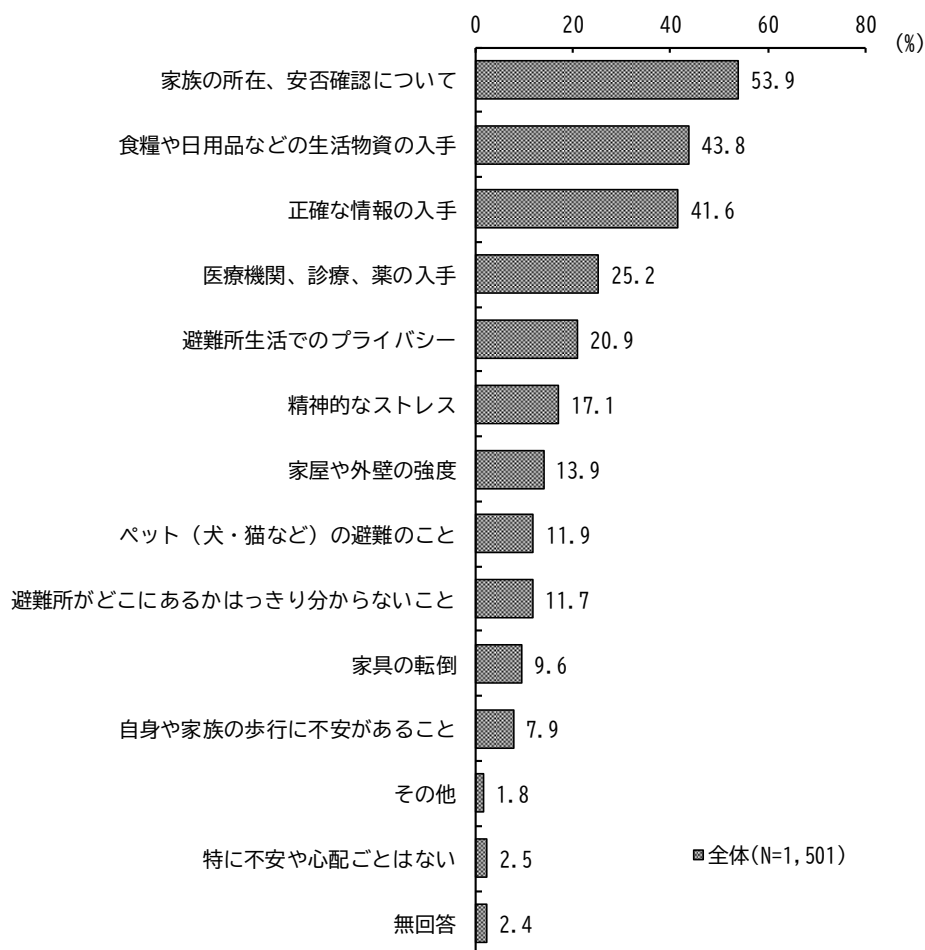
不安や心配なことの内容は「家族の所在、安否確認について」（53.9%）が最も多く、次いで「食糧や日用品などの生活物資の入手」（43.8%）、「正確な情報の入手」（41.6%）と続いている。なお、「特に不安や心配ごとはない」は2.5%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに18～39歳、40～64歳は「家族の所在、安否確認について」、65～74歳、75歳以上は「正確な情報の入手」が最も多くなっている。それ以外の項目では、男性の65～74歳は「医療機関、診療、薬の入手」（36.3%）、女性の18～39歳は「避難所生活でのプライバシー」（30.9%）、女性の75歳以上は「自身や家族の歩行に不安があること」（29.1%）が全体より10ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしは「食糧や日用品などの生活物資の入手」（48.5%）、配偶者と2人暮らしは「正確な情報の入手」（49.1%）、その他は「家族の所在、安否確認について」（65.2%）が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、上位3位は同様であり、前回調査6位の「医療機関、診療、薬の入手」（今回：25.2%、前回：17.5%）が今回調査では4位となっている。

図表 災害時の不安や心配ごと（全体：複数回答）

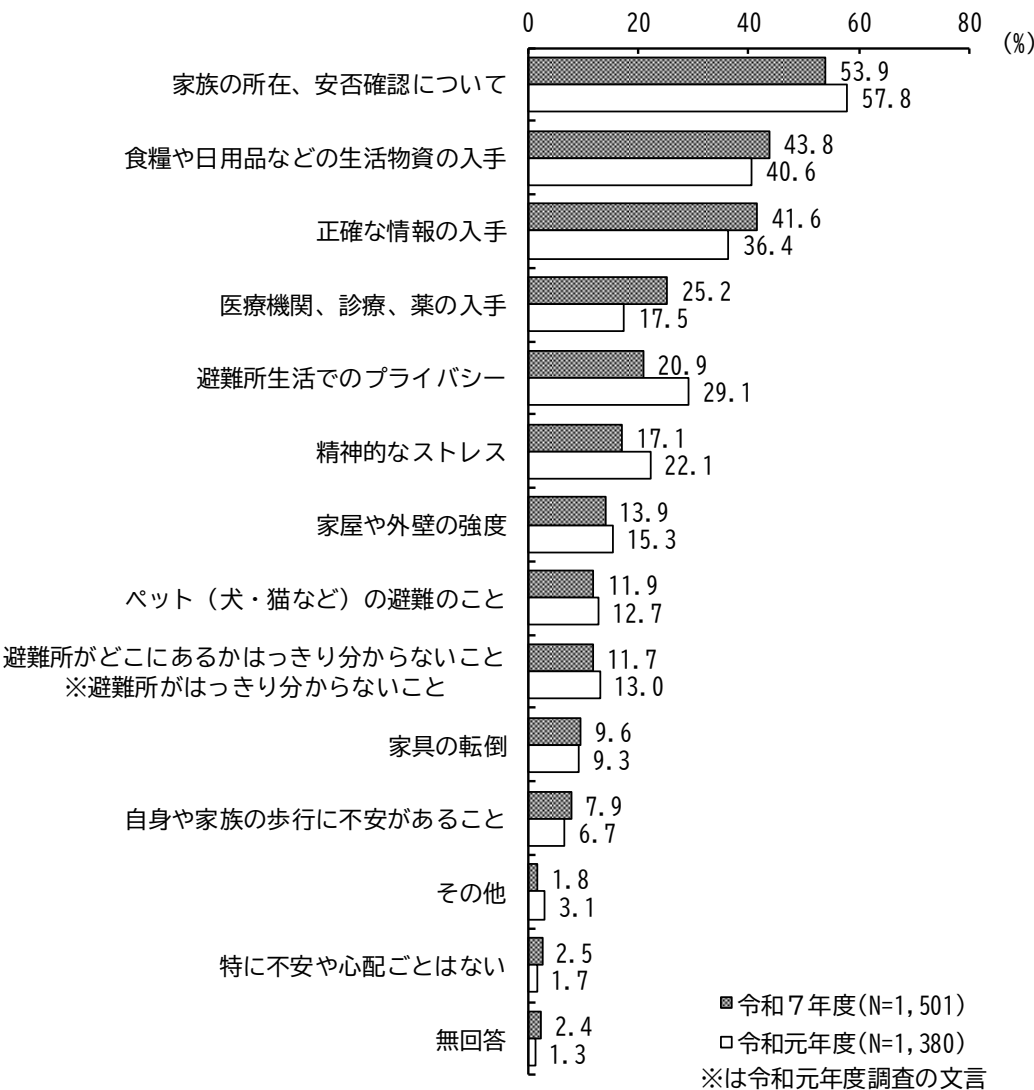


第3章 調査結果

図表 災害時の不安や心配ごと（全体、性・年代別、家族構成別：複数回答）

																	(%)
			家族の所在、安否確認について	食糧や日用品などの生活物資の入手	正確な情報の入手	医療機関、診療、薬の入手	避難所生活でのプライバシー	精神的なストレス	家屋や外壁の強度	難のこと	ペット（犬・猫など）の避難のこと	避難所がどこにあるかはっきり分からないこと	家具の転倒	自身や家族の歩行に不安があること	その他	特に不安や心配ことはない	無回答
全 体 (N=1,501)			53.9	43.8	41.6	25.2	20.9	17.1	13.9	11.9	11.7	9.6	7.9	1.8	2.5	2.4	
性・年代別	男性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	60.0	51.9	31.9	20.7	14.8	20.0	11.9	10.4	13.3	17.0	2.2	1.5	3.0	2.2	
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	56.8	43.5	44.7	21.3	17.7	18.9	14.4	10.5	10.8	9.3	3.6	1.8	2.7	1.8	
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	48.7	46.9	54.0	36.3	12.4	11.5	15.0	8.8	8.8	6.2	5.3	2.7	3.5	0.9	
		75 歳 以上 (n= 87)	31.0	31.0	46.0	29.9	11.5	8.0	19.5	2.3	16.1	17.2	16.1	1.1	4.6	10.3	
	女性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	66.0	51.2	29.0	20.4	30.9	23.5	12.3	16.0	11.1	8.0	1.9	3.1	0.0	2.5	
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	61.2	48.0	40.7	23.6	24.9	16.5	14.6	16.8	10.3	5.7	5.4	1.4	1.4	2.2	
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	45.6	32.0	52.4	34.0	29.1	18.4	14.6	11.7	11.7	7.8	9.7	2.9	1.0	1.0	
		75 歳 以上 (n= 172)	36.0	31.4	41.3	30.2	18.6	12.8	12.2	8.1	16.9	11.6	29.1	1.2	5.2	1.2	
家族構成別	ひとり暮らし (n= 264)		27.3	48.5	40.2	26.9	20.5	18.6	11.7	3.8	19.3	10.6	12.5	1.1	5.7	4.2	
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		48.3	37.1	49.1	28.0	21.3	14.7	15.7	12.0	12.0	10.7	8.0	1.9	2.1	2.4	
	その他の (n= 839)		65.2	45.3	38.6	23.5	20.7	17.9	14.1	14.8	9.2	8.9	6.3	1.9	1.5	1.5	

図表 災害時の不安や心配ごと（全体：複数回答）【前回比較】



問 27 あなたが普段から災害時に備えていることはありますか。(いくつでも○)

81.4%の人が普段から災害時に備えていることがある。

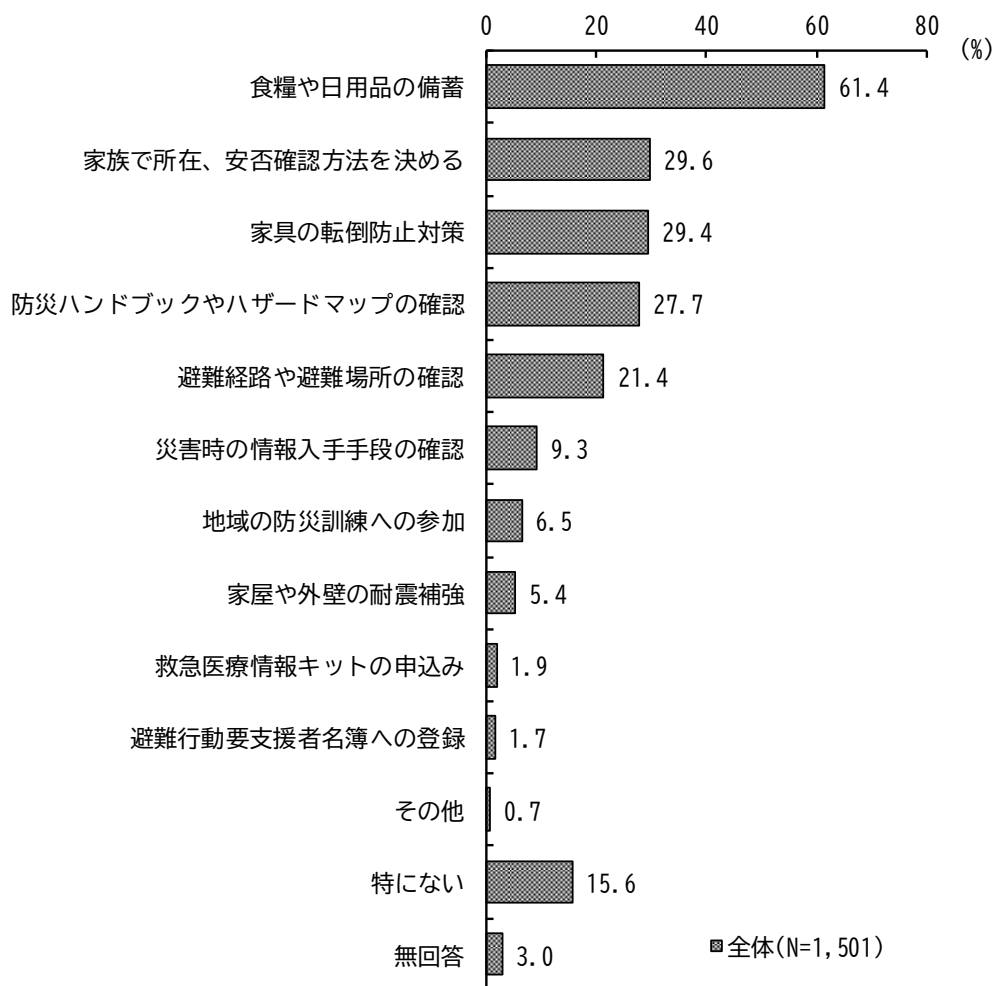
「食糧や日用品の備蓄」(61.4%) が最も多く、次いで「家族で所在、安否確認方法を決める」(29.6%)、「家具の転倒防止対策」(29.4%)と続いている。「特にない」は 15.6%となっている。

性・年代別にみると、どの性・年代も「食糧や日用品の備蓄」が最も多くなっている。また、男性の18～39歳は「食糧や日用品の備蓄」(49.6%)と「家具の転倒防止対策」(17.8%)、男性の75歳以上は「食糧や日用品の備蓄」(48.3%)が全体より10ポイント以上低くなっている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしは「食糧や日用品の備蓄」(48.5%)、「家族で所在、安否確認方法を決める」(15.2%)、「家具の転倒防止対策」(17.0%)が全体より10ポイント以上低くなっており、「特にない」が23.1%と高くなっている。

前回調査と比較すると、「食糧や日用品の備蓄」(今回：61.4%、前回：60.1%)が最も多いことは同様だが、前回調査3位の「家族で所在、安否確認方法を決める」(今回：29.6%、前回：32.3%)が今回調査では2位となっている。

図表 普段から災害時に備えていること(全体：複数回答)

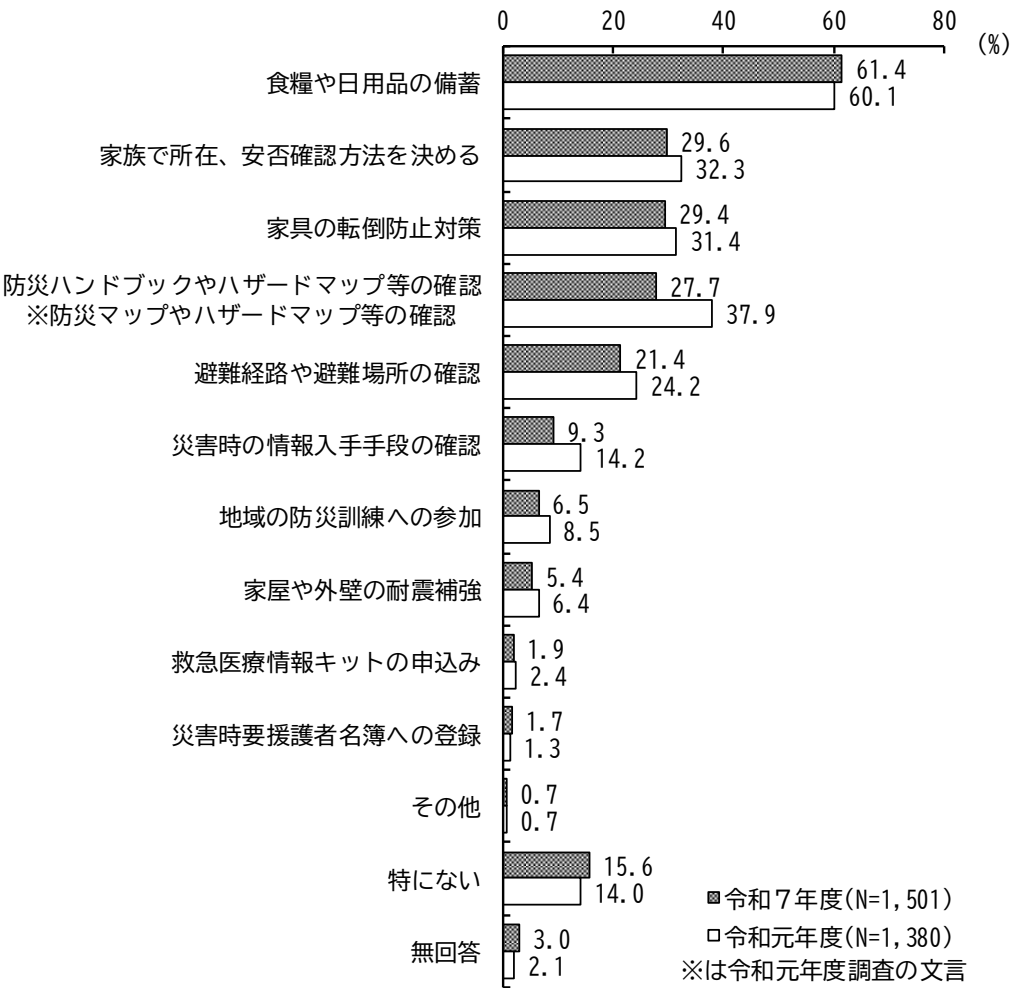


第3章 調査結果

図表 普段から災害時に備えていること（全体、性・年代別、家族構成別：複数）

			食糧や日用品の備蓄	家族で所在、安否確認方法を決める	家具の転倒防止対策	防災ハンドブックやハザードマップ等の確認	避難経路や避難場所の確認	災害時の情報入手手段の確認	地域の防災訓練への参加	家屋や外壁の耐震補強	救急医療情報キットの申込み	避難行動要支援者名簿への登録	その他	特にない	無回答
全 体 (N=1,501)			61.4	29.6	29.4	27.7	21.4	9.3	6.5	5.4	1.9	1.7	0.7	15.6	3.0
性・年代別	男性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	49.6	27.4	17.8	20.0	15.6	9.6	0.7	3.7	0.0	0.0	0.7	26.7	2.2
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	61.0	26.1	28.8	27.6	20.4	8.7	5.4	3.6	1.5	0.3	0.9	17.1	1.8
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	54.9	27.4	33.6	34.5	20.4	13.3	13.3	13.3	0.9	0.9	1.8	18.6	1.8
		75 歳 以上 (n= 87)	48.3	27.6	34.5	25.3	24.1	17.2	11.5	5.7	9.2	3.4	0.0	14.9	10.3
	女性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	62.3	24.7	26.5	25.3	20.4	4.9	2.5	4.9	0.6	0.6	0.6	14.2	2.5
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	68.0	35.2	32.5	30.1	23.6	8.9	4.6	5.1	0.5	0.8	0.5	12.2	1.9
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	66.0	31.1	39.8	35.0	21.4	8.7	8.7	4.9	0.0	4.9	0.0	8.7	2.9
家族構成別	ひとり暮らし (n= 264)		48.5	15.2	17.0	28.4	20.1	11.4	2.3	4.5	3.8	1.9	0.4	23.1	4.9
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		64.0	30.7	34.7	28.3	23.5	10.4	10.7	4.8	2.4	1.9	0.3	12.0	4.0
	その他 (n= 839)		64.6	34.0	31.1	27.3	21.0	7.9	6.0	6.1	1.1	1.3	1.1	14.4	1.7

図表 普段から災害時に備えていること（全体：複数回答）【前回比較】



問 28 あなたが、災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。

(いくつでも○)

「物資の備蓄」(62.4%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(46.6%)、「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」(33.1%)と続いている。

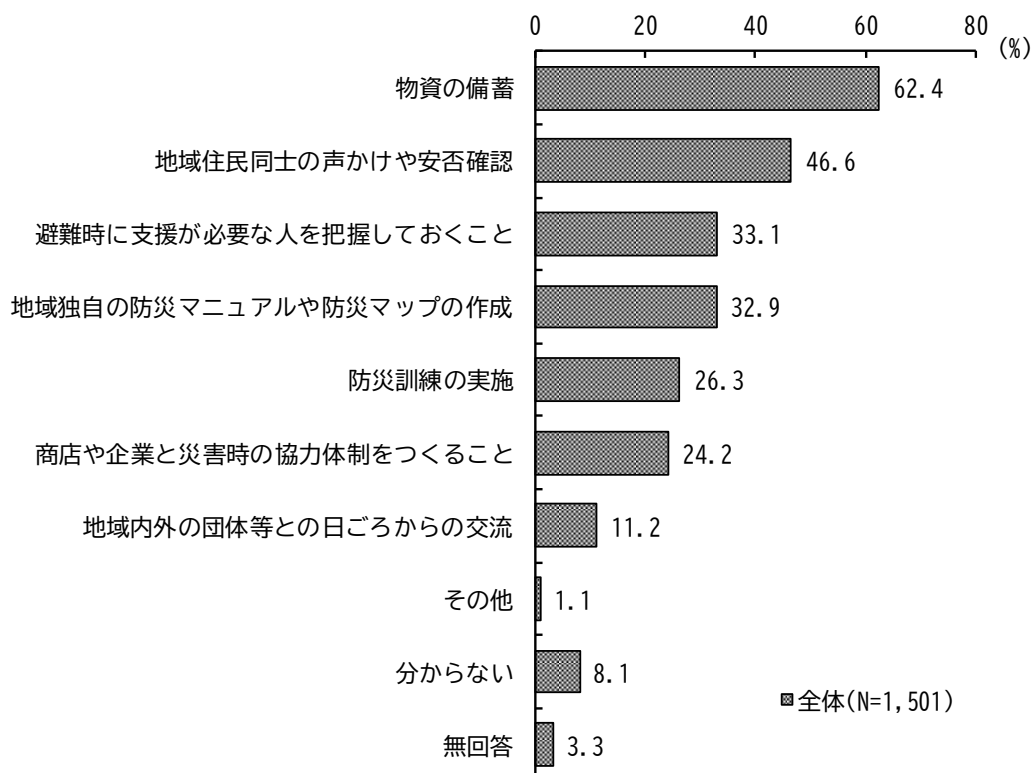
性・年代別にみると、男性の75歳以上、女性の65～74歳、75歳以上は「地域住民同士の声かけや安否確認」が最も多く、それ以外の性・年代では「物資の備蓄」が最も多くなっている。それ以外の項目では、男性の65～74歳は「防災訓練の実施」(38.1%)、女性の65～74歳は「避難時に支援が必要な人を把握しておくこと」(45.6%)が全体より10ポイント以上高くなっている。

家族構成別にみると、どの家族構成でも「物資の備蓄」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、どの居住圏域も「物資の備蓄」が最も多くなっている。また、押立では「防災訓練の実施」(40.0%)が全体より10ポイント以上高くなっている。

前回調査と比較すると、上位2位までは変わらないが、前回調査で3位だった「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(今回：32.9%、前回43.7%)は今回調査で4位となっている。また、今回調査は、前回調査より「地域住民同士の声かけや安否確認」(今回：46.6%、前回57.7%)が10ポイント以上低くなっている。

図表 災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの（全体：複数回答）

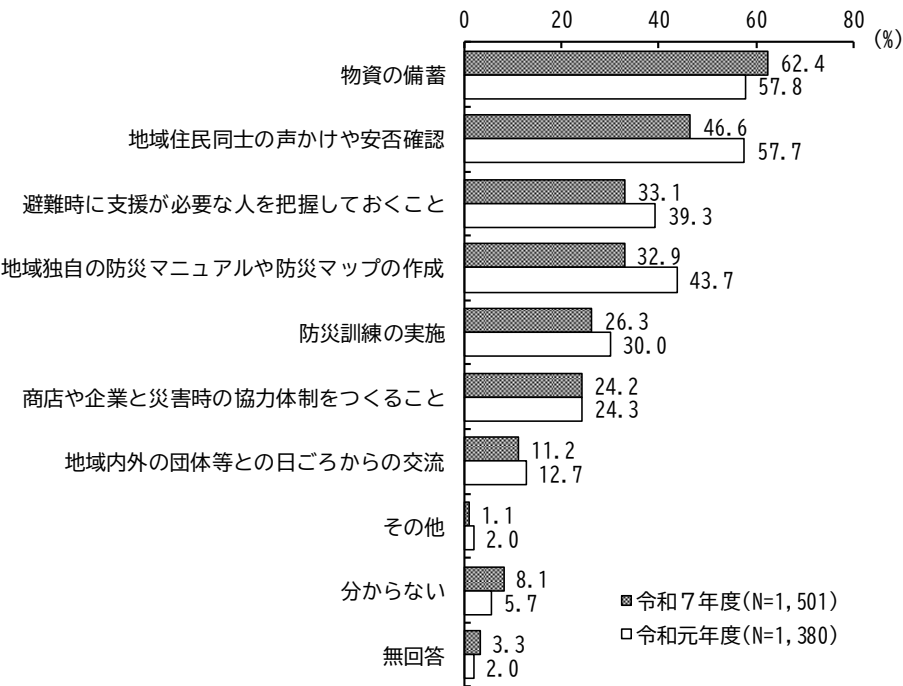


第3章 調査結果

図表 災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの
(全体、性・年代別、家族構成別、居住圏域別：複数回答)

			物資の備蓄	地域住民同士の声かけや安否確認	避難時に支援が必要な人を把握しておくこと	地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成	防災訓練の実施	商店や企業と災害時の協力体制をつくること	地域内外の団体等との日ごろからの交流	その他	分からない	(%) 無回答
全体 (N=1,501)			62.4	46.6	33.1	32.9	26.3	24.2	11.2	1.1	8.1	3.3
性・年代別	男性	18 ～ 39 歳 (n= 135)	68.9	31.9	27.4	31.9	19.3	26.7	10.4	0.7	9.6	2.2
		40 ～ 64 歳 (n= 333)	63.1	42.3	27.6	34.5	25.5	19.2	11.4	1.8	10.2	2.4
		65 ～ 74 歳 (n= 113)	64.6	46.9	31.9	32.7	38.1	25.7	13.3	0.0	4.4	1.8
		75 歳 以上 (n= 87)	48.3	51.7	31.0	34.5	28.7	21.8	13.8	2.3	11.5	9.2
	女性	18 ～ 39 歳 (n= 162)	77.8	32.1	32.1	38.9	23.5	32.1	9.9	0.6	3.1	2.5
		40 ～ 64 歳 (n= 369)	65.9	52.0	35.8	31.7	27.6	29.5	11.7	1.1	6.2	2.4
		65 ～ 74 歳 (n= 103)	56.3	60.2	45.6	32.0	23.3	18.4	8.7	1.9	7.8	1.9
		75 歳 以上 (n= 172)	45.3	61.6	39.0	27.3	23.8	16.3	9.9	0.0	11.6	6.4
家族構成別	ひとり暮らし (n= 264)		54.9	40.2	34.8	29.5	22.0	21.6	12.9	0.8	12.5	5.7
	配偶者と2人暮らし (n= 375)		61.1	50.1	36.0	33.9	26.7	24.8	14.1	2.1	6.9	3.5
	その他 (n= 839)		65.8	47.2	31.1	34.1	27.7	24.8	9.3	0.7	7.3	2.1
居住圏域別	中央 (n= 248)		64.5	44.0	30.6	37.1	27.8	31.0	12.9	0.8	8.5	2.0
	白糸台 (n= 142)		57.7	45.1	29.6	28.9	24.6	21.8	14.8	2.1	9.9	2.8
	西府 (n= 112)		65.2	36.6	27.7	33.9	27.7	30.4	8.0	2.7	6.3	1.8
	武蔵台 (n= 93)		60.2	48.4	40.9	31.2	33.3	25.8	11.8	1.1	6.5	10.8
	新町 (n= 137)		62.8	48.9	31.4	29.2	21.9	21.9	10.9	0.7	9.5	2.9
	住吉 (n= 161)		63.4	46.0	37.3	33.5	23.0	19.9	9.3	1.2	8.1	5.0
	是政 (n= 148)		60.1	50.0	31.8	24.3	23.6	16.9	13.5	1.4	9.5	2.0
	紅葉丘 (n= 132)		56.8	53.8	33.3	33.3	25.8	18.2	9.8	0.0	9.1	1.5
	押立 (n= 85)		62.4	56.5	31.8	41.2	40.0	18.8	10.6	0.0	3.5	5.9
	四谷 (n= 73)		61.6	43.8	31.5	38.4	23.3	27.4	8.2	1.4	8.2	4.1
	片町 (n= 162)		69.1	44.4	38.3	35.2	23.5	30.9	9.9	0.6	7.4	0.6

図表 災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの (全体：複数回答) 【前回比較】



問 29 災害時、地域で手助けが必要な方に、あなたができることは、どのようなことですか。
(いくつでも○)

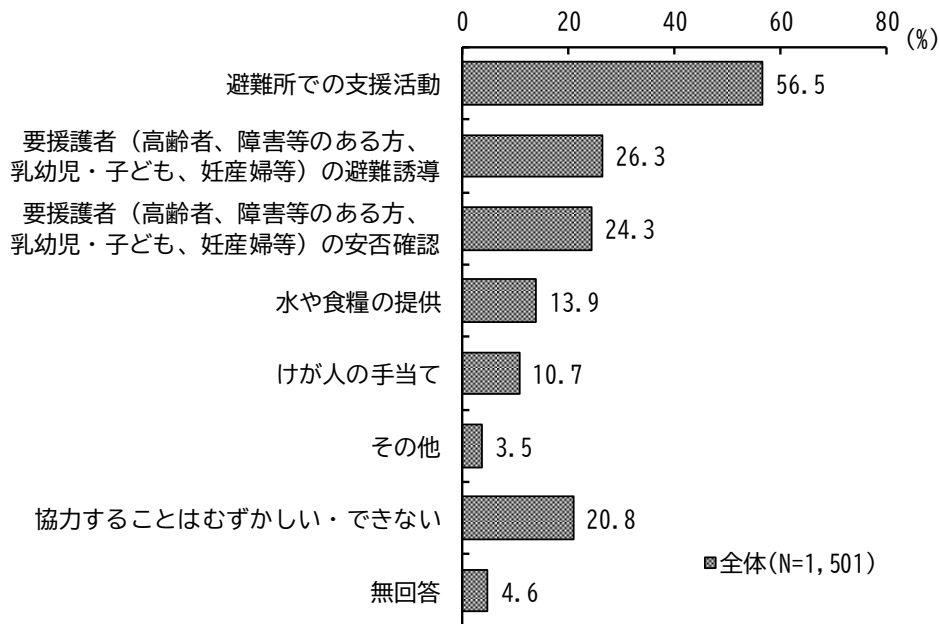
74.6%の人が災害時に手助けが必要な方にできることがある。

「避難所での支援活動」(56.5%)が最も多く、次いで「要援護者(高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の避難誘導」(26.3%)、「要援護者(高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の安否確認」(24.3%)と続いている。

性・年代別にみると、男女ともに18～39歳、40～64歳、65～74歳は「避難所での支援活動」が最も多くなっている。男女ともに75歳以上は「協力することはむずかしい・できない」(男性：36.8%、女性：51.7%)が全体より高くなっている。

前回調査と比較すると、「避難所での支援活動」(今回：56.5%、前回 59.4%)が最も多いことは変わらないが、前回調査で2位だった「要援護者(高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の安否確認」(今回：24.3%、前回 31.6%)は今回調査で3位となっている。

図表 災害時に手助けが必要な方にできること(全体：複数回答)

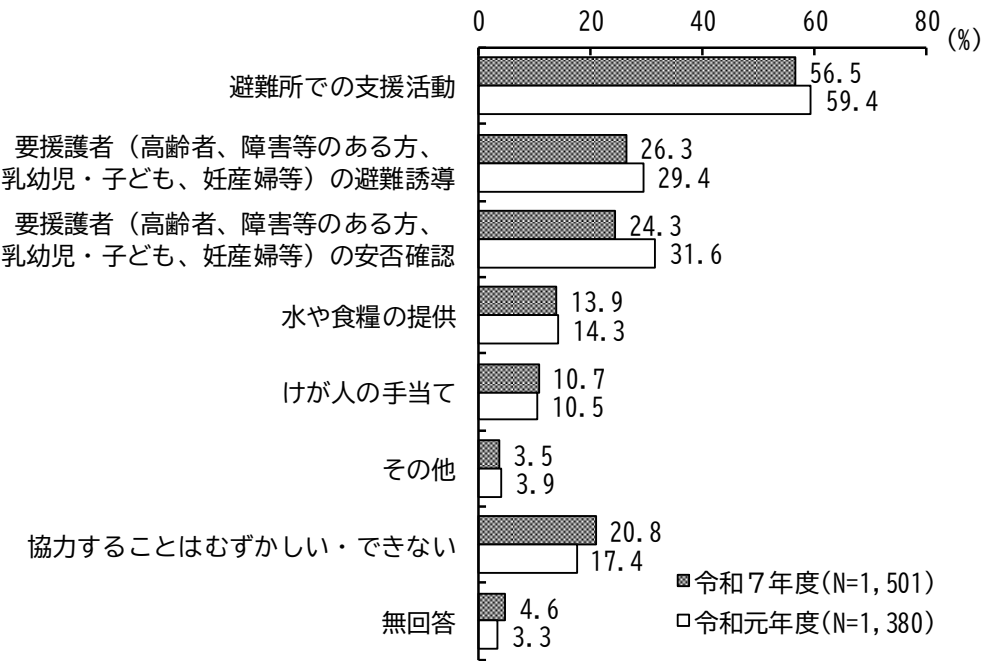


第3章 調査結果

図表 災害時に手助けが必要な方にできること（全体、性・年代別：複数回答）

										(%)		
			避難所での支援活動	も、妊産婦等）の避難誘導	要援護者（高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の安否確認	も、妊産婦等）の安否確認	要援護者（高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の安否確認	水や食糧の提供	けが人の手当て	その他	協力することはむずかしい・できない	無回答
全 体 (N=1, 501)			56. 5	26. 3	24. 3	13. 9	10. 7	3. 5	20. 8	4. 6		
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	59. 3	30. 4	23. 0	19. 3	13. 3	4. 4	17. 0	2. 2		
		40～64歳 (n= 333)	67. 3	31. 8	27. 0	15. 3	9. 9	2. 4	14. 7	2. 7		
		65～74歳 (n= 113)	65. 5	27. 4	22. 1	12. 4	8. 8	2. 7	15. 9	1. 8		
		75歳以上 (n= 87)	35. 6	19. 5	24. 1	13. 8	5. 7	5. 7	36. 8	11. 5		
	女 性	18～39歳 (n= 162)	53. 7	31. 5	25. 9	10. 5	12. 3	3. 1	19. 8	3. 7		
		40～64歳 (n= 369)	64. 2	31. 2	28. 7	13. 8	14. 6	3. 5	12. 2	4. 6		
		65～74歳 (n= 103)	57. 3	12. 6	23. 3	13. 6	5. 8	2. 9	18. 4	5. 8		
		75歳以上 (n= 172)	23. 8	7. 6	13. 4	10. 5	5. 2	3. 5	51. 7	8. 7		

図表 災害時に手助けが必要な方にできること（全体：複数回答）【前回比較】



(8) 福祉に対する考え方

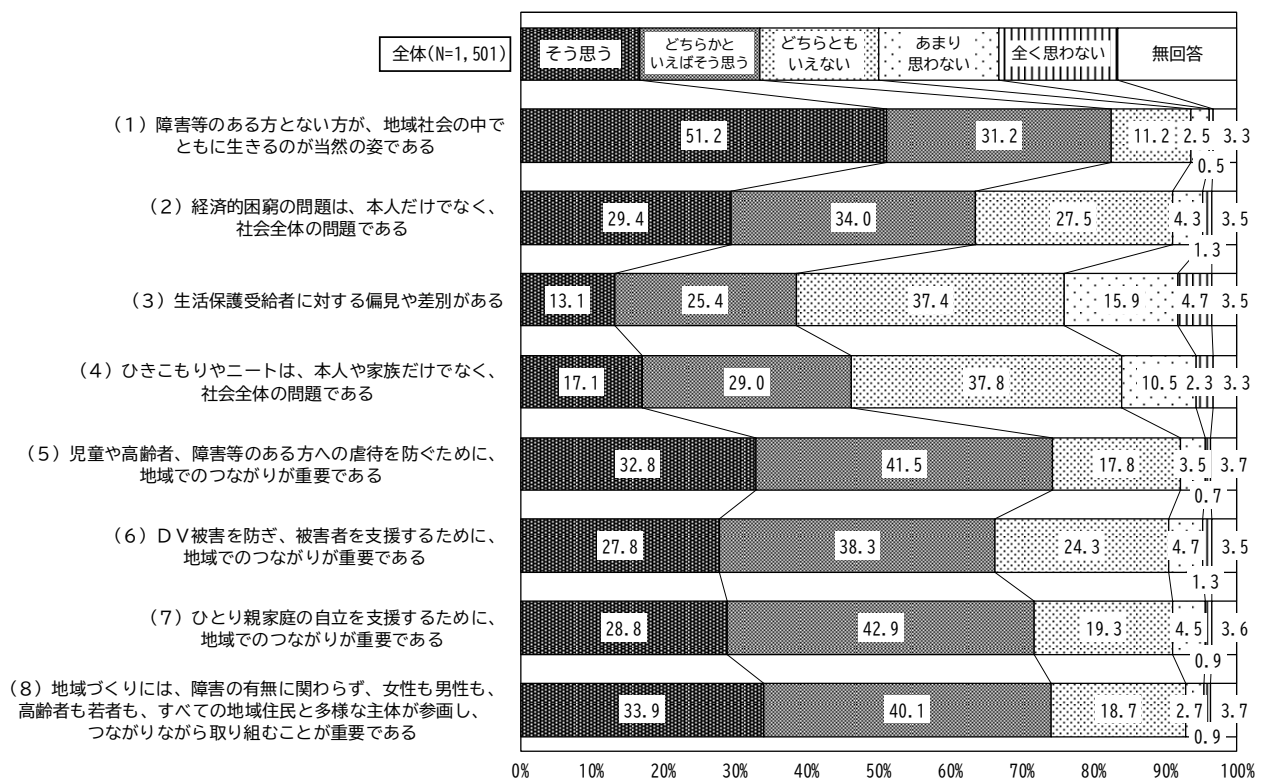
問 30 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(1)～(8)について、あなたの考えに最も近いものに1つずつ○をつけてください。

《そう思う》の割合が『(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』(82.4%)、『(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』(74.3%)、『(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である』(74.0%)、『(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』(71.7%)で高くなっている。一方、『(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』(46.1%)、『(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある』(38.5%)で低くなっている。

※《そう思う》・・・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

※《そう思わない》・・・「あまり思わない」と「全く思わない」の合計

図表 福祉に関する考え方（全体）



第3章 調査結果

『(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』について、性・年代別にみると、男女ともに18～39歳は《思う》が70%台となっており、全体より低くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』(全体、性・年代別)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	(%)	
									《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			51.2	31.2	11.2	2.5	0.5	3.3	82.4	3.0
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	45.2	32.6	11.1	6.7	2.2	2.2	77.8	8.9
		40～64歳 (n= 333)	53.8	31.5	9.9	1.5	0.9	2.4	85.3	2.4
		65～74歳 (n= 113)	58.4	27.4	8.0	3.5	0.0	2.7	85.8	3.5
		75歳以上 (n= 87)	63.2	20.7	9.2	0.0	0.0	6.9	83.9	0.0
	女 性	18～39歳 (n= 162)	41.4	36.4	14.2	5.6	0.0	2.5	77.8	5.6
		40～64歳 (n= 369)	48.5	33.6	14.1	1.9	0.3	1.6	82.1	2.2
		65～74歳 (n= 103)	54.4	35.0	7.8	0.0	0.0	2.9	89.4	0.0
		75歳以上 (n= 172)	55.2	25.0	11.0	0.6	0.0	8.1	80.2	0.6

『(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である』について、性・年代別にみると、男性の18～39歳は《思わない》(11.8%)が全体より6.2ポイント高くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である』(全体、性・年代別)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	(%)	
									《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			29.4	34.0	27.5	4.3	1.3	3.5	63.4	5.6
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	32.6	34.1	19.3	7.4	4.4	2.2	66.7	11.8
		40～64歳 (n= 333)	28.8	36.9	26.4	3.9	1.5	2.4	65.7	5.4
		65～74歳 (n= 113)	30.1	37.2	27.4	2.7	0.0	2.7	67.3	2.7
		75歳以上 (n= 87)	26.4	29.9	32.2	2.3	1.1	8.0	56.3	3.4
	女 性	18～39歳 (n= 162)	33.3	36.4	20.4	4.9	1.2	3.7	69.7	6.1
		40～64歳 (n= 369)	26.8	32.8	32.8	5.1	1.1	1.4	59.6	6.2
		65～74歳 (n= 103)	30.1	34.0	28.2	4.9	0.0	2.9	64.1	4.9
		75歳以上 (n= 172)	30.8	28.5	29.7	1.7	0.6	8.7	59.3	2.3

『(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある』について、性・年代別にみると、《思う》の割合は、男女ともに18～39歳が全体より5ポイント以上高く、女性の65～74歳、75歳以上は全体より10ポイント以上低くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある』(全体、性・年代別)
(%)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			13.1	25.4	37.4	15.9	4.7	3.5	38.5	20.6
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	20.0	26.7	28.1	15.6	7.4	2.2	46.7	23.0
		40～64歳 (n= 333)	14.1	28.5	37.2	12.9	4.5	2.7	42.6	17.4
		65～74歳 (n= 113)	10.6	29.2	36.3	18.6	2.7	2.7	39.8	21.3
		75歳以上 (n= 87)	11.5	20.7	34.5	19.5	5.7	8.0	32.2	25.2
	女 性	18～39歳 (n= 162)	19.1	27.8	34.6	13.0	3.1	2.5	46.9	16.1
		40～64歳 (n= 369)	10.0	27.6	44.2	14.1	2.4	1.6	37.6	16.5
		65～74歳 (n= 103)	9.7	17.5	42.7	20.4	6.8	2.9	27.2	27.2
		75歳以上 (n= 172)	9.9	18.0	30.2	24.4	8.1	9.3	27.9	32.5

『(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』について、性・年代別にみると、《思わない》の割合は、男性の18～39歳は全体より10ポイント以上高く、女性の18～39歳は全体より5ポイント以上高くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』(全体、性・年代別)
(%)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			17.1	29.0	37.8	10.5	2.3	3.3	46.1	12.8
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	20.7	26.7	27.4	15.6	7.4	2.2	47.4	23.0
		40～64歳 (n= 333)	16.8	24.9	42.0	10.5	3.3	2.4	41.7	13.8
		65～74歳 (n= 113)	16.8	33.6	34.5	11.5	0.9	2.7	50.4	12.4
		75歳以上 (n= 87)	16.1	32.2	40.2	3.4	1.1	6.9	48.3	4.5
	女 性	18～39歳 (n= 162)	12.3	33.3	32.7	16.7	2.5	2.5	45.6	19.2
		40～64歳 (n= 369)	14.1	32.5	38.8	11.4	1.6	1.6	46.6	13.0
		65～74歳 (n= 103)	25.2	24.3	44.7	2.9	0.0	2.9	49.5	2.9
		75歳以上 (n= 172)	19.8	25.6	39.0	6.4	0.6	8.7	45.4	7.0

第3章 調査結果

『(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』について、性・年代別にみると、どの性・年代も《思う》が70%台となっている。

図表 福祉に関する考え方『(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』(全体、性・年代別)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	(%)	
									《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			32.8	41.5	17.8	3.5	0.7	3.7	74.3	4.2
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	28.9	44.4	15.6	4.4	4.4	2.2	73.3	8.8
		40～64歳 (n= 333)	30.9	40.8	21.0	3.6	0.9	2.7	71.7	4.5
		65～74歳 (n= 113)	33.6	44.2	17.7	1.8	0.0	2.7	77.8	1.8
		75歳以上 (n= 87)	41.4	31.0	17.2	1.1	0.0	9.2	72.4	1.1
	女 性	18～39歳 (n= 162)	36.4	38.9	12.3	9.3	0.0	3.1	75.3	9.3
		40～64歳 (n= 369)	31.2	46.9	19.0	1.4	0.0	1.6	78.1	1.4
		65～74歳 (n= 103)	35.0	37.9	20.4	3.9	0.0	2.9	72.9	3.9
		75歳以上 (n= 172)	36.6	36.0	15.1	2.9	0.0	9.3	72.6	2.9

『(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である』について、性・年代別にみると、《思う》の割合は、女性の40～64歳で72.3%と高く、女性の65～74歳で59.2%と低くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である』(全体、性・年代別)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	(%)	
									《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			27.8	38.3	24.3	4.7	1.3	3.5	66.1	6.0
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	29.6	37.0	21.5	5.2	4.4	2.2	66.6	9.6
		40～64歳 (n= 333)	26.7	36.0	27.9	6.0	1.2	2.1	62.7	7.2
		65～74歳 (n= 113)	28.3	41.6	23.0	4.4	0.0	2.7	69.9	4.4
		75歳以上 (n= 87)	20.7	42.5	27.6	1.1	0.0	8.0	63.2	1.1
	女 性	18～39歳 (n= 162)	33.3	37.0	19.8	6.8	0.6	2.5	70.3	7.4
		40～64歳 (n= 369)	27.6	44.7	20.9	3.8	1.1	1.9	72.3	4.9
		65～74歳 (n= 103)	27.2	32.0	33.0	3.9	1.0	2.9	59.2	4.9
		75歳以上 (n= 172)	30.2	30.8	24.4	4.1	1.2	9.3	61.0	5.3

『(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』について、性・年代別にみると、男性の75歳以上は《思う》(78.1%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』(全体、性・年代別)

			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	(%)	
									《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			28.8	42.9	19.3	4.5	0.9	3.6	71.7	5.4
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	32.6	42.2	15.6	3.7	3.7	2.2	74.8	7.4
		40～64歳 (n= 333)	27.6	40.2	23.7	5.1	0.9	2.4	67.8	6.0
		65～74歳 (n= 113)	30.1	42.5	19.5	4.4	0.9	2.7	72.6	5.3
		75歳以上 (n= 87)	31.0	47.1	13.8	0.0	0.0	8.0	78.1	0.0
	女 性	18～39歳 (n= 162)	30.2	44.4	13.0	9.3	0.6	2.5	74.6	9.9
		40～64歳 (n= 369)	27.6	44.7	20.9	4.3	0.5	1.9	72.3	4.8
		65～74歳 (n= 103)	29.1	44.7	17.5	5.8	0.0	2.9	73.8	5.8
		75歳以上 (n= 172)	30.2	41.3	18.6	0.6	0.0	9.3	71.5	0.6

『(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である』について、性・年代別にみると、男性の65～74歳は《思う》(79.6%)が全体より5ポイント以上高くなっている。

図表 福祉に関する考え方『(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である』(全体、性・年代別)

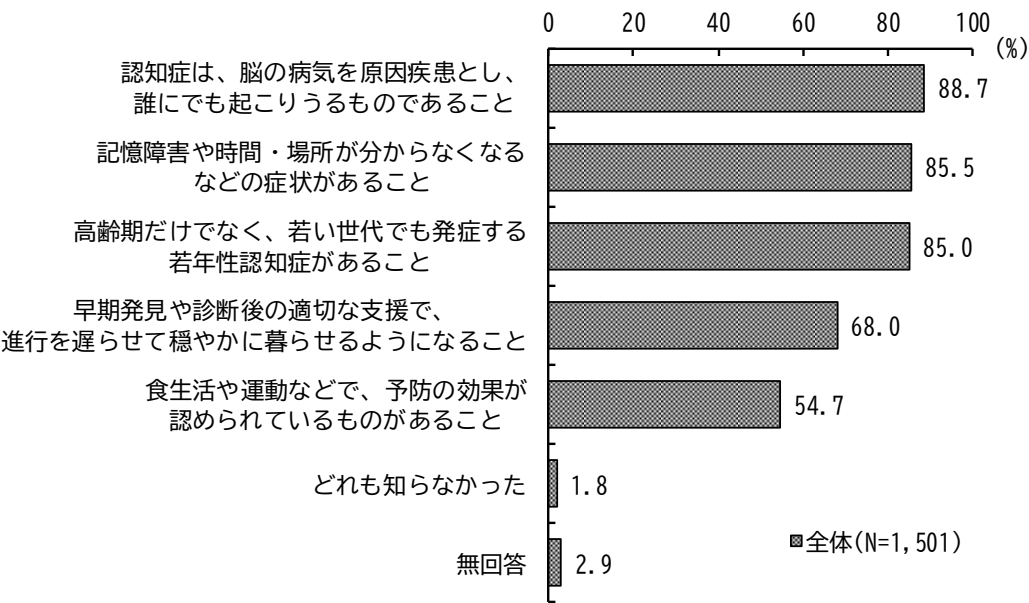
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	(%)	
									《思う》	《思わない》
全 体 (N=1,501)			33.9	40.1	18.7	2.7	0.9	3.7	74.0	3.6
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	31.9	40.7	17.8	3.7	3.7	2.2	72.6	7.4
		40～64歳 (n= 333)	34.8	40.2	18.0	3.6	0.6	2.7	75.0	4.2
		65～74歳 (n= 113)	34.5	45.1	15.9	2.7	0.0	1.8	79.6	2.7
		75歳以上 (n= 87)	44.8	28.7	16.1	1.1	0.0	9.2	73.5	1.1
	女 性	18～39歳 (n= 162)	31.5	41.4	19.8	4.3	0.6	2.5	72.9	4.9
		40～64歳 (n= 369)	29.3	46.1	20.1	1.9	1.1	1.6	75.4	3.0
		65～74歳 (n= 103)	35.0	36.9	22.3	1.0	1.0	3.9	71.9	2.0
		75歳以上 (n= 172)	41.3	32.0	15.1	1.7	0.0	9.9	73.3	1.7

問 31 あなたは認知症について、どのようなことを知っていますか。（いくつでも○）

「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」（88.7%）が最も多く、「記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること」（85.5%）、「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」（85.0%）と続いている。

性・年代別にみると、男性のすべての年代と女性の 75 歳以上は「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」が最も多く、女性の 18～39 歳は「記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること」、女性の 40～64 歳、65 歳以上は「高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」が最も多くなっている。

図表 認知症について知っていること（全体：複数回答）



図表 認知症について知っていること（全体、性・年代別：複数回答）

			(%)																																																																																																																																																																																																																																																																							
			も 患 認 こ ら 記 あ で 高 に 援 早 あ 効 食 ど れ も 無	と し 、 誰 に で も 起 こ り う る	こ と な く な る な ど の 症 状 が あ る	憶 障 害 や 時 間 ・ 場 所 が 分 か	る こ と な く な る な ど の 症 状 が あ る	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で あ る こ と	も の で

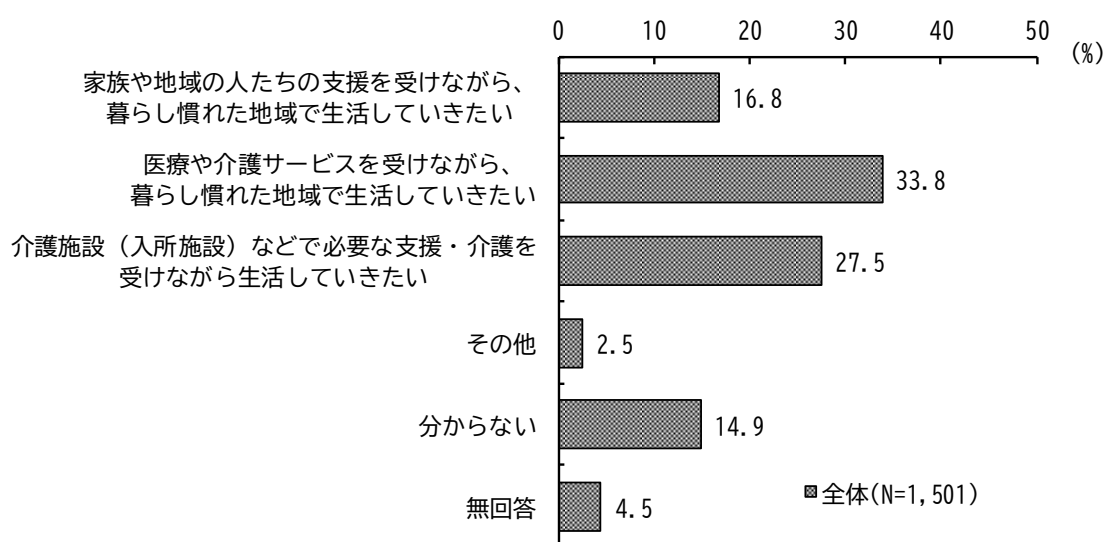
問 32 認知症の人の暮らし方はさまざまです。あなたは認知症になったら、どのように暮らしたいですか。既に認知症の方は、今後どのように暮らしたいですか。

(もっとも当てはまるもの1つに○)

「医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」(33.8%)が最も多く、「介護施設(入所施設)などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」(27.5%)、「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」(16.8%)と続いている。

性・年代別にみると、男性の18～39歳は「医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」(28.1%)が最も多く、「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」(25.9%)が続いている。他の性・年代は、全体同様の上位2項目である。

図表 認知症になった場合の暮らしへの意向（全体）



図表 認知症になった場合の暮らしへの意向（全体、性・年代別）

			意向 (%)				
			家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい	医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい	介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい	その他	分からない
全 体 (N=1,501)			16.8	33.8	27.5	2.5	14.9
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	25.9	28.1	20.7	5.9	17.0
		40～64歳 (n= 333)	16.5	30.3	27.9	3.3	19.5
		65～74歳 (n= 113)	17.7	32.7	30.1	1.8	12.4
		75歳以上 (n= 87)	17.2	34.5	23.0	0.0	13.8
	女性	18～39歳 (n= 162)	15.4	32.1	31.5	3.1	14.2
		40～64歳 (n= 369)	14.6	38.2	28.2	2.4	12.7
		65～74歳 (n= 103)	11.7	37.9	33.0	1.0	14.6
		75歳以上 (n= 172)	20.3	35.5	25.6	0.0	9.3

(9) 府中市の福祉施策

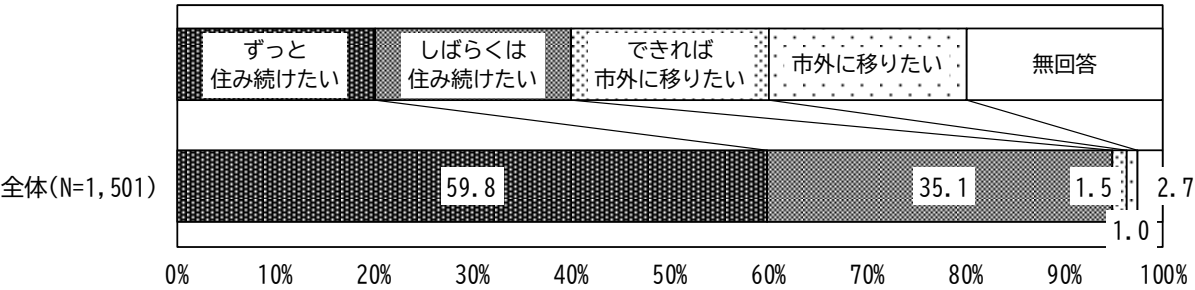
問 33 今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていないか。次の中から1つだけ選んでください。(1つに○)

「ずっと住み続けたい」(59.8%)と「しばらくは住み続けたい」(35.1%)を合計すると、94.9%に居住継続意向がある。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高くなるほど「ずっと住み続けたい」の割合が高くなり、18～39歳では30%台だが、75歳以上では80%台となっている。

居住圏域別にみると、「ずっと住み続けたい」の割合は、住吉が64.6%と最も高く、西府が48.2%と最も低くなっている。

図表 今後の府中市への居住継続意向（全体）



図表 今後の府中市への居住継続意向（全体、性・年代別、居住圏域別）

			(%)				
			けず たつ いと 住 み 続	みし 続 ば け ら た く い は 住	に で 移 き り れ た ば い 市 外	い 市 外 に 移 り た	無 回 答
全 体 (N=1,501)			59.8	35.1	1.5	1.0	2.7
性・年代別	男 性	18～39歳 (n= 135)	32.6	58.5	3.0	3.7	2.2
		40～64歳 (n= 333)	60.7	35.7	1.2	0.3	2.1
		65～74歳 (n= 113)	69.0	28.3	0.0	0.0	2.7
		75歳以上 (n= 87)	83.9	9.2	0.0	0.0	6.9
	女 性	18～39歳 (n= 162)	35.8	56.8	3.1	1.9	2.5
		40～64歳 (n= 369)	57.2	39.3	1.4	0.5	1.6
		65～74歳 (n= 103)	73.8	20.4	1.0	1.0	3.9
		75歳以上 (n= 172)	84.9	9.9	1.2	0.6	3.5
居住圏域別	中 央 (n= 248)		59.3	36.7	1.2	1.2	1.6
	白 系 台 (n= 142)		60.6	35.2	1.4	0.7	2.1
	西 府 (n= 112)		48.2	44.6	2.7	2.7	1.8
	武 蔵 台 (n= 93)		60.2	29.0	5.4	0.0	5.4
	新 町 (n= 137)		63.5	29.9	0.7	2.2	3.6
	住 吉 (n= 161)		64.6	31.1	1.9	0.6	1.9
	是 政 (n= 148)		62.8	35.8	0.0	0.0	1.4
	紅 葉 丘 (n= 132)		53.8	41.7	1.5	0.0	3.0
	押 立 (n= 85)		62.4	34.1	0.0	1.2	2.4
	四 谷 (n= 73)		57.5	32.9	2.7	2.7	4.1
	片 町 (n= 162)		62.3	33.3	0.6	0.6	3.1

問 34 府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。（5つまで○）

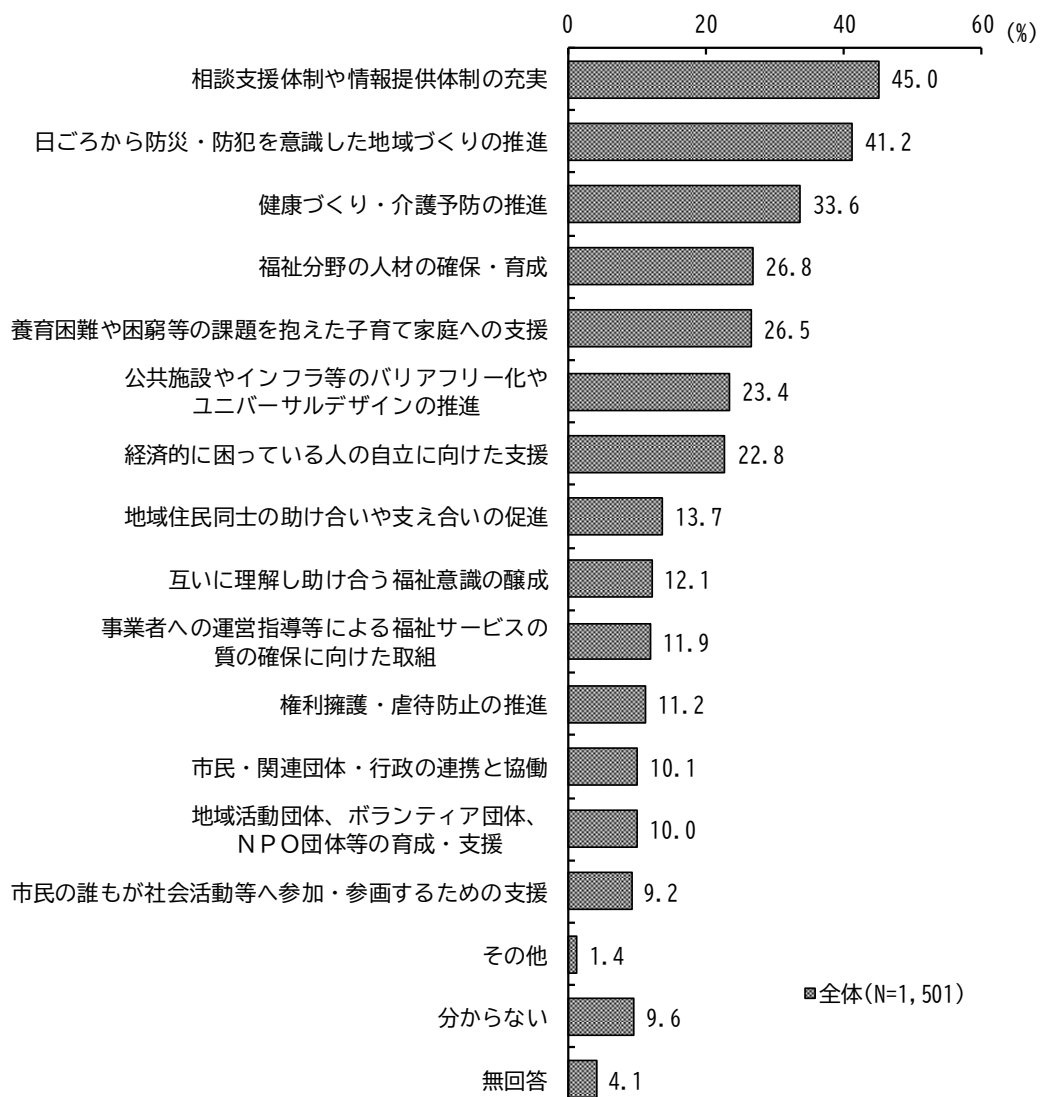
「相談支援体制や情報提供体制の充実」（45.0％）が最も多く、次いで「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」（41.2％）、「健康づくり・介護予防の推進」（33.6％）と続いている。

性・年代別にみると、男性 18～39 歳では「相談支援体制や情報提供体制の充実」、「養育困難や困窮等の課題を抱えた子育て家庭への支援」、「公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進」が同率（29.6％）で最も多く、男性 40～64 歳、女性 18～39 歳では「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」、その他の性・年代では「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多くなっている。

居住圏域別にみると、白糸台と是政では「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」、その他の圏域では「相談支援体制や情報提供体制の充実」が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、前回調査 2 位の「相談支援体制や情報提供体制の充実」（今回：45.0％、前回：40.7％）が今回調査は 1 位となり、前回調査 1 位の「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」（今回：41.2％、前回 55.9％）が今回調査は 2 位であった。

図表 優先的に取り組むべき福祉施策（全体：複数回答）

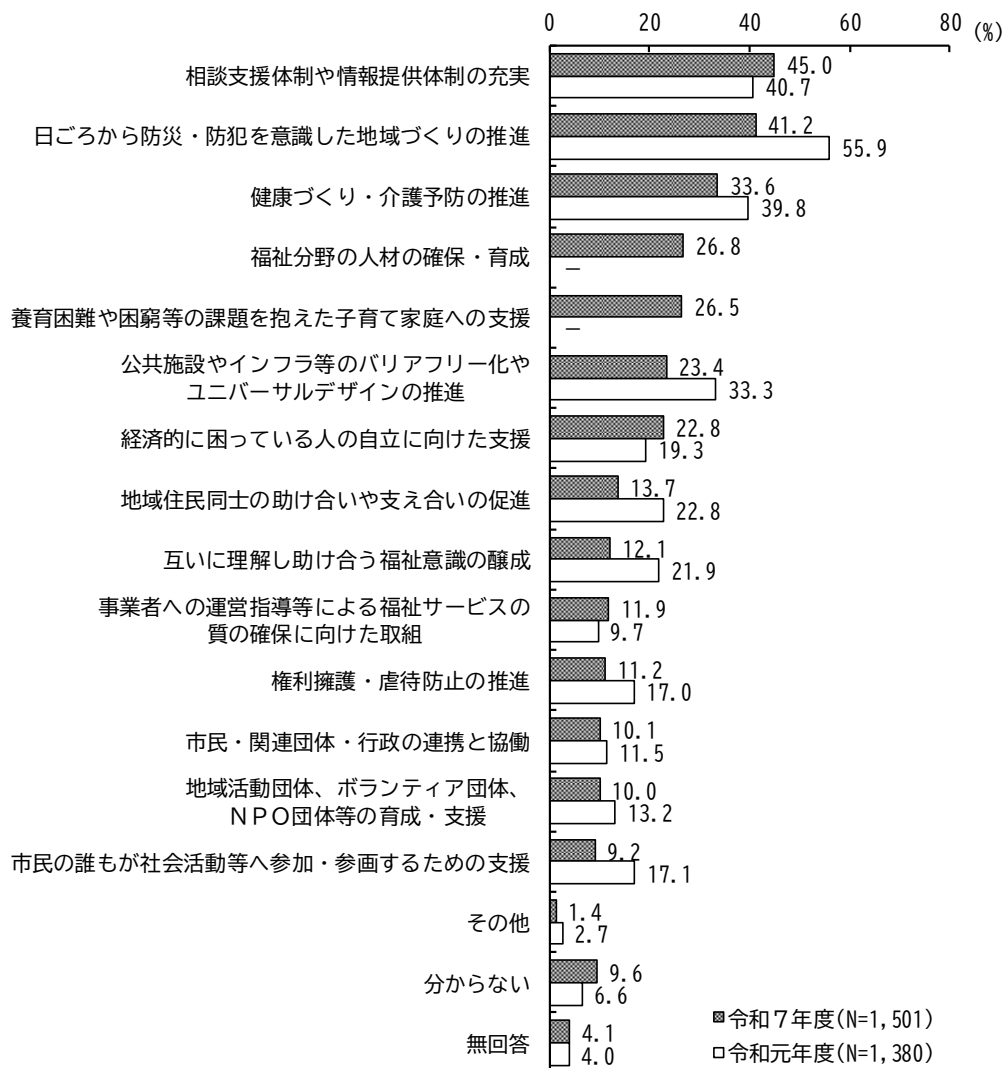


第3章 調査結果

図表 優先的に取り組むべき福祉施策（全体、性・年代別、居住圏域別：複数回答）

																			(%)
			相談支援体制や情報提供体制の充実	日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進	健康づくり・介護予防の推進	福祉分野の人材の確保・育成	養育困難や困窮等の課題を抱えた子育て家庭への支援	公共施設やインフラ等のユニバーサルデザインの推進	経済的に困っている人の自立に向けた支援	地域住民同士の助け合いや支え合いの促進	互いに理解し助け合う福祉意識の醸成	事業者への運営指導等による福祉サービスの質の確保に向けた取組	権利擁護・虐待防止の推進	市民・関連団体・行政の連携と協働	地域活動団体、ボランティア団体、NPO団体等の育成・支援	市民の誰もが社会活動等へ参加・参画するための支援	その他	分からない	無回答
全 体 (N=1,501)			45.0	41.2	33.6	26.8	26.5	23.4	22.8	13.7	12.1	11.9	11.2	10.1	10.0	9.2	1.4	9.6	4.1
性・年代別	男性	18～39歳 (n= 135)	29.6	27.4	26.7	14.8	29.6	29.6	21.5	8.1	9.6	8.9	14.1	8.9	9.6	8.1	3.0	16.3	1.5
		40～64歳 (n= 333)	44.7	46.2	33.0	25.5	24.6	23.1	24.9	13.5	13.2	12.3	11.1	10.2	9.3	8.7	2.1	10.5	1.8
		65～74歳 (n= 113)	53.1	48.7	42.5	31.0	23.0	30.1	26.5	14.2	11.5	11.5	12.4	10.6	11.5	10.6	0.9	3.5	5.3
		75歳以上 (n= 87)	57.5	39.1	51.7	33.3	24.1	17.2	28.7	18.4	17.2	6.9	4.6	10.3	13.8	14.9	1.1	8.0	5.7
	女性	18～39歳 (n= 162)	32.7	43.2	14.8	17.3	27.8	26.5	20.4	10.5	6.2	9.9	11.7	9.3	6.2	7.4	1.9	12.3	3.1
		40～64歳 (n= 369)	49.1	41.5	34.1	29.8	29.0	22.8	19.5	12.7	12.5	14.4	9.8	9.2	10.8	11.1	0.8	8.9	3.3
		65～74歳 (n= 103)	57.3	38.8	48.5	31.1	28.2	22.3	22.3	15.5	8.7	19.4	15.5	10.7	10.7	4.9	1.0	4.9	3.9
		75歳以上 (n= 172)	41.9	36.6	36.6	32.0	25.0	16.3	23.8	21.5	16.9	10.5	10.5	11.0	9.3	7.0	0.0	8.1	11.0
居住圏域別	中 央 (n= 248)		46.8	43.5	33.5	27.0	31.0	29.4	19.0	12.5	7.7	13.3	12.9	10.5	10.9	8.5	1.2	9.7	2.4
	白 糸 台 (n= 142)		42.3	44.4	35.9	24.6	30.3	14.8	23.9	11.3	10.6	9.9	12.0	5.6	12.7	8.5	0.7	12.7	2.8
	西 府 (n= 112)		40.2	39.3	28.6	26.8	25.9	25.0	25.9	8.0	7.1	14.3	12.5	7.1	7.1	8.0	2.7	9.8	2.7
	武 蔵 台 (n= 93)		47.3	44.1	39.8	19.4	23.7	19.4	20.4	12.9	14.0	10.8	10.8	10.8	6.5	7.5	2.2	11.8	6.5
	新 町 (n= 137)		46.0	41.6	40.1	24.1	27.0	16.1	27.7	13.9	16.1	9.5	14.6	8.8	7.3	9.5	0.7	7.3	4.4
	住 吉 (n= 161)		44.7	41.6	34.2	18.6	26.1	23.6	27.3	16.1	16.8	12.4	10.6	11.2	11.2	6.2	1.2	5.0	5.0
	是 政 (n= 148)		39.9	43.9	30.4	29.1	28.4	25.0	16.9	13.5	11.5	8.1	8.8	10.1	10.8	11.5	3.4	9.5	5.4
	紅 葉 丘 (n= 132)		46.2	37.9	35.6	33.3	25.0	28.0	22.7	19.7	17.4	14.4	11.4	10.6	15.2	12.1	0.0	8.3	5.3
	押 立 (n= 85)		51.8	38.8	35.3	29.4	27.1	21.2	22.4	18.8	11.8	12.9	10.6	8.2	11.8	15.3	1.2	11.8	3.5
	四 谷 (n= 73)		47.9	39.7	31.5	34.2	20.5	23.3	20.5	12.3	8.2	9.6	5.5	11.0	8.2	6.8	1.4	8.2	5.5
	片 町 (n= 162)		44.4	35.2	26.5	30.2	21.0	24.7	25.9	13.0	13.6	14.8	9.9	14.2	6.8	8.6	1.2	13.0	3.1

図表 優先的に取り組むべき福祉施策（全体：複数回答）【前回比較】



問 35 府中市の福祉やまちづくりへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

地域福祉及び福祉のまちづくりに対する意見・要望について自由記述形式でたずねたところ、全体で 278 人から 318 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。なお、文末の（ ）には、性別（F 1）と年齢（F 2）を記載している。

① 地域のつながり、地域活動に関すること：40 件

- ・ 地域の交流を深めるために様々なイベントを開催してくださっていますが、気になるのが、平日開催が多く、参加を断念することが多くあります。様々な年代間の交流を深めるためにも、土日開催を増やしていただけると嬉しいです。（女性、20～24 歳）
- ・ ボランティア活動について、定期的にメンバーとして参加はハードルが高いですが、単発やイベントの時に自由参加であれば、活動してみたいと思いました。（女性、35～39 歳）
- ・ 困窮家族だけでなく、普通の世帯でも余裕があるとは絶対的に言えないため、ボランティアの力も大事ではあるが、自治体の支援を受けながら、活動力を増やしていくことが必要であると思います。現況でボランティアをやっている経済的余裕はないです。（男性、40～44 歳）
- ・ 地域のつながりは大切であると思うが、つながることが苦痛とを感じる人もいることも理解してほしいと思う。つながりたくないからといって、地域に貢献したくないと思っているわけではない。多様な考え方を受け入れられる社会が望ましいと思う。（男性、45～49 歳）
- ・ 学校の PTA 活動と同様に自治会やボランティアに対し、無償で自主的に支えあうことが当たり前ではなくなっていると思います。市や国が介入したり、手伝いに対し有償あるいはポイント制などを取り入れた運用も考えるべきだと思います。（答えたくない、50～54 歳）
- ・ マンションが近年たくさんできて、町内会にも入らず、まったく交流もなく、町内会も高齢者ばかりになり、維持するのが難しくなるので、どうしたらいいものか。（女性、60～64 歳）
- ・ 地域のつながり合いをもっと深めて、近所に助けを必要とする人がいるのかを知ることによって、助け合いの活動ができるように、自治体が町会を通してバックアップしてほしい。（男性、70～74 歳）

② バリアフリー、ユニバーサルデザインに関すること：37 件

- ・ 歩道の段差をなくしてほしい。ベビーカーが引っかかる。斜めになる。歩道を広くしてほしい。（男性、30～34 歳）
- ・ 甲州街道の歩道が狭いので、どうにもならないとは思いますが、なんとかしてほしい。自転車の法改正もあり、あのままでは非常に危険だと思う。（女性、30～34 歳）
- ・ 分倍河原駅の立体構造、狭い構造は高齢者や乳幼児をお連れの方に対し、とても危険を感じる。官民連携で是正できないものか。（男性、35～39 歳）
- ・ 中河原駅前の交通を整備してほしい。歩道橋を使わなければ、道路の向こう側に行くことができません。横断歩道はあるが、遠回り、自転車ならまだしも、歩行者には厳しい。高齢者、障害者にはなおさらのこと。（女性、50～54 歳）

③ 福祉施策等に関すること：34 件

- ・ 子育て支援も大切だが、納税している単身者にも支援活動は必要です。子供がいないから＝

大変ではない。とは限りません。(女性、35～39 歳)

- ・ 自分自身はまだ福祉等に携わることが少ないのですが、いろいろと取り組んでいるのだと思いました。これから先に必要とすることが増えた時に充実した環境であってほしいと思いました。(女性、45～49 歳)
- ・ 福祉や医療、保健などネットワークを作り、誰もがいつまでも住み慣れた地域で、在宅で安心して暮らせることを願っています。(女性、65～69 歳)
- ・ 身寄りがないので、夫婦とも任意後見契約と死後事務業務委任契約を民間系の法人と結んでいるが、民間法人には倒産など、事業継続となるリスクが常につきまとう。このリスクを回避し、私ども契約者が、契約どおりのサービスを受けることができるような行政政策があれば、利用したい。(男性、75～79 歳)

④ 高齢者福祉、介護保険サービスに関すること：20 件

- ・ みんなで助け合える社会が理想です。福祉が充実した府中市にいつまでも住みたいです。これから高齢者となる私は、高齢者同士互いに協力して、健康づくり、介護予防になる取り組みができる場所があるといいと思います。(女性、65～69 歳)
- ・ 高齢者が多くなっていくと思うが、介護は家族がするというのではなく、いつでも入所できる施設を多くしてほしい。年金以内で入所でき、生活（医療費、お小遣いも含んで）が成り立つように。そういう府中市になってほしい。(女性、70～74 歳)
- ・ 今後とも高齢者に対する介護等の相談支援体制の維持、充実をお願いしたい。(男性、75～79 歳)

⑤ 情報の入手に関すること：17 件

- ・ いろいろな福祉サービスを提供されていると思いますが、当事者や必要としている人以外、そのほとんどを知る機会がないと思います。もっと行政側が市民のいる場所に出向いて広報活動をしないとダメだと思います。(男性、50～54 歳)
- ・ 普段から地域の情報など広報以外で知りたい。(女性、55～59 歳)
- ・ スマホを持っていない高齢者は、新聞等のメディア情報しか知りえないので、市政が何をしたのか、何をしているかがまったく分からない。(男性、70～74 歳)

⑥ 交通機関に関すること：16 件

- ・ 生涯学習センター、芸術劇場、市役所等公的なところを循環するバスがあると高齢者には便利。乗り換えたりすると必要に迫られない限り出かけるのを躊躇する。(女性、85～89 歳)
- ・ ちゅうバスの現状維持をお願いします。(男性、85～89 歳)

⑦ 子育て支援に関すること：16 件

- ・ ここ数年猛暑日が多いですが、幼児が遊べる室内施設が少ないと感じています。(女性、35～39 歳)
- ・ 府中市は子育てしやすい。子どものうちから社会との関わりに関心を持つきっかけになるような取組があるとよいと思いました。例えば、親子でボランティア活動（野菜作りや、道路脇の花植え、老人ホームのお手伝い）が積極的に募集されているといいなと思いました。(女

性、40～44 歳)

- ・ 府中市は児童公園の多くが比較的遊具も古く、少ないと思います。子どもが小さい頃は多摩市、稲城市までわざわざ行くことが多かったです。これからのためにももう少し整備を進めてほしいです。(男性、50～54 歳)

⑧ 市の姿に関すること：14 件

- ・ 毎日の仕事や生活に追われてあまり考えたことがなかったけど、みんなが希望の持てるようなまちにしてください。(男性、55～59 歳)
- ・ 芸術・文化・風土的によい環境だと思います。世界を見通したまちづくりを考えていただけたらと思います。(男性、60～64 歳)
- ・ 地域の老若男女すべての人達が安心して暮らしていける府中市を作ってほしいと思います。(女性、60～64 歳)

⑨ 障害者福祉に関すること：9 件

- ・ 障害のある子どもの居場所作り(子ども食堂)などを充実させてほしい。公園などのユニバーサルデザインのブランコ・滑り台を充実させ、障害のある子も楽しく遊べる場所を充実させてほしい。(女性、40～44 歳)
- ・ 私立の小学校、中学校に通う発達障害の子たちも、居住地公立校の、特別支援教室(通級)を利用できるようにしてほしい。(男性女性、55～59 歳)
- ・ 府中市には何パーセントぐらいの人が障害者なのか。普段ほとんど見かけることはない、共に生きる以前に、存在がないように感じている。(男性、60～64 歳)

⑩ 防災に関すること：9 件

- ・ ペット可の避難所をもっと増やしてほしい。今のところ災害にあった時は、避難しないと決めている(ペット受入れが少ないため)。(女性、40～44 歳)
- ・ 府中市は割とよく取り組んでいると思われますが、近年の高層住宅の急増で、災害時にどうなるのか、少し不安な面があります。例えば地域に愛着のない人が多い場合、独りよがりな行動が多くなるのではなど。(女性、50～54 歳)
- ・ 自宅で防災無線が聞き取りづらい状況です。(男性、65～69 歳)

⑪ 相談窓口等に関すること：7 件

- ・ 気軽に相談できる総合窓口(メールも含め)。どこに相談したらいいかわからない時に、とりあえず言える窓口があったらいいと思う。なんでも書き込んでとか。(女性、50～54 歳)
- ・ 市民それぞれの状態、時期により必要とする支援は刻々変化する。ニーズに合った支援にたどり着くまでのハードルは高い。ワンストップ窓口へ、誰でも相談できるようなシステムができるとよい。(女性、70～74 歳)

⑫ マナーに関すること：7 件

- ・ 自転車利用者のマナーが悪いので、利用マナーの徹底を促してほしい。(男性、45～49 歳)
- ・ 市内路上禁煙を徹底して誰にでも周知してほしい。(女性、50～54 歳)

⑬ 健康、医療に関すること：6件

- ・ 体育館や市民グラウンドの利用時、近隣の市区の人とも共同で利用できるようにしてほしい。
なかなか府中市民だけでは人が集められず、利用が難しい。(男性、45～49歳)
- ・ 健康づくりの遊具を公園に増やしてほしい。(女性、55～59歳)

⑭ 外国人に関すること：6件

- ・ 外国人そしてその子弟が急増している。小中学校での支援は限界があり、ボランティアによる学習支援がますます重要になっていると考える。「ボランティア=無償」の認識を改め、金銭的補助を充実させてほしい。(男性、70～74歳)

⑮ その他のまちづくりに関する要望：44件

- ・ 若者が遊べるところが増えるともっと活気が出ると思いました。(女性、30～34歳)
- ・ 市内中央部との行政サービスの格差是正。(女性、35～39歳)
- ・ 来年度からの自転車の交通違反に青切符制度が導入されますが、今の道路の状態では自転車が車道を走ることは困難だと思います。(女性、35～39歳)
- ・ 長期間放置された空き家対策。雑草が繁茂して荒れた水路敷の整備。(男性、40～44歳)
- ・ 温暖化のせいか、公園の周りや街路樹の草木が伸びすぎて、歩くのも大変なところがある。
公園などは、子どもたちの姿が見えなかったりして危険だと思う。(女性、60～64歳)

⑯ その他：36件

- ・ いつもおつかれさまです。貴重な調査に参加させていただきありがとうございました。これからいろいろな取組で府中市民を支えてください。(女性、20～24歳)
- ・ アンケートが長いので、途中でやめたくなる人も多いと思うので、もっと簡潔なアンケートにしてほしい。(男性、35～39歳)

(10) 他分野との共通設問

① 近所づきあいの現状

「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」の割合は、【障害】障害のある人の調査で 16.5% と他の調査に比べ高くなっている。

図表 近所づきあいの現状（全体）

		（％）					
		個人が いること を相談し 合え	さし 、話せ る人 がな いこ とな	道 程で のえ ば、 あい さつ をす	顔を 見さ れば 近 隣 の 人 だ と 分	あ い さ つ や 会 話 は な い が、	全 く 交 流 は な く、 近 隣 に 住
【地福】一般市民調査	(N=1,501)	7.1	25.4	42.7	12.0	11.2	1.6
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(N=2,812)	9.7	36.0	37.7	5.7	4.8	6.2
【高齢】居宅サービス利用者調査	(N=1,191)	11.8	28.5	34.5	9.6	10.2	5.5
【障害】障害のある人の調査	(N=1,413)	6.6	19.4	36.8	12.5	16.5	8.2
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査	(N= 585)	15.7	27.0	38.6	8.4	7.2	3.1

② 主観的幸福度

主観的幸福度の平均点は、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査が 7.2 点で最も高くなっている。

なお、4 点以下の割合は、【地福】一般市民調査で 11.1%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 6.0%、【高齢】居宅サービス利用者調査で 9.7%、【障害】障害のある人の調査で 18.8%、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で 16.1%となっており、【障害】障害のある人の調査で最も高くなっている。

図表 主観的幸福度（全体）

		（％）											
		0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	無 回 答
【地福】一般市民調査	(N=1,501)	1.7	0.7	0.8	4.3	3.6	15.7	9.7	17.1	24.0	9.1	12.1	1.2
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(N=2,812)	0.2	0.3	0.6	2.2	2.7	16.4	8.8	16.4	22.8	11.9	12.1	5.6
【高齢】居宅サービス利用者調査	(N=1,191)	0.2	0.7	1.8	3.6	3.4	19.3	9.6	15.2	19.6	7.4	13.4	6.0
【障害】障害のある人の調査	(N=1,413)	1.3	1.8	2.7	6.1	6.9	19.5	10.3	15.4	15.8	5.7	8.0	6.5
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査	(N= 585)	1.0	0.2	3.1	6.2	5.6	15.2	10.1	17.4	20.7	7.7	10.3	2.6
		平均点											
		6.9											
		7.2											
		6.9											
		6.2											
		6.6											

③ どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか

どこに相談したらよいか分からない悩みがある割合は、【地福】一般市民調査 14.6%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 16.1%であるが、【高齢】居宅サービス利用者調査 22.8%、【障害】障害のある人の調査 30.1%、子どもの育ちや発達に関する調査 42.4%などと高くなり、介護やケアが必要な人ほど「はい」の割合が高くなっている。

図表 どこに相談したらよいか分からない悩みはあるか（全体）

		はい	いいえ	無回答
【地福】一般市民調査	(N=1,501)	14.6	83.3	2.1
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(N=2,812)	16.1	79.2	4.6
【高齢】居宅サービス利用者調査	(N=1,191)	22.8	65.7	11.5
【障害】障害のある人の調査	(N=1,413)	30.1	59.0	11.0
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査	(N= 585)	42.4	55.9	1.7

どこに相談したらよいか分からない悩みがある人に、悩みの内容を聞いたところ、【地福】一般市民調査では「お金（財産管理・相続含む）」(37.0%)、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、【高齢】居宅サービス利用者調査では「自分の健康・病気」(52.9%・62.9%)、【障害】障害のある人の調査では「自分・配偶者の健康・病気」(54.4%)、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査では「子どもの将来の生活のこと」(76.2%)が最も多くなっている。

図表 悩みの内容（どこに相談したらよいか分からない悩みがある人：複数回答）

																	(%)	
		自分の健康・病気	家族の健康・病気	自分の学業・仕事	家族の学業・仕事	自分の障害に関すること	家族の障害に関すること	家族の介護・介助	住まい	相続金（財産管理・含む）	お金（財産管理・含む）	付き合い方	人間関係、人との	地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	侵害や偏見、人権	その他	無回答
【地福】一般市民調査		(n= 219)	21.9	16.0	9.1	5.5	6.8	13.7	19.2	17.4	37.0	19.2	9.1	17.4	4.1	8.7	8.2	
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		(n= 454)	52.9	30.2	1.3	4.4	9.3	8.4	14.1	22.0	22.9	9.0	4.0	14.8	1.8	5.5	1.8	
【高齢】居宅サービス利用者調査		(n= 272)	62.9	31.3	1.8	2.9	17.6	9.2	19.9	21.0	28.7	7.7	4.4	12.9	1.8	4.4	1.1	

	健康・病気	自分・仕事・配偶者の健康	業・仕事・配偶者の学	介護、親の健康・病後	親の健康・病後	兄弟姉妹の健康	兄弟姉妹の健康	子ども・孫の学	子ども・孫の健	健康・病気の健	子ども・孫の健	住まい	相続金（財産管理・含む）	お金（財産管理・含む）	付き合い方	人間関係、人との	その他	無回答
【障害】障害のある人の調査	(n= 425)	54.4	20.0	38.8	12.0	9.6	9.4	26.8	49.6	31.8	8.9	0.5						

	活のこ	子どもの将来の生	子どもの成長や発	学校や教育のこと	対応	緊急時や災害時の	差別や偏見	健康や医療のこと	福祉サービスの利	近所づきあい	家計のこと	養育者の健康	養育者が高齢になつた時のこ	その他	特にな	無回答
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査	(n= 248)	76.2	40.7	39.5	27.0	19.8	22.2	34.7	9.7	27.4	21.4	58.9	6.5	0.0	0.8	

④ 主觀的健康觀

主観的健康観は、《よい》（「とてもよい」と「まあよい」の計）の割合は、【地福】一般市民調査で 79.9%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 70.9%、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で 81.7%となっている。

図表 主観的健康観（全体）

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	《よい》	《よくない》
【地福】一般市民調査 (N=1,501)	14.7	65.2	16.1	2.9	1.1	79.9	19.0
【高齢】介護予防・日常生活圏域二エズ調査 (N=2,812)	7.8	63.1	22.4	4.7	2.0	70.9	27.1
【障害】子どもの育ちや発達に関する調査 (N= 585)	19.8	61.9	13.2	3.6	1.5	81.7	16.8

⑤ 暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手

困りごとの相談相手がない割合は、【地福】一般市民調査で4.3%、【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で3.2%、【障害】障害のある人の調査で11.7%、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で13.7%となっており、【障害】子どもの育ちや発達に関する調査で最も高くなっている。

図表 暮らしの問題や福祉などの困りごとの相談相手（全体：複数回答）

		(%)																											
		家族や親族	友人・知人	行政の相談窓口	地域包括支援センター	医療関係者	ケアマネジャーや福祉施設の関係者	福祉総合相談	先生	近隣の人、自治会・町会等の人	同じ悩みや問題を抱える人	地域生活支援センター	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	保健センター	子育て世代包括支援センター「みらい」	地域福祉コーディネーター	子ども家庭支援センター「はばたき」	子ども発達支援センター「はばたき」	ラッツ	市民活動センター「ブラッディ」	NPO法人	ボランティア団体・ポランディア	権利擁護センターふちゅう	地域子育て支援センター「はぐくみ」	男女共同参画センター「フチャコール」	その他	相談できる人がいない	無回答
【地福】一般市民調査 (N=1,501)		80.1	45.0	27.8	11.1	10.9	6.6	5.4	3.5	3.4	3.1	2.1	2.0	1.8	1.5	1.5	1.1	0.9	0.8	0.7	0.6	0.3	0.3	0.3	2.1	4.3	1.5		

		(%)														
		家族や親族	市の相談窓口	地域包括支援センター	友人・知人・近隣の人	薬剤師など	病院・診療所・歯科医・養老施設	ケアマネジャー（介護支援専門員）	社会福祉協議会	保健所・保健センター	ホームヘルパー（訪問介護員）	民生委員・児童委員	権利擁護センターふちゅう	その他	相談できる人がいない	無回答
【高齢】介護予防・日常生活圏域二区調査 (N=2,812)		54.0	51.1	33.4	25.9	17.8	13.2	5.3	2.9	2.8	2.8	0.5	1.1	3.2	2.4	

悩みや困りごとを相談できる人の有無（全体）

		(%)		
		い る	い ない	無 回 答
【障害】 障害のある人の調査	(N=1,413)	82.2	11.7	6.1
【障害】 子どもの育ちや発達に関する調査	(N= 585)	84.3	13.7	2.1

⑥ 今後の府中市への居住継続意向

今後の府中市への居住継続意向は、どの調査でも住み続けたいと考えている割合が 90%を超えており高くなっている。

【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と【高齢】居宅サービス利用者調査では「ずっと住み続けたい」の割合が 80%を超えており高くなっている。

図表 今後の府中市への居住継続意向（全体）

		け ず た つ と 住 み 続	み し 続 ば け ら た く い は 住	に で 移 り た ば 市 外	い 市 外 に 移 り た	無 回 答
【地福】一般市民調査	(N=1,501)	59.8	35.1	1.5	1.0	2.7
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(N=2,812)	81.9	14.2	1.1	0.4	2.5
【高齢】居宅サービス利用者調査	(N=1,191)	85.1	10.9	0.8	0.3	2.9
【障害】障害のある人の調査	(N=1,413)	61.4	26.7	2.3	0.8	8.8

⑦ 認知症について知っていること

認知症について知っていることは、【地福】一般市民調査と【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は同様の傾向である。その2調査に比べると、【高齢】居宅サービス利用者調査は、知っていることの5つの項目で割合が低くなっている。

図表 認知症について知っていること（全体：複数回答）

		(%)							無回答			
		もの 患と 知症 は、 誰に でも 起こ りう る疾	こ らな く な る や な 時 間 の ・ 症 状 が あ る か	記 憶 障 害 な る や な 時 間 の ・ 症 状 が あ る か	あ る こ と で も 高 齢 期 だ け で 若 年 性 認 知 症 が 代	に 援 助 を 受 け る よ う に な る こ と が 支	早 期 で 発 見 を 診 断 し て 適 切 な 支	あ る こ と が 認 め ら れ て い る も 予 防 が の	効 果 が 運 動 な ど で 、 予 防 が の	食 生 活 や 運 動 な ど で 、 予 防 が の	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
【地福】一般市民調査	(N=1,501)	88.7	85.5	85.0	68.0	54.7	1.8	2.9				
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(N=2,812)	85.3	82.6	81.0	70.2	49.1	2.0	2.9				
【高齢】居宅サービス利用者調査	(N=1,191)	79.9	74.6	64.5	57.8	37.1	4.1	4.9				

⑧ 認知症になった場合の暮らしへの意向

認知症になった場合の暮らしへの意向は、3調査とも「医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」が最も多くなっているが、その割合は【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で最も高くなっている。【地福】一般市民調査では「介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい」が他2調査より高く、【高齢】居宅サービス利用者調査では「家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい」が他2調査より高くなっている。

図表 認知症になった場合の暮らしへの意向（全体）

		(%)					
		域受家活が医ら必要介 でけ族し療生要護 生なやて、や活な施 活が地い暮ら介護 しら域きら護 て、のたいしサ い暮人慣れた きたしちビ たい慣のたス い慣の地を れ支た援 た援 地を	33.8	27.5	2.5	14.9	4.5
【地福】一般市民調査	(N=1,501)	16.8	33.8	27.5	2.5	14.9	4.5
【高齢】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(N=2,812)	17.0	45.7	22.6	0.8	8.9	5.0
【高齢】居宅サービス利用者調査	(N=1,191)	24.0	39.8	20.2	0.7	7.4	7.9

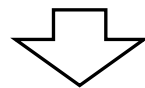
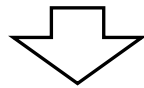
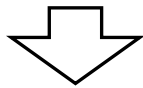
2 11 圏域別グループディスカッション

(1) 結果の概要

『地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）』としては、「地域のつながり・活動・担い手不足」、「困りごとを抱える人・世帯」について多くの課題が出された。

地域の課題をもとに話し合った『地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること』でも「地域のつながり・活動の活性化、担い手充実」、「困りごとを抱える人・世帯の支援」について多くの解決策、できることの意見をいただいた。

地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯） ※5圏域以上で出された意見			
困りごとを抱える人・世帯	地域のつながり・活動・担い手不足	防災・防犯の課題	地域資源・インフラの課題
・ 高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加 ・ 孤独・孤立している人・世帯の存在 ・ 障害者支援の課題 ・ 子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性 ・ 情報格差がある	・ 自治会・町会等への加入者の減少、存続不安 ・ 居場所、交流の機会の不足 ・ シニアクラブへの加入者の減少、存続不安 ・ 地域の担い手不足、参加者が少ない（若い人等）、無関心 ・ 地域のつながりの希薄化 ・ 地域の人がわからない、個人情報の壁あり ・ 地域活動団体、関係機関の連携不足 ・ 地域・活動の情報の収集と発信が困難	・ 防災対策、災害時要援護者の課題 ・ ゴミ等のマナーが悪い ・ 防犯対策が必要（詐欺が多い等） ・ 交通マナーが悪い	・ 道路の危険、整備が不十分（バリアフリーの課題） ・ 買い物が不便、店が少ない ・ 交通の便が悪い、移動困難 ・ 空き家の増加



地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること ※5圏域以上で出された意見			
困りごとを抱える人・世帯の支援	地域のつながり・活動の活性化、担い手充実	防災・防犯対策	地域資源の活用・インフラ整備
・ 見守り・訪問・傾聴 ・ 買い物支援、移動販売の充実 ・ 助け合い活動 ・ 高齢者支援、認知症支援等 ・ 困りごと、地域課題を解決する仕組みづくり	・ あいさつ、声かけ、関係づくり ・ 行事・イベントの実施等 ・ 交流・居場所づくり ・ 地域活動団体、関係機関同士、行政の連携強化 ・ （地域）情報の発信の工夫 ・ 自治会・町会等の活性化（団体同士の連携） ・ 担い手の確保・育成、若い世代 ・ （個人）情報の提供及び共有の仕組みづくり ・ シニアクラブの活性化 ・ 活動への参加	・ 防災・災害時対応（防災訓練、防災について話し合える場づくり、情報の周知、避難行動要支援者への対応策の検討）	・ 文化センター等の地域資源の活用（拠点化） ・ 空き家・スペースの活用 ・ 公共交通の充実、移動支援 ・ 道路整備、バリアフリーの推進

(2) 結果（主な意見）

① 地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）

「自治会・町会等への加入者の減少、存続不安」、「高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加」がすべての圏域であげられている。

◆各圏域で挙げられた意見の項目一覧

項目		中央	白糸台	西府	武蔵台	新町	住吉	是政	紅葉丘	押立	四谷	片町	圏域数
地域のつながりの不足	地域のつながりの希薄化	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	—	8
	地域の人がわからない、個人情報の壁あり	○	—	○	○	○	○	○	—	○	—	○	8
	居場所、交流の機会の不足	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	10
地域活動団体の課題	自治会・町会等への加入者の減少、存続不安	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	シニアクラブへの加入者の減少、存続不安	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	10
	地域の担い手不足、参加者が少ない（若い人等）、無関心	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	9
	地域・活動の情報の収集と発信が困難	○	○	—	○	—	○	○	—	—	—	○	6
	地域活動団体、関係機関の連携不足	○	○	○	—	○	—	—	○	—	○	○	7
	活動者特有の課題	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	2
困りごとを抱えている人、世帯	孤独・孤立している人・世帯の存在	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	認知症に対する理解不足、対応への不安	—	—	—	—	○	○	○	—	—	○	—	4
	障害者支援の課題	○	○	○	○	—	—	—	—	—	○	○	6
	子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性	—	○	○	○	—	○	—	○	○	—	—	6
	外国人の方への支援	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	2
	食に困っている方への援助	○	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	3
	複雑な課題、複合的な課題を抱える世帯の存在	—	—	—	—	—	○	○	○	—	—	○	4
	団地、集合住宅の課題	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	○	2
	相談先がない、わからない	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	○	3
情報の課題	情報格差がある	—	—	—	—	○	—	○	○	—	○	○	5
防災・防犯等の課題	防災対策、災害時要援護者の課題	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	防災対策が必要（詐欺が多い等）	○	—	○	—	○	○	—	—	—	—	○	5
	ゴミ等のマナーが悪い	○	○	○	—	—	○	○	—	○	—	—	6
	交通マナーが悪い	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	○	5
地域資源、インフラの課題	空き家の増加	○	—	○	○	—	○	○	—	—	○	○	7
	地域資源不足（医療、福祉）	—	○	—	—	—	—	—	○	○	—	○	4
	買い物が不便、店が少ない	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	交通の便が悪い、移動困難	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	10
	道路の危険、整備が不十分（バリアフリーの課題）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11

◆各項目の具体的な内容（5 圏域以上で出された意見）

項目		内容
地域のつながりの不足	地域のつながりの希薄化	・ アパートやマンションの人たちとの交流が少ない ・ 転居してきた若い家族と交流がない ・ 近所であってもコミュニケーションが極めて少ない ・ コロナ以降、近所付き合いが薄くなっている ・ 新旧住民間の隔たりがある
	地域の人がわからない、個人情報の壁あり	・ 知りあいが少なくなった（引っ越し） ・ 自治会入会時に家族構成が不明 ・ 自治会と民生委員で持っている個人情報異なる ・ 活動するための情報がないって来ない、個人情報の壁 ・ 課題を抱えていそうな人がいても近所に状況を聞けない
	居場所、交流の機会の不足	・ 気軽に集まれる場が少ない ・ 誰もがふらっと立ち寄れる場がない ・ 暑いときに避難や学習（子ども）する居場所が欲しい ・ 文化センターが使いづらい ・ 子ども・若い人と大人・高齢者の交流機会がない
地域活動団体の課題	自治会・町会等への加入者の減少、存続不安	・ 自治会の加入者が少ない ・ 自治会加入のメリットがみえにくい ・ 自治会・町会への参加方法が分からない ・ 自治会の担い手不足（役員等）、後継者不足 ・ 若い世帯（転入）の未加入・高齢者世帯の退会
	シニアクラブへの加入者の減少、存続不安	・ シニアクラブに入る人が少ない、後継者がいない ・ シニアクラブの担い手不足（高齢化）、役員選出が困難
	地域の担い手不足、参加者が少ない（若い人等）、無関心	・ 集まり、行事・イベントへの参加者が少ない、出てくる人が毎回同じ ・ 担い手不足、地域ボランティアの限界 ・ リーダーになる人が出てこない ・ 活動に若い人の参加が少ない ・ 男性の参加が少ない ・ やる気のある人たちが地域活動に出てこられない
	地域・活動の情報の収集と発信が困難	・ 地域活動の情報が取れない ・ 地域の施設の活用方法の知識が不十分 ・ 民生委員の名前と顔を覚えてもらえない ・ 誰が地域の支援者か分かりづらい
	地域活動団体、関係機関の連携不足	・ 民生委員と町会の連携が不十分 ・ 地域住民と学校とのつながりがない ・ 大学や高校と連携ができない
困りごとを抱えている人、世帯	孤独・孤立している人・世帯の存在	・ 他者の介入を拒否し、状態が悪化している人が多い ・ 困っていることを伝えられない人がいる（高齢者、子どもの保護者等） ・ 課題を課題として理解できない人がいる ・ 孤独な人が増えている、しかし対応方法がわからない
	高齢の単身者や高齢者のみ世帯の増加、見守りの必要性、身寄りのない方の増加	・ 高齢者のひとり暮らし、高齢夫婦のみ世帯が増えている、地域とつながらず孤立している世帯も多い ・ 身寄りのない高齢者が多い ・ 外出を控えている、外出が難しい高齢者が多い ・ 高齢者の見守り、声かけが難しい、急病時の対応等課題 ・ 老々介護が増えている
	障害者支援の課題	・ 障害が重いほど地域のつながりが少ない ・ 小さい頃から障害のある方と接する機会がない ・ 障害者への情報提供が課題、災害放送は聞こえない

項目		内容
困りごとを抱えている人、世帯	子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性	・子どもが少なくなっている ・子どもの生活が見えづらい ・子どもに声をかけると不審者と思われる ・共働き世帯が増え、放課後の子どもの居場所が必要 ・不登校の子どもが増えている
情報の課題	情報格差がある	・テレビしか見ない、インターネットができない人が多い ・スマートフォン、パソコンが使えないと情報が入らない ・情報を調べられるが正しい内容なのか判断が難しい ・情報が必要な人に届かない ・情報リテラシーが不足している
防災・防犯等の課題	防災対策、災害時要援護者の課題	・防災に対する意識が低い ・災害時の助け合いができるか不安 ・避難所に行けない、避難所が遠い ・水害への不安が大きい、避難場所への不安 ・要支援者の避難をどのように支援するのか
	防犯対策が必要（詐欺が多い等）	・詐欺が多く電話連絡ができない、ドアを開けてもらえない ・夜間は暗い通りが多い ・地域パトロール、警察の巡回がない
	ゴミ等のマナーが悪い	・ゴミのポイ捨てがある ・ペットのふんを取らない人がいる
	交通マナーが悪い	・自転車のマナーが悪い人がいる（歩道を走る、無灯火等） ・駐車違反が多い
地域資源、インフラの課題	空き家の増加	・空き家が多い ・不安な空き地がある
	買い物が不便、店が少ない	・買い物が不便（スーパー、商店、コンビニがない等） ・買い物に行くのが不安な人がいる
	交通の便が悪い、移動困難	・バス便がない、少ない ・公共交通不足、圏域が広い、高低差のため、拠点施設（駅、文化センター等）・活動場所までの移動が困難
	道路の危険、整備が不十分（バリアフリーの課題）	・横断歩道を渡る時間が短い ・標識が見えにくい ・駅のバリアフリー化が進んでいない ・歩道が狭くバリアフリーになっていない ・歩道と車道の境目の点字ブロック、音響信号、横断歩道へのエスコートゾーンの設置が必要 ・自転車道の整備が必要

◆各圏域の特徴的な意見

中央	・ 障害者の暮らしを支える人材が全く足りない ・ 重度重複障害者が最後まで暮らせるところが市内にはほぼない ・ 障害がある方の介護予防活動の場がない ・ 耳が聞こえにくい人へのサポートが必要 ・ 詐欺などが多くて不安・電話にでない ・ 高齢になっても、障害があっても住める場所が足りない ・ 食に困っている方への援助
白糸台	・ 学校と地域との協力・連携が少ない ・ 困っている人がどこに相談すればいいか分かりにくい ・ ターミナル駅がないため診療科目によっては医療機関が少ない
西府	・ 地域と学校のつながりがない ・ フードドライブを宣伝しているが集まらない ・ 交番がそばにない、防犯に不安 ・ 福祉サービス事業所の職員が集まらない ・ 小学校のグラウンドの土がぬかるみやすい
武蔵台	・ 道路整備の情報が入ってこない ・ 武蔵台2・3丁目には地域的課題がある（地形、避難所遠い等） ・ 障害を抱えている親子がサービスにつながつていない ・ 介護サービス（ヘルパー・ケアマネ等）が来てくれない地域がある
新町	・ 認知症高齢者に対する理解が進まない ・ 情報格差がある ・ 外国人支援の課題がある
住吉	・ 孤立から多様な課題が生まれている ・ 8050 問題の世帯が見られる ・ 生活拠点となる場所が少ない ・ 郷土の森の近くなので動物が多い（タヌキ、アライグマ、ハクビシンなど）
是政	・ 複合的な課題を抱えている世帯がいる ・ ひとり暮らし高齢者が日常での困りごとをどこに相談したらいいのか分からない ・ 必要な情報が届かない ・ 圏域の区割りが地域の実態と異なる
紅葉丘	・ 子どもの課題（居場所、ひきこもりの児童） ・ 8050 問題、ひきこもり（独居）の方など、課題を抱える世帯がいる ・ 福祉サービス、医療機関が少ない
押立	・ 子どもの課題（不登校）、子育て支援が必要 ・ 外国人世帯が課題を抱えている ・ 団地の階段に苦勞している方が多い、 ・ 集合住宅の管理費があがっていく ・ 医療機関が少ない
四谷	・ 小学校PTAが機能していない ・ 障害者への連絡ツールが不十分
片町	・ 生活困窮者への対応に課題 ・ エレベーターのない建物に住んでいて外出が困難になる方がいる ・ 困りごと相談をどこにすればいいのか分からない方が多い ・ 駅周辺のハードに問題がある、再開発の情報が届かない ・ 地域の安心に不安がある ・ 医療機関が少ない

② 地域の“ちから”（人・場所・活動）を活かしてできること

「あいさつ、声かけ、関係づくり」、「行事・イベントの実施等」がすべての圏域であげられている。

◆各圏域で挙げられた意見の項目一覧

項目		中央	白糸台	西府	武蔵台	新町	住吉	是政	紅葉丘	押立	四谷	片町	圏域数
地域のつながりづくり	あいさつ、声かけ、関係づくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	行事・イベントの実施等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
	交流・居場所づくり	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	（個人）情報の提供及び共有の仕組みづくり	○	－	○	○	○	○	○	－	－	○	○	8
地域活動の活性化	（地域）情報の発信の工夫	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	－	9
	自治会・町会等の活性化（団体同士の連携）	○	○	○	－	○	－	○	○	○	○	○	9
	シニアクラブの活性化	○	－	○	－	－	－	○	－	○	－	○	5
	活動への参加	－	○	－	－	○	－	○	－	○	○	－	5
地域の担い手の充実	担い手の確保・育成、若い世代	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	○	9
	民間施設、企業との連携、活用	－	－	－	○	－	－	○	○	－	－	○	4
	地域活動団体、関係機関同士、行政の連携強化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	10
	地域参加への意識啓発	○	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	3
	地域活動、ボランティア活動の有償化（ポイント）	－	－	－	－	－	－	○	○	－	－	○	3
困りごとを抱える人、世帯の支援	見守り・訪問・傾聴	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	10
	助け合い活動	－	○	－	○	○	○	○	○	－	○	－	7
	高齢者支援、認知症支援等	－	－	○	○	○	○	○	－	－	○	○	7
	障害者支援	○	○	○	－	○	－	－	－	－	－	－	4
	子ども支援	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	2
	買い物支援、移動販売の充実	○	○	－	○	－	○	－	○	○	○	○	8
	食の支援	○	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	2
	困りごと、地域課題を解決する仕組みづくり	－	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○	7
防災・防犯等の対策	防災・災害時対応	－	○	－	－	○	○	○	－	○	○	○	7
	マナー対策	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	○	4
	防犯対策	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	2
地域資源の活用	空き家・スペースの活用	－	－	○	○	○	－	○	－	○	○	○	7
	文化センター等の地域資源の活用（拠点化）	○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	－	8
	公共交通の充実、移動支援	○	○	○	○	－	－	－	○	○	○	－	7
インフラ等整備	道路整備、バリアフリーの推進	○	○	－	－	○	○	－	－	－	○	－	5
	外出しやすい環境（休憩所・ベンチ・日よけ）整備	－	○	－	○	－	－	－	－	－	○	－	3

◆各項目の具体的な内容（5 圏域以上で出された意見）

項目		中央
地域のつながりづくり	あいさつ、声かけ、関係づくり	・「笑顔であいさつ」からつながりの一歩を踏み出す ・集合住宅などの方、すれ違ったら、あいさつ ・となり三軒両隣で日頃より話す機会を増やして助け合う ・個人情報も大事だが気になる時は思い切って声をかける ・地域行事の参加を促し、交流する、誘い合う
	行事・イベントの実施等	・地域の盆踊り、もちつき会、運動会 ・地域のコミュニケーションを取るためのイベント ・参加しやすいイベントの企画（場所・時間帯） ・新しく入られた市民の力を活かしたい・盆踊り・若い方たちが気軽に参加できるイベント ・コアイventoに様々な工夫を追加して開催 ・文化センターまつり、子どもたち体験→地域への愛着
	交流・居場所づくり	・交流の場を作る（横のつながりに） ・集まれて、居場所となるところの創出 ・個人の悩みを吐き出せる場所をつくる ・世代間のコミュニケーション ・お茶会、サロン、カフェ（子ども、高齢者、多世代） ・集会所・空き家を活用した居場所づくり
	（個人）情報の提供及び共有の仕組みづくり	・個人情報の共有のルールを決める ・高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者の情報共有（見守りなど）、サロンへのお誘い ・情報の共有化（民生委員・自治会・老人クラブ・地域包括支援センター（個人情報関係のデータ）） ・情報を共有できる機会を増やす
地域活動の活性化	（地域）情報の発信の工夫	・各組織の活動内容をタイムリーに知らせる仕組みをつくる ・若い人に届くメディアを使う ・高齢者にもわかりやすい情報伝達（重要なお知らせはマンツーマンで） ・SNS 発信。時間と空間の不足をソーシャルメディア等で補う ・チラシ配布、活動の予定を知らせる
	自治会・町会等の活性化(団体同士の連携)	・自治会やシニアクラブ加入のメリットをつける ・自治会、管理組合（マンション）の連携、防災対策 ・自治会のイベントを増やす、誰でも参加できるよう配慮 ・町会活動の積極的広報活動
	シニアクラブの活性化	・60 歳を超えた人にシニアクラブ加入の案内状を出す ・シニアクラブで相互交流しながら、ひとり暮らし対応 ・シニアクラブでの輪投げ、健康マージャン等の活動
	活動への参加	・行事があったら参加する、協力する ・シニアクラブ活動が参加することで元気になった ・わがまち支えあい協議会に参加する ・身近な場所で活動できるようにする
地域の担い手の充実	担い手の確保・育成、若い世代	・できない、苦手な人とできる、得意な人をつなげる仕組み ・若い人を活用する（各種行事等） ・高校生・大学生を巻き込む、学生ボランティア ・若い人が参加しやすい行事、日程を考える ・退職直後の元気高齢者を地域活動に巻き込む ・ボランティアの有効な活動の検討（趣味や広報） ・新しく入られた市民の力を活かしたい・盆踊り・若い人が気軽に参加できるイベント

項目		中央
地域の担 い手の充 実	地域活動団体、関係機関同 士、行政の連携強化	・ 地域団体の集約（コミ協、自治体、社協、ボランティア…） ・ わがまち支えあい協議会と地域の関係機関や活動団体が連携する ・ 文化センター中心に各活動団体が連携する、課題解決づくりができる仕組みを作る ・ 担い手の人たちの顔合わせ（情報共有）、地域パーティの開催 ・ デジタル化によるコミュニケーションの推進
困りごと を抱える 人、世帯の 支援	見守り・訪問・傾聴	・ 見守り活動（児童・学童・年配者）で声かけをする ・ 支援する人とされる人の時間のすり合わせ（訪問時間など） ・ ひとり暮らしの人の見守りをする ・ 見守りの仕組みづくり（自治会・シニアクラブ・ささえあいの会それぞれで取り組む）
	助け合い活動	・ ささえあいの会の活用 ・ ちょこっとお手伝い ・ お助け隊をつくる ・ share（シェア）の仕組みづくり（もの・こと）してあげ隊・してもらい隊
	高齢者支援、認知症支援等	・ 高齢期を迎えるリスク対策の啓発 ・ 高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者の情報共有（見守りなど）、サロンへのお誘い ・ 高齢者にもわかりやすい情報伝達 ・ 健康づくり活動、介護予防講座 ・ 認知症講座の開催 ・ 地域活動者に認知症の方への対応を伝える
	買い物支援、移動販売の充 実	・ 移動販売車の充実、拡大 ・ 買い物支援 ・ ネットスーパーの利用の促進
	困りごと、地域課題を解決 する仕組みづくり	・ コーディネーターに情報を集約する ・ 問題解決に向けたニーズを把握するための調査を実施する ・ 「助けてほしい」気持ちを表出できるような呼びかけを行う ・ ワンストップ相談窓口の設置、困りごと相談会の開催 ・ 困りごとを抱える人、世帯の支援について、関係者で検討できる仕組みづくり
防災・防犯 等の対策	防災・災害時対応	・ 防災訓練等を通じて横のつながりを強める ・ 防災について（近所で）話し合える場づくり ・ マイ・タイムラインの作成 ・ 防災、避難所の情報の周知（団体への周知、講座、掲示板の活用等） ・ 避難行動要支援者への対応策の検討
地域資源 の活用	空き家・スペースの活用	・ 空き家を活用し若い人を増やす ・ 空き家のリノベーションによる居場所、飲食店をつくる ・ 団地の空いている部屋の運用 ・ マンションの集会所の利用
	文化センター等の地域資源 の活用（拠点化）	・ 文化センターを気軽に立ち寄れる場所にする（ふらっと集える） ・ 文化センター内に地域の人がいつでも使える部屋を設ける（雑談したり、相談したり、作業したり） ・ 公共施設（図書館、公会堂、市役所当）の空き室、空きスペースの活用
	公共交通の充実、移動支援	・ ちゅうバスの維持、本数増 ・ ちゅうバスのルートの見直し
インフラ 等整備	道路整備、バリアフリーの 推進	・ 道路の段差を滑らかにする ・ 自転車道の整備

◆各圏域の特徴的な意見

中央	・ 市民の意識を変える～受け身から能動へ ・ フードパントリー、子ども食堂など食への援助 ・ 今ある施設に障害者が入れるところを増やす ・ 耳が不自由な方のために QR コードを活用して通訳につなげる等の支援を行う ・ 自転車のマナー教室の開催
白糸台	・ 若い家族が増えてきているが、地域の人との話し合える場所を作り自治会等に入る人を増やす ・ 生活の困りごと発見と解決のしくみをつくる ・ 公民館、避難所にインターネットを整備する ・ 地域の障害者施設と地域がつながる ・ ゴミルールを決める ・ 買い物ルートに休憩できるスペースやベンチを設置
西府	・ 学校職員、PTA、自治会の合同パトロールを行う ・ 高齢期に向けたリスク予防・備えへの啓発をする ・ 聞こえない人のために「見える」形式で情報を出す ・ 子ども食堂への参加を増やす ・ 介護現場、福祉現場を改善する
武蔵台	・ 武蔵台2・3丁目の町会をつくる ・ スーパーの飲食スペースを活用する ・ 武蔵台地区にコミュニティバスを走らせる
新町	・ ささえあいの会のチラシを全戸ポスティング配布 ・ ささえあいの会に各団体から情報を流してもらう ・ 地域で高齢者支援できている自治会の情報を把握して、好事例を共有する ・ 町会・自治会のあり方を検討する ・ 学校で生徒たちにもメリットとなるイベントを作る・一緒に行う ・ 高齢者施設との連携、施設へのボランティア訪問活動
住吉	・ 個人、団体の発信できる力を育てる ・ 住吉スポーツクラブと地域イベントのコラボを行う（子ども 100 人弱） ・ 要介護、要支援高齢の担当者会議に地域の支援者が参加する仕組みを構築する
是政	・ 幼稚園へ中学校の防災訓練などで地域防災の役割を伝え、自治会への入会や PR をする ・ サロン、地域祭りなどに一般企業に入ってもらう ・ お助け隊をつくる、若い人が高齢者を助けるで、買物の手伝いをする、1 回 500 円など有料で行う
紅葉丘	・ 民間企業に協力いただく ・ ボランティア活動をするたびにスタンプを発行する（褒美は市や商店街の協力を得る）
押立	・ ちょっとした“できる”を活かして自主的活動を広める ・ 企業・施設を誘致して場所をつくる
四谷	・ 自治会と小中学校の連携を前向きに考える ・ コミュニティバス、乗合
片町	・ 地域で交通安全教室を学ぶ機会を設ける ・ ひとり暮らし同士でゆるくつながるコミュニティのしくみをつくる ・ 介護サポーター制度を導入する、導入によって地域のタイアップ、行政の負担軽減となる ・ コミュニティに所属したくない人が所属したり登録できるような仕組み、場づくり

(3) 参加者アンケート結果

① 回収状況

回収数 117 人分

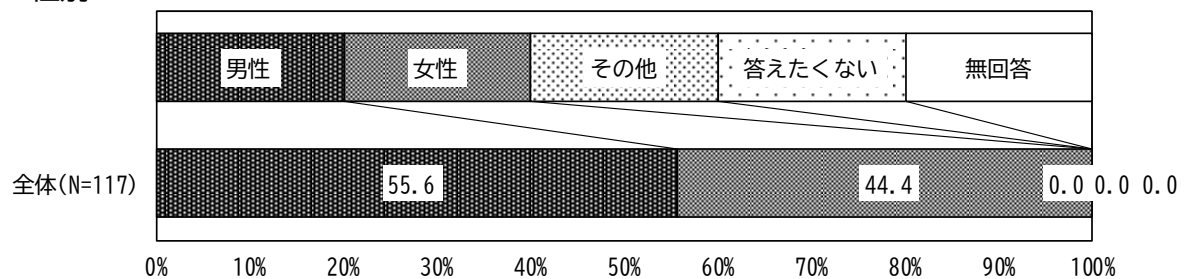
② 基本属性

参加者の性別は、「男性」が 55.6%、「女性」が 44.4%となっている。

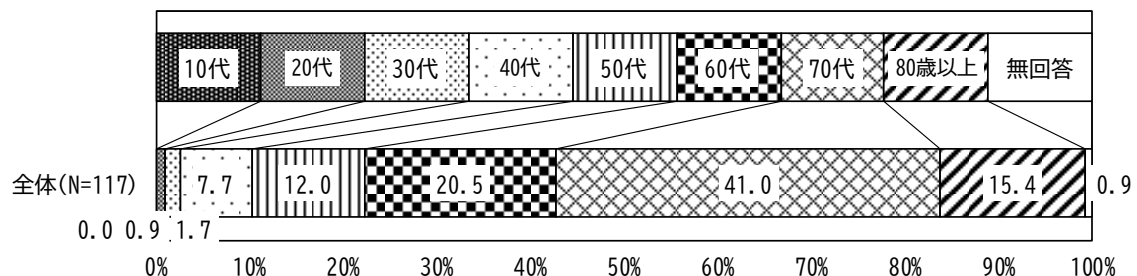
年齢は、「70 代」が 41.0%で最も多く、「60 代」が 20.5%と続いている。

地域活動（所属団体）は、「自治会・町会等」（23.9%）が最も多く、「コミュニティ協議会」と「わがまち支えあい協議会」が同率（22.2%）で続いている。

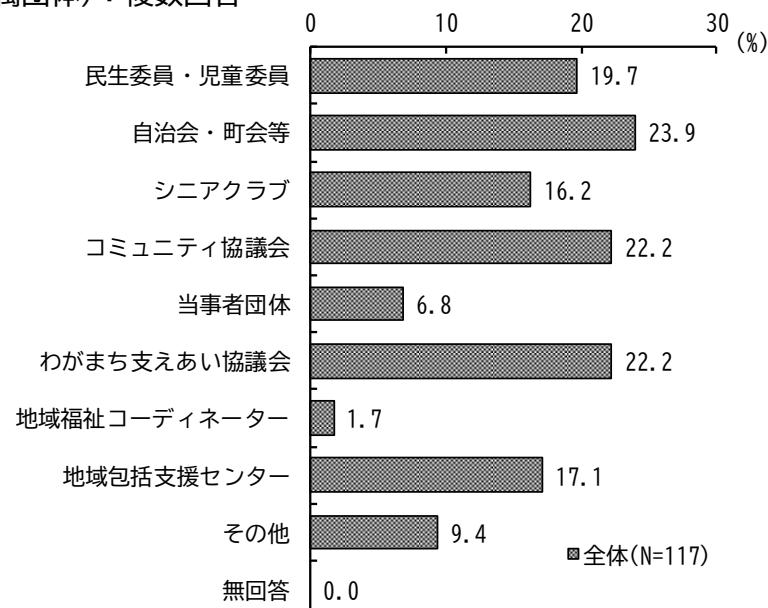
■性別



■年齢



■地域活動（所属団体）：複数回答



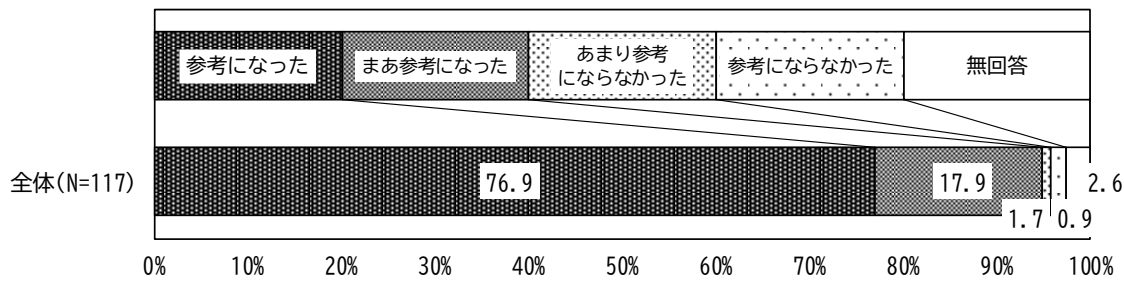
③ グループディスカッションの内容

グループディスカッションに参加して参考になった程度は、「参考になった」が 76.9%、「まあ参考になった」が 17.9%であり、合計すると 94.8%が参考になったと回答している。

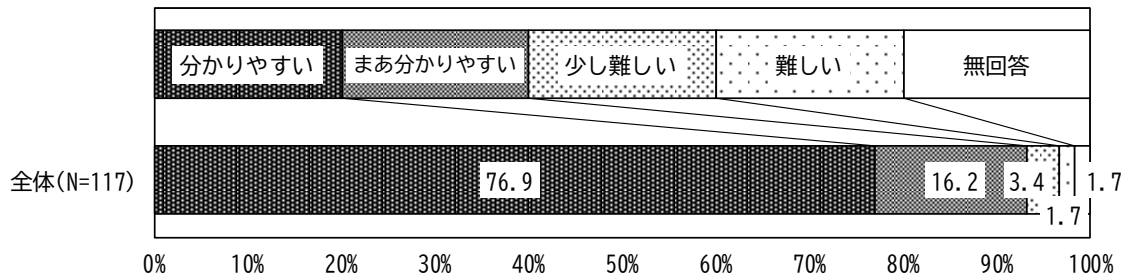
意見を書いて紙に貼りながら進める話し合いの方法の分かりやすさは、「分かりやすい」が 76.9%、「まあ分かりやすい」が 16.2%であり、合計すると 93.1%が分かりやすいと回答している。

今後のグループディスカッションの開催の必要性は、「必要である」が 95.7%であり、ほとんどの方が必要性を認識している。

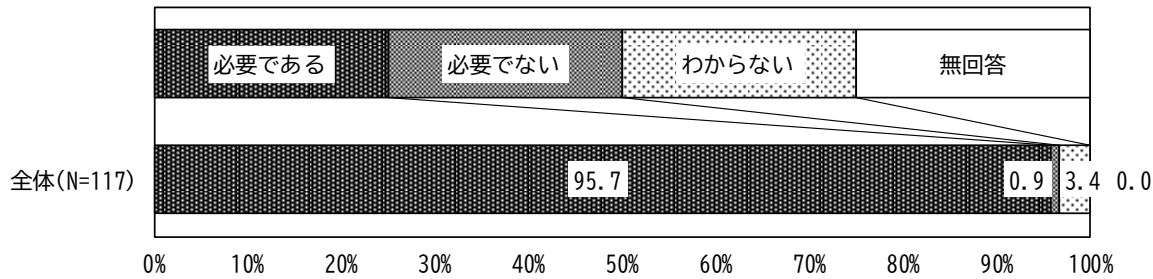
■グループディスカッションに参加して参考になった程度



■意見を書いて紙に貼りながら進める話し合いの方法の分かりやすさ



■今後のグループディスカッションの開催の必要性



④ 感想・意見

◆参考・勉強になった（20 件）

- ・ 色々な意見（アイデア）が出て、勉強になりました。
- ・ とても有意義な自分自身も勉強になり、ありがとうございました。
- ・ 地域の気づいていないことに気づきました。意外と有効施設がありました。
- ・ 他の方のご意見等をお聞きでき、参考になりました。
- ・ 他の地域、団体同士の意見を直接聞けたので参考になりました。

◆グループディスカッションで出た意見を活用してほしい（14 件）

- ・ 話したことを一人でも多くの一般の方へ伝える方法を考えてもらいたい。
- ・ 今回出た問題点や改善案をぜひ実現してほしい。
- ・ 市民の声を聞く機会で、参加したことで、課題に気づいたり、なぜそうなっているのかを考えるなど、様々な立場の方達から話を聞くことで明確になると感じます。課題解決のための計画や施策になることを期待しています。
- ・ すべての意見について評価をお願いしたい。このディスカッションがどのように反映されたのか何かの機会に発表してほしい。

◆課題共有できてよかった（13 件）

- ・ 問題・課題の共有、見える化はとても大切であり、貴重な機会でした。
- ・ 皆さんが同じような悩み、困難さを抱えながら活動されていることが分かった。
- ・ 現状の制度やルールでは対応できない様々な課題があふれているので、本日、いろいろな意見を聞くことができ、勉強になりました。
- ・ 多くの方が出席し、地域の課題が共有できたことがよかった。

◆継続的にグループディスカッションを開催してほしい（12 件）

- ・ グループディスカッションを続けることが大事だと思います。
- ・ 日頃から関係機関が集まって話のできる場（定期的に）があるとよいと思います。
- ・ 1 回だけの打合せではなく継続的に取組をしてほしい。

◆今後は小規模でグループディスカッションを開催してほしい（5 件）

- ・ 武蔵台圏域でのディスカッションを考えます。
- ・ 片町は片町、住吉町は住吉町で、単独でできればよいと思います。
- ・ 小さな地域でこのような会ができるとよいと思います。

◆グループディスカッションの方法について（11 件）

- ・ 地域の課題の抽出、対応策を話し合うことは建設的でよかった。
- ・ 意見を明確に分類できて、思考を先に進めやすく、よいディスカッションになった。
- ・ 時間が短い。
- ・ グループディスカッションが苦手な方もおり、配慮が必要かと思いました。

◆グループディスカッションに参加してよかった（8件）

- ・ 貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。
- ・ 他の地域の方の意見を聞くことができてよかった。
- ・ 参加して良かったです。

◆話し合った具体的な内容について（6件）

- ・ 男女終身労働時代になり、なり手がいない。特に次を託す 40～50 代が入ってこない。行政の協力を得て、構成員が仕事をしていても活動できる組織にしていかなければならない。このままだと社会福祉ボランティア団体はすべて無くなってしまう。
- ・ 「個人情報保護」が活動の邪魔になるかのような発言が相次いだが、私は経験したことがない。「個人情報」の言葉に「尻込み」をしているのではないかと思った。
- ・ 大変勉強になりました。自治会と民生委員、地域包括支援センターとの個人情報共有が問題点。

◆圏域別データについて（3件）

- ・ 圏域データに単身世帯数、高校や大学の情報もあるとよいと思います。
- ・ 自分たちの圏域のデータを見ることができてよかったと思いました。地域を考えると、高齢者とともに、どう資源を生かしていくのか大きな課題ですが、今日のことを参考にさせていただきます。

資料編 アンケート調査票及び集計結果

「あなたの声が未来をつくる」 福祉に関するアンケート調査

<調査についてのお願い>

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

市は、令和3年度を初年度とする「地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」において『みんなでつくる、「共に生きるまち」』を理念とし、様々な地域福祉及び福祉のまちづくりに係る取組を進めています。

このたび、令和9年度から令和14年度までの計画を新たに策定するに当たり、市民の皆様の地域福祉及び福祉のまちづくりに対するご意見を伺い、新しい計画策定の参考とすることを目的として「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査」を実施することとしました。

この調査は、令和7年10月1日現在、府中市にお住まいの18歳以上の市民の皆さまの中から3,000名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理するとともに、「個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に取り扱い、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和7年10月 府中市

※この調査はインターネット及び郵送のいずれかでご回答いただけます。

調査の流れにつきましては、次ページに記載がございますので、ご確認をお願いします。

回答に当たってのお願い

1. **封筒のあて名ご本人**がご回答ください。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。何らかの理由でご本人が記入できない場合には、ご本人の意思を反映してご家族や周りの方が代わりに記入してください。また、回答が難しい場合には、下記の【問合せ先】にご連絡ください。
2. 回答は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。○の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。また、「3つまで○」など、○の数が指定されている設問は、あなたの考えに近いものや優先したいものを選んでご回答ください。
3. 「その他」に○印をつけた場合は、〔 〕内に内容を具体的に記入してください。
4. この調査は全体で40～50問であり、回答には約20分程度かかります。

11月4日（火）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

【問合せ先】

府中市福祉保健部地域福祉推進課

TEL 042-335-4161

FAX 042-335-7802

E-mail: tiikifuku01@city.fuchu.tokyo.jp

インターネット回答用 ID

00000



インターネット（パソコン・スマートフォン等）で答える

①調査票サイトにアクセスする

以下のURLか二次元コードを読み取り、調査票サイトにアクセスします。

URL : <https://jp.surveymonkey.com/r/VYGYCR3>



②ログイン・回答する

調査票サイトのはじめに、表紙（前ページ）の右下に記載がある「インターネット回答用 ID」を入力し回答を開始してください。

調査票の表紙右下に記載がある「インターネット回答用 ID」を入力してください。

ID

【インターネット回答に関するご注意】

1. 回答内容は自動で保存されるため、回答を途中で中断しても同じ端末でログインすると、続きから回答できます。
2. インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。
3. 「インターネット回答 ID」は無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。どなたがどのIDであるかは照合できません。



調査票に記入して郵送で答える

1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆をお願いします。
2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください。（切手は不要です。差出人名は無記名で結構です。）

はじめに、あなたご自身のことをおたずねします

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。(1つに○)

*戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

(N=1,501)

1. 男性	44.5%	2. 女性	53.7%	3. その他	0.2%	4. 答えたくない	1.2%
						無回答	0.4%

F 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。(1つに○)

*令和7年10月1日現在の年齢でお答えください。

(N=1,501)

1. 18～19歳	0.6%	7. 45～49歳	8.9%	13. 75～79歳	8.7%
2. 20～24歳	3.5%	8. 50～54歳	9.9%	14. 80～84歳	5.4%
3. 25～29歳	4.1%	9. 55～59歳	10.1%	15. 85～89歳	2.5%
4. 30～34歳	5.4%	10. 60～64歳	10.7%	16. 90歳以上	0.7%
5. 35～39歳	6.7%	11. 65～69歳	7.1%	無回答	0.3%
6. 40～44歳	8.0%	12. 70～74歳	7.4%		

F 3 あなたのご職業は次のうちどれですか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 自営業(家族従業の場合含む)・自由業	7.5%	} → F 3-1へ 進む
2. 正規の社員・職員・役員など	36.9%	
3. 非正規の社員・職員(契約社員・派遣・パート・アルバイト等)	20.3%	
4. 学生	2.5%	
5. 家事専業	12.7%	} → F 4へ 進む
6. 無職	17.9%	
7. その他〔具体的に： 〕	1.6%	
無回答	0.7%	

F 3-1 F 3で「1. 自営業(家族従業の場合含む)・自由業」～「4. 学生」と答えた方におたずねします。

あなたの主な通勤、通学先はどちらですか。(1つに○)

(n=1,008)

1. 府中市内	28.4%
2. 府中市外	51.4%
3. 定まっていない	3.3%
無回答	17.0%

F 4 世帯についておたずねします。世帯の人数はあなたを含めて何人ですか。(1つに○)

* 2世帯住宅は同居としてお答えください。

* 配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=1,501)

1. 1人	17.6%	→ F 5へ進む	4. 4人	17.6%	} → F 4-1へ進む
2. 2人	31.1%	} → F 4-1へ進む	5. 5人	5.4%	
3. 3人	25.1%		6. 6人以上	1.7%	
			無回答	1.5%	

F 4-1 F 4で「2. 2人」～「6. 6人以上」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方はどなたですか。(いくつでも○)

(n=1,214)

1. 配偶者(夫又は妻)	77.2%	4. 祖父、祖母	1.2%
2. 子	51.9%	5. その他〔具体的に: 〕	8.7%
3. 父、母	14.7%	無回答	2.6%

F 5 現在、あなた自身、もしくは同居している方の中に、次のような方はいますか。

(N=1,501)

(いくつでも○)

1. 乳児(1歳未満)	2.1%
2. 乳児を除く小学校入学前の幼児	7.9%
3. 小学生	10.7%
4. 中学生・高校生	10.7%
5. 65歳以上の方	28.5%
6. 身体・知的・精神等の障害のある方及び難病などにより、心や身体のはたらきに障害のある方	9.1%
7. 介護・介助を必要とする方	4.9%
8. いずれもない	40.8%
無回答	2.7%

F 6 あなたはどちらにお住まいですか。該当する福祉エリアに○をつけてください。

(N=1,501)

福祉エリア	町名	%
1. 中央	天神町(1・2丁目)、幸町、府中町、緑町、宮町、八幡町、日吉町、宮西町(1丁目)、寿町、晴見町(1・2丁目)	16.5%
2. 白糸台	白糸台(車返団地除く)、小柳町(1・3丁目)、若松町(1・2丁目)、清水が丘(3丁目)	9.5%
3. 西府	東芝町、本宿町、日新町、西府町	7.5%
4. 武蔵台	武蔵台、北山町、西原町	6.2%
5. 新町	浅間町、天神町(3・4丁目)、新町、晴見町(3・4丁目)、栄町	9.1%
6. 住吉	南町、分梅町(2～5丁目)、住吉町	10.7%
7. 是政	小柳町(2・4～6丁目)、清水が丘(1・2丁目)、是政	9.9%
8. 紅葉丘	多磨町、朝日町、紅葉丘、若松町(3～5丁目)	8.8%
9. 押立	押立町、車返団地	5.7%
10. 四谷	四谷	4.9%
11. 片町	矢崎町、本町、片町、宮西町(2～5丁目)、分梅町(1丁目)、日鋼町、美好町	10.8%
無回答		0.5%

F 7 あなたは府中市にお住まいになってから何年になりますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 生まれてからずっと	9.2%	5. 5年以上10年未満	9.7%
2. 1年未満	3.0%	6. 10年以上20年未満	18.7%
3. 1年以上3年未満	4.2%	7. 20年以上30年未満	17.8%
4. 3年以上5年未満	4.1%	8. 30年以上	32.6%
		無回答	0.6%

F 8 あなたのお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 持ち家の一戸建て	45.3%	5. 公的賃貸住宅(市営住宅、都営住宅など)	4.3%
2. 持ち家の集合住宅	24.8%	6. 社宅・公務員住宅など	1.7%
3. 民間賃貸住宅(一戸建て)	1.6%	7. その他〔具体的に： 〕	1.4%
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)	20.3%	無回答	0.6%

F 9 あなたのお住まいの地域には、自治会・町会等がありますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. ある	72.4%	2. ない	4.0%	3. 分からない	23.0%	無回答	0.7%
-------	-------	-------	------	----------	-------	-----	------

→F 9-1へ進む

問1へ進む

**F 9-1 F 9で「1. ある」と答えた方におたずねします。あなたは、自治会・町会等
に加入していますか。(1つに○)**

(n=1,086)

1. 加入している	68.8%	→問1へ進む
2. 加入していない	24.3%	→F 9-2へ進む
3. 分からない	6.4%	→問1へ進む
無回答	0.5%	

**F 9-2 F 9で「2. 加入していない」と答えた方におたずねします。自治会・町会等
に加入していない主な理由は何ですか。(3つまで○)**

(n=264)

1. 人間関係などの関わりがわずらわしいから	20.5%
2. 地域のイベントなどの活動が大変そうだから	22.3%
3. 仕事や家事・育児・介護等で時間がないから	25.8%
4. 地域活動に興味がないから	6.1%
5. 加入することのメリットを感じないから	26.9%
6. どのような活動をしているのか分からないから	15.9%
7. 加入するきっかけがないから	32.6%
8. 加入方法が分からないから	12.1%
9. その他〔具体的に： 〕	20.5%
無回答	0.4%

お住まいの地域と近所づきあいについておたずねします

問1 あなたが現在、お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。
(1)～(10)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答
(1) 近隣などとのつきあい	18.2%	33.1%	42.0%	3.3%	2.1%	1.2%
(2) 地域の交流	9.9%	22.9%	58.1%	2.9%	2.7%	3.6%
(3) 自治会・町会等の活動	8.5%	15.9%	65.2%	3.7%	3.9%	2.7%
(4) サークルやボランティアの活動	5.3%	10.3%	74.1%	3.4%	3.7%	3.3%
(5) 地域の防災対策	7.1%	24.5%	57.2%	5.6%	3.5%	2.1%
(6) 保健福祉サービス	9.1%	24.7%	55.1%	5.1%	3.0%	3.1%
(7) 相談できる体制	6.3%	19.3%	59.8%	7.1%	4.1%	3.4%
(8) 買い物などの便利さ	33.0%	39.0%	11.2%	10.0%	5.4%	1.3%
(9) 道路や交通機関等の使いやすさ	29.4%	39.0%	14.2%	10.7%	4.9%	1.7%
(10) 公的な手続きの便利さ	15.4%	37.9%	32.1%	8.2%	4.3%	2.1%

問2 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)
(N=1,501)

1. 個人的なことを相談し合える人がいる	7.1%	} → 問3へ進む
2. さしさわりのないことなら、話せる人がいる	25.4%	
3. 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	42.7%	
4. あいさつや会話はないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	12.0%	} → 問2-1へ進む
5. 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	11.2%	
無回答	1.6%	

問2-1 問2で「4」、「5」と答えた方におたずねします。近所づきあいを(ほぼ)しない主な理由は何ですか。(3つまで○)

(n=348)

1. 普段つきあう機会がないから	68.7%	5. 気の合う人・話の合う人が近くにいないから	7.2%
2. 仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから	22.1%	6. あまり関わりを持ちたくないから	25.9%
3. 同世代の人が近くにいないから	7.5%	7. 知り合う機会がないから	50.9%
4. 引っ越してきて間もないから	9.5%	8. その他〔具体的に： 〕	4.0%
		無回答	1.1%

地域活動やボランティア活動についておたずねします

問3 あなたは、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでいますか。

(N=1,501)

(いくつでも○)

1. 子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	2.9%	} →問3-1へ進む
2. 高齢者や認知症の方を支援する活動	1.3%	
3. 障害等のある方を支援する活動	0.9%	
4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	1.5%	
5. 非行や犯罪をした人を支援する活動	0.1%	
6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	3.5%	
7. 国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	0.5%	
8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	3.9%	
9. 介護予防運動など健康・保健のための活動	1.7%	
10. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	6.4%	
11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	0.9%	
12. わがまち支えあい協議会*の活動	0.6%	
13. その他〔具体的に： 〕	2.3%	
14. 取り組んでいるものはない	80.1%	→問3-2へ進む
無回答	2.9%	

*わがまち支えあい協議会

身近な生活圏域の中で地域住民や地域の様々な団体が、地域の「困りごと」に気づき、それを我が事として共有し、協力して解決していく仕組み。文化センター圏域ごとに月1回話し合いをしながら、様々な活動をしている。

問3-1 問3で1～13と答えた方におたずねします。あなたは、地域活動・ボランティア活動にどの程度取り組んでいますか。(1つに○)

(n=255)

1. 週に2回以上	4.3%	5. 1年に2、3回程度	17.3%
2. 週に1回程度	9.4%	6. 1年に1回程度	9.0%
3. 月に2、3回程度	4.7%	7. 一定していない	17.6%
4. 月に1回程度	9.4%	無回答	28.2%

→問4へ進む

問3-2 問3で「14. 取り組んでいるものはない」に○をつけた方におたずねします。活動していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

(n=1,202)

1. 興味のある活動がないから	9.3%	7. 体調がすぐれないから	11.4%
2. 活動に関する情報がないから	18.7%	8. 一緒に活動する仲間が少ないから	6.5%
3. 経済的負担が大きいから	2.7%	9. 人間関係等がわずらわしいから	15.5%
4. メリットを感じないから	6.3%	10. 参加方法が分からないから	14.6%
5. きっかけがないから	31.9%	11. 特になし	12.3%
6. 仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから	43.3%	12. その他〔具体的に： 〕	5.3%
		無回答	0.7%

問4 あなたは、今後、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでみたいと思いますか。(いくつでも○) (N=1,501)

1. 子育て世帯や子ども、青少年を支援する活動	16.1%
2. 高齢者や認知症の方を支援する活動	7.9%
3. 障害等のある方を支援する活動	7.0%
4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	7.8%
5. 非行や犯罪をした人を支援する活動	1.5%
6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	15.7%
7. 国際交流に関する活動、外国人の方を支援する活動	8.3%
8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	11.7%
9. 介護予防運動など健康・保健のための活動	8.3%
10. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	13.5%
11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動	12.9%
12. わがまち支えあい協議会の活動	2.2%
13. 取り組みたいと思うものはない	40.0%
14. その他〔具体的に： 〕	4.7%
無回答	4.4%

問5 あなたは、ボランティア活動について、どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。(3つまで○) (N=1,501)

1. 活動情報の提供がある	14.2%	8. 身体的な負担が少ない	17.4%
2. 友人等と一緒に参加できる	6.5%	9. 活動経費が支給される	8.3%
3. 身近なところで活動できる	28.5%	10. 謝礼が出る	10.5%
4. 活動時間や曜日を選べる	28.8%	11. 家事・育児・介護への支援がある	4.2%
5. 気軽に参加できる	36.2%	12. 就労先の理解や協力が得られる	4.7%
6. 適切な指導者やリーダーがいる	7.7%	13. 特にない	22.6%
7. 特技や知識がいかせる	8.9%	14. その他〔具体的に： 〕	1.8%
		無回答	4.1%

問6 あなたが活動の拠点として利用している施設はどれですか。(いくつでも○) (N=1,501)

1. 文化センター	17.7%	8. 男女共同参画センター「フチャール」	0.9%
2. 市民会館「ルミエール府中」	7.6%	9. 図書館	13.6%
3. 市民活動センター「プラッツ」	5.1%	10. 小学校・中学校	4.9%
4. ふれあい会館	1.1%	11. 民間の施設 →問6-1へ進む	2.1%
5. 生涯学習センター	7.6%	12. 個人宅	4.6%
6. 教育センター	0.2%	13. 特にない	53.3%
7. 国際交流サロン	0.3%	14. その他〔具体的に： 〕	3.4%
		無回答	5.3%

問6-1 問6で「11. 民間の施設」と答えた方におたずねします。具体的な施設の名称をお書きください。

問7 あなたは、家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人に、次のような手助けをしたことがありますか。(いくつでも○) (N=1, 501)

- | | |
|--|-------|
| 1. 日常の見守りや声かけ、話し相手や相談相手 | 13.3% |
| 2. 家事（掃除、洗濯、食事、買い物、ごみ出しなど）の手伝い | 4.1% |
| 3. 子どもの預かり（保育園・幼稚園などの送迎含む） | 4.3% |
| 4. 外出や通院時の付き添い（車で送り迎えをする等含む） | 3.0% |
| 5. 電車やバス等で席を譲る、荷物を持つ | 53.0% |
| 6. 階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りの手伝い（車いすやベビーカー、白杖や盲導犬ユーザーへの声掛け含む） | 19.1% |
| 7. 災害時など非常時の安否確認や避難の手助け | 1.9% |
| 8. フードドライブ（フードバンク団体）への食品の寄付 | 6.9% |
| 9. 赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動等、その他の活動等への募金や寄付 | 30.6% |
| 10. 何もしたことがない | 26.7% |
| 11. その他〔具体的に： 〕 | 1.4% |
| 無回答 | 2.8% |

問8 あなたが思う、地域における支え合いをより充実するため必要なことはどれですか。(3つまで○) (N=1, 501)

- | | |
|--|-------|
| 1. 地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること | 45.6% |
| 2. 地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること | 24.2% |
| 3. 自治会・町会、わがまち支えあい協議会等の支え合い活動、サロン等の交流活動に参加すること | 9.7% |
| 4. 地域住民同士の見守りや声かけを行うこと | 31.6% |
| 5. 地域における交流活動を活発に行うこと | 10.2% |
| 6. 地域の人々が気軽に集まる場所や、地域活動の拠点になる場所を確保すること | 22.1% |
| 7. お金や不用品を寄付しやすい環境を整える | 14.1% |
| 8. 特にない | 18.4% |
| 9. その他〔具体的に： 〕 | 1.9% |
| 無回答 | 3.1% |

日ごろの生活と悩みについておたずねします

問9 あなたは、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とした場合、あなたはどれぐらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。(1つに○) (N=1, 501)

とても不幸 ←—————→ とても幸せ

0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
1.7%	0.7%	0.8%	4.3%	3.6%	15.7%	9.7%	17.1%	24.0%	9.1%	12.1%

無回答 1.2%

問10 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. はい →問10-1へ進む 14.6% 2. いいえ →問11へ進む 83.3% 無回答 2.1%

問10-1 問10で「1. はい」と答えた方におたずねします。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

(n=219)

1. 自分の健康・病気	21.9%	8. 住まい	17.4%
2. 家族の健康・病気	16.0%	9. お金(財産管理・相続含む)	37.0%
3. 自分の学業・仕事	9.1%	10. 人間関係、人との付き合い方	19.2%
4. 家族の学業・仕事	5.5%	11. 地域の治安のこと	9.1%
5. 自分の障害に関すること	6.8%	12. 災害時の備えに関すること	17.4%
6. 家族の障害に関すること	13.7%	13. 差別や偏見、人権侵害に関すること	4.1%
7. 家族の介護・介助	19.2%	14. その他〔具体的に： 〕	8.7%
		無回答	8.2%

問11 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

(N=1,501)

1. 決してない 15.9% 3. たまにある 25.5% 5. しばしばある・常にある 4.9%
2. ほとんどない 44.1% 4. 時々ある 8.0% 無回答 1.6%

問12 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

(N=1,501)

1. とてもよい 14.7% 3. あまりよくない 16.1% 無回答 1.1%
2. まあよい 65.2% 4. よくない 2.9%

問13 あなたは将来の備えとしてどのようなことに不安を感じますか。(2つまで○)

(N=1,501)

1. 急な入院や施設への入所のこと 36.6% 4. 遺言作成・終活に関すること 9.2%
2. 預貯金や生活費の管理のこと 42.4% 5. 特にない 15.1%
3. 判断能力が低下したときの生活のこと 40.9% 6. その他〔具体的に： 〕 1.6%
無回答 1.7%

問14 あなたは自身が亡くなった後のことで不安なことはありますか。(2つまで○)

(N=1,501)

1. 遺された家族のこと 45.2% 5. 遺品整理に関すること 24.5%
2. 所有財産のこと 9.1% 6. 特にない 26.8%
3. 相続のこと 8.7% 7. その他〔具体的に： 〕 1.4%
4. 葬儀やお墓に関すること 15.5% 無回答 1.3%

相談と情報についておたずねします

問15 あなたは、暮らしの問題や福祉などについて困りごとがあったとき、どこに（誰に）相談しますか。（いくつでも○） (N=1,501)

1. 家族や親族	80.1%	14. 子ども家庭支援センター「たち」しらとり	0.9%
2. 友人、知人	45.0%	15. 地域子育て支援センター「はぐ」	0.3%
3. 近隣の人、自治会・町会等の人	3.4%	16. 男女共同参画センター「フチュール」	0.3%
4. 民生委員・児童委員*	2.0%	17. 社会福祉協議会	1.8%
5. 同じ悩みや問題を抱える人	3.1%	18. 地域福祉コーディネーター*	1.1%
6. 行政の相談窓口*	27.8%	19. 市民活動センター「プラッツ」	0.7%
7. 福祉総合相談	5.4%	20. ボランティア団体・NPO 法人	0.6%
8. 地域包括支援センター	11.1%	21. 保育所、幼稚園、学校の先生	3.5%
9. 権利擁護センターふちゅう	0.3%	22. ケアマネジャーや福祉施設の関係者	6.6%
10. 子ども発達支援センター「はばたき」	0.8%	23. かかりつけ医や保健師等医療関係者	10.9%
11. 保健センター	1.5%	24. 相談できる人がいない	4.3%
12. 地域生活支援センター	2.1%	25. その他〔具体的に： 〕	2.1%
13. 子育て世代包括支援センター「みらい」	1.5%	無回答	1.5%

***民生委員・児童委員**

地域の中で、高齢者や体の不自由な方、生活に不安のある方、ひとり親家庭等、いろいろな悩みを持っている方々の相談相手となり、必要な福祉サービスを利用できるように、行政等とのパイプ役として活動しているボランティアのこと。

***行政の相談窓口** 市役所のほか、児童相談所、都の保健所等のこと。

***地域福祉コーディネーター**

制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人ひとりに寄り添った生活支援（個別支援）や、地域住民が一人ひとりの困りごとを地域全体の課題として捉え、地域住民が連帯意識を持って活動を作り出す支援（地域支援）を行う専門職のこと。

問16 あなたは、地域の中で次のようなことで困っている世帯を見かけたり、相談を受けたことがありますか。（いくつでも○） (N=1,501)

1. 子育てと親の介護に、同時に直面して困っている世帯	2.6%
2. 高齢者の親と、就労していない独身の中高年の子どもで構成されている世帯	2.8%
3. 高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯	4.0%
4. ごみが処分されていない世帯	3.1%
5. ひきこもり状態の人が、適切な支援に結び付いていない世帯	2.0%
6. 家族や地域との関わりがなく、社会的に孤立した世帯	2.1%
7. 家族の介護などで自分の時間をもてない未成年の子ども（ヤングケアラー*）がいる世帯	0.7%
8. 家族の間で虐待、DVが疑われる世帯	1.4%
9. 特に見かけたことはない	80.6%
10. その他〔具体的に： 〕	2.6%
無回答	4.0%

***ヤングケアラー**

本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを子どもが日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことをできないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どものこと。

問17 あなたは、次のことをご存じですか。(1)～(7)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

	内容まで 知っている	言葉聞いた ことがある	知らない	無回答
(1) 発達障害・学習障害*	58.8%	35.2%	3.1%	2.9%
(2) ヘルプマーク*	53.0%	30.8%	13.3%	2.8%
(3) 若年性認知症*	52.6%	38.8%	5.5%	3.2%
(4) 障害者差別解消法*	13.0%	33.0%	50.2%	3.7%
(5) 社会を明るくする運動*	3.7%	28.2%	64.5%	3.5%
(6) 保護司*	25.9%	41.1%	29.9%	3.1%
(7) 成年後見制度*	35.0%	42.0%	20.0%	3.0%

***発達障害・学習障害**

発達障害は、脳の機能障害があり、それによって生活や学習に困難さを持つ障害のこと。
学習障害は、読み書き能力や計算力など算数機能に関する特異的な発達障害のひとつ。

***ヘルプマーク**

内部障害や難病の方などへの配慮や手助けが必要なことを知らせるためのマークのこと。



***若年性認知症**

18歳から64歳までに発症した認知症性疾患（アルツハイマー病、脳血管型、前頭側頭型、レビー小体型など）の総称のこと。

***障害者差別解消法**

平成28年4月1日から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のこと。国の行政機関や地方公共団体と民間事業者に対して、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止や障害者への合理的配慮の提供が規定されている。

***社会を明るくする運動**

すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動。

***保護司**

犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティア。

***成年後見制度**

認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、本人を法的に支援する制度のこと。

問18 府中市に設置されている、福祉に関する相談窓口で知っているものはどれですか。
(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 市役所の相談窓口	40.0%	9. 子育て世帯包括支援センター「みらい」	11.7%
2. 福祉総合相談	10.9%	10. 子ども家庭支援センター「たち」 「しらとり」	22.7%
3. 民生委員・児童委員	17.5%	11. 地域子育て支援センター「はぐ」	5.7%
4. 地域包括支援センター	24.9%	12. 男女共同参画センター「フチュール」	11.9%
5. 権利擁護センターふちゅう	1.3%	13. 社会福祉協議会	18.4%
6. 子ども発達支援センター「はばたき」	3.8%	14. 地域福祉コーディネーター	3.5%
7. 保健センター	32.0%	15. 市民活動センター「プラッツ」	25.5%
8. 地域生活支援センター「み～な」		16. 知っているものはない	10.7%
「あけぼの」「プラザ」「ふらっと」	10.5%	無回答	14.5%

問19 府中市には地域包括支援センターが 11 か所ありますが、あなたは、次の地域包括支援センターの役割や機能をご存じですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 高齢者の総合的な相談を行っている	41.4%
2. 介護予防の支援や相談を行っている	32.8%
3. 在宅療養に関する相談を行っている	24.0%
4. 認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている	12.9%
5. 成年後見制度の利用に関する相談を行っている	7.7%
6. 高齢者虐待の早期発見や対応をしている	6.4%
7. 悪質な訪問販売・電話勧誘などの被害相談を行っている	4.9%
8. 地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている	9.7%
9. 地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進している	15.9%
10. まったく知らなかった	49.1%
無回答	2.8%

問20 あなたは、次の権利擁護センターふちゅうの役割や機能をご存じですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 福祉サービスの利用や老いじたくに関する相談を受け、財産管理の支援を行っている	6.1%
2. 相続や権利侵害などの法律相談を行っている	5.7%
3. 成年後見制度の利用に関する相談と広報を行っている	5.4%
4. 成年後見人等の情報交換の場を提供している	2.5%
5. 権利擁護や支え合いの担い手を広げるために市民向けの講座を行っている	2.3%
6. まったく知らなかった	85.8%
無回答	3.7%

問21 あなたは、保育や子育て支援、高齢者や障害等のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等、府中市の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。

(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 家族や知人から	28.4%
2. 行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)	15.6%
3. 保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から	11.9%
4. 広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	51.9%
5. 自治会・町会の回覧板	14.5%
6. テレビ(ケーブルテレビを含む)、ラジオ、新聞、雑誌等	4.9%
7. 市のホームページ等のインターネットサイト	17.8%
8. LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS*	7.8%
9. 府中市メール配信サービス	7.8%
10. 障害当事者団体や障害当事者の父母会	1.1%
11. 情報を得たことはない	20.5%
12. その他〔具体的に： 〕	1.0%
無回答	2.2%

* SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)

ネットワーク上のコミュニケーション機能を持ったサービス全般を指す。

問22 府中市の福祉に関する情報を、今後、どこから入手したいと思いますか。

(N=1,501)

(いくつでも○)

1. 家族や知人から	20.5%
2. 行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など)	27.2%
3. 保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から	13.6%
4. 広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	53.8%
5. 自治会・町会の回覧板	16.3%
6. テレビ(ケーブルテレビを含む)、ラジオ、新聞、雑誌等	6.1%
7. 市のホームページ等のインターネットサイト	36.8%
8. LINE(ライン)・X(エックス)等のSNS*	22.5%
9. 府中市メール配信サービス	16.3%
10. 障害当事者団体や障害当事者の父母会	0.9%
11. 今は情報を得たいとは思わない	8.8%
12. その他〔具体的に： 〕	0.5%
無回答	2.1%

問23 あなたがふだん利用しているSNSがあれば教えてください。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. LINE(ライン)	77.7%	5. TikTok(ティックトック)	9.5%
2. X(エックス)	31.8%	6. 利用していない	15.6%
3. Instagram(インスタグラム)	35.1%	7. その他〔具体的に： 〕	1.2%
4. Facebook(フェイスブック)	12.7%	無回答	3.9%

福祉のまちづくり*についておたずねします

問24 現在、府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路等について、障害等のある方や妊婦、乳幼児を連れた方、高齢者等が利用しやすいように整備されていると思いますか。(1)～(11)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

		整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	整備されていない	整備の必要を感じない	わからない	無回答
建築物	(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）	9.5%	41.6%	22.9%	5.7%	0.3%	16.7%	3.3%
	(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	18.1%	52.0%	10.8%	1.9%	0.5%	13.1%	3.5%
	(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ	14.1%	45.1%	17.9%	2.9%	0.5%	15.7%	3.9%
道路・交通機関等	(4) 歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路	7.1%	34.8%	28.8%	13.4%	0.7%	11.3%	4.0%
	(5) 視覚障害者用の点字ブロックや音響式信号機、エスコートゾーン*	8.3%	38.2%	21.0%	5.8%	0.5%	22.2%	4.1%
	(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス	11.7%	36.9%	18.3%	4.9%	0.3%	24.1%	3.7%
	(7) 障害等のある方用の駐車場	10.6%	34.2%	16.7%	3.9%	0.3%	30.0%	4.3%
情報案内等	(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示	5.5%	28.6%	24.9%	5.7%	0.6%	30.2%	4.5%
	(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	2.5%	9.3%	21.1%	7.0%	0.8%	55.0%	4.3%
	(10) 府中市等の公共機関のホームページで提供する情報やサービス	5.9%	32.8%	15.5%	3.7%	0.7%	36.9%	4.6%
	(11) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等	1.8%	7.5%	18.4%	8.3%	1.1%	58.8%	4.0%
全体	(12) (1)～(11)や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン*	3.5%	28.9%	22.8%	6.8%	0.9%	32.0%	5.1%

***福祉のまちづくり**

高齢者、障害者、子ども、外国人などを含めたすべての人がありのままに、自らの意思で暮らし、社会参加をし、自己実現を図ることができるような社会の実現に向け、ユニバーサルデザインの理念に立ったまちづくりを進めること。

***エスコートゾーン**

横断歩道に設置して、視覚障害者が横断方向の手がかりとする突起形状の道路横断帯のこと。

***ユニバーサルデザイン**

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げること。

**問25 福祉のまちづくりを実現するために、優先的に取り組む必要があると思うことは何ですか。
(3つまで○)**

(N=1,501)

1. 高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備	55.0%
2. 公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進	32.2%
3. 分かりやすく利用しやすい案内標示の設置等、情報提供の充実	25.0%
4. 憩いの場である公園・河川の整備	19.7%
5. 高齢者や障害等のある方が住みやすい住宅の整備	23.1%
6. 交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備	47.1%
7. 福祉のまちづくりに対する理解の促進	14.5%
8. 分からない	6.7%
9. その他〔具体的に： 〕	3.5%
無回答	3.0%

災害時の支え合いについておたずねします

問26 近年は、地震災害に加え、台風、豪雨、土砂災害などの風水害が相次いでいます。災害時、あなたが、特に不安や心配なことは何ですか。(3つまで○)

(N=1,501)

1. 家族の所在、安否確認について	53.9%
2. 家具の転倒	9.6%
3. 家屋や外壁の強度	13.9%
4. 自身や家族の歩行に不安があること	7.9%
5. 避難所がどこにあるかはっきり分からないこと	11.7%
6. ペット（犬・猫など）の避難のこと	11.9%
7. 正確な情報の入手	41.6%
8. 避難所生活でのプライバシー	20.9%
9. 食糧や日用品などの生活物資の入手	43.8%
10. 医療機関、診療、薬の入手	25.2%
11. 精神的なストレス	17.1%
12. 特に不安や心配ごとはない	2.5%
13. その他〔具体的に： 〕	1.8%
無回答	2.4%

問27 あなたが普段から災害時に備えていることはありますか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 家族で所在、安否確認方法を決める	29.6%	7. 食糧や日用品の備蓄	61.4%
2. 家具の転倒防止対策	29.4%	8. 災害時の情報入手手段の確認	9.3%
3. 家屋や外壁の耐震補強	5.4%	9. 避難行動要支援者名簿*への登録	1.7%
4. 防災ハンドブックやハザードマップの確認	27.7%	10. 救急医療情報キット*の申込み	1.9%
5. 避難経路や避難場所の確認	21.4%	11. 特にない	15.6%
6. 地域の防災訓練への参加	6.5%	12. その他〔具体的に： 〕	0.7%
		無回答	3.0%

***避難行動要支援者名簿**

高齢者や障害のある方などで、災害発生時の状況把握や避難に支援を必要とする方を、地域の支え合いにより支援するために作成している名簿

名簿は、自治会や民生委員など地域の支援者に提供され、地域で支え合いの仕組みをつくり、災害発生時に地域の支援者の方、又はグループが要援護者の安否確認や避難を支援するために活用される。

***救急医療情報キット**

救急時、災害時に必要な、「かかりつけ医療機関」、「服薬内容」、「持病」、「緊急連絡先」などの情報を記入した専用の用紙等を入れたキット（筒）のこと。

冷蔵庫の中で保管し、災害時に避難が必要な場合は支援者が冷蔵庫から取り出し、避難所へ持って行く。また、救急時（119番出動）には、本人が持病などを説明することができない状態にある場合に、救急隊が冷蔵庫より取り出し、記載された情報を救急活動に役立てる。

問28 あなたが、災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 地域住民同士の声かけや安否確認	46.6%	6. 商店や企業と災害時の協体制をつくること	24.2%
2. 防災訓練の実施	26.3%	7. 避難時に支援が必要な人を把握しておくこと	33.1%
3. 地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成	32.9%	8. 分からない	8.1%
4. 地域内外の団体等との日ごろからの交流	11.2%	9. その他〔具体的に： 〕	1.1%
5. 物資の備蓄	62.4%	無回答	3.3%

問29 災害時、地域で手助けが必要な方に、あなたができることは、どのようなことですか。(いくつでも○)

(N=1,501)

1. 避難所での支援活動	56.5%
2. 要援護者（高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の安否確認	24.3%
3. 要援護者（高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の避難誘導	26.3%
4. けが人の手当て	10.7%
5. 水や食糧の提供	13.9%
6. 協力することはむずかしい・できない	20.8%
7. その他〔具体的に： 〕	3.5%
無回答	4.6%

福祉に対する考え方についておたずねします

問30 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(1)～(8)について、あなたの考えに最も近いものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,501)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答
(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である	51.2%	31.2%	11.2%	2.5%	0.5%	3.3%
(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である	29.4%	34.0%	27.5%	4.3%	1.3%	3.5%
(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある	13.1%	25.4%	37.4%	15.9%	4.7%	3.5%
(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である	17.1%	29.0%	37.8%	10.5%	2.3%	3.3%
(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	32.8%	41.5%	17.8%	3.5%	0.7%	3.7%
(6) DV*被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	27.8%	38.3%	24.3%	4.7%	1.3%	3.5%
(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	28.8%	42.9%	19.3%	4.5%	0.9%	3.6%
(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である	33.9%	40.1%	18.7%	2.7%	0.9%	3.7%

***DV（ドメスティック・バイオレンス）**

配偶者や恋人等親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力等あらゆる暴力が含まれる。

問31 あなたは認知症について、どのようなことを知っていますか。(いくつでも○)

(N=1, 501)

- | | |
|---|-------|
| 1. 認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること | 88.7% |
| 2. 記憶障害や時間・場所が分からなくなるなどの症状があること | 85.5% |
| 3. 食生活や運動などで、予防の効果が認められているものがあること | 54.7% |
| 4. 高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること | 85.0% |
| 5. 早期発見や診断後の適切な支援で、進行を遅らせて穏やかに暮らせるようになること | 68.0% |
| 6. どれも知らなかった | 1.8% |
| 無回答 | 2.9% |

問32 認知症の人の暮らし方はさまざまです。あなたは認知症になったら、どのように暮らしたいですか。既に認知症の方は、今後どのように暮らしたいですか。

(もっとも当てはまるもの1つに○)

(N=1, 501)

- | | |
|---|-------|
| 1. 家族や地域の人たちの支援を受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい | 16.8% |
| 2. 医療や介護サービスを受けながら、暮らし慣れた地域で生活していきたい | 33.8% |
| 3. 介護施設（入所施設）などで必要な支援・介護を受けながら生活していきたい | 27.5% |
| 4. 分からない | 14.9% |
| 5. その他〔具体的に： 〕 | 2.5% |
| 無回答 | 4.5% |

最後に府中市の福祉施策についておたずねします

問33 今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思っていないですか。次の中から1つだけ選んでください。(1つに○)

(N=1, 501)

- | | |
|----------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい | 59.8% |
| 2. しばらくは住み続けたい | 35.1% |
| 3. できれば市外に移りたい | 1.5% |
| 4. 市外に移りたい | 1.0% |
| 無回答 | 2.7% |

問34 府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(5つまで○)

(N=1,501)

1. 相談支援体制や情報提供体制の充実	45.0%
2. 権利擁護・虐待防止の推進	11.2%
3. 日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進	41.2%
4. 経済的に困っている人の自立に向けた支援	22.8%
5. 養育困難や困窮等の課題を抱えた子育て家庭への支援	26.5%
6. 事業者への運営指導等による福祉サービスの質の確保に向けた取組	11.9%
7. 健康づくり・介護予防の推進	33.6%
8. 地域住民同士の助け合いや支え合いの促進	13.7%
9. 地域活動団体、ボランティア団体、NPO団体等の育成・支援	10.0%
10. 市民・関連団体・行政の連携と協働	10.1%
11. 互いに理解し助け合う福祉意識の醸成	12.1%
12. 市民の誰もが社会活動等へ参加・参画するための支援	9.2%
13. 福祉分野の人材の確保・育成	26.8%
14. 公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進	23.4%
15. 分からない	9.6%
16. その他〔具体的に： 〕	1.4%
無回答	4.1%

問35 府中市の福祉やまちづくりへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

——ご協力ありがとうございました——

府中市
地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画
策定のための調査報告書

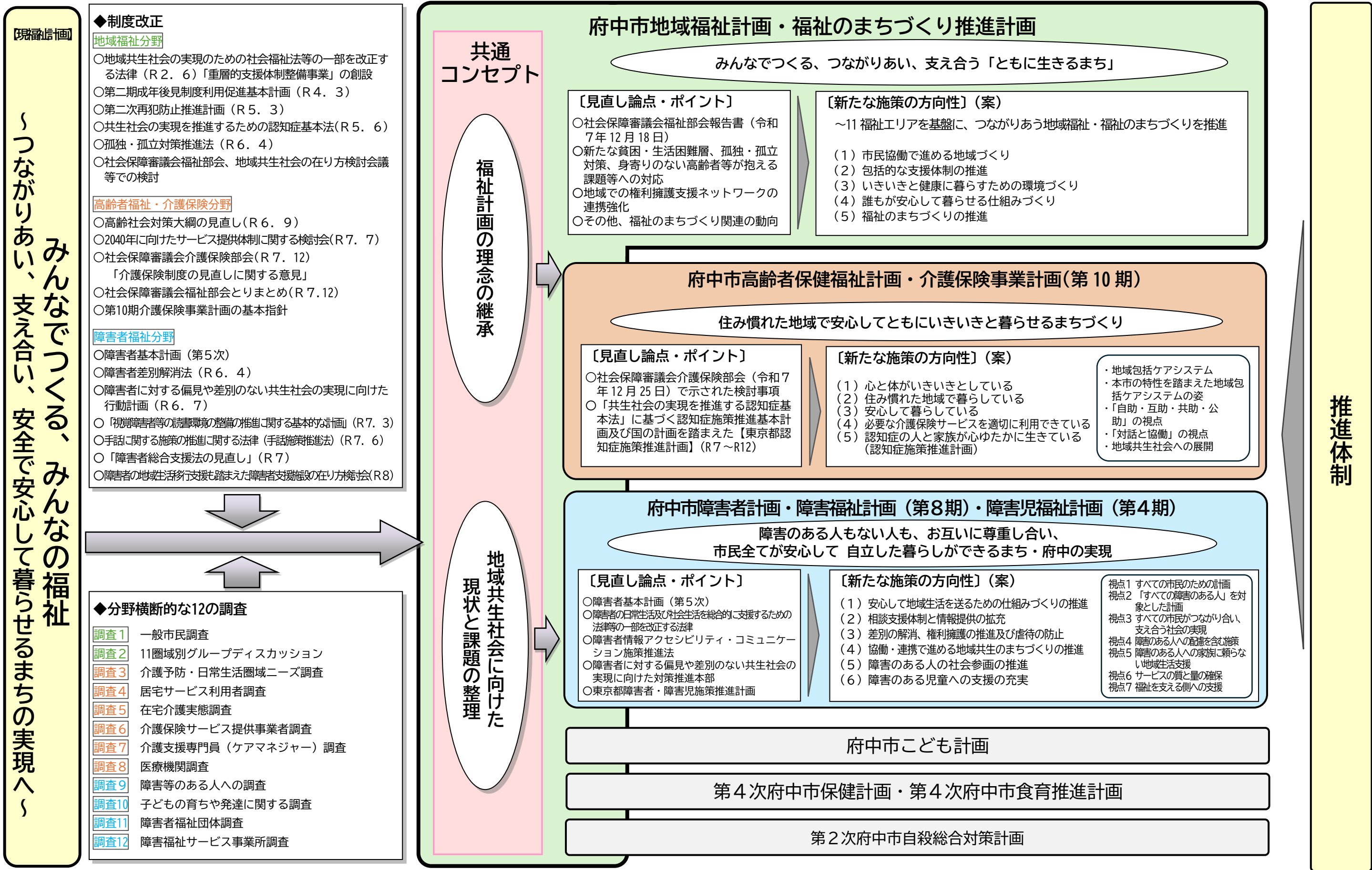
令和8年3月発行

発行：府中市福祉保健部地域福祉推進課

所在地：〒183-8703 府中市宮西町2丁目24番地

電話番号：042（335）4161

地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画を上位計画とした全体像（案）



次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の基本的考え方と体系（案）

- ・ 現計画の基本理念「みんなでつくる、「共に生きるまち」 みんなでつくる = 協働 共に生きるまち = 地域共生社会」
- ・ 現福祉計画の基本理念「みんなでつくる、みんなの福祉～つながりあい、支え合い、安全で安心して暮らせるまちの実現へ～」等

計画での取組、国等の動向	調査等からみえたこと	課題
※（ア）：アンケート調査、（グ）：グループディスカッション		
●令和3年度以来市内11のわがまち支えあい協議会が活動を展開してきた。令和7年度からは地域包括支援センターエリアも11圏域に再編された。 ●多様なテーマで、企業・団体・市民・行政のコラボレーションでの、市民協働事業が展開されてきた。	●親しく近所づきあいをする人の割合は前回より下がり、近所づきあいない理由は「普段つきあう機会がないから」が最も多い。（ア） ●市民の半数以上がこれから何らかの地域活動へ取組意向があるとしている。（ア） ●地域でできることで多様なアイデアが提案され、さらに企業の参加や施設の誘致も提案された。（グ）	●日頃からのきっかけづくり担い手づくりが必要である。 ●「わがまち」をはじめとする身近な圏域での活動の強化が課題である。そのための活動の場、居場所が必要である。 ●多様な市民が地域の一員として暮らせるような地域づくりが課題である。
●令和3年度からすべての福祉圏域に地域福祉コーディネーターを配置。令和7年度は統括1名、拠点18名、リーダー3名の22名体制。相談実績、困りごと相談会対応件数も増加傾向となった。 ●福祉総合相談窓口を令和4年度から開設した。 ●令和8年4月から重層的支援体制整備事業を本格的に実施している。	●どこに相談したらよいか分からない悩みがある人は、介護やケアが必要な人ほど高い割合となった。（ア） ●悩みの内容は、一般市民が「お金（財産管理・相続含む）」のことで、高齢者が「自分や家族の健康・病気」など内容も様々だった。（ア） ●単身世帯増、複合的問題を抱える世帯増、情報共有の問題への意見が出され、相互理解を通して地域で共に暮らせる仕組みを作ることとそのための理解と行動が必要であることが示された。（グ）	●個人や家族が抱える様々な悩みを受け止め、解決する仕組みを様々な分野とともに作ることが必要である。 ●身近な地域での課題解決の仕組みを作っていくことが課題である。 ●多機関協働のネットワークを作り、住民主体で解決する取組や情報共有する仕組みとあわせて、地域での連携を進める必要がある。
●介護予防推進センターや地域包括支援センター等において介護予防事業を実施。子どもや女性も含めライフステージにあわせた健康づくりが進められた。 ●府中市自殺総合対策計画に定める取組の推進を図った。 ●国では、孤独・孤立対策推進法が令和6年4月施行された。	●主観的幸福度の平均は、属性での違いはあるが介護やケアが必要な方でも大きく下がっていない。（ア） ●地域の健康づくりのために、困りごとを抱える人や世帯への食の支援、シニアクラブの活性化、歩きやすく外出しやすい環境、移動支援、通院支援などのモビリティ支援、高齢者の介護予防などの課題と取組のアイデアが出された。（グ）	●誰もが自分らしく暮らせる幸せを感じられる地域を作ることが必要である。 ●人とのつながりを通した健康な環境づくり、年代やライフステージごとの健康づくり、生活支援・モビリティ支援、誰もが孤立しないで生きがいと役割を持てる社会参加を進めていく必要がある。
●成年後見制度の利用促進による権利擁護の推進のため、成年後見制度に関する相談支援、制度の広報及び市民後見人等の育成、活動支援等を実施した。 ●避難行動要支援者名簿事業の周知及び個別避難計画の作成、社協とともに防災の意識啓発、支え合いの体制づくりが進められた。 ●国では、第二期成年後見制度利用促進基本計画を令和4年3月に策定された。	●災害時の不安や心配ごとを抱えている人は多い。また、7割台の人が災害時に助けが必要な方に支援ができると回答している。障害者の調査では、地震や災害など緊急時にひとりで避難できる人は半数にとどまる。（ア） ●将来の備えへの不安、亡くなった後のことへの不安を抱えている人が多い。（ア） ●高齢者や障害者のアンケートでは安心してサービスを受けられる体制へのニーズが多数出されている。（ア）	●多くの人を巻き込みながらの防災対策、避難行動要支援者の支援を検討することが必要である。 ●身寄りのない方への支援策の検討、権利擁護支援の充実が必要である。 ●高齢、障害分野と連携しながらサービス提供体制の充実や人材の確保・育成・定着支援に向けた取組が必要である。
●福祉まつりの開催、社協とともに福祉教育・啓発活動を推進してきた。 ●公共施設のユニバーサルデザイン・バリアフリー化の推進、各分野で情報利用のアクセス機会の確保、バリアフリー情報の提供等を進めてきた。	●『公園、道路等を含むまち全体』がく整備されている>と感じる割合は3割台。福祉のまちづくりのために優先的に取り組む必要があることはハード面が多くなっている。（ア） ●地域資源不足（医療、福祉）、買い物が不便、店が少ない、移動困難や空き家の問題が出された。（グ）	●あらゆる主体が地域、福祉を理解するとともに、市民が心のバリアフリー、当事者意識をもって能動的に支え合い・助け合いに参加する必要がある。 ●道路整備、公共施設や公共交通機関のバリアフリー・ユニバーサルデザインの実現に引き続き取り組む必要がある。

- ・ 現福祉計画の「福祉施策の考え方」：1 尊厳の保持（自己決定の尊重）、2 身近な地域における課題解決力の強化、3 多様な主体による協働・連携（自助・互助・共助・公助）
- ・ こども計画、保健計画等の基本的考え方 等

次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画

理念

みんなでつくる、つながりあい・支え合う「ともに生きるまち」

基本目標	取組の方針	施策
1 市民協働で進める地域づくり	(1) 地域福祉活動の促進 (2) 多様な主体との協働の推進 (3) 再犯防止の地域づくり	① 地域福祉を担う人材の育成と支援 ② 地域活動・ボランティア活動の充実 ③ 市民の自主活動支援 ① 市民及び企業等との協働の推進 ① 再犯防止等の推進（府中市再犯防止推進計画）
2 包括的な支援体制の推進	(1) 情報提供の充実 (2) 包括的相談支援の充実 (3) 関係機関との連携強化	① 福祉情報提供体制の充実 ① 多様なニーズに対応した相談の充実 ② 包括的相談支援体制の構築 ③ 地域課題解決のための体制づくり ① 社会福祉協議会との連携強化 ② 医療・介護・福祉の連携の強化
3 いきいきと健康に暮らすための環境づくり	(1) 心身ともに健康に過ごす支援 (2) 自立を促す暮らしの支援 (3) 孤立することなく役割をもつてともに暮らせる支援 (4) こころと命を支え合う支援	① 健康づくりへの支援 ② 介護予防の推進 ① 日常生活への支援 ② 外出・モビリティ支援 ① つながりづくり、社会参加への支援 ① 自殺防止に向けた取組
4 誰もが安心して暮らせる仕組みづくり	(1) 尊厳をもって自分らしく暮らすための支援 (2) 困難を抱える人の支援 (3) 自然災害や犯罪から身を守るための支援 (4) 福祉サービスを安心して利用するための支援	① 成年後見制度をはじめとする権利擁護の推進（府中市成年後見制度利用促進基本計画） ② 虐待防止の推進 ① 生活困窮者への支援 ② 住まいに関する支援の充実 ① 地域の防災対策の推進 ② 地域の防犯対策の推進 ① 事業者・事業者団体への支援 ② 多様な人材の確保・育成
5 福祉のまちづくりの推進	(1) 心のバリアフリーの推進 (2) 情報のバリアフリーの推進 (3) 物理的バリアフリーの推進 (4) 制度のバリアフリーの推進	① 互いを理解し、ともに生きる意識の醸成 ① あらゆる人のための情報提供の推進 ① バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進 ① すべての人が参加・参画できる制度の推進

福祉施策の考え方

尊厳の保持
（自己決定の尊重）

Well-Being
ウエルビーイング
（一人一人の幸福・地域の幸福）

社会的包摂
（ソーシャルインクルージョン）

【参考】関連計画の基本的考え方

府中市福祉計画（令和３年度～令和８年度）

基本理念	みんなでつくる、みんなの福祉 ～つながりあい、支え合い、安全で安心して暮らせるまちの実現へ～
福祉施策の 考え方	１ 尊厳の保持（自己決定の尊重） ２ 身近な地域における課題解決力の強化 ３ 多様な主体による協働・連携（自助・互助・共助・公助）
基本の仕組み	１ 新たな支え合いと包括的な支援体制の構築 ２ 安全・安心の仕組みづくり ３ 協働・連携の仕組みづくり ４ 福祉分野と他分野の連携
基本視点 （方向性）	１ 健やかで、その人らしい暮らしを支える福祉の実現 ２ 身近な地域でつながり、支え合う福祉の実現 ３ 市民・関係機関・事業者の協働で進める福祉の実現 ４ いつでも安心して暮らせる福祉の実現

府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画（令和３年度～令和８年度）

基本理念	みんなでつくる、「共に生きるまち」 みんなでつくる ＝ 協働 共に生きるまち ＝ 地域共生社会
計画の基盤 となる考え	１ みんながつながり、支え合う地域づくり ２ みんなが安心して生活できる地域づくり ３ みんなが自分らしく生活できる地域づくり
基本目標	１ 地域力の強化 ２ 包括的支援体制の整備 ３ 生き生きと健康に暮らすための環境づくり ４ 福祉のまちづくりの推進

府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第９期）（令和６年度～令和８年度）

基本理念	住み慣れた地域で安心して いきいきと暮らせるまちづくり 地域包括ケアシステム、自助・互助・共助・公助、対話と協働、地域共生社会
基本目標	１ 心と体がいきいきとしている ２ 住み慣れた地域で暮らしている ３ 安心して暮らしている ４ 必要な介護保険サービスを適切に利用できている

府中市障害者計画（令和３年度～令和８年度） 障害福祉計画・障害児福祉計画

理念	障害のある人もない人も、お互いに尊重し合い、 市民全てが安心して 自立した暮らしができるまち・府中の実現
計画の考 え方	視点１ 全ての市民のための計画 視点２ 全ての障害のある人を対象とした計画 視点３ 全ての市民がつながり合い、支え合う地域社会の実現 視点４ 全ての施策における障害のある人への配慮 視点５ 障害のある人への、家族に頼らない地域生活支援 視点６ サービスの質と量の確保
基本目標	１ 協働・連携で進める地域共生のまちづくりの推進 ２ 障害のある人の社会参加の推進 ３ 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止 ４ 情報提供と相談支援機能の充実 ５ 安心して地域生活を送るための仕組みづくりの推進 ６ 障害のある児童への支援の充実

府中市こども計画（令和７年度～令和１１年度）

基本理念	次代を担う子ども一人ひとりを生まれる前から大切にするとともに、 子どもの意見を尊重し、その最善の利益を優先します ～ひとみ輝け！府中の子どもたち 心豊かな子どもがいきいきと育つまち～
施策推進の ４つの視点	１ 子どもの幸せを第一に考える視点 ２ 全ての子育て家庭を支援する視点 ３ 地域や社会全体で子ども・子育てを見守り、育み、支える視点 ４ 少子化への対応を推進する視点
基本目標	１ 地域で安心して出産し、子育てができる環境の整備 ２ 質の高い幼児期の教育・保育の提供 ３ 学齢期から青年期への支援 ４ ひとり親家庭への支援 ５ 配慮が必要な子どもと家庭への支援 ６ 子育て家庭の経済的負担等の軽減

第３次府中市保健計画・第３次府中市食育推進計画（令和３年度～令和８年度）

基本理念	つなげよう健康の環 ^わ ～世代を超えてつながる健康なまち府中～
基本方針	１ 健康づくりの意識を高める ２ ライフステージの特性に応じた健康的な生活習慣を実践する ３ 市民自らが健康を管理する ４ 新たな時代におけるソーシャルキャピタルの発展

次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画（令和9～14年度）の体系（案）

基本目標	取組の方針	施策	事業(例)
1 市民協働で進める地域づくり	(1) 地域福祉活動の促進	① 地域福祉を担う人材の育成と支援	1 地域における多様な人材の確保・育成・支援
		② 地域活動・ボランティア活動の充実	2 地域における見守り・交流機能の強化 3 地域における多様な活動の場や居場所づくり
		③ 市民の自主活動支援	4 市民の自主活動への支援(わがまち支えあい協議会の活動支援) 5 情報交換の場の設置
	(2) 多様な主体との協働の推進	① 市民及び企業等との協働の推進	6 市民協働の推進による、地域福祉活動の拡充
	(3) 再犯防止の地域づくり	① 再犯防止等の推進 (府中市再犯防止推進計画)	17 再犯の防止等の推進による安全で安心して暮らせる地域づくり
2 包括的な支援体制の推進	(1) 情報提供の充実	① 福祉情報提供体制の充実	10 当事者の視点に立った情報提供体制と情報の取得支援
	(2) 包括的相談支援の充実	① 多様なニーズに対応した相談の充実	11 身近な相談機能及び複雑化・複合化した課題に対応する相談機能の充実
		② 包括的相談支援体制の構築	12 福祉総合相談窓口の設置 13 多機関協働事業による包括的相談支援の推進
		③ 地域課題解決のための体制づくり	4 地域福祉コーディネーターを中心とした地域課題解決の機能強化
	(3) 関係機関との連携強化	① 社会福祉協議会との連携強化	14 地域福祉活動推進事業の支援
		② 医療・介護・福祉の連携の強化	新 多職種による連携及び協議の場の設置・推進
3 いきいきと健康に暮らすための環境づくり	(1) 心身ともに健康に過ごす支援	① 健康づくりへの支援	24 ライフステージに合わせた健康づくりの推進・医療機関との連携 25 健康に関する相談・情報提供の充実
		② 介護予防の推進	26 自立支援・介護予防・重度化防止のための取組
	(2) 自立を促す暮らしの支援	① 日常生活への支援	27 住まいのバリアフリー化の支援 28 生活支援の充実
		② 外出・モビリティ支援	新 現在の外出支援策の拡充 及び 市民・事業者等を巻き込んだ新プラットフォーム構築
	(3) 孤立することなく役割をもつとともに暮らせる支援	① つながりづくり、社会参加への支援	20 就業機会の拡大 21 ひきこもりに関する支援
	(4) こころと命を支え合う支援	① 自殺防止に向けた取組	29 自殺総合対策計画に定める取組の推進

基本目標	取組の方針	施策	事業(例)	
4 誰もが安心して暮らせる仕組みづくり	(1) 尊厳をもって自分らしく暮らすための支援	① 成年後見制度をはじめとする権利擁護の推進 (府中市成年後見制度利用促進基本計画)	15 成年後見制度利用促進による権利擁護の推進 新 多様なニーズに対応した意思決定支援のための情報提供及び相談の充実	
		② 虐待防止の推進	16 様々な福祉分野における虐待や暴力に対する取組	
	(2) 困難を抱える人の支援	① 生活困窮者への支援	18 生活困窮者の自立支援事業の推進	
		② 住まいに関する支援の充実	19 居住支援の充実	
	(3) 自然災害や犯罪から身を守るための支援	① 地域の防災対策の推進	7 避難行動要支援者及び要配慮者に対する支援体制の強化 8 地域における防災をテーマとする意識啓発と支え合いの体制づくり	
		② 地域の防犯対策の推進	9 防犯意識の向上	
	(4) 福祉サービスを安心して利用するための支援	① 事業者・事業者団体への支援	22 福祉サービス事業者への運営支援及び指導(生産性向上、経営支援の視点) 23 専門的な人材確保のための支援	
		② 多様な人材の確保・育成	新 協働・連携で進める福祉人材の確保・育成	
	【福祉のまちづくり推進計画】			
	5 福祉のまちづくりの推進	(1) 心のバリアフリーの推進	① 互いを理解し、ともに生きる意識の醸成	37 福祉教育・啓発活動の推進による福祉意識の醸成 新 多様性の尊重・共生社会の推進
(2) 情報のバリアフリーの推進		① あらゆる人のための情報提供の推進	36 分かりやすく利用しやすい情報提供の推進	
(3) 物理的バリアフリーの推進		① バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	30 福祉のまちづくり推進事業 31 ユニバーサルデザイン及びバリアフリーに配慮した公共施設の整備 32 公共施設における誰もが利用しやすい設備の整備 33 公園のバリアフリー化の推進 34 移動のバリアフリー化の推進	
(4) 制度のバリアフリーの推進		① すべての人が参加・参画できる制度の推進	35 社会活動等への参加・参画に対する支援の充実	

「重層的支援体制整備事業計画」は第5章に掲載（目次参照）

【参考】府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画（令和3年度～令和8年度） 体系

基本目標	取組の方針	施策	事業
1 地域力の強化	(1) 地域福祉活動の促進	① 地域福祉を担う人材の育成と支援	1 地域の担い手の育成と支援
		② 地域活動・ボランティア活動の充実	2 地域の居場所及び見守り機能の強化 3 市民の自主活動への支援
		③ 住民主体の地域課題解決の体制づくりの強化【重点1-1】	4 地域福祉コーディネーターの配置及び機能強化 5 情報交換の場の設置
	(2) 多様な主体との協働の推進	① 市民及び企業等との協働の推進	6 市民及び企業等との協働の取組の推進
	(3) 地域の防災対策の推進	① 地域の防災対策の推進【重点1-2】	7 避難行動要支援者及び要配慮者に対する支援体制の強化 8 地域における防災をテーマとする意識啓発と支え合いの体制づくり【新規】
	(4) 地域の防犯対策の推進	① 防犯意識の向上	9 防犯意識の向上
	(1) 情報提供の充実	① 福祉情報提供体制の充実	10 福祉情報提供体制の充実
		① 身近な相談機能の充実	11 身近な相談機能の充実
		② 複合化・複雑化した課題に対応する相談機能の充実【重点1-3】	12 福祉の総合相談窓口の設置 13 多機関協働の包括的な相談支援体制の構築【新規】
	(3) 社会福祉協議会との連携強化	① 社会福祉協議会との連携	14 地域福祉活動推進事業の支援
2 包括的支援体制の整備	(4) 権利擁護の推進、虐待防止の推進	① 成年後見制度利用促進による権利擁護の推進(府中市成年後見制度利用促進基本計画)【重点2-1】	15 成年後見制度利用促進による権利擁護の推進
		② 虐待防止の推進	16 様々な福祉分野における虐待や暴力に対する取組
	(5) 自立と社会参加への支援	① 再犯防止等の推進(府中市再犯防止推進計画)【重点2-2】	17 再犯の防止等の推進による安全で安心して暮らせる地域づくり
		② セーフティネットの充実【重点2-3】	18 生活困窮者の自立支援事業の推進
		③ 住宅確保に関する支援	19 住宅確保に関する支援
		④ 就業による社会参加への支援	20 就業機会の拡大
		⑤ ひきこもりに関する支援	21 ひきこもりに関する支援【新規】
	(6) 福祉サービスの質の確保	① 事業者・事業者団体への支援	22 福祉サービス事業者への運営支援及び指導 23 専門的な人材確保のための支援

基本目標	取組の方針	施策	事業
3 生き生きと健康に暮らすための環境づくり	(1) 健康づくり・介護予防の推進	① 健康づくりへの支援	24 ライフステージに合わせた健康づくりの推進・医療機関との連携
		② 健康に関する相談・情報提供の充実	25 健康に関する相談・情報提供の充実
		③ 介護予防の推進	26 介護予防事業の充実
	(2) 日常生活への支援	① 日常生活への支援	27 住まいのバリアフリー化の支援 28 生活支援の充実
	(3) 自殺防止に向けた取組	① 府中市自殺総合対策計画の推進	29 府中市自殺総合対策計画の推進【新規】
4 福祉のまちづくりの推進	(1) 物理的なバリアフリーの推進	① ユニバーサルデザイン及びバリアフリーの推進	30 福祉のまちづくり推進事業 31 ユニバーサルデザイン及びバリアフリーに配慮した公共施設の整備 32 公共施設における誰もが利用しやすい設備の整備 33 公園のバリアフリー化の推進 34 移動のバリアフリー化の推進
	(2) 制度のバリアフリーの推進	① 幅広く使いやすい制度の推進	35 社会活動等への参加・参画に対する支援の充実
	(3) 情報のバリアフリーの推進	① 分かりやすく利用しやすい情報提供の推進	36 分かりやすく利用しやすい情報提供の推進
	(4) 心のバリアフリーの推進	① 互いを理解し、助け合う福祉意識の醸成	37 福祉教育・啓発活動の推進による福祉意識の醸成

次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画 目次構成案

第1章 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景・趣旨
- 2 国及び都の動向
- 3 計画の位置付け
- 4 計画期間
- 5 計画の策定体制
- 6 福祉エリア（日常生活圏域）

第2章 本市の地域福祉・福祉のまちづくりの現状と課題

- 1 人口・世帯の現状
- 2 高齢者に関する現状
- 3 障害のある人に関する現状
- 4 子どもに関する現状
- 5 市民生活に関する現状
- 6 相談及び支援等に関する現状
- 7 本計画策定のための調査（一般市民調査）の結果
- 8 11 圏域別グループディスカッションの結果
- 9 前計画期間の取組について
- 10 地域福祉・福祉のまちづくり推進に当たっての今後の課題

第3章 計画の基本的考え方

- 1 基本理念
- 2 計画の基本的な考え方
- 3 計画の基本目標
- 4 計画の体系
- 5 評価指標

第4章 基本目標に向けた取組

基本目標 1 市民協働で進める地域づくり

- （1）地域福祉活動の促進
- （2）多様な主体との協働の推進
- （3）再犯防止の地域づくり

基本目標 2 包括的な支援体制の推進

- （1）情報提供の充実
- （2）包括的相談支援の充実
- （3）関係機関との連携強化

基本目標 3 いきいきと健康に暮らすための環境づくり

- （1）心身ともに健康に過ごす支援
- （2）自立を促す暮らしの支援
- （3）孤立することなく役割をもってともに暮らせる支援
- （4）ところと命を支え合う支援

基本目標 4 誰もが安心して暮らせる仕組みづくり

- (1) 尊厳をもって自分らしく暮らすための支援
- (2) 困難を抱える人の支援
- (3) 自然災害や犯罪から身を守るための支援
- (4) 福祉サービスを安心して利用するための支援

【福祉のまちづくり推進計画】

基本目標5 福祉のまちづくりの推進

- (1) 心のバリアフリーの推進
- (2) 情報のバリアフリーの推進
- (3) 物理的バリアフリーの推進
- (4) 制度のバリアフリーの推進

第5章 重層的支援体制整備事業実施計画

1 計画の概要

- (1) 重層的支援体制整備事業の概要
- (2) 計画の策定経緯

2 計画の内容

- (1) 重層的支援体制整備事業の目的・考え方
- (2) 府中市の重層的支援体制整備事業の全体像
- (3) 重層的支援体制整備事業の各事業

3 計画の推進体制

- (1) 相談支援包括化推進員・代表相談支援包括化推進員
- (2) 相談支援包括化推進会議の設置

第6章 計画の推進に向けて

1 計画の推進体制

2 計画の進行管理

資料

- 資料1 福祉エリア（日常生活圏域）別の現状・地域資源
- 資料2 府中市福祉のまちづくり推進審議会委員名簿
- 資料3 検討経過
- 資料4 用語集

府中市地域福祉計画等策定スケジュールについて(令和7・8年度)

資料3

[illegible]

〔計画作業〕

[illegible]

府中市

重層的支援体制整備事業実施計画

令和8年4月
府中市

目 次

1 計画の概要	1
(1) 計画の位置づけ	1
(2) 計画期間	1
(3) 重層的支援体制整備事業の概要 (社会福祉法第106条の4第2項)	1
(4) 計画の策定体制	4
(5) 計画の見直し	5
2 計画の内容	6
(1) 府中市の地域共生社会の実現のための理念と目標	6
(2) 府中市の重層的支援体制整備事業の目的・考え方	7
(3) 府中市の重層的支援体制整備事業の全体像	8
(4) 府中市の重層的支援体制整備事業の各事業	9
3 計画の推進体制	21
(1) 相談支援包括化推進員・代表相談支援包括化推進員	21
(2) 相談支援包括化推進会議の設置	22
4 計画の評価・見直し	23
資料	26
(1) 相談支援包括化推進員選出部署一覧	26
(2) 検討経過	27
(3) 高齢者福祉・障害者に関するアンケート調査概要	28
(4) 用語集	29

1 計画の概要

(1) 計画の位置付け

本計画は社会福祉法第106条の5に基づく「重層的支援体制整備事業実施計画」であり、重層的支援体制整備事業（以下、「重層事業」という。）を適切かつ効果的に実施するため、事業の提供体制、実施内容等を定めるものです。

また、本計画は「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」の基本理念に基づくものであり、同計画に付随する計画として位置付けます。

あわせて、府中市総合計画や府中市（以下、「本市」という。）の保健・福祉における各分野の個別計画、保健・福祉以外の分野計画と整合性を図っています。

(2) 計画期間

本計画の計画期間は、令和8年度から令和14年度までの7年間とします。

(3) 重層的支援体制整備事業の概要（社会福祉法第106条の4第2項）

重層事業とは、以下の表に掲げる事業を一体的に実施することにより、地域生活課題を抱える地域住民及びその世帯に対する支援体制並びに地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備する事業です。

		機能	既存制度の対象事業
第1号	イ	相談支援	[介護] 地域包括支援センターの運営
	ロ		[障害] 障害者相談支援事業
	ハ		[子ども] 利用者支援事業
	ニ		[困窮] 自立相談支援事業
第2号		参加支援 社会とのつながりを回復するため、既存の取組では対応できない狭間のニーズについて、就労支援や見守り等居住支援などを提供	新
第3号	イ	地域づくりに向けた支援	[介護] 一般介護予防事業のうち厚生労働大臣が定めるもの（地域介護予防活動支援事業）
	ロ		[介護] 生活支援体制整備事業
	ハ		[障害] 地域活動支援センター事業
	ニ		[子ども] 地域子育て支援拠点事業
第4号		アウトリーチ等を通じた継続的支援 訪問等により継続的に繋がり続ける機能	新
第5号		多機関協働 世帯を取り巻く支援関係者全体を調整する機能	新
第6号		支援プランの作成（※）	新

（※）「既存制度の対象事業」欄の〔 〕内の文言は実施根拠となる法令を示しております。

[介護]：介護保険法 [障害]：障害者総合支援法 [子ども]：子ども・子育て支援法 [困窮]：生活困窮者自立支援法

（注）生活困窮者の共助の基盤づくり事業、生活困窮者の福祉事務所未設置町村による相談支援事業は、第3号柱書に含まれる。

（※）支援プランの作成は、多機関協働と一体的に実施。

重層事業においては、市町村内の各種施策に係る支援機関等が相互に連携し、当事者や世帯に寄り添い、伴走支援する体制を構築していくことが重要です。このためには、地域住民や支援関係機関等との間で意見交換や対話を繰り返し、目的意識を共有するためのプロセスが必要不可欠となります。

重層事業は、既存の業務の総量を減らすための仕組みではなく、支援関係機関単独では対応が難しいケースに対し、各機関等が本来の機能を発揮し、また、住民主体の地域活動や地域における社会資源とも関わりながら、ケースに関わる支援者等が「支援チーム」となって支援していく仕組みです。「支援者支援」の機能を担い、一つの機関で「支援困難ケース」を抱え込まないよう「支援チーム」が一丸となり、すべての地域住民を対象に伴走支援を通じた繋がり続ける支援体制を構築します。

〔Ⅰ 相談支援〕

①包括的相談支援事業

- 属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める

各相談支援事業者は、相談者の属性・世代・相談内容に関わらず包括的に相談を受け止め、相談者の課題を整理し、利用可能な福祉サービスの情報提供などを行います。

- 支援機関のネットワークで対応する

受け止めた相談のうち、単独の相談支援事業者では解決が難しい事例は、適切な相談支援事業者や各種支援機関と連携を図りながら支援を行います。

- 複雑化・複合化した課題については適切に多機関協働事業につなぐ

また、受け止めた相談のうち、課題が複雑化・複合化しており、支援関係機関間の役割分担の整理が必要な事例の場合には、多機関協働事業につなぎ、各種支援機関等と連携を図りながら支援を行います。

②アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

- 支援が届いていない人に支援を届ける

複数分野にまたがる複雑化・複合化した課題を抱えているために、必要な支援が届いていない人に支援を届けます。

- 会議や関係機関とのネットワークの中から潜在的な相談者を見つける

各種会議や支援関係者との連携を通じて、地域の状況などにかかる情報を幅広く収集し、ニーズを抱える相談者を見つけます。

- 本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く

本人と直接対面したり、継続的な関わりを持つために、信頼関係の構築に向けた丁寧な働きかけを行います。

③多機関協働事業

- 市町村全体で包括的な相談支援体制を構築する
重層的支援体制整備事業に関わる関係者の連携の円滑化を進めるなど、既存の相談支援機関をサポートし、市町村における包括的な支援体制を構築できるよう支援します。
- 重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす
重層的支援体制整備事業の支援の進捗状況等を把握し、必要があれば既存の相談支援機関の専門職に助言を行うなど、市町村全体の体制として伴走支援ができるように支援します。
- 支援関係機関の役割分担を図る
単独の支援機関では対応が難しい複雑化・複合化した事例の調整役を担い、支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定めます。

〔Ⅱ 参加支援〕 (④参加支援事業)

- 社会とのつながりを作るための支援を行う
各分野で行われている既存の社会参加に向けた支援では対応できないニーズに対応するため、地域の社会資源などを活用して社会とのつながり作りに向けた支援を行います。
- 利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる
利用者のニーズや課題など丁寧に把握し、本人と支援メニューのマッチングを行います。また、新たに社会資源に働きかけたり、既存の社会資源の拡充を図り、本人や世帯のニーズや状態に合った支援メニューをつくります。
- 本人への定着支援と受け入れ先の支援を行う
本人と支援メニューをマッチングしたのち、本人の状態や希望に沿った支援が実施できているかフォローアップをします。また、受け入れ先の悩みや課題にも寄り添い、困っていることがある場合にはサポートをします。

〔Ⅲ 地域づくり〕 (⑤地域づくり事業)

- 世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備する
地域の社会資源を幅広くアセスメントしたうえで、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を整備します。
- 交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートする
地域で実施されている個別の活動や人を把握し、住民に身近な圏域を中心として「人と人」「人と居場所」などをつなぎ合わせます。また、市町村域などのより広い圏域でもコーディネートを行い、交流・参加・学びが生まれ、さらに広がるよう働きかけます。
- 地域のプラットフォームの促進を通じて、地域における活動の活性化を図る
多様な地域づくりの担い手が出会い、学び合うプラットフォームを促進することで、地域における活動の活性化や発展を図ります。

(4) 計画の策定体制

本計画の策定に当たっては、実務者である相談支援包括化推進員（以下、「推進員」という。）が参加する相談支援包括化推進会議において計画の内容を審議しました。

また、相談支援機関等へのアンケート調査（必要に応じてヒアリング調査）を実施するとともに、郵送による府中市民向けの『「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査』（「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」策定のための調査）の結果を参考にしました。

①相談支援機関等へのアンケート調査

目的	本市における重層事業の実施に向けて、各相談支援機関の相談支援に係る現状と課題を把握し、包括的相談支援事業、多機関協働事業（支援会議、重層の支援会議等の在り方）を検討する。また、参加支援事業、地域づくり事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の方向性を検討する。
対象者	推進員のいる部署
実施手法	直接配布及び回収
調査時期	令和7年6月24日（火）～7月4日（金）
実施結果	24件

②相談支援機関等へのヒアリング調査

目的	相談支援機関等へのアンケート調査で回答いただいた困難事例に対する課題の把握と対応策の検討を行う。また、各部署の管理職にも参加いただき、重層事業の概要説明と利用促進、重層事業において各課に期待する役割の共有と意見交換を行う。
対象者	相談支援機関等へのアンケート調査で次の条件に当てはまる部署 ・アンケートの継続相談（有り）と回答した部署 ・困難事例があると回答した部署 ・上記に当てはまらずとも事務局の判断でヒアリングが必要と判断した部署
実施手法	ヒアリング調査
調査時期	令和7年7月18日（金）～7月29日（火）
実施結果	19件

③「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査

目的	地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の策定に当たって、市民の近所づきあいや地域での生活・活動状況、日ごろの悩みと相談状況を把握するとともに、本市の地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見、要望等を把握するために実施した。
対象者	令和7年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人
実施手法	郵送による配布及び回収、WEB回答併用(督促状1回送付)
調査時期	令和7年10月17日(金)～11月4日(火)
実施結果	配布件数 3,000件 有効回答数(有効回収率) 1,501件(50.0%)

(5) 計画の見直し

「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」の改定に伴い、施策・事業は必要に応じて見直しを行い、新たな「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」に組み込みます。

2 計画の内容

(1) 府中市の地域共生社会の実現のための理念と目標

近年、市民生活を取り巻く環境は大きく変化しており、個人や世帯、地域が抱える課題やニーズについても、複雑化・複合化したケースが増え、従来の福祉制度やサービスを利用するだけでは対応できない課題が顕在化し、新たな対応が求められています。

国は、高齢化や人口減少といった社会情勢の変化やそれに伴う地域でのつながりの希薄化、地域社会の担い手不足等の課題を踏まえ、制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人一人が生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的な地域や社会をつくる「地域共生社会」の実現を目指し、取組を進めています。

本市も、地域共生社会の実現に向け、住民に身近なエリアにおいて、地域の課題を我が事として捉え、解決を試みることができる地域づくりを推進するとともに、ユニバーサルデザインの理念に基づいた福祉のまちづくりを目指しています。

本計画では下記の「府中市の地域共生社会の実現のための理念と目標」の実現に向けて、地域生活課題の解決に資する包括的な支援体制を整備するための1つの手段として重層事業を実施します。

府中市の地域共生社会の実現のための理念と目標

みんなでつくる、「共に生きるまち」

みんなでつくる＝協働

共に生きるまち＝地域共生社会

地域力の強化

包括的支援体制
の整備

生き生きと健康
に暮らすための
環境づくり

福祉のまちづくり
の推進

基盤となる考え

みんなが
つながり、支え合う
地域づくり

みんなが
安心して生活できる
地域づくり

みんなが
自分らしく生活できる
地域づくり

【出典】 府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画（令和3年度から令和8年度）

(2) 府中市の重層的支援体制整備事業の目的・考え方

市においても、これまでの多機関協働による相談支援事業と11文化センター圏域別での地域づくりによる包括的支援体制の構築に向けて〔Ⅰ 相談支援〕〔Ⅱ 参加支援〕〔Ⅲ 地域づくり〕の枠組みに基づき、重層事業を実施します。

本市の重層事業は、これまでの市の相談支援機関のネットワークを生かしつつ、庁内の各部門から実務者である推進員を幅広く配置することで、部署間の垣根を越えた連携を図ります。また、必要に応じて支援会議及び重層的支援会議を随時開催し、多機関協働事業を展開していきます。

また、文化センター圏域を基礎とした11の福祉エリア（以下「福祉エリア」という。）に配置された地域福祉コーディネーターが必要に応じて一次相談支援機関や地域住民等と共に継続的に生活を見守ります。

なお、府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画、府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、府中市障害者計画 障害福祉計画・障害児福祉計画の見直しのための各種アンケートや圏域別グループディスカッションを実施して、多様な市民のニーズ・課題を把握しています。そのニーズ・課題に対応して、各分野の計画においても、多様な地域主体との協働での新事業を創出していきます。

社会福祉法に基づく地域共生社会の実現に向けた支援体制の構造 （包括的な支援体制の整備と重層的支援体制整備事業の関係性）



【出典】 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課
「令和6年度 社会・援護局関係主管課長会議資料」

(3) 府中市の重層的支援体制整備事業の全体像

包括的相談支援事業

- ・ 地域包括支援センターの運営
- ・ 障害者相談支援事業
- ・ 利用者支援事業
- ・ 自立相談支援事業
- ・ 福祉総合相談窓口
- ・ 子どもと家庭の総合相談事業
- ・ 青少年総合相談事業
- ・ 教育相談
- ・ ひとり親家庭自立支援相談事業
- ・ 困難な問題を抱える女性等への支援事業
- ・ 外国人相談事業
- ・ 保健相談室

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

- ・ 地域福祉コーディネーター事業

地域づくり事業

- ・ 地域介護予防活動支援事業
- ・ 生活支援体制整備事業
- ・ 地域活動支援センター事業
- ・ 地域子育て支援拠点事業
- ・ 生活困窮者の共助の基盤づくり事業
- ・ 地域福祉コーディネーター事業
- ・ 地域での自主的な福祉活動の支援
- ・ ボランティアセンター等の活用による多様な人材の確保・育成
- ・ チームオレンジの推進
- ・ 地域子ども・子育て応援事業
- ・ 外国につながる児童・生徒の居場所事業
- ・ 元気いっぱいサポーターの活動支援

参加支援事業

- ・ 地域福祉コーディネーター事業
- ・ ひきこもりに関する支援
- ・ 居場所支援
- ・ 就労支援事業を中心とした就労支援体制
- ・ ひとり親家庭自立支援事業
- ・ 住宅確保要配慮者への居住支援

多機関協働事業

- ・ 相談支援包括化推進員の配置



重層的支援会議

支援会議

これらの事業については、重層的支援体制整備事業交付金その他の国庫補助・交付金の申請を行っているものに限らず、市が継続的に実施している取組を含むものとする。

(4) 府中市の重層的支援体制整備事業の各事業

① 包括的相談支援事業

福祉の制度の狭間にある課題解決を目指すため、市の福祉総合相談窓口及び各相談支援事業者は、相談者の属性・世代・相談内容を包括的に受け止める「断らない相談」を目指します。

受け止めた相談のうち、単独の相談支援事業者では解決が難しい事例は、適切な相談支援事業者や各種支援機関と連携を図りネットワークで対応します。

また、受け止めた相談のうち、課題が複雑化・複合化しており、支援関係機関間の役割分担の整理が必要な事例の場合には、多機関協働事業につなぎ、支援会議及び重層的支援会議で検討を行い、各種支援機関等と連携を図ります。

◆ 法定事業

事業名	内容	所管課
地域包括支援センターの運営 【介護保険法】	身近なところで福祉に関する様々な相談が受けられるよう、地域包括支援センターにおける相談体制を充実させます。	高齢者支援課
障害者相談支援事業 【障害者自立支援法】	障害のある人が、どこに相談をしても適切な支援が受けられるように、市と委託相談支援事業所「みへな」、「あけぼの」、「プラザ」及び「ふらっと」が連携し、有機的な総合的相談体制を確立します。	障害者福祉課
利用者支援事業 【子ども・子育て支援法】	子育て家庭が幼稚園や保育所、各種子育て支援事業を円滑に利用できるよう、情報の収集・提供や利用に係る相談支援等を身近な地域で行います（基本型の「たち」及び「はぐ」は、地域子育て相談機関を兼ねる。）。	子ども家庭支援課、 保育支援課
自立相談支援事業 【生活困窮者自立支援法】	生活に困窮する市民に対し、課題の共有、支援プランの作成、就労支援、各種制度の利用支援、関係機関への同行支援などを行うことで、課題の解決に向けた支援を行います。	生活福祉課

◆主な事業

事業名	内容	所管課
福祉総合相談窓口	年齢や属性を問わず、福祉に関する相談を幅広く受け止める最初の窓口となり、アセスメントを行った結果、適切な部署、支援につなげます。	地域福祉推進課
事業名	内容	所管課
子どもと家庭の総合相談事業	子ども家庭支援センター「たち」や子育て世代包括支援センター「みらい」で、子育て中の方や子ども自身からの様々な相談に応じます。	子ども家庭支援課
青少年総合相談事業	青少年の抱える悩みに関する本人又はその親族等からの相談に応じ、関係機関の紹介や助言を行います。	児童青少年課
教育相談	学校生活における困りごとなど児童・生徒に関する心配事や悩みについて、臨床心理士等の専門職が相談に応じます。 (相談については、府中市子ども発達支援センター「はばたき」で実施しています。)	教育部指導室
ひとり親家庭自立支援相談事業	ひとり親家庭からの相談に応じ、必要な情報の提供や支援を行い、自立を促します。	子育て応援課
困難な問題を抱える女性等への支援事業	女性問題相談を通じて、家族のこと・育児のこと・配偶者のこと・離婚やDV相談等の日常の困りごとに関する相談に応じ、困難な問題を抱える方に包括的な支援を行います。	多様性社会推進課
外国人相談事業	多文化共生センターDIVEでは、外国人住民の生活に関する困りごとの一次相談窓口として、庁内各課や関係機関と連携し、外国人住民本人が問題を解決できるようサポートを行います。	多様性社会推進課
保健相談室	からだ・こころ・歯と口の健康、食事などの健康に関する相談を保健師・看護師・栄養士・歯科衛生士が相談を受け付けます。	健康推進課

府中市の現状は？

◆「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
居住地域の満足度について、相談できる体制については、満足している市民の割合 ※「満足している」、「どちらかといえば満足している」の計	25.6%
「福祉総合相談」を知っている市民の割合	10.9%

◆高齢者福祉・障害者に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
認知症に関する相談窓口を知っている	高齢者（ニーズ調査） 36.7%
相談機関等に求めること	障害者（障害のある人）
希望したときに相談に応じてもらえる	55.9%
必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでもらえる	53.7%

②アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

複数分野にまたがる複雑化・複合化した課題を抱えているために、必要な支援が届かない人、届いていない人にアプローチし、支援につなげます。

各種会議、支援関係機関との連携を通じて、地域の状況等にかかる情報を幅広く収集するとともに、地域住民とのつながりを構築する中でニーズを抱える相談者を見つけます。

当事者と直接対面し継続的な関わりを持つために、信頼関係の構築に向けた丁寧な働きかけを行い、当事者に伴走して寄り添い、継続的な支援を行います。

◆主な事業

事業名	内容	所管課
地域福祉コーディネーター事業	・制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人一人に寄り添った生活支援（個別支援）や、地域住民が一人一人の困りごとを地域全体の課題として捉え、地域住民が連帯意識を持って活動を作り出す支援（地域支援）を行います。 ・民生委員、行政、住民から入る情報に対して、状況の確認のための訪問、近隣の聞き取り、ポスティングによるアプローチ等を実施します。	地域福祉推進課、社会福祉協議会

府中市の現状は？

◆「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
「地域福祉コーディネーター」を知っている市民の割合	3.5%
どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えている人の割合	一般市民 14.6%

◆高齢者福祉・障害者（児）に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えている人の割合	高齢者（ニーズ調査） 16.1%
	高齢者（居宅サービス利用者） 22.8%
	障害者（障害のある人） 30.1%
	障害児（保護者、育ちと発達） 42.4%

③多機関協働事業

◆事業の目的

本事業は、重層事業に関わる関係者の連携を通して、本市における包括的支援体制を構築することを目的とします。また、重層事業での支援の進捗状況等を把握し、必要があれば既存の相談支援機関の専門職に助言を行い、市としての伴走支援の体制づくりを行うものです。

本市では、複雑化・複合化した事例の調整役として関係機関の実務者である推進員を配置し、相談支援包括化推進会議を定期開催して、その運営を行うとともに、社会福祉法に定める多機関協働事業として「支援会議」・「重層的支援会議」の2つの会議を随時開催し、支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定めます。

※支援プラン作成(社会福祉法第106条の4第2項第6号)は多機関協働事業と一体的に実施。

◆主な事業

事業名	内容	所管課
相談支援包括化推進員の配置	市役所内および社会福祉協議会内の各部署に配置し、多機関協働事業における各部署の窓口になる担当者として、各部署内における日々の相談業務や必要な支援機関との連携のバックアップを行う等、多機関協働事業の要になる機能を担います。 また、一次相談支援機関等が多機関協働事業に提出を検討している事例について、連絡・相談を受け多機関協働事業につなぐ役割、および支援会議や重層的支援会議等に参加し、事例検討を行います。	地域福祉推進課
支援会議の開催	複合的な課題を有しており、支援関係機関による役割分担が望ましいケースについて、情報提供・情報共有、見守りと支援方針の理解と検討、緊急対応の検討、支援チームでの役割分担を目的として、会議を開催します。	地域福祉推進課
重層的支援会議の開催	支援会議で検討した結果、市として支援方針及びサービスの決定が必要な場合等に会議を開催します。	地域福祉推進課

支援会議（社会福祉法 106 条 6）

構 成 員: 当該事例に係る関係課の推進員、支援チーム等、事務局
開催頻度: 随時開催

事務局ミーティングにて、支援会議での検討が適当とされた場合に、事務局が各推進員、支援チーム等を招集して、支援会議を開催します。

支援会議では各分野の推進員を交え、多角的な視点で検討を行います。会議体の構成員には社会福祉法第106条の6第3項に基づいて本人同意がなくても情報共有が可能となっています。また、構成員は、気になる事例の情報提供・情報共有、各支援機関同士の共通認識のもとでの支援方針の明確化、見守りや機関内での支援体制の構築、緊急性がある事案への対応等の役割を担います。

複雑化・複合化した課題を有する人には、当事者に問題意識がない場合や、過去の経験等から支援を拒否しているなど、支援に関する同意が得られない場合も少なくありません。支援会議には守秘義務が課せられていることから、特に自ら支援を求めることが困難な人や支援が必要な状況にあるにも関わらず支援が届いていない人への支援を行うための効果が期待されています。支援会議で話し合われる内容については、前述の構成員が担う役割のとおりですが、想定される動きとして、現在進行形で実施されている個別支援プラン等の支援の経過から成果や課題を把握し、当事者の意識や状況の変化に応じて個別支援プラン等の見直しをすることも検討内容に含まれています。

重層的支援会議（社会福祉法 106 条 6）

構 成 員: 当該事例に係る関係課の代表相談支援包括化推進員（以下、「代表推進員」という。）、推進員、事務局
開催頻度: 随時開催

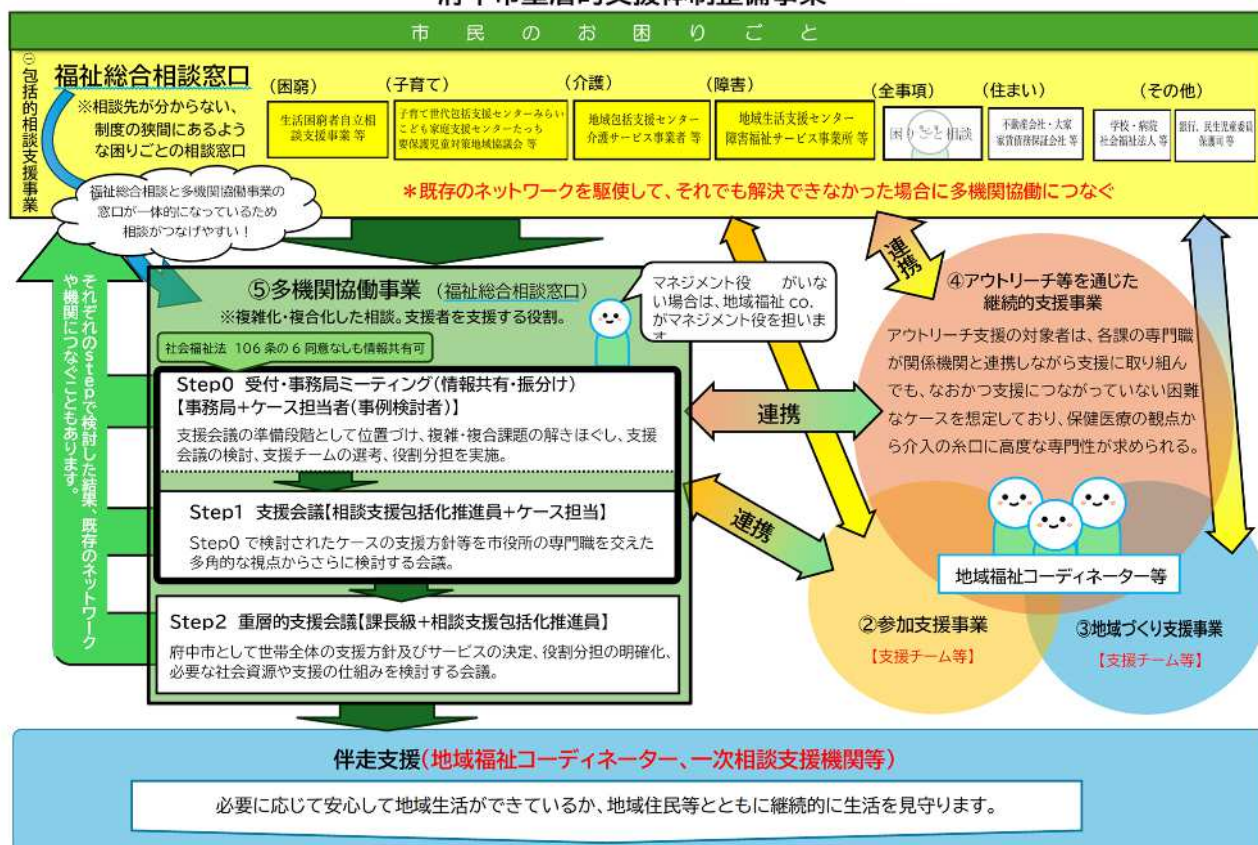
支援会議で検討した結果、本市として支援方針及びサービスの決定が必要な場合等に事務局が上記の構成員を招集し、重層的支援会議を開催します。支援会議同様、支援会議から重層的支援会議に諮るまでの時間や対応は、ケース状況に応じて異なります。

重層的支援会議では、本市としての決定が必要と想定されることから、推進員に加えて、代表推進員が参加し、課を超えた調整が期待できる場となっています。重層的支援会議の構成員は、本市としての支援方針及び垣根を超えたサービスの決定、不足しているサービスや社会資源の開発に必要な課題の整理・認識の共有（地域課題共有）、プラン策定やプランの適切性の判断、再プラン策定等の役割を担います。

重層的支援会議はプラン作成や適切性の判断等を目的としていることから、会議後には、支援チームがプランをもとに当事者及び世帯に対する支援を実施します。既に個別支援プランがある場合には、重層的支援会議で決定した方針や新たに作成したプランに合わせた個別支援プランの見直しが必要となります。多機関協働事業等でのプランと個別支援プランの内容の整合性がとれて初めて一体的な支援が可能となります。

府中市重層的支援体制整備事業

市民のお困りごと



府中市の現状は？

◆相談支援機関等へのアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
対応困難ケースの年間実件数の計	414 件
対応困難ケース中で役割分担や支援方針の判断が難しく、実際に多機関協働事業にあげたい事例の件数の計	57 件

◆「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
地域における課題を抱えた世帯の把握状況	
高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯	4.0%
ごみが処分されていない世帯	3.1%
高齢者の親と、就労していない独身の中高年の子どもで構成されている世帯	2.8%
子育てと親の介護に、同時に直面して困っている世帯	2.6%
家族や地域との関わりがなく、社会的に孤立した世帯	2.1%
ひきこもり状態の人が、適切な支援に結び付いていない世帯	2.0%
家族の間で虐待、DVが疑われる世帯	1.4%
家族の介護などで自分の時間をもてない未成年の子ども（ヤングケアラー）がいる世帯	0.7%

④参加支援事業

各分野で行われている既存の社会参加に向けた支援では対応できない当事者や世帯のニーズ等に対応するため、地域資源を活用して社会とのつながり作りに向けた支援を行う事業です。

当事者のニーズや課題など丁寧に把握し、地域の社会資源との間をコーディネートし、自立支援、リカバリーの視点から、当事者と支援メニューのマッチングを行います。

なかでも、精神障害者や認知症のある人が望む生活を送ることができるよう、新たに社会資源に働きかけ既存の社会資源の拡充を図り、当事者及び多世帯のニーズや状態にあった府中らしい新たな支援メニューを開発します。

さらに、当事者と支援メニューをマッチングしたのち、当事者の状態や希望に沿った支援が実施できているかフォローアップをします。また、受け入れ先の悩みや課題にも寄り添い、困っていることがある場合にはサポートをします。

◆主な事業

事業名	内容	所管課
地域福祉コーディネーター事業 【再掲】	・制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人一人に寄り添った生活支援（個別支援）や、地域住民が一人一人の困りごとを地域全体の課題として捉え、地域住民が連帯意識を持って活動を作り出す支援（地域支援）を行います。 ・民生委員、行政、住民から入る情報に対して、状況の確認のための訪問、近隣の聞き取り、ポスティングによるアプローチ等を実施します。	地域福祉推進課、 社会福祉協議会
ひきこもりに関する支援	東京都ひきこもりサポートネット等と連携し、ひきこもり等に悩む人や家族の相談を受け、就労準備等社会参加に向けた支援を行います。	地域福祉推進課
居場所支援	継続支援しているケース児童（中学生）同士が交流できる場（小集団規模）を定期的に設定しています。	教育部指導室

事業名	内容	所管課
就労支援事業を中心とした就労支援体制	・府中市立心身障害者福祉センター「きずな」内の地域生活支援事業「府中市障害者就労支援センターみへな」が実施する就労支援事業を中心として、就労に関する相談を行うことにより、一人一人の状態や日常生活に合わせた総合的な支援を行うとともに、就労した後の職場での定着を支援します。 ・障害のある人に対する就労に関する情報の提供や就労支援事業の内容の広報に努めます。 ・精神障害に対応する就労支援相談体制を強化します。	障害者福祉課
ひとり親家庭自立支援事業	ひとり親家庭に対して、資格取得の支援や就業支援を行うことで経済的な自立を促すほか、ホームヘルパーを派遣して日常生活の援助を行い、安定した生活が維持できるよう支援します。	子育て応援課
住宅確保要配慮者への居住支援	高齢者・低額所得者・障害者・子どもを養育する者等の住宅確保要配慮者が、適切な住宅を確保し、安定した居住を継続できるよう、住宅部門と福祉部門が連携し、府中市居住支援協議会（市内の不動産関係団体・建築関係団体・居住支援団体・府中市で構成）による住宅確保に係る支援を行います。	住宅課 府中市居住支援協議会

府中市の現状は？

◆高齢者福祉・障害者に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
健康づくりや趣味等の地域づくり活動に参加者として参加したい割合（「是非参加したい」＋「参加してもよい」の合計）	高齢者（ニーズ調査） 53.2%
健康づくりや趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）として参加したい割合（「是非参加したい」＋「参加してもよい」の合計）	高齢者（ニーズ調査） 30.2%
働くために必要なこととしてどのようなことを希望するか	障害者（障害のある人）
自分の近くに働く場所がある	38.9%（※1）
健康状態とあわせた働き方ができる	37.5%（※2）

※精神障害者では ※1) 53.3%、※2) 56.7%

⑤地域づくり事業

地域での孤立化防止と生活課題の解決に向けて、地域の社会資源を幅広くアセスメントしたうえで、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を整備します。地域で実施されている個別の活動や地域人材を把握した上で、住民に身近な圏域を中心として、「人と人」や「人と居場所」などを有機的につなぎ、地域における支え合いの基盤づくりを進めます。

また、府中市以外の広い圏域でもコーディネートを行い、交流・参加・学びが生まれ、さらに広がるよう働きかけます。

さらに、多様な地域づくりの担い手が出会い、学び合うプラットフォームを促進することで、地域における活動の活性化や発展を図ります。

◆法定事業

事業名	内容	所管課
地域介護予防活動支援事業 【介護保険法】	・運動習慣の継続の場として、また、仲間同士で好きな活動をするきっかけの場として、その参加者同士が学んだ体操などを通じて交流する「地域交流ひろば」を開催することで、身近な場所で市民が主体的に介護予防に取り組むきっかけを創出します。 ・各地域包括支援センターに配置した介護予防コーディネーターにより、介護予防の普及・啓発を目的に、文化センターや地域包括支援センターにおいて、介護予防講座の開催、市内の各種イベントへの参加及び相談への対応を行います。 ・社会資源の発掘や自主グループ活動の支援など、地域における介護予防の取組を支援します。	高齢者支援課
生活支援体制整備事業 【介護保険法】	・生活支援コーディネーターを配置し、既存の地域資源や、今後新たに創出される生活支援・介護予防サービスを活用し、安全・安心な在宅生活を継続できるよう生活支援体制を整備します。 ・一部の生活支援コーディネーターは、地域共生社会の実現に向けて取り組む地域福祉コーディネーターの役割も兼ねており、高齢者、障害者及び子どもを含めた全ての方が暮らしやすい地域づくりに取り組みます。	高齢者支援課

事業名	内容	所管課
地域活動支援センター事業 【障害者自立支援法】	障害のある人の創作的活動等の機会の提供、社会との交流等を行います。	障害者福祉課
地域子育て支援拠点事業 [児童福祉法]	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談支援、情報の提供、助言その他の援助を行います。	子ども家庭支援課、 保育支援課
生活困窮者の共助の基盤づくり事業【生活困窮者自立支援法】	生活に困りごとを抱える人が、問題を深刻化させる前に地域の中で気づかれ、つながり、支援につながるよう、地域福祉コーディネーターを中心に地域住民・民生委員・行政などが一体となった‘共助’の基盤づくりに取り組みます。	地域福祉推進課

◆主な事業

事業名	内容	所管課
地域福祉コーディネーター事業 [再掲]	・制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人一人に寄り添った生活支援（個別支援）や、地域住民が一人一人の困りごとを地域全体の課題として捉え、地域住民が連帯意識を持って活動を作り出す支援（地域支援）を行います。 ・民生委員、行政、住民から入る情報に対して、状況の確認のための訪問、近隣の聞き取り、ポスティングによるアプローチ等を実施します。	地域福祉推進課、 社会福祉協議会
地域での自主的な福祉活動の支援	わがまち支えあい協議会、ふれあいいいきサロン等による地域の実情に応じた自主的な支え合い活動等を支援し、支え合いのまちづくりを推進します。	社会福祉協議会
ボランティアセンター等の活用による多様な人材の確保・育成	幅広い年齢層の参加促進に努め、多様な人材の確保・育成を図ります。	社会福祉協議会
チームオレンジの推進	ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症のある人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みであるチームオレンジの	高齢者支援課

事業名	内容	所管課
	設置を進めます。	
地域子ども・子育て応援事業	地域で子育てひろば活動や子ども食堂を実施する団体の活動資金を補助します。	子ども家庭支援課
外国につながる児童・生徒の居場所事業	外国につながる児童・生徒を対象に、東京外国語大学の学生ボランティア及び市民ボランティアとの協働により、放課後の時間帯に学習支援やレクリエーション活動を行います。	多様性社会推進課
元気いっぱいサポーターの活動支援	ソーシャルキャピタルの醸成により、健康づくりを広げていくことを目的に、保健計画・食育推進計画の趣旨を理解し、共に健康づくりを推進する市民を元気いっぱいサポーターとして登録します。さらにサポーターリーダーの中から元気いっぱいサポーターおよび食育推進リーダーを養成します。主にサポーターリーダーで構成される自主グループを支援します。	健康推進課

府中市の現状は？

◆「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
社会からの孤立を感じることがある市民の割合 ※「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」の計	38.4%
何らかの地域活動・ボランティア活動に取り組んでいる市民の割合	17.0%
家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人への手助けの経験がある市民の割合	70.5%

◆高齢者福祉に関するアンケート調査（令和7年度）

項目	現状値
ボランティアグループに参加している人の割合 ※「週4日以上」、「週2日～3日」、「週1回」、「月1～3回」、「年に数回」の計	高齢者（ニーズ調査） 9.5%

3 計画の推進体制

本市では、包括化支援推進体制の構築にあたり、市・関係機関の実務を担う「相談支援包括化推進員」を配置し、推進体制の中核を担っていきます。

具体的には、多機関協働事業の中心となる「支援会議」及び「重層的支援会議」を円滑に運営していくために、庁内関連機関の担当者で構成する「相談支援包括化推進会議」並びに「代表相談支援包括化推進会議」を開催し、事務局機能を担うとともに事業実施及び評価を行い、事業全体を推進します。

会議名	相談支援包括化推進会議	代表相談支援包括化推進会議	支援会議	重層的支援会議
出席者	推進員	代表推進員	当該事例に係る関係課の推進員	当該事例に係る関係課の代表推進員と推進員
開催頻度	定例開催 (年5回程度)	定例開催 (年1～2回)	随時開催	随時開催
会議内容	・ 重層的支援体制推進に関する事項 ・ 個別支援の充実に関する事項 ・ 不足しているサービスや社会資源の開発に関する事項 ・ 各関係機関の取組の共有 など	・ 相談支援包括化推進会議の事業計画や実績、評価に関する事項 ・ 不足しているサービスや社会資源の開発に関する事項 ・ 多機関協働事業で扱った事例の進捗確認、評価 など	・ 気になる事例の情報提供・情報共有 ・ 見守りと支援方針の理解と検討 ・ 緊急性がある事案への対応等の検討 ・ 支援チームでの役割分担 など	・ 府中市として世帯全体の支援方針及びサービスの決定 ・ 役割分担の明確化 ・ 不足しているサービスや社会資源の開発に関する事項 ・ プラン策定、中断、終結等の検討 など

(1) 相談支援包括化推進員・代表相談支援包括化推進員

【相談支援包括化推進員】

推進員は、市役所内および社会福祉協議会内の各部署に配置され、多機関協働事業における各部署の窓口になる担当者として、各部署内における日々の相談業務や必要な支援機関との連携のバックアップを行う等、多機関協働事業の要になる機能を担います。

また、一次相談支援機関等が多機関協働事業に提出を検討している事例について、連絡・相談を受け多機関協働事業につなぐ役割を担います。また、支援会議や重層的支援会議等に参加し、事例検討を行うとともに、会議後には、協議内容や情報を所属部署へフィードバックを行います。

また、年に数回行われる定例会議に参加し、不足しているサービスや社会資源の開発に関する事項の検討、各関係機関の取組の共有等を行い、本市として包括的な支援を展開できるような体制整備や多機関協働事業のあり方についての検討を行います。

【代表相談支援包括化推進員】

代表推進員は、推進員選出課の課長級職員となります。

重層的支援会議に参加し、本市としての支援方針及び垣根を超えたサービスの決定、不足しているサービスや社会資源の開発に必要な課題の整理・認識の共有、プラン策定やプランの適切性の判断、再プラン策定等の役割を担います。

(2) 相談支援包括化推進会議の設置

① 相談支援包括化推進会議

構 成 員：推進員、事務局

開催頻度：定例開催

本市では、包括的な支援体制整備のため、推進員に定例会に参加してもらい、重層事業に関すること、個別支援の充実に関すること、不足しているサービスや社会資源の開発に関することについて検討を行います。相談支援包括化推進会議の中で検討された、新たなサービスや仕組みを代表相談支援包括化推進会議に向けて提案する形で、本市としての新たな体制づくりを担っていきます。

また、各関係機関の取組として、ケース状況や対応等について情報共有し、本市で包括的な支援を展開できるような体制整備の検討につなげていきます。全推進員でケースを共有することで、支援会議に参加できなかった推進員もケースを知る機会となり、自課ではどのような対応が可能かを考える機会となることも期待されています。直接的な関わりがないとしてもケースを通して各課が我が事としての認識を共有することにより、包括的な支援体制の整備を推進します。さらに、ケース共有等する中で、支援プランの中断、終結等の判断に至った経緯や考え方を整理した上で、代表相談支援包括化推進会議に報告し、市としての方針決定に向けた検討につなげるものとします。

② 代表相談支援包括化推進会議

構 成 員：代表推進員、事務局

開催頻度：定例開催

代表相談支援包括化推進会議では、相談支援包括化推進会議の事業計画や実績評価に関する事項を検討します。

また、包括的な支援体制及び重層事業の体制整備の取組のため、相談支援包括化推進会議の中であげられた内容が、本市として新たな仕組みに必要なかどうかも含めた検討が行われます。

そして、多機関協働事業で扱った事例を通して、不足しているサービスや社会資源の開発に関する検討を行います。さらに多機関協働事業で扱った事例の進捗確認、評価についても行います。

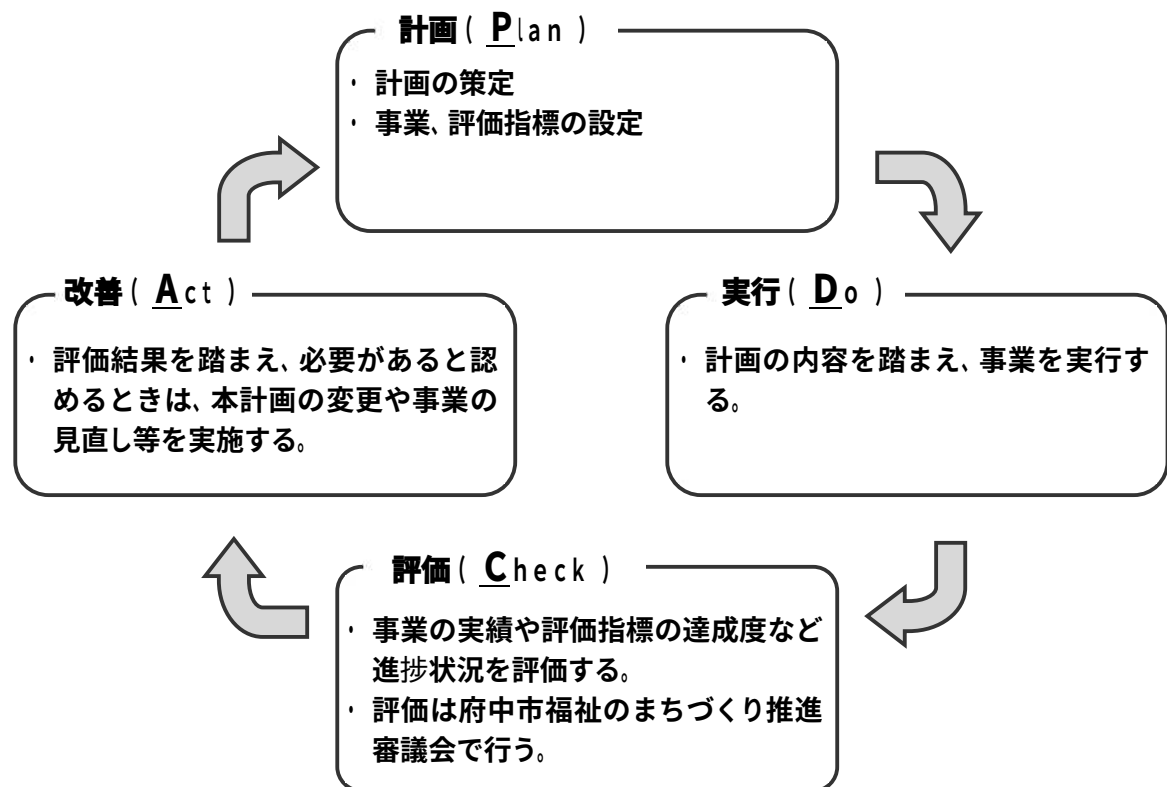
4 計画の評価・見直し

計画の進捗に当たっては、PDCAサイクル（計画－実行－評価－改善）で、把握・点検を行います。また、本計画ではPDCAサイクルの実効性を高めるために評価指標を設定し、データの収集等を定期的実施し、評価指標の点検を継続的に行っていきます。

本計画の進行管理のため、市民、学識経験者、関係機関・団体等から選出された委員で構成される「府中市福祉のまちづくり推進審議会」において、事業の取組実績、評価指標の進捗等を報告し、計画の進捗状況について評価を行います。

計画の進捗状況や本計画に影響を及ぼす事由が発生した際には、必要に応じて、本計画の変更や事業の見直し等を実施します。

【PDCAサイクルの図】



【評価指標】

区分	指標名	現状値	目標
アウトカム指標	課題が混在する複雑な事例のうち、最初に受け付けた機関のみで対応すべき関係機関の整理を完了した割合 出典：相談支援機関等アンケート調査	86% (令和7年度)	90% (令和11年度)
アウトプット指標	重層的支援会議または支援会議の開催回数	—	年4回 (令和11年度)

【参考指標】

区分	指標名	現状値	目標
地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画	地域福祉コーディネーターによる困りごと相談会での相談件数	577件 (令和元年度)	1,120件 (令和8年度)
府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)	高齢者(要支援1・2もしくは未認定)が「週1回以上地域活動へ参加している」割合	令和8年度に令和9年度からの計画を新たに策定するため、令和8年度以降に記載予定	
	シニアクラブの会員数		
	シルバー人材センター会員数		
	介護予防推進センターが行う介護予防教室の延べ参加者数		
	地域交流ひろばの延べ参加者数		
	生活支援コーディネーターの配置人数		
	地域包括支援センターの認知度(18歳以上の市民が「地域包括支援センターを全く知らない」割合)		
	地域包括支援センターの延べ相談受付件数		
府中市障害福祉計画(第7期)・障害児福祉計画(第3期)	就労移行支援事業等を利用した年間一般就労者数	令和8年度に令和9年度からの計画を新たに策定するため、令和8年度以降に記載予定	

区分	指標名	現状値	目標
参考指標	相談できる体制に満足している市民の割合※	25.6% (令和7年度)	上昇 (令和13年度)
	「福祉総合相談」を知っている市民の割合※	10.9% (令和7年度)	上昇 (令和13年度)
	「地域福祉コーディネーター」を知っている市民の割合※	3.5% (令和7年度)	上昇 (令和13年度)
	地域での活動やボランティアに取り組んでいる市民の割合※	17.0% (令和7年度)	上昇 (令和13年度)
	家族以外の高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている人手助けをしたことがある市民の割合※	70.5% (令和7年度)	上昇 (令和13年度)
	どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えている市民の割合※	14.6% (令和7年度)	減少 (令和13年度)
	孤独であると感じる市民の割合※ (「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」の計)	38.4% (令和7年度)	減少 (令和13年度)

※出典は『「あなたの声が未来をつくる」福祉に関するアンケート調査』（「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」策定のための調査）

(1) 相談支援包括化推進員選出部署一覧

出席者
福祉保健部地域福祉推進課
福祉保健部生活福祉課（生活保護相談担当）
福祉保健部生活福祉課（自立生活支援担当）
福祉保健部高齢者支援課（相談担当）
福祉保健部介護保険課
福祉保健部障害者福祉課（サービス支援担当）
福祉保健部障害者福祉課（サービス支援担当 精神・発達）
福祉保健部障害者福祉課（基幹相談支援担当）
福祉保健部障害者福祉課（子ども発達支援センター発達支援担当）
福祉保健部健康推進課（成人保健係）
子ども家庭部子育て応援課（母子・父子自立支援担当）
子ども家庭部子ども家庭支援課（母子保健係）
子ども家庭部子ども家庭支援課（相談担当）
子ども家庭部保育支援課
子ども家庭部児童青少年課
市民協働推進部地域コミュニティ課
市民協働推進部多様性社会推進課（男女共同参画推進係）
市民協働推進部多様性社会推進課（多文化共生係）
都市整備部住宅課
教育部指導室
教育部教育センター
生活環境部産業振興課
市民部保険年金課
市民部納税課
府中市社会福祉協議会 地域活動推進課
府中市社会福祉協議会 権利擁護課

(2) 検討経過

日程等	内容	内容
令和7年 5月30日(金)	第1回相談支援包括化推進会議	各課の推進員に重層的支援体制整備事業の概要について説明
6月24日(火)～ 7月4日(金)	相談支援機関等へのアンケート調査	各課の抱えている困難事例の件数や多機関協働事業にあげたい具体的事例の把握
7月18日(金)～ 7月29日(火)	相談支援機関等へのヒアリング調査	推進員ならびに管理職を対象に困難事例の対応における関係課との課題や要望、重層的支援体制整備事業に期待することについて直接聞き取り
8月19日(火)	第2回相談支援包括化推進会議	アンケート調査・ヒアリング調査の結果について説明、多機関協働事業マニュアル(案)についても説明
9月1日(月)	多機関協働事業開始にむけた研修会	包括的な支援体制の構築について理解促進と重層事業への理解促進を目的として実施、コミュニティコーピングについても実施した。
9月10日(水)	多機関協働事業開始に向けたモデル事例検討会	多機関協働事業の動かし方への理解促進を目的として実施(実際の事例や資料を用いながらグループワークの実施)
10月1日(水)	多機関協働事業開始	多機関協働事業マニュアルと多機関協働事業提出チェックシートを添付のうえ全庁に配布
11月19日(水)	第3回相談支援包括化推進会議	多機関協働事業における事務局フローの共有、重層的支援体制整備事業本格実施後の事業において現状での府中市での取組について地域福祉推進課ならびに社会福祉協議会より説明
令和8年 1月19日(月)	第4回相談支援包括化推進会議	重層的支援体制整備事業実施計画(案)について検討
2月12日(木)	第5回相談支援包括化推進会議	重層的支援体制整備事業実施計画について確認 令和7年度多機関協働事業の報告について 令和8年度重層的支援体制整備事業活動予定について
3月26日(木)	第1回代表相談支援包括化推進会議	令和7年度重層的支援体制整備事業への移行準備及び多機関協働事業の取り組みについて報告 重層的支援体制整備事業実施計画について確定 令和8年度重層的支援体制整備事業活動予定について

(3) 高齢者福祉・障害者に関するアンケート調査概要

- ・ 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、府中市障害者計画 障害福祉計画・障害児福祉計画の改定のために、高齢・介護分野で6調査、障害分野で4調査のアンケート調査を実施しました。
- ・ 調査時期は、高齢・介護分野が令和 7 年 10 月 17 日 (金) から 11 月 4 日 (火)、障害分野が令和 7 年 10 月 30 日 (木) から 11 月 17 日 (月) となっています。

分野	調査名	調査対象	調査方法	有効回収数 (率)
高齢・ 介護 分野	介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査	65 歳以上の市民 3,600 人 ①65 歳以上の市民で要支援 1～要支 援 2 までの介護認定者 1,000 人 ②65 歳以上の市民（要支援・要介護 認定者を除く） 2,600 人	郵送による配布及び 回収 (督促礼状 1 回送付)	2,812 件 (78.1%)
	居宅サービス利用者 調査	65 歳以上の市民で介護保険居宅サー ビスの利用者 1,800 人		1,191 件 (66.2%)
	在宅介護実態調査	市内の在宅で生活している要支援・ 要介護認定者のうち、更新申請・ 区分変更申請に伴う認定調査を受け た者 650 人程度	認定調査員による 聞き取り	457 件 (100.0%)
	介護保険サービス提 供事業者調査	市内で介護予防・居宅介護サービス、 施設サービスを提供している 全事業所 306 事業所	郵送による配布及び 回収、WEB 回答併用 (督促礼状 1 回送付)	195 件 (63.7%)
	介護支援専門員（ケ アマネジャー）調査	市内居宅介護支援事業所に在籍する 全ての介護支援専門員 136 人（46 事業所）		101 件 (74.3%)
	医療機関調査	市内の医療機関（病院、診療所、歯科 診療所、薬局、訪問看護ステーショ ン） 436 機関		306 件 (70.2%)
障害 分野	障害のある人の調査	市内の 18 歳以上の障害者手帳所持 者、自立支援医療受給者証所持者、特 定医療費受給者証所持者 2,300 人	郵送による配布及び 回収 (督促礼状 1 回送付)	1,413 件 (61.4%)
	子どもの育ちや発達 に関する調査	市内の 18 歳未満の障害者手帳所持 者、特定医療費受給者証所持者、障害 児通所給付費受給者証所持者の保護 者 1,000 人		585 件 (58.5%)
	障害者福祉団体調査	市内の障害者福祉団体 11 団体	メールにて送付・回収	5 件 (45.5%)
	障害福祉サービス事 業所調査	障害者福祉サービス事業所 146 事業 所	郵送による配布及び 回収、WEB 回答併用 (督促礼状 1 回送付)	110 件 (75.3%)

(4) 用語集

名称	意味
重層的支援体制整備事業	相談支援事業、参加支援事業、地域づくり事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業、多機関協働事業（支援プラン作成含む）を一体的に実施することにより、地域生活課題を抱える地域住民及びその世帯に対する支援体制並びに地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備する事業。
包括的相談支援事業	介護、障害、子育て、生活困窮等の各分野の相談支援事業者が、包括的に相談を受けとめ、課題整理や必要な情報提供を行うとともに、他の支援機関等と連携した支援の実施等により、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備する事業。
参加支援事業	既存の取組では対応できない狭間のニーズに対応するため、当事者のニーズと地域の資源とのマッチングや必要な資源を開発し、多様な社会参加の実現を支援する事業。
地域づくり事業	既存の地域づくりの取組を活かしつつ、多様な地域活動が生まれやすい環境整備を行うことを目的として、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所の整備、「人と人」「人と居場所」をつなぎ合わせることを目的とした事業。
アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	長期にひきこもりの状態にあるなどして必要な支援が届いていない人等に対して支援を届けるための事業。
多機関協働事業	複合的な課題を抱え、分野を超えての連携が必要な事例や課題の解きほぐしが求められる事例等に対して支援を行う事業。
多機関協働事業等	重層事業の中の多機関協働事業、参加支援事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業のこと。
福祉総合相談窓口 （包括的相談支援事業）	包括的相談支援事業として、包括的に相談を受け止めることを目的としており、相談先が分からない、制度の狭間にあるような困りごとの相談窓口。
福祉総合相談窓口 （多機関協働事業）	福祉総合相談窓口が多機関協働事業としての機能も兼ねている。窓口業務と区別を付けるにあたり、福祉総合相談窓口における多機関協働事業の業務部分については、「事務局」と呼称することで統一する。
相談支援包括化推進員	市役所内の各部署に配置された多機関協働事業における各部署の窓口になる担当者として、各部署における日々の相談業務や必要な支援機関との連携のバックアップを行う等、多機関協働事業の要になる機能を担う。支援会議等に参加し、事例検討を行うとともに、会議後には、協議内容や情報を所属部署へのフィードバックを行う。また、包括的な支援体制の整備を推進することも重要な役割の一つである。

名称	意味
代表相談支援包括化推進員	各推進員選出課の課長級職員のこと。代表推進員が重層的支援会議に参加することで、支援会議では解決に至らなかった課題に対して、課を超えた調整が期待できる。また、府中市全体で各課が包括的に相談を受け止める姿勢、相談をつなぐ際に丁寧なつながりを意識することを共通認識として持つことができるような、意識付けも重要な役割としている。
支援会議	推進員とケース担当者等で構成され、必要に応じて随時開催。事務局ミーティング(Step0)で検討されたケースの支援方針等を多角的な視点から検討する会議。
重層的支援会議	代表推進員と推進員で構成され、必要に応じて随時開催。府中市として世帯全体の支援方針及びサービスの決定、役割分担の明確化、必要な社会資源や支援の仕組みの検討、プラン策定や支援終結の判断等を検討する会議。
相談支援包括化推進会議	推進員で構成された年5回程度の定例会議。重層的支援体制推進に関する事項、個別支援の充実に関する事項、不足しているサービスや社会資源の開発に関する事項、各関係機関の取組の共有などについて検討する会議。
代表相談支援包括化推進会議	課長職で構成された年1～2回程度の定例会議。相談支援包括化推進会議の事業計画や実績評価に関する事項、不足しているサービスや社会資源の開発に関する事項等について検討する会議。
支援チーム	特定のニーズに対応するために、当事者に関わる支援者等が連携して支援を行うチームのこと。
地域福祉コーディネーター	制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人ひとりに寄り添った支援(個別支援)や、地域住民が連帯意識を持って活動を創り出す支援(地域支援)を行う役割を担う者。
伴走支援	深刻化する「社会的孤立」に対応するため「つながり続けること」を目的とする支援。

府中市 重層的支援体制整備事業実施計画

令和8年4月発行

府中市 福祉保健部 地域福祉推進課
〒183-8703
府中市宮西町2丁目24番地
電話：042-364-4111 (代表)